２０１７年度　点検評価改善報告書

［教育研究活動報告］

西南女学院大学
西南女学院大学短期大学部

大　　学

保健福祉学部

看　護　学　科

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　工藤二郎	職名　教授	学位　医学博士　九大　1985 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
医学　内科学　倫理学 看護学	消化器疾患、血液疾患　肝疾患　集団検診　病院倫理 看護教育

研　究　課　題
内科的疾患、ことに消化器疾患、肝臓疾患、血液疾患についての臨床的研究 消化管の集団検診についての研究 主として病院内で起こる倫理的な問題についての考察 看護教育の研究

担　当　授　業　科　目	
疾病学総論	２単位必修
医療と倫理	１単位選択

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【疾病学総論】 学生は医学用語を初めて学習するため、きるだけ平易な説明をした。 教科書の進行度合を説明し、予習を促した。 キーワードを毎回チェックし、書写を促した パワーポイントのプリントは国家試験に沿うように、画像を多く紹介した。
授業科目名【医療と倫理】 医療と関係する倫理的諸問題を講義した。 毎回講義で扱った問題について議論を促し、具体的な作文を課し配点した。 重要と思われる点が抜けていた作文の例を毎回フィードバックした。
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本消化器病学会会員	九州地区評議員　専門医	1976 年 4 月
日本内科学会会員	認定内科医	1978 年 11 月
日本血液学会会員	専門医、指導医	1979 年 4 月
日本癌学会会員		1987 年 9 月
日本感染症学会会員		1988 年 1 月
日本肝臓学会会員		1988 年 12 月
日本消化器内視鏡学会会員		1989 年 3 月
日本看護科学学会		2008 年 6 月
日本臨床救急医学会		2011 年 6 月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） （運営、宗教等に関するもの） 地域連携室及び学生総合支援室の設置について	単	2017 年 5 月	西南女学院月報	将来計画 2016-2018 の柱として２つの対策室が設置されたことについて 工藤二郎 p2
2017 年度を迎えて	単	2017 年 6 月	広報西南女学院	ステンドグラスの完成と、将来計画 2016–2018 が策定され活動が始まったことについて 工藤二郎　p2
北九州市と本学との包括連携協定について	単	7017 年 11 月	西南女学院月報	長い懸案であった市との連携協定がついに成就したことについて 工藤二郎　p2
感謝の気持ちも教育から	単	2017 年 11 月	しおんのそののあゆみ	幼児が感謝するようになるための教育に遭遇したことについて 工藤二郎 p1
本居宣長の遺言	単	2017 年 11 月	第一内科同門会報 2017	他に例を見ない本居宣長の神道に則った遺言について 工藤二郎　pp33—36

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州労災病院倫理委員会	委員	2003年４月より
同　臨床研修委員会	委員	2004年４月より
同　薬剤治験審査委員会	委員	2000年４月より、
社会福祉法人福音会	理事長	2016年６月より
学校法人阿部学園	理事	2015年４月より

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
学長　大学評議会議長、運営会議議長、入学試験会議議長、学院運営協議会委員、学院評議員、学院理事、西南女学院後援会顧問、西南女学院維持会幹事、チャペルアワー奨励『「渾身」と「一心」を学んだ幸田文』（2018年１月10日、18日）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　伊藤直子	職名　　教授	学位　　学士（社会学）（佛教大学　1996年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学　地域看護	公衆衛生看護　介護保険　地域包括ケア

研　究　課　題
行政における看護職である保健師の機能と役割について考察する。また、それらの機能を学ぶための学士課程実習での教育方法を検討する。 地域包括ケアシステムにおける看護職の機能について検討する。

担　当　授　業　科　目
公衆衛生看護学概論（前期）必修　16/22コマ 疫学演習（後期）選択　15/15 健康危機管理論（後期）必修　8/8 公衆衛生看護管理演習（後期）選択　15/15 公衆衛生看護学実習（通年）選択 看護総合演習（通年）15/15 看護総合実習（通年） 地域母子保健（前期）（助産別科）8/15 助産学研究演習（通年）（助産別科）13/15 子育て支援論（前期）（助産別科）4/8

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】 「公衆衛生看護学概論」では、保健師選択をしたいという漠然とした希望をもっているが、保健師活動に対する具体的な活動イメージを持っている学生が少ない。加えて、多くの学生は受講動機における関心が低い状況が続いている。授業では学生自身が生活者として公衆衛生の意義を理解し、関心を持ち、思考判断できるよう授業内容および教授方法の工夫を行っている。授業内容では、生活や保健行動に結びつけた事例を可能な限り活用し、理論の理解を進めた。毎時の授業コメントから学生の理解状況を判断し、次の授業で補足及び修正を図っている。 結果、公衆衛生看護活動への学習への関心が高まり、保健師課程選択への動機づけにもつながっている。
授業科目名【　疫学演習　】 「疫学演習」では、保健師課程選択の科目である。演習のため、1単位であるが30時間の授業内容である。 今年度より、選択前に希望学生は全員受講できる科目として位置付けられた。そのため、疫学・保健統計で学習した内容を、さらに、保健師が遭遇する事象で具体化した教材を作成し、単元毎に、予習での基礎知識の準備→実際の事例を取り入れた演習→復習を展開した。 授業展開について、教材事例の検討を毎年度実施し、新人保健師が遭遇する事例を精選し、思考判断の醸成に努めている。保健師として問題解決していく充実感を味わえるような工夫を行なっている。

授業科目名【　健康危機管理論　】
「健康危機管論」では、健康危機管理の概念と日本における健康危機管理の社会システムを解説し、このような事態に対する看護職の果たす役割について考える必修科目である。
教材については、災害が多い昨今では、学生も身近に遭遇することを意識できるよう、日本における事例および世界の事例のできるだけ直近の内容を取り上げている。また、現実的な健康危機を学生たちが感じるための工夫として、DVD や写真等多く取り入れた教材により、看護職としての対応について考えを求めながら授業を展開した。授業のコメントカードに寄せられるコメントから昨今の日本における災害および感染症事例の関心が高く、受講開始は市民感覚としての意見から終了時点では看護師としての使命や責任についてのコメントが数多くみられ、学生自身も学修の意義や成果を実感している。

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】
「公衆衛生看護学実習」は、2016 年度保健師選択学生の実習として、２回目を迎えた。2015 年度実習現場をつなぐ教員の教育力による違いが見られたため、今年度は十分な検討と連携を深め実習に臨んだ。結果、学生個々の学修状況の違いに即応した実習対応が可能となり、全員の学生が到達レベルに達成することができた。
　また、今年度も実習の成果指標である、保健師国家試験の自己採点状況から保健師選択学生の学修成果は評価できる。

授業科目名【　看護総合演習　】【　看護総合実習　】
「看護総合演習」「看護総合実習」は 4 年生が最終的な看護の統合として、自身が自ら演習及び実習領域を選択する科目として位置づけられている。公衆衛生看護領域である産業保健における保健師活動について、演習・実習を行い、就労者およびその家族における健康管理の現状および課題について、議論を進めていった。受講した学生は、公衆衛生看護学実習において学習した生活エリアの現状から就労者の健康支援が結びつき、これからの包括的な健康管理のあり方に対して、道筋が明確になり、満足度や充実感が高い実習であったと評価している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員	訪問看護委員会副委員長 （1996 年 4 月～1997 年 3 月） 訪問看護委員会委員長 （1997 年 4 月～1998 年 3 月） 介護支援専門員支援委員会委員長 （1997 年 4 月～2004 年 3 月） 認定看護管理者研修委員会委員 （2001 年 4 月～2006 年 3 月） 介護保険関連委員会委員長 （2004 年 4 月～2006 年 3 月） 第 46 回日本看護学会－看護管理―学術集会抄録選考委員（2014 年 3 月～2014 年 9 月） 消費税対応検討委員会委員長 （2015 年 11 月～2016 年 7 月）	1977 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		1979 年 4 月～現在に至る
日本地域看護学会		1999 年 4 月～現在に至る
日本在宅ケア学会		2000 年 9 月～現在に至る
日本保健医療社会学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本病院管理学会		2002 年 9 月～現在に至る
日本高齢者虐待防止学会		2003 年 8 月～現在に至る
日本看護教育学会		2003 年 2 月～現在に至る

日本健康教育学会 日本看護研究学会 日本看護科学学会 日本臨床救急医学会		2005年6月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2011年8月～2016年3月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 保健師課程を選択する女子大学生の職業選択に関する認識と卒業生のキャリア支援	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22,1-10	①女子大学における保健師課程学生のキャリア支援への示唆を得るために、学生と卒業生保健師との交流会を開催し、学生の職業選択に関する認識と卒業生保健師から得られた支援内容を分析した。学生の職業に関する認識では【保健師という職業の選択】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】が抽出された。卒業生の≪情報提供≫≪モデルの提示≫は、学生がライフキャリアを捉えて職業選択するプロセスの一助として、≪仲間としての存在≫≪保健指導技術の提供≫は、学生の職業選択に関する認識全体を促したと考えられた。 ②布花原明子・鹿毛美香・佐藤優・伊藤直子・亟々美香・平島美也子
（その他） 平成28年度要支援高齢者向け介護予防教室（モデル事業：小倉北区・八幡西区）におけるデータ分析報告	共著	2018年3月	北九州市保健福祉局地域福祉部認知症支援・介護予防センター	①北九州市において、平成28年度から二次予防事業を見直し、新しい介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービスCとして、生活機能の向上、自立支援に向けて、訪問と通所を組み合わせた短期集中サービスを実施するため、そのプログラムや評価方法、ハイリスクアプローチと住民主体のポピュレーションアプローチの切れ目のない介護予防の継続をモデル的に実施に至った。その

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				結果を報告書としてまとめたものである。 ②橋元隆、高橋精一郎、中藤佳絵、伊藤直子、宮永敬市、高橋都子、肥塚美由紀、久保ゆかり
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
社会人基礎力養成のための「意図的な Hidden Curriculum（潜在的なカリキュラム）」構築に関する研究	共同研究費	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 篠木賢一 橋本久美子 高橋幸夫 小川尚 伊藤直子 八尋春海 伊東幸雄	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
福岡県介護保険審査会	専門調査員	2007 年 7 月～現在に至る
北九州市社会福祉法人等審査会	委員	2012 年 4 月～現在に至る
大分県地方独立行政法人評価委員会	委員	2012 年 6 月～現在に至る
日本私立看護系大学協会	理事（業務執行理事）	2013 年 7 月～現在に至る
粕屋町高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定協議会	委員	2005 年 4 月～現在に至る

粕屋町地域包括支援センター・地域密着型介護サービス運営協議会	委員	2007 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上推進会議調整会議	構成員	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市高齢者支援と介護の質の向上介護予防・高齢者活躍推進に関する会議	代表	2013 年 4 月～現在に至る
北九州市健康づくり推進プランの推進にかかる意見交換会	構成員	2014 年 2 月～現在に至る
北九州市認知症施策推進会議（北九州市オレンジ会議）	構成員	2013 年 4 月～現在に至る
全国保健師教育機関協議会	社員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県総合計画審議会	委員	2016 年 7 月～現在に至る
行橋市地域保健計画策定委員会	委員	2017 年 12 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
学校法人西南女学院　評議員　　2005 年 4 月～現在に至る 西南女学院大学　教務部長　　2013 年 4 月～現在に至る ・教務委員会　委員長 ・教務人間科学小委員会　委員 ・教職課程委員会　委員 ・教員免許状更新講習会　委員 ・大学点検評価改善会議 FD 部門　部門長 ・教育の質保証プロジェクト会議　代表 ・教学マネジメント検討会　構成員 ・3 部門会議（教務部・学生部・入試部）　構成員 ・教学ＩＲ推進室　構成員 助産別科　別科長　　2017 年 4 月～2018 年 3 月

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　目野　郁子	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学 1994 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
病原微生物学　　免疫学	微生物　　感染症　感染対策　　予防接種　　抗体

研　究　課　題
・成人女性を対象にしたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の百日咳に対する抗体持続状況を調べワクチンの有効性について検討する。

担　当　授　業　科　目
感染と免疫（前期）（看護） 生活と環境（前期）（看護） 生活と環境（前期）（福祉） 生活と環境（前期）（栄養） 生物と生命科学（前期）（英語） 生物と生命科学（前期）（観光文化） 生物と生命科学（後期）（看護） 生物と生命科学（後期）（福祉） 微生物学（後期）（福祉）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【感染と免疫：看護】 ・ 看護師国家試験受験資格を得るための必須科目である。そのため科目の狙い・到達目標を講義初回にシラバスを使い詳細に説明した。また、科目の狙い・到達目標は、授業進行中にも繰り返し説明した。 ・ 興味関心を継続させ、講義内容の理解度を上げるため、タイムリーに発生している感染症の事例をあげ、教科書と平行させて講義を行った。 ・ 一人一人の講義内容の理解度を把握するために、講義途中に学生に質問をなげかけ、挙手による反応をみた。理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。 ・ 昨年度からの課題である自主学習の時間確保に向けては、レポート作成に複数の図書・文献を使用することを評価項目にあげ、図書館利用度をアップさせるよう試みた。
授業科目名【生活と環境：看護・福祉・栄養】 ・ 選択科目のため受講者のモチベーションを上げる意味で、本科目の一般教養科目としての位置付けを明確に説明した。また、科目の狙いを詳細に説明することで興味関心を持てるよう初回にパワーポイントを用い講義した。 ・ レポート課題、グループ討議（GW）の評価については、評価項目と点数配分を明確に示した。課題から学んで欲しい狙いについても詳細に説明した。 ・ レポート課題は、図書館でデーターベース検索を行い、複数の文献、事例をもとに作成するように指示した。事前に図書館スタッフに協力を仰ぎ、学生には積極的に図書館スタッフに相談するよう指導した。

授業科目名【生物と生命科学：英語・観光文化】

- 選択科目のため受講者のモチベーションを上げる意味で、本科目の一般教養科目としての位置付けを明確に説明した。また、科目の狙いを詳細に説明することで興味関心を持てるよう初回にパワーポイントを用い講義した。
- 学生には講義内容に興味関心をもってもらうことを一番とした。特に講義では”生活のなかで気づく体のしくみと異常(疾患)”に焦点をあて具体的な事例をあげながら説明した。
- 講義内容の理解度を把握するため、講義途中で学生に質問をなげかけ、不十分と思われるところは繰り返し説明した。同時に質問を受ける機会も作った。
- レポート課題は、評価項目を明確にし、図書館の利用度を上げる工夫をした。図書館スタッフには事前に連絡し協力を仰いだ。

授業科目名【生物と生命科学：看護】

- 一般教養科目として知識の基礎固めを行うために、学生には高校の教科書を手元において講義内容を確認するよう促した。また、講義内容を理解するために、学生同士で意見交換をする場を設けた。
- 学生から受けた質問は、個別に回答するだけでなく、講義中にも時間を設け学生全員が共有できるようにした。
- 今年度は、成績評価の対象となるミニテスト・レポートの提出回数を昨年の 4 回から 1 回に減らし、学生が時間をかけ、理解した上でレポートを完成させるような取り組みを行った。
- また、評価対象となるレポートの提出前に、別途ミニテストを 2 回行い、ミニテストの解説レポートの模範となる、正答を導くまでのプロセスをパワーポイントを使い具体的に示し解説した。
- レポート作成には、複数の図書を使用することを評価項目にあげ、図書館を積極的に活用するよう促した。

授業科目名【生物と生命科学：福祉】

- 学生には講義内容に興味関心をもってもらうことを一番とした。特に講義では”生活のなかで気づく体の正常なしくみと異常(疾患)”に焦点をあて説明した。
- 学生の中には社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験を受験する学生もいることから、特に身近な疾患に関連した課題を提示し、図書による調べ学習をした上で、グループディスカッションを行い、知識の共有と理解度アップを図った。
- 講義途中には、内容の理解度を把握するため、学生に質問をなげかけ、不十分と思われるところは繰り返し説明、また、質問を受ける機会も作った。
- レポート課題については、評価項目と点数配分を口頭と文書で説明した。評価項目に複数の参考図書の利用を明示し図書館の利用度を上げる工夫をした。

授業科目名【微生物学：福祉】

- 初回、養護教諭必須科目としての位置付けと、就職現場で必要な知識の習得を目指す科目であることを詳細に説明した。
- 特に、学校現場、保育園、高齢者施設などで流行している感染症については、具体的な事例をあげ説明した。講義中に質問をし、理解度が不十分な箇所は繰り返し説明した。
- レポートは、興味関心のある感染症の中から学生自身で課題を決めさせた。また、評価項目に参考図書の利用と文献検索をおくことで、図書及びデーターベースの利用も促すようにした。事前に図書館スタッフに協力を仰ぎ、学生には積極的に図書館スタッフに相談するよう指導した。
- 例年、資格取得に向けた科目であるため学生のモチベーションは高い。しかし、今年度は、学生により差が認められ、学ぶ姿勢・理解度にもそれが反映していた。学生のモチベーションをいかに高めるか課題が残った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本細菌学会 日本感染症学会 日本小児保健協会 日本環境感染学会 日本ワクチン学会		1987年4月～現在に至る 1996年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る 2004年4月～現在に至る 2016年4月～現在に至る

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 1. 教育理念と三つの方針に基づく教育過程改正の検討過程と課題：地域包括ケアを見据えたカリキュラム	共	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22	① 本学看護学科で行った2018年度改正カリキュラムの検討過程についてまとめた。カリキュラム検討組織委員会では、教育理念の創設、教育理念に基づく3つの方針の検討、地域完結型看護とキャリア支援に対応しうる科目の検討を行った。 ② 共著者名　石井美紀代，梶原江美，岩本テルヨ，目野郁子，大嶋満須美，布花原明子，穴田和子，前田 由紀子 ③ 共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 pp.23-32.
（翻訳） なし				
（学会発表） 研究報告会 1. 看護学生を対象としたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の抗体持続状況		2018.3	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所報告会（於：西南女学院大学）	① 看護学生を対象に小児用DTaPワクチン接種し、接種から4年後までの抗体価推移を調べワクチンの効果について検討した。 ② 共同発表者　目野郁子，樋口由貴子，

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				植田浩司，岡田賢司， 山口優子，諸熊一則 ③　2017年度保健福祉学研究所報告会 教育研究業績 総数 (2017.4.1－ 2018.3.31日現在) 著書 0　(内訳 単 0　共 0) 学術論文 1 (内訳 単 0　共 1) 報告書　0 (内訳 単 0　共 0) 学会発表 0 (内訳 単 0 共 0) 報告会　1 (内訳 単 0 共 1)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
看護学生を対象としたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の抗体持続状況	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○目野郁子， 樋口由貴子， (植田浩司，岡田賢司， 山口優子，諸熊一則)	258,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・福岡県食品安全・安心委員会 福岡県知事の附属機関である「福岡県食品安全・安心委員会」において，食品の安全・安心の確保に関する基本計画等について調査審議する。	委員	2017 年 5 月 1 日～2019 年 4 月 30 日
・小郡市保育協会の保育士及び看護師 70 名を対象に「基礎から学ぶ！乳幼児の感染症とその予防」というテーマで講演・研修を行なう。		2017 年 4 月 15 日
・京築地方保育協会保育士会の保育士及び看護師 65 名を対象に「夏の感染症について」というテーマで講演・研修を行なう。		2017 年 7 月 22 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・ 人事委員会委員　2017 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 動物実験委員会委員　2016 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 倫理審査委員会委員　2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 ・ 情報システム管理運用委員会委員　2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 ・ 学科カリキュラム検討委員　2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 ・ 学科研究推進委員　2016 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日　学科内研修会 2 回･カンファレンス 2 回を企画し開催する。 ・ 保健福祉学部研究所研究企画アドバイザー　2003 年 4 月 1 日～ 現在に至る ・ 公的研究費内部監査部門担当者　2017 年 2 月～ 現在に至る ・ 学生の健康支援 保健福祉学部、人文学部、短期大学部（生活創造学科）および助産別科の各 1 年生を対象に、毎年学科毎にワクチンで予防可能な感染症について感染症予防の説明を行ない（予防接種手帳配布・抗体検査結果配布）、予防接種が必要な学生には個別に面談し接種勧奨を行なう（2011 年～現在に至る）。 2017 年 5 月～2017 年 12 月，6 回実施 ・ 保健福祉学部福祉学科 2 年生を対象に実習前に「感染症および感染症予防対策」について講義を行なう。 2017 年 12 月 12 日，講義 1 回 ・ 看護学科 4 年生を対象に国家試験対策を行なう　2017 年 8 月, 11 月 講義 3 回

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　小田日出子	職名　　教授	学位　修士（法律学）（九州国際大学 1998 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学，基礎看護技術 初年次教育	下肢温熱刺激法 社会人基礎力育成，潜在的カリキュラム

研　究　課　題
看護技術教育に関する研究 大学生の社会人基礎力の向上と主体性の育成に関する研究

担　当　授　業　科　目
基礎学習ゼミⅠ（1 年前期），基礎学習ゼミⅡ（1 年後期） 看護技術論（→早期看護実習のみ）（1 年前期） 生活援助技術論（1 年後期） ヘルスアセスメント（1 年後期） 診療関連技術論（→「吸引」実技試験の実技試験監督及び評価）（2 年前期） 看護過程論（2 年前期） 基礎看護学実習Ⅰ(1 年後期)，基礎看護学実習Ⅱ（2 年前期） 看護総合演習（4 年前期・後期） 看護総合実習（4 年前期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ 】

基礎学習ゼミに係る教員間の共通認識，学修支援の方向性として，基礎学習ゼミⅠ・Ⅱのねらいは，以下 1～6 にある．

1. 主体的に学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）を強化・鍛錬
2. 社会人基礎力(前に踏み出す力・考える力・チーム力）の育成・強化
3. グループ活動を通しての，学生自身の在り方や行動の振り返り
4. 他者と良い関係を築くうえで必要とされる行動変容への促し
5. 大学での学習・生活スタイルの確立
6. 問題解決を図る適切な手段・方法の発見と導き出しへの支援

✧ **基礎学習ゼミⅠ**（1 年前期）について

・1 年次生 116 名(→後期，退学者 1 名，休学者 1 名あり 114 名に減)を対象に，教員 10 名が学生 11～12 名をゼミナール形式で担当．アカデミックスキルの習得に向けた講義及び学生の主体性・主張力を強化・育成するためのグループ討議を基本に，授業を展開した．

・授業 8 回のうち 4 回を①蔵書検索，データベース及びインターネットによる文献検索方法，②論証型レポートの書き方・まとめ方，③課題学習のためのオリエンテーション，④身近なメディアと情報倫理に関する講義の時間とし，残り 4 回をグループ学習の時間とした．

・論証型レポートを作成するについては，学生に提示するレポートテーマを，大学生が興味・関心を持ちそうな今日的テーマ（①大学生活における学業とアルバイトの両立，②SNS（Social Network Service）の発達が社会に与えている影響）の 2 つとし，いずれか 1 つをテーマに論証型レポートを作成することを課題とした．

・選定したレポートテーマは，2回目の授業の折に提示し，予め5～6名ずつの2班に分かれたゼミグループ内で，班毎にテーマのいずれかを選択するようにした．学生は，その後のグループ学習活動を通して，課題への理解を深めるとともに，個人に課せられた論証型レポートの作成に至るプロセスを協同学習した．
・学生個人には選択したテーマについての論証型レポートを作成・提出することを最終課題とし，提出レポートは，学生個人の学習成果物として評価の対象とした．
・基礎学習ゼミⅠの成績は，授業貢献度（40%），課題成果（60%）による総合評価としたが，今年度は秀20名，優74名，良20名，可1名，クラス平均83.3点の結果であった．

✧基礎学習ゼミⅡ（1年後期）について
・前年度同様，前期の学びを実践に活かす，また，社会人基礎力（前に踏み出す力・考える力・チーム力）の育成・強化を図る機会として，1年生によるディベート・マッチを企画・実施した．ディベート・マッチのテーマ及び定義については，予め教員側で準備し，第1回授業時に提示した．
・ゼミグループの学生を5～6名ずつ「肯定派」と「否定派」の2グループに分け，授業は，試合準備のためのグループ学習活動を中心に進めた．
・今回も，前年度ドリームマッチで対戦した学生(現2年生)の協力を得て，第1回目の授業の中で，ディベートの実際をデモンストレーションし，1年生によりリアルなディベート・マッチの流れと各パート(立論・質問・反論・総括)の要点を理解させることができた．
・ディベートに必要な基礎知識（ディベートとは，ディベートの4つの構成要素，試合の流れ，審判及び判定基準など）は，①全体講義及び②看護学科LMS（Kaname.net）を活用した反転授業により教授した．
・メリット・ディメリットの検討，論拠を明示するための調べ学習，立論・質問・反論の組み立て，メンバー間での役割決め，総括の方向性の確認など，いずれの場面も学生は主体的に行動し，調べ学習後の情報提供，意見交換など，殆どの学生がグループワークに積極的・意欲的に参加していた．
・授業8回のうち後半2回をディベート・マッチの時間とし，試合は，対戦相手を変えて2回行った．そうすることで，①第3者（審判）の評価をもとに試合内容を客観的に振り返る機会とする，②次の試合に向けて，論旨・論拠の修正・補強に努め，論理構成力を高める，などの効果をねらった．また，学生には，昨年同様，自身の試合をスマホでビデオ撮影するよう指示し，グループでの振り返りの際に利用した．授業最終日には，聴衆の全員を審判として，「肯定派」「否定派」各ベストグループによるドリームマッチを行った．モデルを示したことで，クラス全員が相互に学び合う機会となっていた．
・基礎学習ゼミⅡの成績評価は，授業参加度（16%），記録物（ポートフォリオ：24%），学修成果（観点別評価60%）による総合評価とした．今年度は，秀26名，優67名，良20名，可1名，平均84.5点の結果であった．

以上，基礎学習ゼミⅠ・Ⅱともにアクティブ・ラーニングの手法を用いた参加型授業を中心に進めてきたが，前期から後期へと，いきいきと楽しげに調べ学習やディベート・マッチに取り組む学生たちの様子からは，1年間の学修成果として，初年次教育としての当該科目のねらいは概ね達成できたと考えている．

授業科目名【 看護技術論（→早期看護実習のみ担当）】
・入学後間もない1年生116名を対象に，看護の“Early exposure”として看護技術論に位置づけた2日間の早期看護実習において，今回，病院実習に加えて新たに企画した訪問看護ステーション実習を担当した．
・本実習のねらいは，病院で療養生活を送る人々，生活の場である家で療養生活を送る人々，それぞれを対象に，病院・在宅それぞれの場に身を置く対象者への支援について，それぞれの場で働く看護師の“Shadowing”を通して，臨床看護師，訪問看護師の役割・機能、実際の看護活動を理解すること，加えて，看護学生であることの自覚をもって今後の学習への意欲向上を図ることにある．
・今回，訪問看護ステーション実習を加えたのは，定員を大幅に超えた116名の新入生の実習場所の確保が目的であった．病院実習と異なり，1施設に2名程度の実習生配置となるため，より一層学生の緊張感は強まると考えられ，現場（訪問先）で倒れたりすることのないよう，学内オリエンテーション時は，学生が訪問看護ステーション実習に肯定的なイメージを持ち，興味・関心を持って臨めるように，訪問看護師の地域での活動を具体的にわかりやすく伝えるよう心がけた．
・病院実習に臨む学生24名6グループと訪問看護ステーション実習に臨む学生8名（2～3名／1施設の学生3グループ）を担当し，早期看護実習を行った．実習前1週間，臨地実習を効果的に進めるためのチーム作り

を兼ねて，学生の学習動機の高揚や主体的学習行動を促すために，実習グループ毎に課題学習に取り組ませ，メンバー間で討議する機会を設けた．事後の学習成果発表に向けても，担当した計 9 グループについて，基礎看護学領域助手１名とともに，プレゼンにむけたきめ細かな助言と指導を行った．

・実習施設毎の成果発表の場では，3 分間の持ち時間を効果的に使いながら，各実習場所の特徴や実習中の気づきを基に，グループで準備・作成したスライドによる発表が行われた．病院だけでなく，実習場所を訪問看護ステーションや老人福祉複合施設（ケアホーム，特養，デイサービス）に拡げたことで，実習前の学習への取り組み，特に看護技術演習(ベッドメーキングやシーツ交換，環境整備等)への積極的な取り組みを，学生の成果発表やレポート内容から窺い知ることができた．学生の実習後の学びの姿勢からも，看護の“Early exposure”としての当該実習の効果はあったと考える．

・次年度，同様の形で早期看護実習を実施するかについては，その目的（意義）や効果をふまえて，再度，検討する．

授業科目名【　看護過程論　】

・学生 99 名を対象に，講義・グループワークを組み合わせた授業を展開した．

・看護学科 LMS（kaname.net）を活用し，毎回の学習目標と授業内容及び授業進行を提示，授業のイメージ化を図るとともに，講義とグループ学習活動を効果的に組み合わせながら，学生の主体的学修を支援した．

・講義はグループワークの進度と連動させ，ワークの学習到達目標と照らして，適時，実施した．

・講義には視聴覚教材（パワーポイント，VTR 等）を活用した．講義資料をはじめ，使用する教材は全て事前に kaname.net に up し，授業中の資料配布は一切行わず，学生個々の責任で授業準備を整えるようにした．

・グループワークへの支援は，基礎看護学分野の教員３名と助手３名の計６名で行った．教員１＋助手１の２人体制で学生 8～9 名のグループを 4 グループずつ担当し，チューター役割を果たした．学習支援体制の充実を図るため，随時，教員間の情報交換を行い，指導の標準化に努めた．

・担当した 4 グループについては，意図的にグループ間でのディスカッションの機会を設け，意見交換を促した．グループ間で相互に刺激し合うことにより，学習へのモチベーションが高まり，最後までよい意味での緊張感を維持した積極的なグループワークが展開できていた．

・グループワークの振り返りに観点別評価シートを用い，学生が自身の学習活動を客観視するとともに，目標達成状況を確認できるようにした．ねらいは，シートの記載 →教員の助言 →助言を受けての修正を繰り返すなかでの思考の深化にあったが，何度か繰り返すうちに惰性で取り組む学生もおり，期待したほどの成果は得られなかった．次年度については，シート記載の時期と方法を見直す．

・グループ間での学習成果の共有を目的に，各グループが導き出した援助技術の実際をロールプレイで発表した．グループそれぞれに熱心かつ積極的に取り組み，根拠に基づく援助技術の実践がなされ，事後の質疑応答も活発であった．

・当該科目の達成度評価は，筆記(50%)，個人学習/課題レポート(20%)，グループワーク成果（10%)，学習貢献度(20%)による総合評価とした．

履修の結果，クラス平均は 72.5 点（最高 85 点,最低 50 点）と，昨年度より 5.4 ポイント高かった．評価の内訳は，秀 0 名，優 17 名，良 54 名，可 26 名，不可５名で，再試験該当者５名に対しては，筆記による再試験を実施，結果は３名合格，２名が再履修で，学生 99 名中 97 名が当該科目の履修を修了した．次年度再履修とした学生２名は，学ぶべき内容の理解，意欲ともに不足しており，うち１名は学業不振により，２年後期末をもって退学となった．授業評価アンケートによる学生の主観評価は，「知識を確認、修正したり，新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」「コミュニケーション力や表現力を高めることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野の様々な課題を検討する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力を得ることができた」「自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲を持つことができた」「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」「自分なりの目標を達成した」と肯定的意見が多く，また，クラス全体の総合評価も昨年度を 5.4 ポイント上回っていたことから，当該科目で「学生が達成すべき目標」は「概ね達成できた」と考える．授業の質評価においても，「授業中に，自分の意見をまとめる，話し合う，発表するなど，学生が参加する機会が作られていた」「口頭，文書など，何らかの形で学生の質問を受け付け，それに答える機会が作られていた」など，学生の主体的学修を促そうとの教員側の意図は概ね達成できた．学生の意欲・関心という点においても，看護学科 LMS（kaname.net）の利用者数が年々向上している点は評価できる．

看護師の思考の基盤となる「看護過程」の理解と「問題解決法」の修得にむけて，今後も，授業準備のための予/復習の進め方，課題量，教育方法の選択など，学生の意欲・関心の維持・向上に繋がる授業の質・量の検討と改善を図りながら，学生の主体的学修を支援していきたい.

授業科目名【　生活援助技術論　】

・学生114名(→前期；退学者1名，後期；休学者1名あり2名減)を対象に，生活援助技術のうちの「清潔」単元を講義・演習合せて10コマ（20時間)，「栄養」単元を講義・演習合せて6コマ（12時間）担当し，DVDによる看護技術の反転学習，講義，演習，最後に学生によるパフォーマンスの流れで授業を展開した.

・看護の基本技術習得のための学生支援策として，自作「看護技術手順書」に基づく看護学科LMS（Kaname.net）への教材(DVD等)提示を継続し，学生にその活用を奨励，技術習得に向けた自主学修の強化を図った.

・授業後は，知識の整理と蓄積を目的にポートフォリオの作成を促した．また，一定期間を置いた後の「おさらいテスト」(1)～(5)を準備し，ケア技術のエビデンスとなる知識の定着を図った.

・「清潔」ケア技術の演習は，昨年同様の方法で実施した．使用する物品量の多さ，演習の場と時間確保の難しさ，演習前日からの大掛かりな準備，演習後の片付けなど，例年のことながら，最も大変な演習と言える．加えて，1技術項目をクラス全員で演習すること自体が困難なため，今年度も，「清潔」単元で取り上げる4技術項目を，クラス全体での演習が可能な「寝衣交換」「洗髪」と2クラスに分かれて行わざるを得ない「全身清拭」「足浴」に分けて企画・実施した．2クラスに分かれる技術項目（全身清拭，足浴）については，物品準備等に要する時間と関係者の負担軽減を図り，クラス全体の技術習得度を高めるために，時間をおかず演習できるように，当該科目とヘルスアセスメントとを組み合わせた時間割上の工夫を行った.

・生活援助技術としての技術到達度を測る「導尿」の実技本試験には，試験監督者として参加した．所定の「技術評価表」に則り，担当学生の技術到達度を評価した．評価後は全体調整会議に加わり，評価の妥当性・公平性を担保した．実技試験合格者は90(87)/114(101)名，合格率78.9(86.1)％で前年度を下回ってはいたが，不合格者24名も，後日実施した実技再試験には全員合格し，実技再試験不合格者は0名であった（※()内は前年度の人数).

期末（筆記）試験では，担当した清潔単元の問題（全体の4割分）を作成・出題した.最終的に，筆記(60%)，実技(25%)，演習課題/ポートフォリオ及び学習貢献度(15%)で総合評価した結果，114名全員が当該科目の履修を修了した．なお，休学中の学生1名は進路変更により，2018.4.1より本学英語学科への転学科となった.

授業科目名【　ヘルスアセスメント　】

1. 1年次後期，学生114名を対象に，スクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）から呼吸･循環器系，消化器系（腹部)，感覚器･神経系，筋・骨格系（運動）のフィジカルアセスメントに必要な身体診査技術の習得を目標に，授業は，講義・デモンストレーション・技術演習の一連の流れで展開した.
2. 1単位 30時間(2コマ8回)に納めるには，かなりボリュームのある内容であり，加えて，バイタルサイン測定技術は実技試験を行うため，学生にとってはハードな科目と言える.
3. 自作の「技術手順書」をもとに，教員によるデモンストレーションの他，看護学科LMS（Kaname.net）を積極的に活用し，看護技術習得のための学生の自主学習を支援した.
4. バイタルサイン測定技術については，昨年同様，4年次の「看護総合演習」とリンクさせ，10～11月迄の時期に限り，ゼミ担当学生6名にSAとして演習時の技術指導に参加してもらったが，1年生は，日頃，関わる機会の少ない4年生に直接指導を受けることで，技術習得への関心・意欲が高まり，演習への積極的な取り組みにつながっていた.4年生にとっても，最終学年であることへの自覚とともに，他者に教えることを通して看護師国家試験受験に繋がる知識・技術の振り返りと強化に繋がっていた.
5. 110名を超える学生に看護基本技術を確実に習得させることは容易なことではない．今年度も，先輩-後輩としての学生間の関係性と相互作用を期待し，4年生にSAを依頼した．これにより，1，4年生の双方にプラス効果，具体的には，1年生には学習意欲の向上と技術習得に向けた積極的な演習への取り組みに，4年生には根拠に基づく基本看護技術の振り返りと看護師国家試験で頻出する看護技術に関わる知識の見直しと定着化に，いずれにせよ，双方にとっての有効な学修機会となっていた.
6. 実技試験によりスクリーニング技術（バイタルサイン測定技術）の技術習熟度を確認した．科目責任者として，当該実技試験の企画・準備・運営に当たった．実技試験の結果は，受験者114(103)名中，本試合格者87(74)名，不合格者27(29)名で，合格者は全体の76.3(71.8)％で昨年度を4.5ポイント上回り，凡そ8割の学生がバイタルサイン測定技術を習得できた．本試不合格者27名については，後日，同一課題による再

試験を実施，27名中24名を合格，3(2)名を不合格とした．不合格者3名については，臨地実習中のスクリーニングに不可欠のバイタルサイン測定技術を確実に習得するために，再度，科目責任者及び助教・助手3名による個別指導・技術チェックを実施し，2月末の「基礎看護学実習Ⅰ」に備えた．（※( )内は前年度の人数）

筆記試験のクラス平均は60点満点中37.4(39.8)点（最高53.4(51)点，最低21(25)点）で，昨年度を2.4ポイント下回っていた．総合評価は，筆記(60%)，実技(25%)，レポート及び学習貢献度(15%)で行ったが，総合評価のクラス平均は72.7(76.0)点（最高93(90)点,最低43(53)点)，成績の内訳は，秀1名，優31名，良40名，可30名，不可12名であった．不可＝再試験該当者12名については，筆記(100点満点)による再試験を実施，その結果，9名が再試に合格し履修を修了，残り3名は再試不合格で再履修の対象者となった．

（※( )内は前年度の人数）

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		1998年 7月～現在に至る
日本看護科学学会		1998年12月～現在に至る
九州看護理論研究会		1999年 4月～現在に至る
日本看護診断学会		1999年 6月～現在に至る
日本看護技術学会		2007年12月～現在に至る
日本看護倫理学会		2009年 6月～現在に至る
日本がん看護学会		2009年12月～現在に至る
日本看護管理学会		2012年10月～現在に至る

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 1.安全・安楽な下肢温熱刺激法に関する検討ークロスオーバースタディによる準実験研究ー	共	2017年3月	西南女学院大学紀要 2017　VOL.21	①健康な成人男性6名を対象に，安全・安楽の観点から3通りの下肢温熱刺激法(足温浴，下腿温浴，下腿蒸しタオル)について，生理学的指標と主観的指標を用いて実験的に比較検討した結果，安全･安楽のいずれにおいても下腿温浴がより良いとの示唆を得た． ②共同研究者：小田日出子，清村紀子，高橋甲枝，水原美地，塩田 昇 ③P.9-18
（翻訳） なし				

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
・看護学生が主体的に学ぶ意欲を引き出すシミュレーション教育に関する研究―看護実践能力をつける自己学習の能力育成のための工夫として	共同研究費（西南女学院大学2017 年度教育の質向上支援経費）	○小田日出子 岩本テルヨ 末光　順子 古荘　美香 吉村　千草 荒木　剛	2,710,000
・社会人基礎力養成のための「意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム）」構築に関する取組	西南女学院大学保健福祉学部付属保健福祉学研究所	○上村　眞生 小田日出子 天本　理恵 塚本　美紀 篠木　賢一 橋本久美子 藤川　信幸 岸名　英海	1,278,000
・「汎用的技能」獲得のための学修支援体制構築に関する取組	西南女学院大学（2017 年度教育の質向上支援経費）	○上村　眞生 小田日出子 天本　理恵 塚本　美紀 高橋　幸夫 篠木　賢一 橋本久美子 岸名　英海 小川　尚 伊藤　直子 八尋　春海 伊東　幸雄	796,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・日本看護協会/福岡県看護協会	会員	2005 年 4 月～現在に至る
・西南女学院大学認定看護師教育課程	認定看護師教育課程検討委員	2016 年 4 月 1 日～現在に至る
・門司掖済会病院看護部看護研究指導	講師	2016 年 5 月 11 日～現在に至る
① 第 1 回：研究計画書の作成		2017 年 5 月 24 日
② 第 2 回：質問紙調査，質問紙の作成		2017 年 6 月 21 日
③ 第 3 階：データ分析		2017 年 11 月 22 日
④ 第 4 回：最終指導		2017 年 1 月 22 日
⑤ 第 5 回：院内研究発表		2017 年 3 月 17 日
・併設校との高大連携講義	模擬授業「からだの知恵―生きていることの不思議」講師	2017 年 6 月 7 日
・独立行政法人地域医療機能推進機構九州地区事務所主催：新任看護師長及び新任副看護師長研修	「ファシリテーションに関する基礎知識」講師	2017 年 7 月 5 日，2017 年 9 月 27 日
・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル	「討議法」オリエンテーション講師(1 時間)	2017 年 6 月 30 日
	「討議法」講師(3 時間)	2017 年 7 月 29 日
	「看護専門職論－看護関連法規」講師(6 時間)	2017 年 8 月 4 日
	「看護サービス提供論－問題解決法」講師(6 時間)	2017 年 9 月 9 日
・北九州市国民健康保険運営協議会	委員	委嘱期間：2017 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日(2 年間)
・北九州市国民健康保険運営協議会	副会長	2012 年 2 月～現在に至る
① 平成 29 年度第 1 回北九州市国民健康保険運営協議会		2017 年 8 月 18 日
② 平成 29 年度第 2 回北九州市国民健康保険運営協議会		2017 年 12 月 13 日
③ 平成 29 年度第 3 回北九州市国民健康保険運営協議会		2018 年 2 月 7 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
【大学委員会】 ● 2017. 4. 1～2018. 3. 31　看護学科入学試験委員 ✓ 大学委員会のうち「入学試験会議」に属し，看護学科入試委員として，　看護学科長とともに，2018 年度入学試験に関する事項（入学者選抜要項の検討，入学試験実施に関する事項，入学者選抜方法に関する事項，入学者の選抜に関する事項等）の審議に加わり，入学試験の円滑な実施に向けて自身に課せられた業務・役割を遂行した. ✓ 助産別科一般入学試験に関して、依頼された業務(入学試験問題作成)を忠実に遂行した. ● 2016. 4. 1～現在に至る　学び場プロジェクト委員 ✓ 昨年度より，旧 FD 研修企画委員会メンバー（5 名）のうち，上村准教授（福祉学科）を中心に，教・職・学 3 者合同による全学的な取り組みとして，「学びの拠点づくり」プロジェクトの活動を継続して行って

いる.

- ✓ 教員集団としては，本学共同研究費の助成を受けた「社会人基礎力養成のための『意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム)』構築に関する研究」に継続して取り組んでいる.
- ✓ 2018 年度「意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム)」，通称「要カリキュラム」の構築に向けて，西南女学院生自主活動グループ STEP UP の学生（3 学部 8 学科，現在 29 名）を中心に，2016 年度後期より「要カリキュラム」実行に必要な学内環境の整備と充実を図るための「西南女学院生のキャンパスニーズに関する実態調査」の質問紙の作成に取り掛かり，2017 年前期に倫理審査を受審した後，2017 年度後期に全学的に各学部・学科の 1～3 年生を対象に，質問紙調査を実施した．本調査の結果のまとめと考察は，2017 年 12 月に開催された Q-Links の場で報告した.
- ✓ 西南女学院生自主活動グループ STEP UP の活動の拠点となる 1 号館 11A,通称「WEST:Women’s Empowerment Station」の改修工事（什器撤去→アスベスト除去→内装及び備品配備）の 2017 年度分がほぼ終了，2018 年 4 月の「WEST」開設に向けて，ようやく学びの拠点となるスペースの準備が整いつつある.
- ✓ 今後，教員間で本取り組みにおける「社会人基礎力」を明確に評価する手段・方法の検討を進めるとともに，本調査への大学倫理審査委員会の承認を得た後，2018 年度は，早々に 2 年生以上の全学生を対象に，本学における社会人基礎力養成の現状を把握するための調査を実施したいと考えている.

【学科役割】

- ● 看護学科入学試験委員，2014 年度より継続して担当している看護学科初年次教育としての「基礎学習ゼミ」の科目責任者，2 年生アドバイザー責任者，認定看護師教育課程検討委員及び助産別科一般入学試験関連業務等，学科で与えられた役割を誠実に遂行した.

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　浅野嘉延	職名　　教授	学位　医学博士（九州大学 1989 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
内科学、看護教育学、高齢者福祉学、疫学	看護学生教育、教育指導マニュアル、福祉用具開発、先天性風疹症候群、甲状腺検査

研　究　課　題

医療現場での臨床医と看護系大学における教員の経験を同時に有する立場を生かして、看護学生に臨床現場で実際に必要となる知識・技術を有効に教授する教育法の確立を目指している。これまで、実際の患者サンプルを用いた実践的な教材を作成し、５冊のテキストを出版してきた。今年度は看護学生向けの雑誌「プチナース」にも特集の執筆を行った。現在、看護学生のための栄養学のテキストを執筆中である。

また、高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」にて研究開発を行った「車椅子用フットプレートカバー」の商品も好評を得て、有薗製作所より販売を継続中である。

さらに今年度は、全国の聴覚特別支援学校を対象にアンケート調査を行い、近年における先天性風疹症候群の発生状況と風疹ワクチンの予防効果について検討を行った。

担　当　授　業　科　目

疾病学各論Ⅰ（前期）（看護学科）
疾病学各論Ⅱ（前期）（看護学科）
看護のための臨床検査（前期）（看護学科）
医学総論（前期）（福祉学科）
総合人間学概論（前期）（保健福祉学部、人文学部）
保健統計学（後期）（看護学科）
疫学（後期）（看護学科）
疾病学特論（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【疾病学各論Ⅰ】【疾病学各論Ⅱ】

自著の教科書「看護のための臨床病態学（改訂３版）」を使用して、内科疾患を中心に疾病学の系統的な講義を行った。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、看護師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。外科疾患、小児科疾患、精神科疾患の講義は専門家に依頼し、全体的なコーディネートを行った。

授業科目名【看護のための臨床検査】

上記の疾病学各論Ⅰ＆Ⅱと連携させて進行し､疾病とリンクして臨床検査の知識が身につくように工夫した。自著の教科書「看護のための臨床検査」を使用して、各々の検査法やデータの解析を解説するとともに、検査データから患者の病態が把握できるように症例検討をした。今年度から検査手技の DVD５本を用意し、検査の説明と平行して映像を供覧した。

また、２コマを用いて演習を行った。心電図、検尿、肺機能などの検査を、学生自らが検査者や被験者になって検査の実際を体験させた。今年度からは超音波検査の供覧も追加した。

授業科目名【疾病学特論】 　次年度から臨床現場で働くことになる４年生に対して、自著の教科書「解剖生理と疾病の特性」を使用して、疾病学の総復習を行いながら、臨床現場で必要なことを解説した。また、看護師国家試験の直前であるため、国家試験の対策となるようにポイントを示した。
授業科目名【保健統計学】【疫学】 　１年生にとって馴染みの薄い分野であるので、自著の教科書「看護学生のための疫学保健統計（改訂２版）」を使用して、基礎から分かりやすく解説した。前回の復習に時間を使って、繰り返し説明を行うようにした。計算問題は複数回のトレーニングを行った。また、保健師国家試験で出題頻度が高い分野であるため、国家試験の過去問題の解説も行った。
授業科目名【医学総論】 　福祉学科の学生に、基礎医学（解剖生理）、臨床医学（主要疾患）、社会医学（公衆衛生）といった非常に広範囲な内容を講義するため、福祉の業務に関係する内容にポイントを絞って解説した。学生が興味を持てるように臨床現場での経験なども紹介した。また、社会福祉士国家試験の出題範囲であるため、国家試験の過去問題の解説も行った
授業科目名【総合人間学概論】 　感恩奉仕の精神に基づいた女性としてのキャリア形成を共通のテーマとし、オムニバス形式の講義内容や演者の選択などをコーディネートした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本内科学科	専門医部会編集担当委員（2006 年 9 月～現在） 専門医部会九州支部委員（2006 年 4 月～現在）	1983 年 6 月～現在
日本血液学科	評議員（1998 年 4 月～現在） 九州支部評議員（2011 年 4 月～現在）	1985 年 6 月～現在
日本癌学会		1986 年 6 月～現在
日本看護科学学会		2008 年 12 月～現在
日本看護学教育学会		2008 年 12 月～現在
日本栄養改善学会		2016 年 4 月～現在
アメリカ内科学会		1998 年 12 月～現在

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） ≪教科書の単著≫ 1. 看護師国家試験対策 START BOOK～解剖生理と疾病の特性～（改訂２版）	単著	2018 年 2 月	南山堂	看護学生を対象とした疾病学の教科書を大幅に改訂

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（雑誌） ≪依頼執筆≫ 1. 母性・小児・高齢者の検査値のみかた	単著	2017年6月	プチナース 26(7): 11-34. 2017	看護学生に母性、小児、老年の検査について解説した。
2. 病態理解につながる解剖生理	単著	2017年9月	プチナース 26(10): 16-39. 2017	看護学生に循環器と呼吸器の解剖と疾病について解説した。
（その他の出版物） 1. 百年の矜持	単著	2017年	広報 西南女学院 第92号: 4	入試結果について報告した。
（講演会など） 1. 命の大切さ	発表者	2017年	シオン山幼稚園保護者会（2017.6. 北九州）	幼稚園の保護者に命の大切さや健康訓話を行った。
2. 本学における学生募集の現状	発表者	2017年	2017年度西南女学院職員研修懇談会（2017.8. 北九州）	大学入学者の全国の動向と本学の募集状況を説明した。
3. 永遠につながる命	発表者	2017年	西南女学院中学校・高等学校 全体礼拝（2017.9. 北九州）	中高生を対象に命の永遠性についてお話をした。
4. 妊娠中の風疹感染による先天性聴覚障害児の調査研究	発表者	2018年	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所2017年度研究報告会（2018.3. 北九州）	先天性風疹症候群のアンケート調査結果を報告した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	平成29年度西南女学院大学共同研究費	○田川辰也、近江雅代、境田靖子、手嶋英津子、石井愛子、田中貴絵、浅野嘉延、他	1,139,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
妊娠中の風疹感染による先天性聴覚障害児の調査研究	平成29年度 西南女学院大学保健福祉学部附属研究所		

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人　福音会	産業医	2007年4月～現在
北九州いのちの電話	評議員	2009年2月～現在
医療法人起生会 大原病院	評議員	2009年4月～現在
	産業医	2016年6月～現在
	褥瘡委員会委員長	2016年8月～現在
神理幼稚園	評議員	2010年4月～現在
文部科学省大学間連携教育共同推進事業 地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成プロジェクト	外部評価委員	2013年7月～現在
北九州市医療センター治験審査委員会、医の倫理委員会	委員会委員	2015年4月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試部長　2016年4月～現在 地域連携室室員　2016年8月～現在

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　岩本　テルヨ	職名　　教授	学位　修士((看護学)、北里大学 1995) 博士((医学)、山口大学、2004)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学、医療・看護倫理、看護教育、訪問看護	看護専門職性、医療・看護倫理、看護教育

研　究　課　題
看護基礎教育カリキュラム研究 看護の専門職性 山口県の近代看護史

担　当　授　業　科　目	
看護学概論（前期）	看護教科教育法Ⅰ(前期)、看護教科教育法Ⅱ（通年）
看護理論（後期）	基礎看護学実習Ⅰ(後期)
看護倫理　（後期）	基礎看護学実習Ⅱ(前期)
生活援助技術論(後期)	看護総合演習(前期)
ヘルスアセスメント(後期)	看護総合実習(前期)
看護技術論(前期)	総合人間学概論(前期)
診療関連技術論(前期)	総合看護学(前期)（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　看護倫理　】

学生が活発に意見交換することにより、様々な価値観に気づき、話し合いによる課題解決を図る経験をさせたいと考え、昨年度よりも多く時間を割くようにした。できるだけ様々な事例を取り上げ、意見交換するようにした。最初は一般的な事例からはじめ、授業の後半には、医療・看護に関わる事案に対してグループ討議させ、各グループ発表させたところ、自分とは違う視点に気づきよかったとの意見が多くあった。DVD を視聴させ、グループ討議後レポート作成させた。その後その事例について意見交換し、さらに考えを深めるように意図した。

授業科目名【看護教科教育法Ⅰ　】

3 年生にとっては看護にかかわる授業時間のほかに、教職の授業が加わるため、学習指導案の作成のための時間を授業時間内に確保し、図書館における文献検索等の時間をとれるようにした。また、高校看護科の模擬授業（講義）においては、教職課程の２名の先生にも参加いただき、多くの視点から学生も加わっての模擬授業の評価を意見交換し、授業の仕方・内容等について質を高めるように図った。

授業科目名【　看護教科教育法Ⅱ】

受講生が少人数でもあり（4 名）、講義だけでは受け身になりがちな側面があることから、毎回テーマを与え、グループ学習に取り組ませた。その成果を１コマの授業の後半で発表・意見交換させ、全員が授業に積極的に参加するように図った。演習の模擬授業では、学生一人が 1 コマの中で学習指導案に基づき 10 分間で授業の説明をした後 50 分の授業を行い、残り 30 分で授業に関してすぐに意見交換を行うようにした。教職課程の２名の先生にも参加いただき、不足部分や教える視点からのアドバイスを出してもらい、次のステップの足掛かりとすることができたと考える。加えて、学生は自分が習った大学レベルの教材を作成することが多いため、

特に高校生が関心を示す教材づくりについて、意見交換を行うように意図した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	評議員（2012~2016）査読委員（2012~2016）	1993～現在に至る
日本看護科学学会		1993～現在に至る
日本死の臨床研究会		1997～現在に至る
日本生命倫理学会		1998～現在に至る
日本公衆衛生学会	評議員（2005-2008）	1999～現在に至る
日本医学哲学・倫理学会		2000～現在に至る
日本看護学教育学会	評議員（2012~2016）、専任査読委員（2015-2018）	2002～現在に至る
STTI		2008～現在に至る
日本看護倫理学会	評議員（2015-2018）	2008～現在に至る
日本看護技術学会		2012~現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題―地域包括ケアを見据えたカリキュラム―	共著	2018.3	西南女学院大学紀要 VOL.22	①本学看護学科で行った 2018 年改正カリキュラムの検討過程についてまとめた。このカリキュラム改正は、2017 年度まで4年間施行した現行カリキュラムの評価を踏まえたものであると同時に、本学の総合人間学科学の改正に連動して実施したものである。看護学科では現行カリキュラムの課題を踏まえ、看護における将来展望に対応できるカリキュラムに改正するため、カリキュラム検討委員会を組織した。委員会では次の 3 点、①教育理念の創設、②教育理念の基づく 3 つの方針の検討、③地域完結型看護とキャリア支援に対応し得る科目

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				の検討、をもとに進めた。その過程をまとめたものである。 ②共著者名　石井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 ③P.23-32
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

・西南女学院大学認定看護管理者教育課程ファーストレベル（看護専門職論）	兼任	2016 年 8 月 5 日～現在に至る
・福岡県看護職員確保対策連絡協議会	委員	2016 年 4 月～現在に至る
・日本看護系大学協議会	社員（会員校代表者）	2014 年 4 月～現在に至る
・日本私立看護系大学協会	会員校代表	2014 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
看護学科長 入試委員 看護キャリア支援センター長 認定看護管理者教育課程教育運営委員長 西南女学院評議員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　新谷恭明	職名　　教授	学位　博士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育学（日本教育史）	養護教諭、学校看護婦、教員文化、学校史

研　究　課　題
①　養護教諭の専門性はいかに形成されたか、雑誌『養護』を中心に検討する ②　福岡県教育会の基本史料である機関誌を分析し、近代における教員の文化形成について考察する。 ③　道徳教育の歴史的背景と教科化以降の取り組みについて検討する

担　当　授　業　科　目
教育方法論（前期） 教職概論（前期） 人権と社会（前期）（人文学部） 人権と社会（前期）（保健福祉学部） 教育原理（後期） 教育課程論（後期） 教職実践演習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【教育方法論】 講義のみならず、ディスカッションと授業案の共同制作、模擬授業、プレゼンテーションなどをさせた。
授業科目名【教育課程論】 教育課程論の基本的な理論の教授とは別に学習指導要領や進行中の教育改革などについて精読・解釈を丹念に行う努力をした。
授業科目名【人権と社会】 人権問題は情緒的になったり、ステレオタイプな規範を求めたがるので、論理の組み立てに工夫を加えた資料を配付した。また、ディスカッションや映像なども活用した。
授業科目名【教育原理】 初めて大学で教育学について学ぶので論理的な読解力、思考力を鍛えるために文章読解の訓練を行い、一方で映像や画像、文芸資料を用いて多角的な学びを促した。現実の教育課題に対して思考を促す作業などを加えた

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育学会 教育史学会 大学教育学会 全国地方教育史学会	理事（2018.8 まで）	1976 年～現在に至る 1975 年～現在に至る 2013 年～現在に至る 1982 年～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 人権教育再考	単著	2017．6．1	福岡県人権研究所、『リベラシオン』、	人権教育の課題として扱われてきた「いのちの大切さ」「部落史」についてこれまでの見方を見直し、新たに枠組みを構築する提言を行った。
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
日本型教育行政システムの構造と史的展開に関する総合的研究	学術振興会	○（梶山雅史）	195,000 円（分担額）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
福岡市教育委員会ぬくもり検討委員会	検討委員長	2018.3 まで
福岡市男女共同参画課中学生向けテキスト編集委員会	編集委員長	2018.3 まで
（公益）福岡県人権研究所	理事	2018.6 まで
NPO 宗像地区人権と共生の会	理事長	2018.6 まで
社会福祉法人福間サンテラス	理事	2019.3 まで

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員長 宗教委員 紀要編集委員長

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　大嶋　満須美	職名　教授	学位　　修士（健康福祉学）山口県立大学

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
慢性期看護 看護管理	慢性期、受容過程、家族 人材育成

研　　究　　課　　題
慢性的疾患を抱えた患者・家族の疾病の受容と看護

担　　当　　授　　業　　科　　目
成人・老年看護学概論　(前期) 成人・老年看護学演習　(前期) 緩和・終末期看護　　(前期) 看護マネジメント論　(前期) 成人慢性期看護方法論　(後期) 看護基礎マネジメント論　(後期) 成人慢性期看護学実習　(通年) 看護総合実習　　(前期) 看護総合演習　　(前期) 看護学(栄養学科)　(後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　成人・老年看護学概論　】 成人期の位置づけを明確化し、その特徴を基盤に教授した。社会環境が大きく変化する中で、統計を踏まえ、を用いて、生活者である成人期にある人々の実際を具現化し、発問をしながら進めた。
授業科目名【　緩和・終末期看護　　】 学生にとって「死」は非日常であり、自ら考えることはあまりない。しかし、避けて通れない現実に看護者として人々の尊厳と QOL の視点を持ち、かかわることの意義について教授した。当事者の現状や課題を理解し、「よりよく生きる」ことについて考え、そして看護観や死生観が育まれるよう問いかけを行った。
授業科目名【　成人慢性期看護方法論　】 既習の知識や、成人看護学概論を基盤に、系統別看護として、疾患や症状について解説し、基礎看護学実習の受け持ち患者を引き出しながらイメージ化を図り教授した。特に健康障害とアセスメントの視点について強調し、形態機能や疾患の理解に結び付けながら解説した。
授業科目名【　成人・老年看護学演習　】 看護実践の基盤となる看護過程の思考を深め、看護実践能力を育成するため模擬患者による演習と、看護技術が安全にできるように、進行状況を確認しながら解説を踏まえ、実践を行った。グループワークと個人ワークを組み合わせ、個別に関わった。毎回、教員間で、進捗状況や課題の確認、方向性について情報共有を行い、到達度について協議した。
授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】 既習の学習内容を資源とし慢性疾患の病態理解と看護の方向性について、アセスメントの視点を重要視し看護過程の展開が出来るよう指導した。また、臨床指導者との連携を図り、慢性疾患の自己管理や継続看護の重要性についても機会をとらえ伝えた。個別性のある看護実践について実習グループ間で学びの共有が出来る場

の設定を行った。実習終了後は個別面接を行い、自己の学習課題の明確化を図った。また、そのことを教員間で確認をした。
授業科目名【　看護総合実習:　成人慢性期・終末期　】 学生の主体性と看護の洞察が深まるよう臨地の指導者と調整を図りながら展開した。テーマと実習展開の具体的方法の決定に時間をかけ、実践計画の立案において自らが取り組む実習内容の確認を行った。また、看護職への将来展望を視野に入れ、複数の事例を体験し時間管理や多職種による連携、看護管理についても組み入れた。
授業科目名【　　看護総合演習　　】 看護総合実習前後の演習として位置づけられ、関心のあるテーマや自己の課題について主体的に取り組めるよう個別に関わった。学生が取り組もうとしている課題に向き合い時間を設け、学生の言葉にある背景やそれぞれの現象を概念化し、学生とプロセスを共有する中で看護観や死生観が深まるよう助言した。また、グループメンバーによる学びの機会を設け、類似性や新たな視点について学びを共有した。
授業科目名【　　看護基礎マネジメント論　　】 履修学生は2年生である。マネジメントはすべての看護師に必要な技能であることを理解できるように、身近な事例を用い、実習と関連づけながら展開した。特に実習中の視点として、個別事例の展開の中に「安全管理」があることなど、マネジメントに必要な管理とは何かを演習やグループワークで、共有し、自己のセルフマネジメントについても考える時間を設けた。
授業科目名【　　看護マネジメント論　　】 看護総合実習において「看護管理」をテーマとする学生が選択科目として受講していることから、マネジメントの本質を確認しながら、学生の学習のニーズに対応した。「管理」は看護管理者が行うものという認識が強いため、組織やチーム、また経営的な側面についても再度確認し、「看護の質」と管理、看護実践者としてのサービス提供の在り方について助言した。また、保健医療福祉の動向と求められる看護師や看護政策について教授することにより、今後、自身の専門職としての在り方を意識化できるように問いかけた。
授業科目名【　看護学　】　（栄養学科講義）・・・本年度は閉講 栄養学科の専門教育科目として設定され、栄養学科3年生を対象とする選択科目である。本年度は後期履修変更届による履修生が5名以下と少なく、協議の上、閉講となる。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本家族看護学会		1975年～　現在 1997年～　現在

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題 地域包括ケアを見据えたカリキュラム	共	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol22.2018	①看護学科で行った2018年度改正カリキュラム検討過程について検討委員会を組織化し決定過程及び今後の課題についてまとめた。 ②共著者：石井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 ③（ｐ23~ｐ32　）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
財団法人　佐波共済会	理事 評議員	2015年5月～　2017年4月 2017年5月～　現在
山口県立大学	非常勤講師	2014年4月～　現在

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
・学生募集委員　(2017 年 4 月～2018 年 3 月) ・看護学科カリキュラム検討運営委員　(2017 年４月～2018 年 3 月) ・認定教育課程検討委員　(2017 年 4 月～2018 年 3 月) ・認定教育課程運営委員　(2017 年 4 月～2018 年 3 月) ・看護キャリア支援センター　認定看護管理者教育課程　講師 ファーストレベル講師　(2017 年 7 月 22 日) セカンドレベル　講師　(2017 年　10 月 27 日・28 日) ・総合人間学概論講義　キャリア形成/看護のキャリアモデル　(2017 年 7 月 24 日) ・シニアサマーカレッジ　講師　(2017 年 9 月 22 日) ・高校訪問模擬授業　山口県立長府高等学校（2017 年 11 月 22 日） ・国家試験対策講義　（成人慢性期看護学領域　2018 年 12 月）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　布花原　明子	職名　准教授	学位　看護学（修士）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学教育・学習方法 地域組織活動

研　究　課　題
住民主体の地域保健福祉活動に関する研究 学生と卒業生保健師のネットワーク形成によるキャリア支援に関する研究

担　当　授　業　科　目
＜1年次＞ 　基礎学習ゼミⅠ・基礎学習ゼミⅡ ＜2年次＞ 　保健福祉行政論　公衆衛生看護技術論 ＜3年次＞ 　地区活動論 ＜4年次＞ 　地区活動論演習　公衆衛生看護技術演習　看護総合演習　公衆衛生看護管理演習　公衆衛生看護学実習　看護総合実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助教については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 　基礎学習ゼミⅠでは、アカデミックスキル「読む・聞く・書く・話す・考える」を習得するよう、毎回のゼ学生同士や教員との話し合いや課題作成を通して、授業中はグループのファシリテートを意図して関わった。学生は教員に答えや方法を求めがちであったが、意図的に課題の方向性を示すことや選択肢を提示する程度にとどめ、学生自身にあなた方の課題は何なのか、それをどうやって解決していこうと思うのか、行った結果どうだったのか、メンバー間の協力はどうだったのか等々、適宜問いかけながら、学生が導き出せたことを褒めて意欲を高めるよう工夫した。また、個々人へは、作成レポートに対するコメントを記載し面談して返却し、達成感を感じつつ今後の課題を具体的に振り返ることができるようフィードバックした。 　基礎学習ゼミⅡでは、全体授業と運用を担当した。ゼミ単位では、ディベートを取り入れて論理的思考を展開できるようグループ学習形態の授業を行った。12名を6名小グループに分けて進めた。例年だと発表までの計画が思うように進まず、発表直前になって時間外の指導を要していたが、今年度はいずれのグループも前向きに取り組み、役割分担して学習作業を進める様子がみられた。そのため、学生からの質問や相談時のみの対応で充分であった。優秀ディベートにも選出され、学生たちの自信につながったようである。 　基礎ゼミⅠ・Ⅱを通して、ポートフォリオを用いて毎回の授業を振り返らせたが、コメントを返すだけでなく、途中、気になる学生は声をかけて個別面談を行い対応した。
授業科目名【保健福祉行政論】 　保健医療福祉制度に関する知識の習得を主な内容とする科目である。授業回数は2回であったが、いずれも制度とその制度に基づいた看護の場面を映像で見せながら、看護実践の基盤に制度が重要であることを実感してもらえるよう心がけた。レジュメを作成し、要点を記入して整理できるよう工夫した。

授業科目名【公衆衛生看護技術論】

今年度から保健師選抜が２年前期から後期となり、後期に開講される本科目の履修生は前年度 18 名程度から 30 名へと増加した。初回に授業への要望を聞き、参加型学習や国家試験問題を解くなどの意見を取り入れて実施するよう工夫した。例えば、健康相談・家庭訪問・健康教育・組織活動等の各回の授業の中で、ミニ事例を用いて、まずは学生が話し合い、全体で意見を出した後に、教員の説明を加えるなどを行った。また、国家試験問題もテスト形成ではなく、学生間で話し合い選択肢の判断を意見交換させるなどの工夫を行った。ただ、参加型学習は思いのほか時間を要したため、授業の進度が遅れが違ったことは否めない。今後は講義と参加型学習との配分を検討する必要がある。

授業科目名【地区活動論】

保健師課程３年生前期の必修科目である。アクティブラーニング教室を使用して授業を行っている。毎年、学生からの好評を得ている地域のフィールドワークを行って地域の生活環境と健康を５感で考える機会を設けた。フィールドワークのポスター発表では、口頭での意見交換では発表者が限定されがちであるため、全員がコメントをホワイトボードに書き込み、参加意欲を高める工夫をした。講義形式の授業では、授業中には問いかけや理解度の確認を留意して進行した。学生の意見の中に、「国家試験問題を解いてみたかった」との要望があり、次年度は取り入れたいと考えている。

授業科目名【公衆衛生看護技術演習】

保健師課程４年生前期の必修科目であり、公衆衛生看護学実習における必修体験技術項目である家庭訪問と健康教育技術の演習を行う。家庭訪問技術では、基本的な家庭補門技術の習得を目指し新生児訪問のロールプレイを実施した。学生は看護学実習を終えており、紙面上で家庭訪問計画は大方立案できる。しかし、記述されている援助項目を対象者にどのように提供していくのかという点では、実際に行うロールプレイ場面で行い、学生がスマートフォンで撮影し後から見直す時間をとり、不足している知識や技術に気づけるよう、また実習までの備えを自覚できるよう工夫した。健康教育技術では、実習施設の地域診断（地区活動論演習）と連動させて、地域の健康課題解決の一つとして PDCA を展開できるよう意識づけを配慮した。

授業科目名【地区活動論演習】

保健師課程４年生前期の必修科目であり、6 実習施設の地域診断を行う。4 月から 6 月上旬公衆衛生看護学実習開始前までに集中講義形式で実施した。毎回、事前学習として既存資料からの統計情報の収集及び分析が必要になるため、連続授業は避けてほぼ隔日で時間割を作成し、自己学習時間を確保できるよう配慮した。

また、シラバスをベースに、演習の進め方のガイドブックや統計データのアクセス方法の資料等を配布し、学生が効率的に情報を収集できる方法を提示するなどの工夫を行った。教員間では随時グループの進捗状況を共有し、全体講義が必要な内容は随時説明して、全体の習得状況を調整できるよう配慮した。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本公衆衛生学会	一般会員	1994 年４月～現在に至る
日本看護科学学会	〃	2001 年３月～　〃
日本地域看護学会	〃	2001 年４月～　〃
日本看護教育学学会	〃	2003 年４月～　〃
日本公衆衛生看護学会	〃	2014 年４月～　〃

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 保健師課程を選択する女子大学生の職業選択に関する認識と卒業生のキャリア支援	共著	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22,1-10	1.布花原明子、鹿毛美香、伊藤直子、丞々美香、平島美也子 2.女子大学における保健師課程学生のキャリア支援への示唆を得るために、学生と卒業生保健師との交流会を開催し、学生の職業選択に関する認識と、卒業生保健師から得られた支援内容を分析した。学生の職業に関する認識では【保健師という職業の選択】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】が抽出された。卒業生の≪情報提供≫、≪モデルの提示≫は、学生が広くライフキャリアを捉えて職業選択するプロセスの一助となり、≪仲間としての存在≫、≪保健指導技術の提供≫は、学生の職業選択に関する認識全体を促したと考えられた。
教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題―地域包括ケアを見据えたカリキュラム―	共著	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22,23-32	1.石井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 2.本大学看護学科で行った2018年度改正カリキュラムの検討過程を報告した。現行カリキュラムの課題をふまえ、①教育理念の創設、②教育理念に基づく３つの方針、③地域完結型看護とキャリア支援に対応しうる科目の検討を行った。今後、カリキュラム運用の課題は、①科目を連動させるための教員間の連携、②習熟度を上げるための教育方法の検討、③学生の主体的学修を促進する環境の整備である。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市保健所運営協議会	委員	2009 年 4 月～現在に至る
日本私立看護系大学協議会	広報委員	2017 年 4 月～現在に至る
認定看護管理者教育課程ファーストレベル	講師	2012 年 4 月～現在に至る
北九州市介護保険認定審査会	審査委員	2017 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1.　学生個人情報保護委員 特記事項はなし。 2. 看護学科カリキュラム運用委員 昨年度に引き続き、2018 年度に開始される新カリキュラムの運用に向けて協議し、また「地域包括ケア科目」ワーキングを実施し検討を行った。 3. 看護師・保健師国家試験対策担当 看護師・保健師国家試験対策の責任者として、7 名体制で年間の対策を講じた。看護師対策では 4 月オリエンテーション時に 4 年生へ動機づけと国家試験対策の年間スケジュールを提示して説明を行った。7 月から毎月実施される業者模試結果分析に基づき、具体的方策を検討し、目標達成しない学生へは強化学習を計画的に実施した。保健師対策も同様である。学科教員による補講時間割の作成及び協力依頼や、個別指導を要する学生について担当ゼミ教員との情報共有などを行い、また冬期休暇前には伸び悩む学生の保護者への協力依頼等も実施した。9 月卒業生とは殆ど連絡が取れない中、ゼミ担当教員を窓口として現状把握のみ行うまでが、対

策委員としての限界であった。また直前対策では個別指導を徹底した。保健師課程も同様に取り組んだ。
　結果は以下の通り。
　保健師 18 名中、全員合格（本学 100%、全国新卒 86%）。看護師 99 名中 97 名合格〔現役生 93 名中全員合格、9 月卒業生 6 名中 4 名合格〕（本学 98%、全国新卒 94%）。

4. 2 年生アドバイザー
　正規授業外活動として，2 年生担当学生の学修及び生活支援を行った。
1)前期試験対策に向けた学生のグループディスカッションの実施（7 月）
2)低学年実力試験の実施，その後の問題解説のノートづくり指導（10 月～11 月）
3)1 年生との交流会について，2 年生を主体にした企画，運用の実施（6 月・2 月）
4)保護者懇談会（10 月）他，随時，アドバイザー学生の個別相談対応を行った。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　石井 美紀代	職名　准教授	学位　修士（看護学）大分医科大学　2001 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
地域看護学	在宅ケア、訪問看護

研　究　課　題
国の医療・介護一体化改革によって、在宅医療・在宅看護が慢性疾患患者のための受け皿を期待され、在宅ケアの対象が拡大している。さらに「在宅」の定義が単に自宅を指すものではなく、その人の生活の場に拡大されている。そこで、病院と在宅の継続看護の構築、および在宅ケアにおいて看護職に求められるニーズについて研究する。

担　当　授　業　科　目
基礎学習ゼミⅠ（看護学科１年　前期） 基礎学習ゼミⅡ（看護学科１年　後期） 保健医療福祉行政論（看護学科２年　前期） 対象別保健指導論（看護学科２年　後期） 国際看護論（看護学科２年　後期） 在宅看護学（看護学科３年　前期） 在宅看護学演習（看護学科３年　前期） 在宅看護学実習（看護学科３・４年　通年） 看護総合演習（看護学科４年　前期） 看護総合実習（看護学科４年　前期） 看護学（栄養学科３年　後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 本授業は、初年次教育として 10 名の専任教員で学生を 10 人ずつ担当している。また、アドバイザー役割もあるため、成績不振者の個別指導に加え、精神的に不安定な学生の見守りもあった。 今回、私は基礎学習ゼミⅠの企画を担当した。基礎学習ゼミⅠでは、高校の学習から大学の学びの移行を目的としているため、基本的リテラシー（聞く、読む、話す、書く、考える）の修得を目標に、論証型ﾚﾎﾟｰﾄの作成に取り組んだ。図書館の協力を得た「文献検索の仕方・レポートの書き方」の講義から、実際にﾚﾎﾟｰﾄ作成の過程をワークシートに沿って、グループでディスカッションしながら論証していった。 基礎学習ゼミは、10 人の教員で目標と手法を共通理解し、全体講義 → 小グループでのディスカッションを繰り返して実施した。学生が同じテーマで書いたグループメンバーのレポートを読む時間を設けたことは、学生の客観的な評価に役立った。
授業科目名【保健医療福祉行政論】 本授業は３人の教員で担当するため、事前に講義の項目、内容についての打ち合わせをし、前回に繋げて今回の授業を展開するようにした。また、科目の名称から、本授業を「看護と関連するものの、看護学とは別物」ととらえている学生も多い。そのため、この内容は患者の看護にどう活用されるかを、意識して説明した。 講義資料は、重要な部分を学生が書き込むように空けて作成した。また、毎回、最後に、講義内容に関連した国家試験問題を出題し、解答、解説した。さらに、毎回、出席カードに授業の評価を書いてもらい、質問が書かれていた場合は、次の講義で答えた。しかし、学生の学習量を増やすことができなかったことが反省点である。

授業科目名【対象別保健指導論】

本授業は、保健師課程の必修、看護師課程の選択授業であるが、2017 年度から保健師選抜を 2 年後期終了後としたことから、受講生が前年度の３倍あった。そのため、保健師活動に特化せず、公衆衛生の視点を身につけることを目標として、教科書とオリジナルの授業プリントで公衆衛生活動の目的、特徴を解説した。さらに、保健師ジャーナルから公衆衛生分野で先駆的な活動例を紹介した。

15 回の授業のうち、前半は講義の終盤にテーマに関連した課題を出して小グループでのディスカッションを行った。これまで１対１の回答に慣れているので、複数の要素をまとめて記述することが小グループでも難しかった。後半は、テーマに関連した課題を個別のワークシートで提出させた。記述については個人差が大きくなったため、関連要素をまとめて記述することの訓練をする必要性を感じた。

授業科目名【国際看護論】

本年度、始めて担当した科目であり、伊藤教授と合同で実施した。講義は、実際の活動をされている方々を、EPA で来日したインドネシアの方々、を外部講師として招聘して話してもらった。その中で JAICA の職員は看護職ではなかったが、公衆衛生、医療、看護の問題を広くとらえる演習を実施され、学生達は衝撃を受けていた。また、インドネシアの方々とは、看護だけでなく、文化、宗教等についての深いディスカッションを行うことで、視野を広げていた。

授業科目名【在宅看護学・在宅看護学演習】

学生は病院施設内看護の経験しかなく、在宅看護のイメージが難しい。そのため、実習中に実習施設と療養者家族にお願いして DVD や写真を撮り、在宅看護学の講義ではそれらも媒体に加えた。

在宅看護学演習では、導入で「訪問看護が必要な寝たきり高齢者にとって望ましいのは住み慣れた自宅で過ごすことである 」をテーマにディベートを実施した。ネットで資料を得る学生が多かったが、家族介護を社会のありようとつなげて考えることに有効であった。一方、地域ケアシステムを理解させるため、グループワークでソーシャルサポートを調べて図式化させ、次の講義で良く書けているグループの図を配布し解説したが、全体的にネットワークの枠から広がらなかった。看護過程の演習の最後に、観察の実技を予定していたが、アセスメントが目標レベルに達することができなかったことから、知識確認の口頭試問に変更した。その変更が学生たちの憶測を生み、SNS を介して間違った情報が拡散したため、一部の学生が水面下で不満を持っていたことが後日、わかった。変更に関しては、学生が納得するまで説明する必要を悟った。

授業科目名【在宅看護学実習】

在宅看護実習は、学生と看護師が１対１で同行訪問を行う。教員は学生が看護を提供する場で直接指導ができないことから、指導看護師と事前に実習目標や進め方の打ち合わせを重視した。

病棟の実習では、学生は１人の患者を２～３週間継続して担当するため、複数の患者の看護を同時に考えることができない。訪問看護は、１人の看護師が１日４～６件訪問をするが、実習では同伴訪問１日１～３件に絞って考えさせた。さらに、教員が学生の思考を方向づけながらすすめた。

一方で、私を含め３人の教員（非常勤助手含む）が学生の指導を担当するため、学生が書いた記録、最終カンファレンス資料等をもとに、時間を見つけて常に教員間でディスカッションを実施した。このことは、指導方法の検討や自己研鑽の機会につながった。また、助手が担当する施設にはなるべく足を運び、学生の引き締め、助手の指導を実施した。

授業科目名【看護総合演習・看護総合実習】

本授業は、卒業研究に代わるものである。そのため、これまでの実習での疑問、もっと深めたいことから、学生自らテーマを選択し、文献検索から実習での介入計画を立案し、論文としてまとめさせた。

看護総合演習では、段取りする力、資料化する力、わかりやすい発表の工夫につながることを期待し、毎週１回、テーマに沿った内容を調べ、プレゼンテーションをさせて行った。看護総合実習は、学生が選んだテーマに合った対象が複数いる訪問看護ステーションにお願いして実習させていただいた。事前に文献で調べていくため、学生は指導看護師に多くの質問やディスカッションができ、看護師の語った内容が学生の考えが及ばない視点にあることも理解できた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本健康福祉政策学会 日本地域看護学会 日本看護学教育学会 日本公衆衛生学会 日本老年社会科学会 日本学校保健学会 日本老年看護学会 日本看護研究学会 日本在宅ケア学会		１９９７年６月～（現在に至る） １９９７年10月～（現在に至る） １９９８年４月～（現在に至る） １９９８年４月～（現在に至る） １９９９年４月～（現在に至る） １９９９年４月～（現在に至る） １９９９年８月～（現在に至る） ２００１年11月～（現在に至る） ２００４年８月～（現在に至る）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題－地域包括ケアを見据えたカリキュラム―	共著	2018年３月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本学看護学科で行った 2018年度改正カリキュラムの検討過程をまとめた。検討委員会を組織し、看護学科として教育理念を創設し、三つの方針を基に、看護の将来展望に対応できるカリキュラムを作成した軌跡である。 ②共著者：梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 ③23p～32p
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
循環器疾患をもつ高齢療養者の急性期病院と在宅医療における継続看護のあり方	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所研究助成金	○石井美紀代 鹿毛美香、水原美地、高木あゆみ	298,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市介護認定審査会	委員	２００７年4月～２０１９年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 教務委員 教務総合人間科学小委員会　委員 〔学科役割〕 １、２年生アドバイザー カリキュラム検討委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　前田　由紀子	職名　准教授	学位　修士（教育学）（九州大学　2004年） 博士（教育学）（福岡大学　2010年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学、看護教育学	精神科看護師、現象学、コンピテンシー、看護継続教育、キャリア、リカバリー、ストレングス

研　究　課　題
精神科看護師のキャリア形成に関する研究 精神科看護におけるリカバリーに関する研究

担　当　授　業　科　目
精神看護学概論（後期）（看護学科） 精神看護方法論（後期）（看護学科） 精神看護学演習（前期）（看護学科） 精神看護学実習（通年）（看護学科） 看護研究の基礎（前期）（看護学科） 看護総合演習（前期）（看護学科） 看護総合実習（前期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【精神看護学概論】 心の健康を保持・増進するための援助法の基礎を教授した。人との関わりがケアの基本となる精神看護を理解し、精神疾患を持つ人に限らず精神的援助のあり方を強調した。学生の能動的な学習を促すために、「発達段階と危機」の講義後に「ライフサイクルの危機とその支援」というテーマでレポートを作成させ、自らの危機と支援された状況について考察させ、精神の発達について理解を図った。学生の反応として、メンタルヘルスに関心が深まったという感想が多く聞かれた。また、国家試験対策の一環として、授業毎に国家試験問題を解かせ解説を実施した。
授業科目名【精神看護方法論】 精神看護学概論で学んだ基礎知識を活用しながら，精神の健康の維持および精神疾患からの回復を援助するための原理と方法を教授した。精神障害は、イメージがしにくいため視聴覚教材を活用することで理解が図られる。精神疾患の教材 DVD は、マイナスのイメージのみが、先行することがしばしばあるため、テレビドラマやインターネットの動画などで、精神疾患を持つ人の健康な面が理解できるようなものを選んで視聴させた。精神疾患についてノート整理の課題を出し、ポートフォリオの作成を行った。また、発展的学習を促すためにグループで精神科関連の本の紹介のプレゼンを行った。さらに知識定着のため国家試験形式の問題と解説を作成させ、基礎的な知識の修得に努めた。休暇中の課題として国家試験問題を解かせ、解説を記述させた。
授業科目名【精神看護学演習】 精神疾患、症状、治療など基礎的知識を確認後、統合失調症の事例をグループで展開した。精神に障がいをもつ人の援助に適切とされるオレム・アンダーウッドの理論とストレングスモデルを用い、精神障がい者やその家族のケアについてグループで十分にディスカッションを行った。今年度は昨年度に引き続き A 病院の指導者 4 名が演習に参加し、ディスカッションに加わった。指導者より具体例を提示され、精神科看護のイメージが捉えやすくなったと思われる。ディスカッション後は、グループごとに発表させ、その後、事例に沿って精神

科看護のポイントの資料を作成し解説した。配布資料は、実習時に活用しやすいようにファイル化させた。課外においては、うつ病の事例を用い、個人ワークにて看護過程を展開させた。実習に必要な基礎力の定着および向上を目的にワークブックを作製し手書きでまとめさせた。
授業科目名【精神看護学実習】 実習前は、事前学習（精神疾患、精神看護、精神科リハビリ等の基礎知識）の徹底を図り、学習不足の学生には課題を与えた。精神科の実習では不安・緊張が強い学生がいるため、オリエンテーションの充実に努め、スムーズな実習ができるよう配慮した。今年度はＡ病院の指導者が演習に参加したため、Ａ病院の学生は緊張が軽減していた。演習においてストレングスモデルを取り入れたので、それに伴い記録用紙の変更を行った。学生は患者のストレングスを引き出すために対話を活用した効果的な実習をすることができた。帰校日にロールプレイを取り入れることで、自らのコミュニケーションの方法を振り返り、コミュニケーション技法の向上を促した。PSW の講義やデイケア実習を取り入れ、精神に障がいをもつ人の社会復帰について考察を深めさせた。国家試験対策として、実習期間中に国家試験問題を数問課題とし、解説をしている。学生からの質問が減少傾向にあり、またカンファレンスでの意見交換が年々難しくなっており、今後の課題と考えている。
授業科目名【看護総合演習】【看護総合実習】 7 人の学生を担当し、精神看護領域の総合演習、総合実習に取り組んだ。今年度は、精神障がい者の訪問看護と就労支援、デイケアを総合実習の施設として展開した。精神障がい者の地域生活の理解が深まったと考える。4 年間の統合の科目となるため、学生の自主性を重視し、学習を進めた。演習では、精神障がい者の在宅看護や就労支援、デイケアに関する文献検索を行い、当番制で文献クリティーク、ディスカッションを行い、思考を深めることに努めた。学生の問題意識に沿ったテーマでレポートを作成し、研究的思考が反映されるように支援した。実習では、主体的な実習が展開できるように、実習計画をグループで考えさせ、施設との交渉も学生のでき得る範囲で進めさせた。
授業科目名【看護研究の基礎】 3 年前期の講義で各論実習を経験していないため、学生は看護研究の必要性や研究課題への気づきが難しいようであった。そのため、看護臨床の場を想定した説明に留意し、看護職に研究的思考が必要であることへの気づきを促した。難しい・苦手というイメージが強いようなので、できるだけ解りやすく平易な言葉を用い授業を進めるように心がけた。最終的に研究計画書の作成ができるように、グループ毎に担当教員を決め、グループワークを密に支援した。もっと研究論文に触れさせる機会を多くつくるため、文献クリティークの時間を増やし、研究テーマの絞り込みに役立てることができた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学会		1984 年 4 月～現在に至る
日本看護科学学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本看護研究学会		2003 年 4 月～現在に至る
日本精神保健福祉学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本医学看護学教育学会		2007 年 10 月～現在に至る
日本精神科看護技術協会		2008 年 4 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2008 年 4 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 1．精神科における認定看護師の資格取得過程と認定後の経験	共	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22	①精神科に勤務する看護師が認定看護師の資格を取得する過程とその後の経験を明らかにした。認定後の経験は、＜看護実践能力の向上＞＜認定看護師としての役割遂行＞＜実践におけるジレンマ＞＜精神科認定看護師への評価の低さ＞の 4 カテゴリーが抽出された。資格取得の過程は、組織的な目標管理の下ではなく、個々の問題意識からキャリアアップを目指すという特徴があり、認定後の活動への影響が考えられた。 ②共著者：前田由紀子、立石和子、谷岸悦子、松林太朗 ③P.11-21、担当部分：データ収集・分析、執筆
2．教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題－地域包括ケアを見据えたカリキュラム－	共	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本看護学科において、2018 年度カリキュラムの検討を行い、その過程についてまとめた。本カリキュラム改正は本学の総合人間科学の改正に連動して実施したものであり、看護学科としては地域包括ケアを見据えてカリキュラム改正に取り組んだ。 ②共著者：石井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 ③P.23-32、担当部分：考察の検討
（翻訳） なし				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 看護実践能力促進のためのキャリアプランニング―認定看護師を目指す動機に焦点をあてて―	共	2017.12	第 37 回日本看護科学学会学術集会（於：仙台）	①認定看護師を取得する過程においてどのような動機づけがあったのかを明らかにした。進学のきっかけは、「人生の過渡期」としての学修ニーズが生じたこと、学意欲が顕在化することで学習への動機づけが強くなったことが挙げられた。一方で、リカレント教育を受ける者に対する「阻害」に直面していた。 自分を高めたいという「成長志向性」で柔軟に対応していた。 ②共同発表者：立石和子、前田由紀子、谷岸悦子、松林太朗 ③第37回日本看護科学学会学術集会抄録集
2. 精神科認定看護師の資格取得過程とワーク・モチベーションの関連	共	2018.3	第 28 回日本医学看護学教育学会学術学会（於：広島）	①精神科看護師が認定看護師の資格を取得する過程とワーク・モチベーションの関連を検討した。資格取得の動機は、組織的な目標管理の下ではなく、個々の問題意識からキャリアアップを目指すという特徴があった。自己実現達成や職場における責任を追及したいという欲求は、マクレランドの達成動機、権力動機のモチベーション理論に通じるものがある。認定後の経験からは、看護実践能力の向上、認定看護師としての役割遂行などから、達成動機、権力動機、また、仲間とのかかわりから親和動機がワーク・モチベーションとして考えられた。 ②共同発表者：前田由紀子、立石和子、谷岸悦子、松林太朗 ③第28回日本医学看護学教育学会学術学会抄録集, P. 37

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

看護実践者のコンピテンシーと大学教員に求められるコンピテンシーの関連性の究明	文部科学省科学研究費補助金	○（立石和子）、前田由紀子、（有澤舞）	4,550,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「ファーストレベル」	講師	2017 年 7 月 29 日
西南女学院大学,看護キャリア支援センター、看護協会認定看護管理者教育課程「セカンドレベル」	講師	2017 年 8 月 4 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
〔大学委員会〕 図書委員会 2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 教育経費予算配分委員 2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 〔学科役割〕 教務委員　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 3 年生アドバイザー　2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 〔模擬授業〕 小倉東高等学校　2017 年 11 月

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　笹月桃子	職名　　准教授	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児緩和ケア 小児の生命倫理・臨床倫理 医療プロフェッショナリズム・医学教育	小児、生命、倫理、緩和ケア、医学教育、プロフェッショナリズム

研　究　課　題
「命に関わる治療方針決定に際しての小児科医の思考過程と葛藤」 「看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナル アイデンティティ形成に関する調査研究」 「小児緩和ケアチームの活動の自己評価および評価ツール開発に関するミックスドメソッド研究」

担　当　授　業　科　目
看護形態機能学Ⅰ、Ⅱ 疾病学各論：「小児科」 遺伝看護学 緩和・終末期看護学：「小児緩和ケア」 子どもの保健（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　看護形態機能学　　】 身体の構造と機能について断片的な個別の事象や名称の暗記科目にならないよう、 生命の神秘、命の尊厳についても意識しながら、相互作用や因果関係、連携など流れを把握できるよう 日常生活や医療現場での話も交え、マクロとミクロの視野にて講義を行った。 復習の促しと知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【　疾病学各論：小児科　】 範囲が膨大なので、疾患名と特徴的な症状の説明を一疾患一枚のスライドにて提示。適宜写真なども 使用して視覚的に捉えやすくなるよう配慮した。対象として、成人との違いも意識させた。 知識の定着のために、毎回講義冒頭に前回講義内容を範囲とした小テストを施行した。
授業科目名【　遺伝看護学　　】 外部講師２名を迎えてのオムニバス講義であった。臨床、実戦からの話が多いことが予想されたため、それらの話が理解できるよう、基礎的な遺伝学の知識の予習と復習ができるよう配慮した。また、倫理的な思考や心理的葛藤を経験する分野であり、負担にならないよう、表出の機会を設けた。
授業科目名【　緩和・終末期看護学：小児緩和ケア　　】 子どもが亡くなる、という事実に向き合う学習体験の峻烈さに配慮し、前向きなケアの在り方を紹介し、さらにこのような分野における看護師としての役割ややりがいについても紹介した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児科学会	日本小児科学会専門医	
日本小児神経学会	第５８回日本小児神経学会学術大会　実践教育セミナー企画責任者 第５９回日本小児神経学会学術大会　実践教育セミナー及びシンポジウム企画責任者	
日本重症心身障害学会		
日本小児血液・ガン学会	緩和ケア等事業委員会委員 「小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC」ファシリテーター	
日本緩和医療学会	将来構想委員会 小児緩和ケア WPG 員	
日本生命倫理学会	第２８回日本生命倫理学会年次大会　プログラム委員	
日本臨床倫理学会	臨床倫理認定士	

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1.　小児神経科医に知ってほしい『小児緩和ケアのエッセンス』 2.　非がん疾患のこどもへの小児緩和ケア～小児神経科医で考えていきたい		2017.6.14 2017.6.16	第 59 回日本小児神経学会学術大会 プレコングレス実践教育セミナー 第 59 回日本小児神経学会学術大会 シンポジウム	

こと～ 「小児分野における実践と課題：小児緩和ケアチームからみた現状と課題」 3. わが国の小児緩和ケア 10年の歩みとこれからの展望～小児領域の非がん疾患と緩和ケア～ 4. 小児科医としてのアイデンティティ形成～葛藤の質的解析を通じての考察～ 5. 小児医療における子どもの権利と意思決定支援 6. 小児倫理コンサルテーションの活動の現状と課題 （講演・講習） 7. 非がん疾患の子どもとその家族の緩和ケア～重い病や障がいとともに生きる子どもとその家族を支えるために私たちにできること～ 8. オピオイドを開始するとき 9. 小児緩和ケア～九州大学病院での取り組み～ 10. 希望を支えるケアプラン 11. 重篤な疾患や障害を抱える子どもの		2017.6.24 2017.8.18 2017.10.7 2017.12.16 2017.7.27 2017.8.5-6 2017.9.20 2017.9.30-10.1	第 25 回日本緩和医療学会学術大会 シンポジウム 第49回日本医学教育学会 ポスター 第23回日本小児麻酔科学会学術大会 専門医共通講習（医療倫理講習） 第23回日本生命倫理学会学術大会 一般演題 宮城県立こども病院地域医療研修会平成２９年度緩和ケアチーム主催第１回勉強会 日本緩和医療学会 PEACE プロジェクト 浜の町病院 第８回緩和ケア研修会 飯塚病院緩和ケア科勉強会 厚労省委託事業 小児ガン診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会（小児科医のための緩和ケア教育プログラム CLIC	

苦痛症状の緩和～その意義・方法に関する最新の知見と課題～ 12. 小児緩和ケアについて考える～重い病や障害と共に生きる子どもとその家族のために私たちにできること～ 13. 重症心疾患の患者と家族に寄り添う 14. 多職種で考える倫理的課題：PICU における終末期の話し合いと看取り 15. 小児緩和ケア 16. 小児緩和ケア～今とこれから～		2917.10.10 2017.11.2 2017.11.18 2017.11.19 2017.12.12 2017.12.21	九州大学小児科クリニカルカンファレンス 高知大学小児科・看護学科合同勉強会 第４回九州小児循環器セミナー 第 25 回小児集中治療ワークショップ 佐賀大学小児科 こどもセンター多科合同セミナー（カンファレンス） 文部科学省大学改革推進等補助金「大学・大学院および付属病院における人材養成機能強化事業」筑波大学「IT を使用した小児周産期の高度医療人材養成」小児外科シリーズ第 29 弾	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1） 共 同 研 究			
研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
科研課題番号 15K08555 重篤な疾患や障害をもつ子どもの延命に関わる治療方針決定について 平成２７年度～２９年度 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)（一般）	平成 27 年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)	笹月桃子 [1] 酒井康成 [1] ○ 戸田尚子 [1] 木澤義之 [2] 奈良間美保 [3] 1:九州大学、２：神戸大学、３：名古屋大学	4,420,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生委員 研究推進委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　髙橋　甲枝	職名　　講師	学位　修士（看護学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
急性期・回復期の技術教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護 家族看護	・　看護技術教育 ・　乳がん患者の就業支援 ・　運動器疾患を持つ患者の QOL ・　三角筋筋肉注射の安全性

研　究　課　題
・　2008 年～2013 年にかけて、大分大学の主任研究者清村教授とともに筋肉内注射の部位の検討を行うために解剖体での検討を行った。さらに 2013 年度は MRI 検査を行い解剖体での結果を検証した。MRI 検査と解剖体との関係について日本看護技術学会誌に論文投稿を行った。 ・　がん患者の就労支援ニードについて文献レビューを行った。2018 年度調査を行う。

担　当　授　業　科　目
リハビリテーション看護学（前期） 救急クリティカルケア看護学（前期） 成人・老年看護学演習（前期） 看護研究の基礎（前期） 看護総合演習（前期） 看護総合実習（前期） 成人急性期看護方法論（後期） 成人・老年看護学実習（後期） 救急・クリティカルケア看護学演習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【リハビリテーション看護学】前期　15 コマ，30 時間（13 コマ，26 時間担当） 　リハビリテーション看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。2 年次までに学んだ疾病論、急性期看護学方法論、慢性期看護学方法論、老年期看護学方法論と密接に関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に上記科目と密接に関連する科目であること、範囲が広いことを伝えている。 　昨年度の課題であった外部講師との講義内容の重なりを精選して、講義のゆとりを確保したことで、学生への講義内容の充実につながった。
授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】前期 15 コマ，30 時間（5 コマ，10 時間担当） 　救急・クリティカルケア看護学は、3 年次前期開講科目である。2 名の教員で担当している。集中ケア看護認定看護師の講義を取り入れ、学生が興味・関心を持てるように工夫を行った。救急・クリティカルケアの場面では、尊厳死、倫理的な葛藤について考える機会が多いため、事例をもとに展開を行い、倫理的要件について考える機会とした。
授業科目名【成人・老年看護学演習】前期　30 コマ，60 時間 　成人・老年看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。看護過程演習は、昨年度までは慢性期事例と急性期事例の 2 例であったが、実習への繋がりを考慮し、本年度は急性期事例（胃がん）、慢性期事例（肝硬変）、老年事例の 3 例を展開した。今年度も看護過程演習の講義・演習の担当を行い、演習計画立案、事例検討および模範解答の作成を領域教員と行い教員の指導に違いがでないように調整を行った。学生から課題が多いという指摘を受けた。しかし、実習では在院日数

の短い患者の看護過程の展開は演習よりも速いことを伝え、そのための基盤づくりであることを最初に強調したい。

看護技術演習は、食品交換表、ADL、ドレーン管理、血糖測定、手術後の観察演習の5項目からなる。手術後の観察演習はシミュレーション演習を行っている。演習回数を2回に増やし、学生がゆとりを持って演習ができるように変更を行った。また、実際臨地で使用している物品等を使用し、模擬患者を用いて臨場感を持たせた演習を行った。4 年生の模擬患者の導入と実際の物品を使用することは学生の興味関心を引き学びに繋がると考えられる。

授業科目名【看護研究の基礎】前期 15 コマ、30 時間

3 名の教員で講義を行い、さらに、教員 5 名で演習を担当し、2 グループの指導を行った。リサーチクエスチョンを見いだすところから、そのための文献検索指導を行い、看護研究計画書作成指導を行った。

授業科目名【看護総合実習】後期　2 週間（臨地 7 日間）

看護総合実習では、7 名の学生を担当した。個々の学生の課題達成のために、消化器外科、循環器外科、手術室、救急外来で実習を行った。事前に実習計画書の指導および技術指導を行った。また、学生が事前に実習指導者と調整を行うなどの経験を通して社会人としての対応も学ぶことができるように病棟との調整を行い、学生にも指導を行った。

学生は積極的に実習を行っており、事前学習を活かして実習に臨むことができていた。

実習終了後、ケーススタディとしてまとめることができた。まとめた論文をもとにパワーポイントにて発表を行い、評価を行うことができていた。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期 15 コマ，30 時間（7 コマ担当）

成人急性期看護方法論は，2 年次開講科目である。2 人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の概論では、手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、婦人科疾患で手術を受ける患者の看護について解説を行い、モデル人形を用いるなど、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。

授業科目名【成人・老年看護学実習】前期 3 週間 2 クール　後期 3 週間 4 クール

成人・老年看護学実習は従来の 2 週間実習に ICU および手術室見学実習を導入し 3 週間実習とした。

病棟実習では、既習の知識が、実際の患者を通して知識が統合されるように関わった。助教の先生の学生への指導が的確に行われるように、看護診断、関連因子、徴候の確認や看護計画の目標、計画、根拠について確認を行い、学生への指導に繋がるように調整を行った。実習中に問題がある学生については、面接を行い、助教の先生方と教育の方向性を統一するように心がけた。また、最終日には個人面接を行い、個人の課題を明確にすることで次の実習に繋げるように努めた。ICU および手術見学実習では、事前課題の提出を求め、学内オリエンテーション時に気管挿管の説明や滅菌ゴム手袋の装着演習を取り入れた。実際の物品をもとに説明を行うことで目的や方法についての理解に努めた。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期　15 コマ 30 時間

3 名の急性期の教員で演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明および拘束性肺疾患の体験と人工呼吸体験を行い、患者の苦痛の理解と看護を深めるように努めた。

授業科目名【看護総合演習】前期　15 コマ 30 時間

看護総合演習では、急性期・回復期 6 名の学生を担当した。演習では学生の実習に対する目的を明確にし、主体的に学ぶように心掛けた。実習前には、自分たちで実習に必要な事前課題を明確にさせ、学生同士でミニ講義を行い、学習の共有を図った。また、実習に必要な基本的な技術（清潔の援助、点滴管理）や消化器病棟、手術室、救急部で必要な技術演習（観察、心電図など）を行い、実習に備えた。さらに、実習後は論文形式でレポート作成の指導を行った。

４年生は就職および国家試験を控えているため、学習支援と就職活動の相談・指導を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員 日本公衆衛生学会会員 日本看護研究学会会員 日本看護科学学会会員 日本看護技術員 日本運動器看護学会員		1987年4月～(現在に至る) 1995年5月～(現在に至る) 2004年7月～(現在に至る) 2004年7月～(現在に至る) 2011年4月～(現在に至る) 2015年2月～(現在に至る)

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
(学術論文)				
(その他) 注射・採血のやってはいけない 静脈注射用抗菌薬の皮内テストにショックを感知するエビデンスはない(解説/特集)	単	2017.4	月刊ナーシング 37（5）p62-p63	① 特集号「まわりはもうこうしている！やってはいけない看護ケア」において、静脈注射用抗菌薬の皮内テストについて、アナフィラキシーショックの予防効果がないこと、ショック時の対応として救急カートの準備だけではなく、心肺蘇生ができる準備の必要性を解説した。 ② p62-p63
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也、近江雅代、境田靖子、手嶋英津子、石井愛子、田中貴絵、浅野嘉延、髙橋甲枝、稲木光晴、日高勝美、辻澤利行	1,139,000円
看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究	西南女学院大学附属保健福祉研究所	○笹月桃子、谷川弘治、通山久仁子、髙橋甲枝、松岡真里（高知大学）、濱田裕子（九州大学）	201,600円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・西南女学院大学は、「食べ物と健康」の立場から、九州歯科大学は、「口腔保健」の視点から、公開講座を開講時に学生ボランティア募集および血圧測定・酸素飽和度測定支援 ・「高校ガイダンス」西南女学院中学校高等学校にて模擬授業の実施		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会:2016.4.1～2017.3.31 国家試験対策委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　一　期　﨑　直　美	職名　　講師	学位　修士（教育学）（熊本大学　2010年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
養護教育	学校保健、養護教諭、専門性、ケア

研　究　課　題
養護教諭による子どもへのケアを研究課題としている。近年、子どもの心身両面の不健康行動やその状況に対応するために、学校におけるケアの必要性が叫ばれてきている。養護教諭の職務の内実はケアというとらえ方もなされている。その養護教諭のケアが子どもとの相互作用によって、どのように実践されているか明らかにしていくことが、養護教諭の専門性を明らかにしていくことにつながる。また、学校における養護教諭と他職種との連携を中心としたケアの過程を検討し、養護教諭による子どもへのケアの方途を探求したいと考える。

担　当　授　業　科　目
学校保健教育法と健康相談活動と養護実習と事前及び事後の指導（4 年生）基礎学習ゼミⅠと公衆衛生看護学概論と看護総合演習と看護総合実習（前期）（看護学科） 学校保健と養護概説と教職実践演習〈養護教諭・高等学校教諭(看護)〉と事前及び事後の指導（3 年生）と基礎学習ゼミⅡ（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【学校保健教育法】 学校保健教育法は、教職課程養護教諭志望学生を対象とする。とくに、4 年次の養護実習で授業を行うための基礎となる授業である。そのため、最終的に履修者が、自己で授業計画を作成し模擬的に授業を行えることが主な目標である。1 時間の授業内容としては、知識理解を深化させるための発表や討論と、実践力が身につくための演習を組み合わせて構成している。事前学習については、学校保健の主な保健教育の内容を中心に、演習課題については、ブレインストーミングやロールプレイ等の学習方法が身につく事例を提示している。また、各学生が実施した模擬授業については、他者評価やビデオ等を活用した振り返りができるよう工夫した。また、授業時間外でも、学習指導案や教材の作成などの個別支援を行っている。
授業科目名【健康相談活動】 健康相談活動は、養護教諭の職務の特質および保健室の機能を活かした健康相談の基礎・基本を身につけること、虐待や不登校をはじめとする課題を抱えている子ども理解を深めること、また、それらの子どもへの対応を含めた実践力を高めていくことが目標となる。1 時間の授業は、健康相談に必要な理論と知識に関する学びと、それをいかした演習を組み合わせて構成している。養護教諭の健康相談は、保健室来室者への対応場面を通して実践されることが多いため、保健室の対応場面を設定したロールプレイを多く取り入れた。また、その後、他者との振り返り時間を設定し、自己の振り返りを深めるよう工夫した。
授業科目名【事前及び事後の指導】（前期）４年生 ４年次の養護実習の事前及び事後の指導は、実習への不安が大きい学生が多いため、事前指導が重要となる。学校での授業を初めて経験するため、授業計画作成や教材づくりを中心に支援する。また、模擬授業の評価表を事前に学生に提示したり、討論に活用したりする。実習後は、学生同士が実習校での学びを共有するために実習発表会を設定する。発表会は、学生主体で進行できるよう、授業時間外でプレゼンテーションの資料作成の支援等を行った。また、発表会には、看護学科教職課程３年生の参加できるよう時間設定を工夫した。

授業科目名【教育実習】

教育実習は、今まで学んできた高等学校教諭一種免許状（看護）の取得のために行う、学校での２週間の実習である。学校の生徒の実態や教員の実際の働き等について学ぶ。事前及び事後の指導の講義とつながるように計画している。また、実習に向けて、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、個別相談を教職課程担当者と実施している。

授業科目名【養護実習】

養護実習は、今まで学んできた養護教諭一種免許状取得のために行う、学校での３週間の実習である。諭の実際の働き等について学ぶ。事前及び事後の指導の講義とつながるように計画している。また、実習に向けて、心身の準備を整えることや、実習目標を明確にし、学生自身が目標に到達できるよう、個別相談を教職課程担当者と実施している。

授業科目名【基礎学習ゼミⅠ】

初年次教育として、大学で学ぶための基礎的スキルの強化とメディアリテラシーの習熟を図る。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、討論の進め方、また、より深い学びを得るための文献検索の他、インターネット等のICT活用法など、大学で主体的に学ぶ技法（何を学ぶか・どう学ぶか）の習得について支援する。加えて、学生生活上の問題・課題に対する学生個々の課題解決能力の向上を目指す。授業は、全体講義とグループ討議を中心に構成され、10人の担当者が約11人の学生を担当する。各学生が毎回提出するレポートにコメントを記入し支援していった。

授業科目名【公衆衛生看護学概論】

公衆衛生看護学概論の中の３コマで、学校保健について授業する。学校保健の概論的な内容と、学校保健を主に担う養護教諭の役割について解説する。また、いじめや不登校や自殺など現代的な子どもの課題や特別支援教育の中の発達障害の子どもをテーマに、グループで討論する場面を設定している。発達障害をイメージしやすくするために、インターネットの映像等を活用した。

授業科目名【学校保健】

学校保健は、養護教諭の職務の基礎基本となる授業である。学生の能動的な学習を促すために、授業の事前学習課題をポートフォリオするように指示した。授業中に課題について学生が発表し、その重要点や学校における実際の活動について教師が解説する。また、学生の学びを深化させるために討論や小テストは繰り返し実施した。学校保健でよく利用するホームページや電子書籍サイトの使用方法について紹介した。そのサイトから、実際に必要な資料を学生がダウンロードし、授業中に使用するよう活用を図った。

授業科目名【養護概説】

養護概説は、学校保健の活動を養護教諭として実践していくために必要な基本的な内容と、その学びを活用していくことが重要になる。学生の能動的な学習を促すために、授業の事前学習課題をポートフォリオするように指示した。課題について学生が発表後、養護教諭の職務の重要な点や学校で養護教諭の具体的な活動について解説した。また、学生は担当する演習課題（健康診断の各検査や児童生徒への保健指導）について養護教諭役でロールプレイした。その自己評価について、他者の評価シートを参考にしながら振り返りを深めるよう促した。また、本学で実施できる環境衛生検査などを取り入れていった。

授業科目名【看護総合演習】

看護総合演習は、看護実践における自己の課題を探求し、看護総合実習に向けて計画を立案し、実習終了後テーマに基づきレポートを作成する。1時間の授業では、事前学習してきた課題内容について討論しながら復習していくように構成した。学校保健の実習を立案していく際は、看護の専門性をいかしながら実習校で保健指導が実践できるよう支援した。実習後は、実習について個人で振り返るだけでなく、グループでの振り返りや実習発表会で各自の学びを共有できるようにした。また、各自の実践した保健指導のレポート作成については授業時間外にも個別支援した。

授業科目名【看護総合実習】

看護総合実習は、看護実習の集大成と位置づけられ、自ら企画した実習計画に基づいて、現場との調整も図りながら主体的に実習を展開する。学校保健の領域は、養護教諭の職務を体験し、担任などの他職種と連携しながら、保健指導を実践させていただく。日々の目標や課題を明らかにし、実習目標に到達できるよう、実習準備を中心に支援した。また、実習中、学生が授業を実践する際は、可能なかぎり参観し、保健指導の内容について改善していくよう支援した。

授業科目名【教職実践演習】（養護教諭）

教職課程担当教員で、これまでの教職課程の学習及び実習を振り返らせ、教員になるための課題を考え解決へと結びつけていく授業である。全員で指導を行う授業と主に担当する授業がある。今年度は、福祉学科の養護教諭志望学生と共に性に関する教育を中心に保健指導を実施した。学生は、現職の養護教諭の性に関する教育を含めて学校内での保健指導の重要性に気づいた感想がみられた。また、学校の中で協働が必要となる（栄養学科）栄養教諭を目指す学生と養護教諭志望学生相互の職務について発表したり討論したりして講義内容を深化させた。学生は、養護教諭と栄養教諭というそれぞれの立場の理解につながり、新しい学びが得られた感想がみられた。また、特別支援学校における養護教諭の実際を学ぶために、特別支援学校へ参観を企画した。始めて訪問する学生がほとんどで、養護教諭の職務の視野を広げる機会となった感想が多かった。

授業科目名【事前及び事後の指導】（後期）３年生

事前及び事後の指導は、4 年次の養護実習および教育実習前指導の一部を講義する。3 年後期の実習前の講義は、人権教育に携わる元学校教諭や学校に勤務する養護教諭による講話を行う。また、実習前オリエンテーションを行ない、実習に向けての意識を高め不安の軽減を図るように支援していく。また、講義外においても、学生が実習を充実できるように面談を実施している。

授業科目名【基礎学習ゼミⅡ】

前期「基礎学習ゼミ Ⅰ」の学びを受けて、さらに主体的・能動的な学習を展開する。前期同様、１名の教員で、約 11 名のゼミグループを形成する。後期はとくにグループワークを中心に、大学で学ぶための基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）の強化・定着を図る。また、授業にディベート・マッチを取り入れることにより、ＰＤＣＡサイクル（計画→実行→評価→改善）の流れを具体的・体験的に学ぶとともに、分析力・批判的思考力・プレゼンテーション力(→論理的思考力・伝達力）の向上を目指す。授業中だけでなく授業時間外でも、ゼミグループの進行を支援した。振り返りシートを活用し、学生と教員の相互で目標の達成状況を把握していった。授業時間外のグループ活動でもメンバー全員が役割を遂行できるように支援した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会		２００８年5月
日本養護教諭教育学会		２００８年9月
日本健康相談活動学会		２００９年1月
日本教育保健学会		２０１３年3月
日本看護協会		２０１５年
日本看護学教育学会		２０１６年4月

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 養護教諭による子どもへのケア―持続に向けて―	単	2018.3	第 15 回日本教育保健学会（於　日本体育大学世田谷キャンパス）	①　養護教諭による子どもへのケアが持続的になされているのか検討していくことを目的に、社会学者の理論について概念を分析し、援用していくための基礎的研究について発表した。 ②　第15回日本教育保健学会講演集　（p30-31）
				教育研究業績　総数　(2018.3.31現在) 著　書 1 （内訳　単0　，共1） 学術論文 4 （内訳　単1　，共3） 翻　訳 0 （内訳　単0　，共0） 学会発表 8 （内訳　単4　，共4）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
養護教諭の専門性に関する理論的研究	西南女学院大学　保健福祉学研究所研究費	○新谷恭明 西丸月美 一期﨑直美	350,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）	
教職課程委員会委員	２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日
キャンパスハラスメント防止・対策委員	２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日
看護学科１・２・４年アドバイザー	２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日
教員免許更新講習　講師	２０１７年8月２２日

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　中原　智美	職名　　講師	学位　　修士（保健学）（山口大学 2011 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学 ， 遺伝看護学	慢性期看護 ， 糖尿病教育・看護 ， 生活習慣病 ， 多因子遺伝 ， 遺伝看護

研　究　課　題
・慢性疾患をもつ患者・家族への看護に関する研究 ・遺伝医療用語に対するイメージ分析 ・2 型糖尿病の遺伝に関する知識が患者の自己管理行動および看護に及ぼす影響についての研究

担　当　授　業　科　目	
緩和・終末期看護学	（看護学科）
成人・老年看護学演習	（看護学科）
成人慢性期看護学実習	（看護学科）2016 年度後期～2017 年度前期
看護研究の基礎	（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　緩和・終末期看護学　】担当：がん看護（5 コマ）、緩和ケア・症状マネジメント（2 コマ）

がん看護に関する知識は 3 年次の実習において必要性が高いため、実習で活用しやすいように根拠に基づいた具体的な看護方法を示しながら講義した。毎回、講義で疑問に思うことや感想を記載してもらい、次の講義時にフィードバックすることでさらに講義への関心を高めるように工夫した。また、イメージしにくいと予測される内容は動画視聴を予習として課し、学生の理解を促進できるように努めた。

授業科目名【　成人・老年看護学演習　】

看護過程演習では、知識をもとに対象（成人慢性期／成人急性期（周手術期）／老年期）にあわせて看護過程を展開する力を身につけ、根拠に基づいた看護、個別性のある看護が導き出せるよう、グループワークの指導に加えて毎回の個別指導を細やかに行い、思考過程のトレーニングとなるように意識的に関わった。さらに、慢性期の事例については 2 回の講義・解説を担当し、慢性期の看護展開を行ううえで重要となる視点と、具体的な解答例を示しながら学生の理解が深まるように工夫した。

技術演習では、慢性期の看護技術である①糖尿病の食事療法、②血糖測定・インスリン自己注射の演習を主担当として行った。②では、手元の細かい操作が多いため、ビデオカメラでリアルタイムに映写しながらデモンストレーションを行うなど、より確実な技術習得を目指して工夫した。①②とも、単に知識と結びつけながら技術を習得することだけにとどまらず、その技術を患者教育に活かすことができるように、患者の思いや生活をイメージしながら、心身の状況に沿った援助が描けるように指導を工夫した。

授業科目名【　成人慢性期看護学実習　】

実習中のカンファレンスや学内日、最終面談において、次の 2 点を意識して直接的・間接的に指導を行った。

①患者を全人的に捉えたアセスメントを行い、治療を継続するためにこれまでのライフスタイルや価値観に基づいた個別性のある看護実践ができるように指導を行った。

②アセスメント、看護診断(PES)、看護の方向性(目標・計画)、看護実践、評価、という看護展開のなかで論理性・整合性のある思考ができるように、全体の流れとそれぞれの位置づけの関係性を意識できるように指導を行った。

特に指導を要す学生に対しては実習前・中・後に個別面談を行い、実習目標が達成できるよう個々の問題に応じた指導・支援を行った。 また、実習施設との指導方針の調整を行い、実習がスムーズに運ぶように働きかけた。
授業科目名【　看護研究の基礎　】 　質的研究の研究方法と、研究計画書の書き方、論文の構成要素、看護研究における倫理的配慮について、実際の論文を示しながら基本的な知識・ルールが理解できるように解説した。看護研究の計画立案にあたっては、動機や目的、意義、方法との一貫性を保ちながら、具体的で実現可能な計画であることの重要性を理解してもらえるように、前半の講義内容をふまえた指導を行った。また、実際の研究準備や調査、執筆、発表準備等にどの程度の時間を要するのかをイメージできるように情報提供しながらサポートした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会 日本糖尿病教育・看護学会 日本遺伝看護学会 日本看護科学学会 日本看護学教育学会		2007 年 4 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2007 年 5 月～現在に至る 2012 年 7 月～現在に至る 2013 年 7 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・オープンキャンパス 2017 模擬講義 （習慣づけよう！健康を守る手洗い）	講師	2017 年 7 月 15 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・実習コーディネーター （実習施設間との連絡・調整，各領域間との連絡調整，実習計画，会議・オリエンテーション日程の調整など） ・看護学科研究推進検討委員 ・点検評価改善会議　大学機関別認証評価部会　担当者

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　財津倫子	職名　　講師	学位　学位　修士（看護学）（広島大学　2005年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・看護教育学→ ・成人看護学→	看護大学生、臨地実習適応感、アタッチメントスタイル 医療システム、退院調整、医療提供システム

研　究　課　題
看護教育学に関して、看護大学生のアタッチメントスタイルと実習の適応感との関連について研究を進めている。看護大学生へ対し、アンケートを実施し、分析した結果をまとめ、投稿中である。 成人看護学（急性期）に関して、入院・治療・退院・外来・地域における医療提供システムについての研究を進める予定である。

担　当　授　業　科　目
救急・クリティカル看護学（前期：看護学科） 救急・クリティカル看護学演習（後期：看護学科） 成人・老年看護学演習（前期：看護学科） 成人急性期看護方法論（後期：看護学科） 成人急性期看護学実習（後期：看護学科） リハビリテーション看護学（前期：看護学科） 看護総合実習・演習（前期：看護学科） 基礎学習ゼミⅠ（前期：看護学科） 基礎学習ゼミⅡ（後期：看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　救急・クリティカル看護学　】3年生前期 1.「クリティカルケア看護の特性」「対象の理解」「生体侵襲・生体反応」「外傷患者」「熱傷患者の救急処置と検査、その初療時の看護」「呼吸・循環障害に対するアセスメントとケア」「IABP/・PCPS施行中の看護」について、解説する際、パワーポイントで図や写真や動画を用いながら、わかりやすいよう工夫した。 2.昨年、レジメの重要なポイントはカッコ抜きとし、記入させることで理解を深めようと工夫したが、学生が記入することに集中し、解説を聞き逃がす姿が多く見受けられたため、今年はカッコ抜きを取りやめた。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。
授業科目名【　救急・クリティカル看護学演習　】4年生後期 1.危機的状況にある患者・家族、医療従事者の倫理的課題についてのグループワーク発表では、学生同士で質疑応答ができるよう促し、理解が深まるよう努めた。 2. 認定看護師における演習においては、実際に参加し、学生が理解不足である箇所は補いながら、ともに実践し、学生の理解が深まるよう努めた。
授業科目名【　成人老年看護過程演習　】3年生前期 ＜講義＞ 1. 2年生前期で看護過程の講義を受けてはいるが、再度復習も兼ねて、看護過程の基礎から解説した。事前学習の方法・病態関連図・フェイスシート・データベースアセスメント・フォーカスアセスメント・全体像・問題リスト・計画立案・評価・評価日評価とは何かを説明し、情報の整理の仕方、分析の仕方、計画立案方法、評価方法についても説明する。 ＜看護過程＞

1. まず自分で事例を読み、考えるよう促す。その後、どの教科書のどのページに参考となることが記述されているかを示し、事例の読み方、考え方を説明し、再度分析するよう指導した。
2. 講義は行なわれたが、看護過程の展開についてグループ全員に対し再度説明を行い、全員が理解できるよう努めた。
3. グループワークでもあり、他者との意見交換の場もつくり、グループワークでの学びも深まるよう指導した。
4. 個人ファイルも作成するため、個々にできていないところの指摘もするが、できているところも伝え、前進できるよう指導を行った。

＜看護技術：JVAC ドレーン管理＞

1. JVAC ドレーンの管理方法・留意点・排液方法の説明を行い、管理方法・排液方法のデモンストレーを実施する。その後、実際に学生に JVAC ドレーンの管理方法・排液方法を実践させる。その際、手技を確認し、出来ているところできていないところを伝え、理解しやすいよう指導した。
2. 擬似血清排液を JVAC に何度も注入し、再度接続することを繰りかえし、学生全員が排液の実践を必ず経験できるようした。

＜看護技術：周手術期の看護＞

1. 術直後の観察の実際をわかりやすくデモンストレーションしながら、観察の根拠やポイントを説明した。
2. 学生が、ベッド毎（4 人）に別れて、技術練習を実施する際、学生のできているところできていないところをタイムリーに伝え、理解しやすいようした。または、実際に実演し、わかりやすいよう配慮した。

授業科目名【　成人急性期看護方法論　　】2 年生後期

1. 消化器、循環器の構造と機能の説明から、その検査・治療と術前術後の看護を、パワーポイントを用いて説明する際、図や画像を用いてわかりやすく解説した。
2. レジメの重要なポイントはカッコ抜きとし、学生が重要な個所を自身で記入できるよう工夫した。

授業科目名【　成人急性期看護学実習　　】3 年生

1. カンファレンスにおけるコメントを伝える際は、まず良い点を伝えてから、注意を要する箇所をコメントするよう心掛けた。先に注意をすると、その後のコメントは頭に入ってこない様子が見受けられ、良い点を伝えてから、重要なポイントを伝えるよう努めた。
2. 実習終了後の面接においては、学生自身に出来たことと出来なかったことを考えさせ（自身で気づかない学生にはこちらからコメントする場合もある）、できなかった項目について、なぜ出来なかったのかを、ともに考えるようしている。そして、今回出来なかったことを、次の実習でできるようになるためには、具体的に何をするべきかを考え、今後の行動目標および課題を明確にしている。

授業科目名【　看護総合実習・演習　　】4 年生

1. 総合演習においては、総合実習前に「12 誘導心電図」「気管挿管の介助」「気管挿管時のチューブ固定」の装着方法とその看護の演習を実施した。学生の事前学習をもとに、当日は物品準備から学生に実施させ、準備から実践そして後片付けまで体験することで、考えて動きそして学びとなる演習を心がけた。保清の技術演習に関しては、患者そして看護師を必ず体験し、学生同士で気づきを相手に伝えることで、お互いの学びとなるよう支援した。
2. 総合実習においては、看護部との調整のみ教員が行い、その後の病棟との調整は学生に任せた。実習計画書の作成・記録用紙の検討を学生自身で進められるよう支援する。
3. 実習終了後のレポート作成においては、構成・参考文献の示し方・図や表の挿入・参考文献リストの記入方法・倫理規定などについて解説し、学生自身でレポートを進められるよう支援する。
4. レポート作成終了後、パワーポイントで（10 分）発表できる資料を作成させ、発表会を開催する（質疑応答 5 分）。相手に分かりやすく伝える資料を作成する難しさ、相手に伝わりやすい話し方、質問の仕方、質問に対する答え方等を学ぶことのできる機会を設けることで、就職してからの研究発表につながるよう支援した。

授業科目名【　基礎学習ゼミⅠ　　】1 年生前期

1. 担当ゼミの学生に対し面接を行い、学生の性格や住居状況などを把握し、履修方法についても確認し、希望に合うようにアドバイスした。
2. 全てが初めての経験である学生が相手であり、ノートの取り方・講義の聞き方・文献の読み方・話し方・考え方・勉強の仕方・レポートの書き方などを少しずつ理解できるよう、学生のポートフォリオの日々の振

り返りシートへ、わかりやすくコメントすることで、振り返りがしやすいように配慮した（学生が質問に対し回答するまで、付箋を付けたままとし、自覚できるようした）。
3. グループワークが主となるが、話し合いに参加できていないメンバーは存在していないか、司会者は進行できているかなど、常に観察を続け、問題がある際には、進行の手助けとなる声掛けをするよう心掛けた。
4. 理解できているように見えても、解散する前に必ず課題の確認を行った。

授業科目名【　基礎学習ゼミⅡ　　】1年生後期
1. 担当ゼミの学生に対し後期が始まってすぐに面接を行い、学生生活で困っている事や不安に思っていることがないかを確認した。
2. 前期に学んだ、基礎的スキル（聞く・読む・書く・話す・考える）が活用できているかを日々のグループワークを観察しながら確認し、また学生のポートフォリオの日々の振り返りシートから確認した。活用できていない学生に対しては、わかりやすくコメントすることで、振り返りがしやすいように配慮した（学生が質問に対し回答するまで、付箋を付けたままとし、自覚できるようした）。
3. ディベートに向けてのグループワークが主となるが、話し合いに参加できていないメンバーは存在していないか、司会者は進行できているかなど、常に観察を続け、問題がある際には、進行の手助けとなる声掛けをするよう心掛けた。
4. 理解できているように見えても、解散する前に必ず課題の確認を行った。
5. グループワークが時間内に終了できない場合は、時間外にグループワークを行っていたが、その際も必ずコメントし、学生の意欲がそがれないよう努めた。

授業科目名【　リハビリテーション看護学　】3年生前期
1. 「心臓に障害のある患者のリハビリテーション」「呼吸リハビリテーション」について解説する。重要なポイントは、パワーポイントのスライド上で赤字反転とし、学生がマーカーを引きながら、十分に解説も聞けるよう配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護管理学会		2004年12月～現在に至る
日本運動器学会（日本整形外科看護研究会より改名）	査読委員(2009年4月～現在に至る)	2005年6月～現在に至る
日本看護科学学会		2007年3月～現在に至る
日本看護学教育学会会員		2015年12月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本運動器看護学会	日本運動器看護学会査読委員	2009年４月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
4年生ゼミアドバイザー(2016年4月1日～2017年3月31日) 1. 2016年3月には1年間の年間計画を立て、4月に担当ゼミメンバーへ配布する。 2. 4月の上旬に個人カードの記載事項の確認および面接を実施する。 3. 就職活動中は、学生の履歴書の確認、推薦書の作成を行った。 4. 看護師国家試験の模試後は面接を行い、勉強方法について確認する。過去の問題集を購入していない学生には購入させ、どのように解いていくかは学生に計画を立てさせ、その計画の確認を行った。 5. 1月に入り、模試後の結果で強化学習メンバーにゼミメンバーが3名入っていたため、学生が毎日大学に来て勉強することを目的とし、問題を作成し、毎朝10時に必修問題10問のテストを実施した。 1・2年生ゼミアドバイザー(2016年4月1日～2017年3月31日) 1. 前期及び後期に1回ずつ全メンバーに面接を実施。 2. 保護者懇談会では、1年生2年生の保護者の方々が情報交換できる場を設けた。その後、希望する保護者の方と面談し、質問に答えていった。 3. 休学中の学生に対し、個々の学生と約束した日付にメール送信あるいは電話連絡を行い、近況の確認を行った。メールでの質問に対しては、その都度わかりやすく返答した。 学生募集委員(2017年4月1日～2018年3月31日) 1. 2017年4月に第1回学生募集員会が開催され、入試説明会およびオープンキャンパスについての詳細が説明され、入試説明会担当の決定。 2. 入試説明会用のパワーポイントの作成。入試説明会ゲストスピーカー選出。 3. オープンキャンパスの模擬授業担当者の選出から決定。 4. オープンキャンパスの7月8月9月分のチラシを作成。 5. 5月23日に第2回学生募集委員会が開催され、入試説明会を想定したプレゼンテーションが実施された。 6. 本学で行われる入試説明会にゲストスピーカーを選出し、さらに6月9日入試説明会への参加（福岡会場）し

、ゲストスピーカーとともに説明した。
7. 入試課からの高校訪問の依頼があれば、担当教員を選出し依頼。
8. 9月9日小倉商業高等学校で模擬授業（45分×2回）にて高校訪問した。
9. 在校生による高校訪問を計画し、実施した。
・対象校として、必ず毎年学生が入学している指定校推薦の高校、隔年毎しか学生が入学していない指定校推薦高校、指定校推薦校ではないが必ず学生が入学している高校、加えて山口・大分の高校で、隔年毎にしか指定校推薦の学生が入学していない高校30校をピックアップした。
・対象校30校出身の在校生の中で、責任感がありしっかりしている学生を選出し、高校訪問の依頼をした。高校訪問の内容としては、お礼に加えて西南女学院とはどのような大学であるかを伝えてもらうため、現在の大学生活について話をしてきてほしいことを伝えた。持参するものとしては、手土産として、浅野先生が準備して下さったお菓子と西南女学院のオープンキャンパスのご案内パンフレットとし、学生への説明会（依頼）の際に配布した。
・高校訪問してくれる学生へは、2000円分の図書カードをお礼として渡した。
10. 7月15日（土）、8月20日（日）、9月10日（日）に開催された、オープンキャンパスの運営・進行を行った。
11. 北九州ゆめみらいワークの担当者選出。8月25日（金）の開催当日には、写真撮影を実施した。7月17日には大学のリアルに出席し、10時から16時まで進路相談やガイダンスを行った。
12. 前年度作成した4年間分のデータにさらに2年間分のデータを追加する形で、卒業生の出身校および卒業時のGPAの整理をする。

実習コーディネーター(2017年10月1日～2018年3月31日）前任者が産休に入り、後を引き継ぐ形で就任する。
1. 指導者会議の日程調整から、メンバー確認、レジメ作成後のメール送信を行った。
2. 2018年度各病院の実習配置を最終確認した。

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　吉原悦子	職名　　講師	学位　修士（看護学）大分大学 2007 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
老年看護学	排便ケア 認知症ケア 認知症高齢者グループホーム

研　究　課　題
・認知症高齢者グループホームにおける排便ケア ・地域貢献活動に参加した学生の学び

担　当　授　業　科　目
（前期） ・基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ ・成人・老年看護過程演習 ・在宅看護学 ・在宅看護学演習 ・看護総合演習 ・看護総合実習 （後期） ・老年看護方法論 ・老年看護学実習Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎学習ゼミ】 基礎ゼミⅠでは、大学に入学した直後であるため不安要素をできるだけ取り除くようにかかわりをもった。また、大学で自ら学ぶということ前提に調べ学習を行い、レポート作成を行えるように指導した。基礎ゼミⅡではディベートを行った。グループ学習であるためグループダイナミクスが働くように指導していった。
授業科目名【在宅看護学】２回を担当した。病院内の連携や多職種との連携についてはイメージができる学生がいるが、地域においてフォーマル、インフォーマルなサービスを組み合わせながら在宅で生活を行うことをできるだけ具体的にイメージできるように例を用いながら講義を行った。
授業科目名【在宅看護学演習】３回を担当した。在宅看護学を踏まえながら、事例に基づいてサービスを図式化していった。その中でも斬新な切り口でまとめていたり、さまざまなサービスを丁寧に洗い出し図にまとめたグループについては資料として配布しほかの学生の参考になるようにした。
授業科目名【老年看護学方法論】３回を担当した。本科目は直接実習において必要となるため、どんな場面で知識を使うのか、患者さんを観察する際にはどのように観察するのかを実習場面を例にだし概説した。また、患者さんとのかかわりなど学生がロールプレイを行い、実際のかかわりの参考になるように心がけた。
授業科目名【成人・老年看護過程演習】2 年次の看護過程論を基盤とし、看護過程の演習を進めた。胃がん患者の事例を基本とし、慢性期、老年期と看護過程を進めていった。急性期の事例では、術前と術後の患者の状況が変化を学生が理解できるように行っていった。グループ全体に投げかけながらグループで共通理解が進むことを促した。他の教員と事前に打ち合わせを行い、進行度や学生が困難に感じていることをその都度確認し、共通して指導を行った。

授業科目名【老年看護学実習Ⅱ】 施設実習で１週間と短いため、その中でいかに療養者の全体像を捉えられるのかを意識して指導した。特に学生と療養者とのかかわりの場面を逃さずに確認し、その中から何がつかめたのかを確認するように心がけた。
授業科目名【看護総合演習・実習】 看護総合演習については、関心のある分野の論文を読み、ゼミのメンバーと意見交換を行った。実習につながる演習であるため主体的に学ぶ方向に助言を行った。 看護総合実習については、学生自ら取り組む実習として演習に引き続き実習内容を確認し、臨床側と調整を行った。また、実習終了後は個別にレポート指導を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学教育学会		2001.4～現在に至る
日本老年看護学会		2003.4～現在に至る
日本老年社会科学会		2003.4～現在に至る
日本認知症ケア学会		2006.4～現在に至る
日本看護科学学会		2008.6～現在に至る
公益社団法人「認知症の人と家族の会」		2016.5～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	平成 29 年度西南女学院大学共同研究費	○谷川弘治 今村浩司 笹月桃子 吉原悦子 樋口真己 （石丸美奈子）	1.761,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策委員（2017.4～2018.3） 2 年生アドバイザー国家試験対策委員（2017.4～2018.3）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名：隅田　由加里	職名：講師	学位：修士（看護学）（産業医科大学　2017年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
基礎看護学	シミュレーション教育、自己学習能力、主体性

研　究　課　題
「技術演習」の各科目について、「シミュレーション教育」を計画的に導入し、学生の意欲・態度・行動変容を客観的に評価し、またシミュレーション教育との関連性を考察する。

担　当　授　業　科　目
診療関連技術論（前期）（看護学科） 生活援助技術論（後期）（看護学科） 看護基礎マネジメント論（後期）（看護学科） 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　診療関連技術論　】 ・講義時間を必要最小限とし、演習の時間を増やし、シミュレーション機器を使用し実践の機会を増やす。 ・臨床現場ではどのような患者に技術を提供するのかなどの説明を加える。 ・具体的なインシデント事例を用いて説明し、医療安全の重要性を説明する。 ・できたことは褒める。できていない箇所は具体的に改善方法を支援する。
授業科目名【　生活援助技術論　】 ・講義時間を必要最小限とし、演習の時間を増やし、シミュレーション機器を使用し実践の機会を増やす。 ・具体的な患者事例を提示し、グループで事例に合った適正なケアを考える機会を増やす。 ・演習の最後に他者の前で、技術を披露する場面を設け、学生同士の意見交換の機会を持った。 ・できたことは褒める。できていない箇所は具体的に改善方法を支援する。 ・授業の最後に、１年間で学んだ複数の知識（形態機能学、ヘルスアセスメント、生活援助論）を活用して、他部門の教職員の協力を得て、総合演習を行った。
授業科目名【　看護基礎マネジメント論　】 ・医療安全の時間に関しては、医療場面のイラストを用いて、KYT（危険予知トレーニング）を行った。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】 ・実習前にコミュニケーション演習を行った。 ・生活援助技術論の最後の時間を活用し、実習で担当するような患者事例を４つ作成し、実習の課題である「既習の知識を活用し、患者のニーズを考え、必要な看護実践を導く」を総合演習として行い実習に臨んだ。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護技術学会 日本看護学教育学会 日本看護管理学会 日本看護科学学会		2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ・２年生アドバイザー 認看管教過程教運営委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　鹿毛　美香	職名　　助教	学位　修士（医科学）（久留米大学 2008.3 月）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
看護学　産業保健学　労働衛生学　環境医学 公衆衛生学　公衆衛生看護学	労働衛生　ワークストレス　雇用不安　疲労蓄積 大学生の健康　現任教育　住民の健康　保健行動

研　究　課　題
・労働者の雇用不安やワークストレスを中心にして労働と健康の関連について考察する. ・産業保健師の活動実態の把握や産業保健活動展開に必要な能力等を含め現任教育のあり方や学士レベルで備えるべき能力等を考察する. ・行政における母子保健および介護予防について施策の導入も含め考察する.

担　当　授　業　科　目	
看護技術論（前期；看護学科）， ヘルスアセスメント（前期・後期；看護学科）， 基礎看護学実習Ⅰ（後期；看護学科）， 公衆衛生看護学概論（前期；看護学科）， 在宅看護学演習（前期；看護学科）， 公衆衛生看護技術演習（前期；看護学科）， 公衆衛生看護学実習（前期・後期；看護学科），	生活援助技術論（前期；看護学科）， 診療関連技術論（前期；看護学科）， 基礎看護学実習Ⅱ（前期；看護学科）， 疫学演習（後期；看護学科）， 在宅看護学実習（前期・後期；看護学科）， 地区活動論演習（前期；看護学科），

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　看護技術論，生活援助技術論，ヘルスアセスメント，診療関連技術（演習）　】

１．演習では，目的・目標を学生に適宜に明示し，学生が学習の方向性を見失わないように努めた.

２．看護技術の習得の際には，テクニックだけでなく，その行為の根拠を明確にするとともに行為を提供する相手は「人」であることを意識づけた．また，実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し演習モデルとするなど看護実践能力が身につくよう努めた.

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ　】

１．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

２．実習前に学生の講義・演習内容を確認し，学生の準備状況を理解するよう努め，実習時は，コミュニケーションを通じて患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.

３．患者のニーズに応じた日常生活援助ができるよう，看護形態機能学とヘルスアセスメントなどの基礎看護の講義内容を考慮した内容の発問をし，学生のアセスメントの視点を広げ，学習効果を上げるよう努めた.

４．学生がコミュニケーションを通じて患者のニーズを見出しやすいよう，また臨床指導者と学習状況を共有しやすいよう，ワークシートとは別にペーパーに患者の全体像を絵で描かせるなど視覚的教材を準備した.

授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】

１．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.

２．実習前に学生の講義・演習内容を確認し，学生の準備状況を理解するよう努め，実習時は，基礎看護学実

習Ｉで獲得したコミュニケーション技術をどのように生かしていくのかを踏まえ，患者のニーズを見出せるように発問内容や想起させる講義内容を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.
３．患者のニーズに応じた日常生活援助ができるように，基礎看護関連および疾病総論・各論の講義内容を考慮した内容の発問をし，学生のアセスメントの視点を広げ，学習効果を上げるよう努めた.

授業科目名【　公衆衛生看護学概論　】
１．産業保健および産業看護について，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，図式や画像を用い学生が学習内容を視覚的に捉えることができるようにした．また，産業看護の活動内容をより実践的に捉えられるようにペーパーシュミレーションを取り入れた.
２．産業保健師の活動の一部を実践させることで，ペーパーシュミレーションで学んだ保健師として重要な視点や思考の仕方を定着させるよう試みた．例えば，校内の職場巡視を実施し，3 管理の視点で改善提案書を記録するなど.

授業科目名【　疫学演習　】
１．保健師（主に行政・産業）が実践で活用頻度が高い調査方法や分析方法，また，国家試験の出題傾向および社会動向を踏まえ，ペーパーシュミレーションを取り入れた.
２．協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるように以下のことを試みた．協同学習が未体験の学生を考慮し，まず Think-Pair-Share を用い，グループの構成員を学習内容の難易度に合わせ変更した.
３．授業資料の１枚目には，毎回，新人保健師の疑問と先輩保健師の応答をイラスト形式で載せ，今から行う学習が実際の現場でどのような疑問の解決へとつながるのかイメージできるよう試みた.
４．今年度より，保健師課程以外の学生も受講できるようになったため，看護師として働く中で今回の演習内容が役立つのか等も提示しながら，現場との連動を行った.

授業科目名【　在宅看護学演習　】
１．科目責任者と共に，講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ，演習組み立てを行った．演習組み立て時には，演習目標の設定，時間数の配分，協同学習の活用など検討した.
２．実習や看護現場で多く観られる事例等を考慮し，ペーパーペイシェントとするなど看護実践能力が身につくよう努めた．演習の際は，何に向かって学習していくのか，目的・目標を学生に適宜に明示し，学生が学習の方向性を見失わないように努めた.
３．在宅看護の現場では，治療を優先する病棟看護とは異なり必要最低限の情報しかカルテに記載されていない．そのため，療養者の全体像をとらえるために，どのような患者情報が必要なのか，学生自身が疑問に思い，知りたいと思う情報をどのようにして現場で収集するのかを経験させるために，カード形式で教員とやり取りをする方法を試みた．その情報の必要性を明確にさせ思考できるよう発問内容や想起させる場面を選択し，個別の学習状況に応じた支援に努めた.

授業科目名【　在宅看護学実習　】
１．病棟実習とは違い，療養者の生活の場に看護者が伺うということがどのような意味を持つのか，また生活経験が少ない学生に対し，生活に必要なしきたりなども含め学生に対する実習前の指導に時間をかけた.
２．実習指導者と密にコンタクトをとり，学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた.
３．学生の実習目標の到達進度に合わせ，発問内容や提示文献を選択し，個別の学習効果を上げる工夫をした.
４．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し，実習場面を再構成しやすいようにし，学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた.

５．抽象的な事柄を説明する際は，学生自身に身近な具体例を加え，実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し，学生がイメージしやすいように心がけた.
６．実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を実習中も時間をとり，在宅看護学領域の教員間で検討を重ね，指導の方向性を調整した.

授業科目名【　公衆衛生看護技術演習　】

1．科目責任者と共に，講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ，演習組み立てを行った．演習組み立て時には，演習目標の設定，時間数の配分，協同学習の活用など検討した．
2．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ，学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし，共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで，実習へ繋げるように試みた．
3．家庭訪問技術に関しては，実習で必ず経験する新生児～4 ヵ月児までの母子への訪問を題材とし，電話によるアポイントから次回の訪問の予約まで，一連の流れをロールプレイ形式で行うことで，この科目の学習と実習との連動を図った．
4．母子以外の家庭訪問および保健指導事例に関しては，現場で想定される多問題ケースや困難ケースを題材とし，解決方法・支援方法が一つではないことを意識づけさせるよう試みた．これは，最近の学生が正誤にこだわるところを打破したいための策である．
5．健康教育（集団）では，地区活動論演習と連動させ，学生が実習を行う地域の健康課題から健康教育のテーマを決めるなど，何のために健康教育をするのかを意識づけさせ，教育スキルだけを学習するのではなく，保健活動の一部であることを踏まえた教育ができるよう演習組み立てを行った．

授業科目名【　地区活動論演習　】

1．科目責任者と共に、講義・演習の連動性や学生の学習到達状況を踏まえ、演習組み立てを行った。演習組み立て時には、演習目標の設定、時間数の配分、協同学習の活用など検討した。
2．地域看護計画演習時に協同学習を取り入れ、学生が保健師に求められる能力の一つである「協働する力」を獲得できるようにし、共同学習のメンバーを実習グループメンバーにすることで、実習へ繋げるように試みた。
3．保健師に必要な情報収集能力を獲得できるよう演習に必要な情報については、学生が実習を行う地域を題材とし、この科目の学習と実習が連動するよう試みた。

授業科目名【　公衆衛生看護学実習　】

1．実習指導者と密にコンタクトをとり、学生の学習到達状況や今後の実習指導の方向性を検討・統一する等学生が実習目標に到達できるよう環境調整に努めた。
2．学生の実習目標の到達進度に合わせ、発問内容や提示文献を選択し、個別の学習効果を上げる工夫をした。
3．学生の捉える実習場面（看護現象）を共有し、実習場面を再構成しやすいようにし、学生がその実習場面から導き出した疑問･学びをさらに専門職としての視点や広がりをつけ実習目標に到達できるよう努めた。
4．抽象的な事柄を説明する際は、学生自身に身近な具体例を加え、実習指導者自ら考えや体験を語っていただけるよう調整し、学生がイメージしやすいように心がけた。
5．公衆衛生看護学実習の実習目標達成および学生の実習意欲向上を目指した教育的支援のあり方を教員・助教間で検討した。その結果、昨年度試みた実習スケジュールおよび行動目標表と実習記録用紙を継続活用した。
6．講義時に作成した教科書・ワークシートを実習時には学生に携帯させ、知識の振り返り先を明確にした。

授業科目名【　看護総合演習・実習（産業看護）　】

1．すべての看護各論実習を修了した学生が，自身の疑問や課題を明確にし，実習と連動できるように指導した．そのために，演習では，産業看護の理解を深めるために文献検討を行いレポートとしてまとめ，それと併せて実習で必要となる知識技術を振り返る機会を設けた．また，産業看護が提供される場面で初めて学生は実習するため，個々の学びを補うことを目的に，演習に関しては 2 グループ（3～4 名/グループ）での集団学習とした．
2．実習終了後は，集団学習ではなく，各自の学びを基に作成していた事前レポートを追加修正し，課題解決に向けるようにした．また，ゼミの中で発表し、他学生と共有化することで思考の広がりを求めた．
3．看護総合実習は、最終学年での看護を統合する実習であるため，学生自身が臨地指導者と実習内容を検討し，実習目標を達成できるように記録用紙や評価指標も学生主体で検討できるように，学生達の思考に合わせて提示する資料や文献等を選んだ．

授業科目名【　その他　】
１．自分自身が看護職として，学生のロールモデルになるよう自己研鑽に努めた.

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本産業衛生学会	代議員（2008 年 11 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会産業看護部会		2003 年 4 月～現在に至る
日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会	役員幹事：広報担当（2006 年 4 月～）	2003 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2008 年 4 月～現在に至る
日本産業保健師会		2013 年 1 月～現在に至る
日本産業看護学会		2014 年 4 月～現在に至る
日本公衆衛生看護学会		2015 年 5 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 1．保健師課程を選択する女子大学生の職業選択に関する認識と卒業生のキャリア支援	共著	2018. 3	西南女学院大学紀要 Vol.22,1-10	①布花原明子，鹿毛美香，伊藤直子，亟々美香，平島美也子 ②女子大学における保健師課程学生のキャリア支援への示唆を得るために、学生と卒業生保健師との交流会を開催し、学生の職業選択に関する認識と、卒業生保健師から得られた支援内容を分析した。学生の職業に関する認識では【保健師という職業の選択】【人生と職業キャリアの模索】【保健師になるための備え】が抽出された。卒業生の≪情報提供≫、≪モデルの提示≫は、学生がライフキャリアを捉えて職業選択するプロセスの一助として、≪仲間としての存在≫、≪保健指導技術の提供≫は、学生の職業選択に関する認識全体を促したと考えられた。

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
循環器疾患をもつ高齢療養者の急性期病院と在宅医療における継続看護のあり方	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○石井美紀代 鹿毛美香 水原美地 髙木あゆみ	313,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
◎（公社）日本産業衛生学会九州地方会産業看護部会 ・九州地方にて就業する産業看護職に対する研究会および研修会を開催する等、現任教育に努める。また、役員として現場の看護職からの相談等を受ける。 ・産業看護部会本部（全国）と協働し、産業看護職に関係する法改正等がある場合は、現場より意見を集約する。	役員幹事	2006年4月～現在至る

◎（一社）日本私立看護系大学協会 ・国際交流委員会として、グローバル社会のニーズに対応するための看護教育のあり方などの情報発信の企画から評価までを実施する。	広報委員 ）	2016 年 5 月～現在に至る
◎福岡県医師会　外国人看護師候補者資格修得支援事業 ・在宅看護学、社会保障について講義する。	講師	インドネシア現地： 2017 年 12 月（6 日間） 国内： 2017 年 12 月（1 日）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）	
・実習コーディネーター	2016 年 4 月～現在に至る
・生協理事	2012 年 5 月～現在に至る

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　丸山　泰子	職名　　助教	学位　修士(保健看護学)　川崎医療福祉大学　2011 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
老年看護学	認知症ケア 家族介護

研　　究　　課　　題
・認知症高齢者の生活機能の維持･改善に効果的なケアのあり方を探求する。 ・家族介護者の介護負担に対する支援のあり方について探求する。

担　　当　　授　　業　　科　　目
成人･老年看護学演習（前期） 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ（前期・後期） 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ（前期・後期） 基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ（前期・後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　成人･老年看護学演習　】（前期）

1.　看護過程（急性期、慢性期、老年）

　２人の教員で３グループ（17 名）を担当した。２年次の看護過程論で学んだことを想起させ、それを土台に疾患を踏まえたアセスメントが学びとして上乗せされるよう意識して関わった。急性期、慢性期、老年期と事例が変わるごとに患者の病期を押さえ、回復の経過を踏まえた展開となるよう指導に努めた。特にアセスメントでは、各パターンで考えるべき視点、疾患のメカニズムを踏まえた分析がなされているかに重点を置き、助言を行った。教員間で学生の理解習得状況を共有し合いながら、状況に応じた指導になりように心がけた。

2.　技術演習（ADL 援助）

　事例を読み込み、アセスメントを踏まえての援助実践になっているか確認をしながら指導を行った。また、患者に対し精神的配慮はできているか、安全・安楽・自立の原則に則って行えているかなど、途中問いかけを行い、学生が自らのケアを振り返り、行動を修正しながら演習できるように配慮した。

授業科目名【　老年看護学実習Ⅰ　】（前期・後期）

　老年看護学実習Ⅰでは、回復期にある高齢者に対する看護を学ぶ。老年期にある患者のこれまでの人生、生活に目を向け、生活機能を中心に患者の全体像を捉えることができることを重要課題と位置づけ、臨地指導を行った。世代、立場の違いから学生は老年期にある高齢者の思い、悩みに気づき辛い。身体と心の課題に学生が自ら気づけるように問いかけ、考えたことがアセスメントにつながるよう指導に心がけた。

　また、チーム医療、協働に関する理解が深まるよう臨床指導者と調整をはかり、多職種でのケアカンファレンスなど多職種連携に関する学びの場を設けた。臨床指導者とは日々学生の実習状況を確認し合い、指導の方向性の統一に心がけた。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ　】（前期・後期）

1.　基礎看護学実習Ⅰ（後期）

　１年生にとっては初めて受け持ち患者を担当しての本格的な臨床実習である。患者さんとの円滑なコミュニケーション、良好な関係性の構築を目標に、まずはその関わりが学生主体になっていないか、学生が自ら振り返りが出来るよう問いかけを行いながら関わるように努めた。プロセスレコードの振り返りで

は、自分の関わりが患者に与える影響や自分の傾向・課題に自ら気づいていけるよう問いかけ、学生の気づきをもとに、共に検討していく姿勢での指導を心がけた。

2. 基礎看護学実習Ⅱ（前期）

2 年生を対象とし、臨床の場で初めて看護過程を展開し、個別性を踏まえた生活援助技術の実践を目指す実習である。患者との関わりから学生自身が知り得た情報が分析に生かされているか、情報収集から看護計画立案・実施まで筋を持ち、看護過程の展開ができているかを確認し、指導を行った。また、既習の知識を随時振り返り、その知識が分析や実践に活用されているか確認し、不足部分は補いながら実習が進むよう関わった。臨床指導者へは学生の進行状況を説明し、臨地指導が円滑に進むよう意識した。

授業科目名【　基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ　】（前期・後期）

基礎学習ゼミⅠ・Ⅱは、大学で学ぶための基本的スキル（聞く･読む･書く･話す･考える）の強化、定着とメディアリテラシーの習熟を図ることを目的に、前期・後期で連動して展開される。教員１名に対して学生約 10 名のゼミグループを形成し、グループワークを前提に授業が進行される。

1. 基礎学習ゼミⅠ：論証型レポートの作成の基本を習得することを学習目標とし、授業展開される。自分たちの主張を根拠づけるための情報収集や文章構成など各ステップにおいて学生個々の習得状況に差が生じる。理解の状況に応じ個別指導を行い、その後のグループワークが効果的なものとなるよう努めた。最終の個人レポートでは、自分の意見が主観ではなく、確かな根拠に則ったものであるか確認助言をした。
2. 基礎学習ゼミⅡ：前期で学んだ基本的スキルを実行し、さらに主体的･能動的学習を展開することを目的にディベートを行う。この授業企画を担当した。ディベートでは他者に根拠ある意見をわかりやすく熱意をもって伝える力が求められる。進行に応じグループ内での共通理解が求められるため、授業時間内のみでなく、時間外での時間を学生と調整した上で助言を行いメンバー全員が自分の役割を遂行できるように指導に努めた。授業企画では、担当教員の指導統一ため授業ごとの進行を検討し、連絡調整に努めた。
3. アドバイザー機能：1 年次は精神的に不安定となる学生もおり、その学生との面談や成績不良者との個別指導等も行った。学生の状況に関しては、授業、実習など学生に関係する教員へ必要な情報は伝え、学生の学習環境の整備を意識して対応した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本在宅ケア学会		2008 年 7 月～現在に至る
日本看護研究学会		2010 年 3 月～現在に至る
日本老年看護学会		2010 年 5 月～現在に至る
日本看護科学学会		2011 年 6 月～現在に至る
日本看護学教育学会		2012 年 5 月～現在に至る
日本認知症ケア学会		2012 年 5 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 家族介護者が介護困難に感じる要因と看護師への役割期待に関する研究 －家族介護者への質問紙調査を通して－	共	2017年11月4日(土)	日本看護研究学会 第22回 九州･沖縄地方会学術集会 （於：佐賀大学医学部看護学科棟）	① 家族介護者が介護を行う上で感じる不安や困難事項を抽出し、存在する看護ニーズ、看護師に期待される役割に関し示唆を得ることを目的とし、家族介護者33名を対象に質問紙調査を実施した。内容分析の結果、家族介護者は健康面、精神的負担に関する不安を多く持ち得ており、それを看護師に向け発信するという意識が低い傾向にあることがうかがえた。看護師は、家族介護者は表面化しづらい課題を持っていることを認識する必要があることを考察した。 ② 共同研究者：丸山泰子、櫟直美、江上史子 ③ 日本看護研究学会 第22回九州･沖縄地方会学術集会抄録集 p67

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
認知症高齢者の生活機能の維持･改善に関連する支援に関する研究	西南女学院大学保健福祉学部附属研究所	○丸山 泰子 （櫟 直美）	￥185,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特記事項なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
・老いを支える北九州家族の会		2011.5 ～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・１、2 年生アドバイザー　2017 年 4 月～2018 年 3 月 ・看護学科研究推進担当　2017 年 4 月～現在に至る

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　井手　裕子	職名　助　教	学位　修士(看護学)　(大分大学　2006年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学	慢性期看護学 看護教育

研　究　課　題
成人看護学の教育活動に関して、学生が慢性期にある患者および家族の特徴とその看護を理解するために、学内での演習とそれに連動する臨地実習での指導の在り方について考察する。また、学生に実習で受け持たれた慢性疾患患者と学生との人間関係構築に影響する因子について、受け持ち患者の立場からの調査をして、今後の実習指導の示唆を得る。

担　当　授　業　科　目
・基礎看護学実習Ⅰ（後期） ・基礎看護学実習Ⅱ（前期） ・基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ（前期・後期） ・成人・老年看護学演習（前期） ・成人慢性期看護学実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ】 ・1年生を対象とした実習Ⅰにおいては、看護職という専門職の立場で患者とのコミュニケーションとることへの意識づけに主眼を置き、学生への指導を行った。また、今回指導を実施した実習施設が今年度から新たに実習を開始した施設であったため、本学の実習のねらいや学生の実情など、病棟師長や指導者との話し合いを密に行った。 ・２年生を対象とした実習Ⅱにおいては、実習導入時に、個々の学生の基礎実習Ⅰ（主として、患者とのコミュニケーションに主眼をおいた実習）での課題と、それらを達成するためにはどのような実践がもとめられるかを確認し実習に臨ませた。また初めて看護過程の展開を実施する実習であり、看護者として患者を観察すること、療養生活上の看護上の問題点（気がかり）を解決するための看護実践について、基本的知識や技術の定着化を基盤におきながら個別的な援助への工夫にも、目を向けられるよう指導した。
授業科目名【基礎学習ゼミⅠ・Ⅱ】 ・今年度は昨年に引き続き２年目の担当であり、昨年の課題達成にむけて取り組んだ。 ・1年次の入学直後からの関わりであり、まずは大学生活に慣れるために定期的な面接以外にも何か不安なことがあれば相談できるように、学生とのコミュニケーションを密にとるように心掛けた。11名の担当ゼミ生の中には個性が強い学生もおり、必要時、学生間での関係性の構築にも助言を行った。 ・Ⅰにおいては最終目的である、1つのテーマについてのレポート作成に向けて、毎回のゼミの振り返りにおいて、単なる事象の記述にとどまらず、必ず自分の考えを明記するよう繰り返し指導した。ディスカッションの場面において積極的な学生と消極的な学生とがおり、看護職におけるディスカッションの意義などについても折に触れて指導をした。 ・Ⅱにおいてはディベートの実践にむけて指導を行った。後期は３年次の実習指導のため講義時間以外はほぼ学外に出ており不在なことが多かった。そのため、講義時間の際のグループワーク時には、進捗状況を確認しながら、学習目標からそれていないかという視点で指導を行った。毎回の講義の振り返りシートでは、具体的に記述することが困難な学生が多く、それについても、毎回添削時や口頭で指導を行った。

授業科目名【成人・老年看護学演習】

・紙上患者における看護過程展開において、患者の情報から専門的な知識を用いて科学的に分析するという基本的な指導は勿論のことであるが、各学年ごとの学びは連動していることを意識づけるためにも、2 年次の看護過程論での学びも想起させた。情報を分析する段階では、急性期および慢性期という健康レベルにおける看護の特徴をいかに伝えられるかを念頭におきながら指導を行った。看護の方向性を考える際には、急性期の特徴である術後患者の合併症の予防と早期の回復を目指す視点と、慢性期の特徴である疾患と共に共存しながらＱＯＬを維持する視点を比較しながら口頭で説明した。

・技術演習

血糖測定・インスリン自己注射の技術では、看護技術の正確な習得のみならず、看護者として慢性疾患患者の自己管理へむけての指導をいかに実施していくかについて、実際での臨床での様子などを口頭で説明しイメージさせた。

糖尿病食事指導の演習においては、単に食品交換表の使用方法ということだけでなく、その患者の個別性に合わせた指導の方向性を考えることの重要性を説いた。

術直後の援助の演習においては、単に身体的な援助にとどまらず、精神面での看護の必要性も口頭で指導した。

授業科目名【成人慢性期看護学実習】

・上記の演習において慢性期の看護の特徴をいかに理解させるかということを重要視し、昨年度に引き続き実習事前学習において、糖尿病患者の闘病記を読んで学生個々がとらえた患者および家族の特性やその看護についてレポート提出を求めた。また前期の慢性期の看護過程演習では演習コマ数の都合上、目標設定で終了していたため、今年度よりその目標に基づいた計画を立案させた。事前に慢性期の視点での計画立案を考えさせることで、実習への導入とした。

・療養生活が長期にわたり、尚且つはっきりしない病態へのもどかしさを抱える慢性期疾患患者および家族の精神的苦悩に少しでも共感できるよう、学生と共にベッドサイドへ行き、タッチングなどの技術を通して患者との援助的人間関係を成立させるよう工夫した。

・病棟のみの実習では、継続看護についてイメージできないことも多いので、学生を患者会や外来などへも積極的に参加できるよう指導者との調整を密に行った。

・慢性期患者は長期の療養生活に及んでいることが多く、学生がそれらの経緯や情報を電子カルテから情報収集をするにはかなりの時間を要する。短時間で効率よく情報収集できるよう、適宜どのような情報が収集できているかを確認し、必要に応じて閲覧時のポイントなどを指導した。

・終末期の患者で激しい疼痛に苦しむ患者の援助時、学生と共にタッチングをしながら患者の訴えに耳を傾け、精神的援助の重要性が理解できるよう指導した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
聖路加看護学会		1996 年　4 月
日本看護研究学会		1996 年　6 月
日本看護学教育学会		1998 年　4 月
日本看護診断学会		1998 年　6 月
日本糖尿病教育・看護学会		2003 年　8 月
日本看護科学学会		2008 年 10 月
日本慢性期看護学会		2017 年　7 月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
＜2年生アドバイザー＞ 昨年度に引き続き2年生アドバイザーを担当した。 ①基礎学力向上に向けての活動 昨年度同様、春と秋の2回の業者模試の実施を予定していたが、4月に実施した基礎学力の確認のための全国業者模試において、目標ラインである60%を超えた学生はわずか２%に満たなかった。そのためアドバイザー毎に、全員の個別面談を実施し、全員に対して振り返りノート作成の指導を行った。また基礎学力の向上に向け、模試後の振り返りノート作成後、2 週間に 1 度のペースで、学内作成の振り返りテストを 4 回（5/11,5/25,6/8,6/22）実施した。問題作成に際しては、業者模試の結果を分析し弱点強化となるように工夫した。その結果、目標ライン60%を超えた学生は36.7%となり、9月の業者模試では61.4%となった。今後3年生での学力向上・維持への効果について・・・・・・・ ②２年生・4年生との交流会 昨年に引き続き、2年生および4年生との交流会を実施した。この交流会の企画・運営の主体は学生である

が、昨年度よりも企画力を重視した学びを深めさせるため、交流会の記録用紙である振り返りシートを修正した。

③保護者会の企画・実施

昨年同様、10 月下旬に 1 年生の保護者と共に実施した。昨年のアンケート結果で、待ち時間や学科長からの全体講和の際に、何か資料提供があるとよいという要望が保護者からあがっていたので、今年度は資料を作成し配布した。その際、看護学科のブログの一部なども紹介した。

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　安藤　愛	職名　　助教	学位　修士（看護学）（福岡県立大学　2017 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学	ストレングス　精神科病棟　精神科看護師　看護

研　究　課　題
精神看護学に関して精神科病棟における看護師のストレングスに焦点をあてた看護の特徴や看護を行う過程で生じるゆらぎや戸惑いを明らかにする。

担　当　授　業　科　目
精神看護学演習、研究の基礎、感染と免疫、診療関連技術論、看護技術論、基礎看護学実習Ⅱ（前期） 精神看護方法論、精神看護学実習、基礎看護学実習Ⅰ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神看護学演習　】 学生が看護過程の理解ができるよう授業の進行速度に配慮した。また、グループワークを通して理解が促進できるようワーク中に巡回し、声かけを積極的に行った。看護過程の解説では、重要な箇所がわるよう強調して伝え、実習がイメージできるよう心がけた。他領域でも看護過程における課題が多く出題されているため課題の一覧表を作成し、事前に渡すことで自分で計画立てて課題が行えるようにした。
授業科目名【　精神看護方法論　】 各疾患における看護について実際の臨床での経験を伝えたり、DVD を使用し具体的に看護がイメージできるよう心がけた。授業スライドは、重要な部分を穴抜きにし、集中力が維持できるよう工夫した。疾患の理解がより深まるようイラスト中心の資料を準備した。事前課題として、理解力・読解力向上のため精神疾患に関する本の紹介を導入し、伝えたい事をどのように伝えると効果的なの学生と一緒に考えながら行った。
授業科目名【　精神看護学実習　】 指導者の力量や介入度合を見極め指導者主体の実習指導を心がけ、提出記録を中心に声かけ指導を行った。気になる学生については、頻回に病棟を巡回し、本人への声かけを行うと同時に指導者と情報共有を行った。本年度より新たな理論や様式の導入を行ったため、指導者との指導方針の確認を密に行った。学生に様式についての意見をその都度聴取し、進行度合を確認し臨機応変に使用方法を変更した。
授業科目名【　研究の基礎　】 グループでの研究計画書立案に伴い、意見交換が積極的に行えるよう問いかけを行った。また、研究テーマの絞り込み作業や研究方法の検討など一緒に考えていき、様々な視点から研究内容を検討できるよう配慮した。授業資料だけでは、理解しにくい部分については書籍の紹介を行った。

授業科目名【　　基礎看護学実習Ⅰ　　】 　コミュニケーション実習であり、学生が患者と関係性が構築できるよう一緒に会話を行った。また、バイタルサイン測定や環境整備など技術の根拠や意味の確認を行いながら知識と技術の定着を図った。プロセスレコードでは、自己理解ができるよう個別に面接を行いながら指導した。そのため、指導者との役割分担を日々調整していった。対話から患者のニーズに気付き、看護展開ができるよう対話の内容の確認と学生が捉えている患者像の把握に努めた。
授業科目名【　　基礎看護学実習Ⅱ　　】 　看護過程の展開が初めてであったため、患者情報がどこまで整理されているのか確認を行い、取れない部分について声かけを行い取り方がわからない場合は、助言を行った。看護技術は、基礎看護学実習Ⅰ以来の実践であったため知識・技術の確認をこまめに行った。また、看護計画の実践では安全面や患者の個性から配慮する点など看護手順だけに集中しないよう学生の視野を広げるよう心がけた。
授業科目名【　　感染と免疫　　】 　学生が演習時に、必要なデータが採取できるよう事前の打ち合わせ時に重要なポイントをしっかり把握し学生に伝えられるよう心がけた。また、濃度の計算問題の演習では学生が理解できるよう図で指めすなど工夫した。実験では、バーナーや薬品など使用するため、安全には十分気を付けた。
授業科目名【　　診療関連技術論　　】 　酸素吸入療法や注射など与薬技術についての演習を行った。教員のデモストレーションが見やすいようにカメラ位置の調整をこまめに行った。酸素ボンベの使用方法、中央配管の利用時の注意点、酸素マスクの種類と使用目的について実際の物品を使用し、デモストレーション時に注意点を強調して伝えた。与薬技術については、清潔・汚染区域について意識できるよう声をかけ、手順や技術のコツを実際に学生の手に触れながら伝えていった。全員に実際に触ってもらい、体験できるよう進行度合に注意しながら時間配分の調整を行った。
授業科目名【　　看護技術論　　】 　ベッドメイキングでは、学生一人一人の手技を確認しできている部分は、褒めていった。よくできている学生に声をかけ他の学生にコツを伝えてもらうようにした。できるだけ全員に患者体験をしてもらい声かけや技術において配慮する必要性に気付けるよう心がけ、感じたこと考えたことをグループで共有できるようにした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
大分県看護協会会員		2010年4月～2014年3月
福岡県看護協会会員		2014年4月～現在に至る
日本教師学学会会員		2015年1月～現在に至る
日本精神科看護協会会員		2017年4月～現在に至る
日本看護科学学会会員		2017年4月～現在に至る
日本精神保健看護学会		2017年4月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 精神看護キーワード 多職種間で理解を共有するために知っておきたい119用語	共著	2017年 5月30日	日本看護協会出版会	「非言語的コミュニケーション」の説明を2名で担当。 P202-203

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
看護師国家試験対策委員会

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　久保田　千景	職名　　助教	学位　修士（看護学）（大阪府立大学 2012 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
家族看護学 クリティカルケア看護学 災害看護学	患者を含む家族への看護、家族看護学教育 学生教育支援 災害超急性期～急性期における遺族支援

研　究　課　題
・看護学生の家族についての認識及び家族看護実践について考察する。 ・クリティカルケアにおける学生への教育支援、患者を含む家族への看護実践及び看護師・学生の認識について考察する。 ・災害発生後の超急性期～急性期における遺族への支援について考察する。

担　当　授　業　科　目
・成人・老年看護学演習(前期)〔看護学科〕 ・リハビリテーション看護学(前期)〔看護学科〕 ・救急・クリティカルケア看護学(前期)〔看護学科〕 ・診療関連技術(前期)〔看護学科〕 ・看護のための臨床検査(前期)〔看護学科〕 ・感染と免疫（前期)〔看護学科〕 ・成人急性期看護学実習(後期)〔看護学科〕 ・基礎看護学実習I(後期)〔看護学科〕 ・基礎看護学実習II(後期)〔看護学科〕

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【成人・老年看護学演習（看護過程の展開）】 成人急性期看護学では胃がん術後患者への看護に関する事例、成人慢性期看護学では肝硬変の患者への看護に関する事例の看護過程の展開で、ゴードンの機能的健康パターンを用いた個人ワーク及びグループワークの指導を担当した。解剖生理学・看護理論を含め、身体面・心理面・社会面を包括的に捉えた看護展開について指導を行った。グループワークでは、チームワークを育むことを念頭に、学生同士が協力して意見を出し合い情報共有できるように導いた。指導に際しては、共にグループを担当する教員と演習指導の事前及び事後の調整を行った。また、授業時間外であっても、学生からの質問に対して適宜指導を行った。
授業科目名【成人・老年看護学演習（技術演習）】 成人急性期看護学では、胃全摘出術直後の患者への看護に関するデモンストレーションを行った。技術については、酸素療法の管理、輸液管理、ドレーンの排液管理、呼吸音聴取、創部の観察等の術後管理について指導を行った。臨地実習で実際に手術直後及び手術後看護を実践することを踏まえ、臨地で実践できるレベルとなるような指導を心がけた。 手術を受ける患者に対する弾性ストッキングの着用方法及び着用時の観察ポイント、フットポンプの使用方法についての演習を担当した。臨地実習で手術前及び手術後患者に学生が着脱を実施することが出来る様、繰り返し練習ができる様努めた。 成人慢性期看護学では、血糖測定法のグループ指導を行った。血糖測定時における患者への声かけを含め、血糖測定を受ける患者の認識をふまえた指導を心掛けた。

授業科目名【リハビリテーション看護学】

単元「運動機能、脳・神経系に障害がある患者のリハビリテーション演習」を担当した。リハビリテーション及び松葉杖・T 字杖に関する課題、及び演習後の事後課題を作成した。演習中に使用する演習課題用紙については、演習実施の手順となるような内容とした。松葉杖・T 字杖の演習においては、学生が実際に実習及び将来医療職者として患者への安全・安楽な援助が出来る様、歩行及び階段昇降について、援助方法と共に患者の役割について指導を行った。演習展開の冒頭に、特に松葉杖の完全免荷での階段昇降時に転倒のない様、学生への安全管理に努めた。

演習後の事後課題として、リハビリテーション及び松葉杖・T 字杖に関する看護師の役割について問う内容、及び患者体験をすることによって、患者の不安感・恐怖心を認識したことを大切にし、文章としてまとめ考察する様指導を行った。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学】

授業運営において講義者のサポートを行った。また、単元「災害看護」の一部において、当人が JR 福知山線脱線事故の救援活動に派遣された時の状況、及び所属している日本 DMORT（災害死亡者家族支援チーム）の訓練について講義を行った。直近で発生した朝倉市・日田市での豪雨災害と関連付けて話をした。看護師や保健師等、将来医療従事者となる看護学科生が活躍できる場は施設のみではないということを伝えた。学生からは将来救急医療の現場で働いてみたいという思いを聴くことが出来た。

授業科目名【診療関連技術】

単元「吸引・酸素吸入」において、吸引方法の演習を担当した。演習内容が臨地実習や臨床現場での看護実践に繋がる様、実際の事例を紹介しながら指導を実施した。吸引手技において、患者がどの過程でどのような苦痛を伴うのかについて詳細に指導を行った。吸引のみ断片的な看護技術の手技として習得されることのない様、患者の症状出現に対する吸引実施の必要性・手技の根拠を含めて指導を実施した。対象が患者であることを踏まえ、患者への声かけについての指導も併せて実施した。

授業科目名【看護のための臨床検査】

臨地実習で学生はエコー等の所見を患者情報として収集する必要があること、エコー検査は看護師の実践として導入されているという現状の説明を含め指導を行った。学生が患者及び看護師役を演じることについて自主性を重んじ役割を担ってもらった。多くの学生がエコープローベを用いて実践出来るよう努めた。エコー検査を受ける患者の認識及び、検査を実施する看護師の認識・技術の双方について学ぶ演習となった。

授業科目名【感染と免疫】

単元「常在細菌と分離」「手指消毒」における演習グループ担当及び手指消毒のデモンストレーションを担当した。将来医療職に就く者として、医療現場における感染予防策を図ることが出来る様、細菌分離や顕微鏡での観察法、代表的な手指消毒の必要性について指導を行った。

授業科目名【成人急性期看護学実習】

実習の構成は病棟での実習が 2 週間、手術室及び集中治療室での実習がそれぞれ 1 日間であった。実習開始前より学内で、手術を受ける患者の看護についての実技指導を実施した。実習前の病棟実習オリエンテーション時のサポート及び、注意事項の説明を実施した。手術室見学実習オリエンテーションにおいては、気管内挿管のデモンストレーション及び滅菌ゴム手袋の装着演習のサポートを行うことにより、実際の手術室見学実習における視点の気づきを学生が強化できるように努めた。手術室見学実習及び ICU 見学（実践）実習前の学内実習では、それぞれが 1 日間という短期間で知識を深める必要性を鑑みて、実習における目標・目的の焦点化・具体化について学生に指導を行った。

病棟実習では手術前・手術中・手術直後・回復過程における継続看護の実践及び看護過程の展開についての指導を行った。看護過程の展開に関しては、学内での「成人看護学演習」内容を基軸とし、実習で担当する手術を受ける患者とその家族の日々刻々と変化する身体・心理・社会面における状況変化について学生が学びを深めることが可能となる様指導を実施した。

手術室見学実習では、学生個々の事前学習と手術室看護の展開を結びつけることが出来る様指導を行った。ICU 見学（実践）実習では、各種 ME 機器が装着された患者の清潔ケアや体位変換を看護師と協力の元指導を行い、また看護師が実践する家族看護について意味づけが出来る様指導を行った。

実習病院における病棟・ICU・手術室で学生が学びを深めることが出来る様、頻回に実習指導者及び実習場所の管理者と調整を行った。

授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 学生にとって初めての実習であることを踏まえ、特に患者とその家族とコミュニケーションを図ること、及び看護実践のニーズを抽出することが出来ることを目的に指導を行った。患者とその家族とのコミュニケーションを図ることが困難である学生に対しては教員がロールモデルとなり、学びを深めることが出来るよう支援した。臨地実習先では、病棟管理者及び実習指導者と共に連携を図った。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 基礎的な看護技術については、実習開始前から実習担当学生に学内にて指導を実施することで、臨地実習がより充実出来る様に努めた。看護過程の展開では特に、対象者との援助関係の形成を行うことが出来るための看護の基礎を含めて習得出来るように努めた。情報収集が困難な場面では、対象理解のために必要な情報収集の内容及び手法について学びを深めるための学生支援を行った。 臨地実習先では、病棟管理者・実習指導者・患者担当看護師と共に密に調整を図り、学生がコミュニケーションや技術の実践及び記録記載が滞りなく実施できる様、大学内で学んだ技術の実践が可能となるよう努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本救急看護学会	会員	2004年9月～現在に至る
日本家族看護学会	会員	2005年4月～現在に至る
日本医療マネジメント学会	会員	2005年4月～現在に至る
日本集中治療医学会	会員	2006年1月～現在に至る
日本DMORT(災害時死亡者家族支援)	会員(運営)	2006年4月～現在に至る
日本トラウマティック・ストレス学会	会員	2006年4月～現在に至る
日本災害看護学会	会員	2006年7月～現在に至る
日本集団災害医学会	会員	2008年1月～現在に至る
日本家族カウンセリング協会	会員	2008年4月～現在に至る
日本看護科学学会	会員	2010年4月～現在に至る
日本看護医療学会	会員	2016年6月～現在に至る
日本教育心理学会	会員	2016年11月～現在に至る
日本医学看護学教育学会	会員	2017年5月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1.ワークショップによる災害時遺族支援に関する効果的な研修企画についての検討―日本災害看護学会第16回年次大会での企画・運営を通して―（査読有）	共	2017．12	日本災害看護学会誌、Vol.18、No.2	①日本災害看護学会第16回年次大会においてワークショップ「災害時における遺族支援」の企画・運営を行った。対象者は災害急性期における遺族支援の実践について学びを深めることが出来た反面、ワークショップの講義内容やディスカッションの時間については再考が必要であった。 ②久保田千景、山﨑達枝、黒川

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				雅代子、岸野真由美 ③(P15～P24)
2. 災害急性期における看護師が行う遺族支援についての効果的な研修企画についての検討―日本災害看護学会第18 回年次大会での企画・運営を通して― （査読有）	共	2017. 12	日本災害看護学会誌、Vol.18、No.2	①日本災害看護学会第 18 回年次大会においてワークショップ「災害時における遺族支援―看護師だからこそできること―」の企画・運営を行った。参加者は、看護専門職だからこそできる災害急性期における遺族支援について学びを深めることが出来たと考えられた。今後は他職種の役割を知り、多職種連携についての学びを深めるためのワークショップについて検討する。 ②久保田千景、山﨑達枝、河野智子、薄井美穂、岸野真由美 ③(P36～P46)
3. 終末期がん患者の在宅療養移行に向けての看護師の家族支援の実践と認識～一般病棟に焦点を当てて～ （査読有）	単	2017. 12	日本医療マネジメント学会誌、Vol.18、No.3	①一般病棟における終末期がん患者の在宅療養移行に向けて看護師が実践している家族支援の内容と認識について明らかにした。看護師は家族の一員が終末期がん患者であり在宅療養移行することは家族全体に影響を及ぼすことは認識していたが、実践内容では家族員の関係性に働きかけるような視点では行われていなかったため、家族を全体として捉える視点が必要であることが示唆された。 ②久保田千景 ③(P153～P159)
（翻訳）				
（学会発表） 1. First Official Disaster Relief Activities of the Japan DMORT Association Collaboration with Police Department in the 2016	Mlt.	2017. 4	20th World Congress on Disaster and Emergency Medicine(Canada,Tronto) /Prehospital and Disaster Medicine,Vol.32,Suppl.1	①To report the first disaster relief activities of the Japan DMORT association officially collaborating with the police department of a disaster stricken area. Activities of

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
Kumamoto Earthquakes,Japan				Japan DMORT as specialists of grief care in collaboration with police are supportive for both victims' families and caregivers in early phase of disasters. ②Kazutoshi Kuboyama,Tsuneo Asada,Tomoko Kono, Chikage Kubota, Kyoko Kurokawa, Noriko Murakami, Yasushi Nagasaki,Hideyuki Nushida, Tatsue Yamazaki, Kazumasa Yoshinaga ③ (P187) 教育研究業績　総数　(2018. 3. 31現在) 著書5(内訳　単0，共5) 学術論文7(内訳　単2，共5) 学会発表23(内訳　単8，共15)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
一般社団法人 日本 DMORT（Disaster Mortuary Operational Response Team 災害時死亡者家族支援） （災害現場で遺族支援を行う派遣チームの組織作り 、長期にわたる遺族支援に向けてのネットワーク作り 、黒タッグや急性期のグリーフケアに関する啓発・研修活動を行っている）	運営正会員	2006 年 4 月～現在に至る （2017 年 7 月 14 日法人化により日本 DMORT 研究会から一般社団法人日本 DMORT に名称変更）

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

○国家試験対策委員（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）

看護師国家試験における模擬試験の結果に基づく自主学習・学習指導に関する対策案について、委員会のメンバーと共に思案し、強化学習対象者に対する個人指導及びグループ指導を実施した。看護師国家試験模擬試験後の結果及び分析の際サポートを行った。

○3 年生アドバイザー（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）

担当学生に対して面談を行い、学習や日常生活等に関して学生と情報共有を行った。学業、実習及び学生生活において学生自身で対処が困難である複数の学生においては、面談の場を複数回設定し、悩みを共有及び解決に向けて、学生の身体面・心理面・社会面に関する支援を実施した。また保護者懇談会の準備及び運営を行った。看護師国家試験模擬試験結果を鑑みて学業及び日常生活面での指導、及び保護者との情報共有を行った。

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　水原　美地	職名　助手	学位　学士(福祉経営学)　日本福祉大学 2007 年

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
地域看護学	地域生活者，エンパワメント，ケアマネジメント，社会資源-

研　　究　　課　　題
現代社会において、地域で生活する様々な人々の健康について現状を把握し、エンパワメントを志向したケアマネジメントの必要性と、求められる社会資源についての考察

担　　当　　授　　業　　科　　目		
小児看護学演習	成人老年看護過程演習	基礎看護学実習Ⅱ
在宅看護学演習	在宅看護学実習	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学演習（身体計測）　】 １．教員のデモンストレーションが見えにくい位置にいる学生は、見える位置へと誘導し、演習に十分参加できるよう促した。 ２．小児の安全と安楽を重視した計測の方法を説明し、演習時に手を添えて指導した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】 １．患者の情報収集に関しては、実習前半は、患者とのコミュニケーションや、フィジカルアセスメントを実施して情報を収集し、電子カルテの情報に固執しないよう助言し、実習後半では電子カルテからの有効な情報収集についても助言し実施した。 ２．看護技術の計画を行うにあたっては、物品準備、配置、手順、体位など事細かく計画書に記載させた。ケア時の物品配置は、図を活用し、指導者に伝わりやすく学生もイメージできるように記載方法の工夫も求めた。 ３．ケアの実践に関しては、早期に指導者の助言をもらえるよう、日々のカンファレンスの時間等も調整した。ケアの実践は、臨地実習指導者の直接の指導のもとで行えたため、計画・実施・評価と一連の助言をいただくことができ学生の理解も深まった。
授業科目名【　在宅看護学演習　】 ①在宅療養のメリットデメリットをさまざまな視点から検討した上で意見を述べるディベートの演習、②ライフステージ障害別の３種類の地域ケアシステムを図式化する演習、③居宅サービス計画書事例の提示し、利用者負担金を計算する演習、④訪問看護計画作成演習であった。 １．看護過程演習・居宅サービス計画の事例作成を担当した。アセスメント演習では 19 パターン中 9 パターンは模範を記載し、学生の負担が過重になりすぎないよう工夫した。 ２．社会資源の図式化の演習では、学生の苦手な社会資源の知識の基礎について、調べる方法を提示し自ら社会の制度に興味を持つよう促した。また、この知識は実習の際にマネジメントプランを考えるための基礎となるものであることを伝え、学習意欲を高めた。

授業科目名【　在宅看護学実習　】 １．実習の事前調整では８訪問看護ステーションと、８診療所と１病院について、実習内容の説明、実習時期・実習日の確認・協議を行った。 ２．12～13 日間の臨地実習の中で、学生は多数の療養者の訪問を経験できるようになったが、その一人ひとりについて事前学習が不十分な状態で実習する傾向が見られた。事前学習の不足している学生には、臨地実習指導者と訪問件数の調整も適宜行った。学生には実習を承諾していただいた療養者への責任を考えさせた。 ３．多数の療養者を訪問させて頂いているため、受け持ち療養者の看護展開のみならず、地域で療養する人々を集団でとらえる視点の重要性を強調した。最終カンファレンス時に資料化したものを説明させるにあたり、実習２週目の週末を活用してグループ学習が進められるように２週目金曜日に学生ミーティングを行い、昨年度より達成度が上がった。 ４．実習期間中、体調不良の学生が見受けられた。その際には、学生の体調を早朝、夜間にも確認し、単位認定者や、臨地実習指導者と連絡を密にとり、学生には、訪問予定の療養者に悪影響が及ばないことが最優先であることを説明し、実習を調整した。
授業科目名【　成人・老年看護過程演習　】 手術直後の看護Ⅱの演習で関わった。 デモンストレーション通りに機械的に丸暗記で動くことで精いっぱいの学生もいると考え、現場で起こりうる事象を伝え、その際の患者に起こりうる危険や合併症、患者の苦痛を伝え、観察や確認の重要性を理解できるよう配慮した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会		2008 年４月～現在に至る
日本社会福祉士会		2009 年４月～現在に至る
日本ケアマネジメント学会		2010 年４月～現在に至る
日本公衆衛生学会		2012 年９月～現在に至る
日本看護技術学会		2013 年４月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
循環器疾患をもつ高齢者の急性期病院と在宅医療における継続看護のあり方	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○石井美紀代、鹿毛美香、高木あゆみ	313,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　おけ　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
◆実習コーディネーター 実習全般の後方支援として、全学年の全実習に関する実習オリエンテーション、実習誓約書、実習先から求められている要件である疾病に関するワクチン接種の勧奨と確認や各種必要書類の準備、実習衣、実習時の賠償保険の管理、領域別実習に関するローテーションメンバー配置を作成など行った。 ◆学生募集関連担当（ブログ等運営） 今年度より、委員以外も記事の執筆をしていただき、ブログへの掲載は委員で行った。委員による執筆記事と合わせて本年度は23件のブログ掲載ができた。 ◆kaname-net,NAS 等委員 学科の NAS のメンバー管理、ハード面の管理を行った。Kaname-net についてはオープンソースである moodle のメンバー管理、コース管理、関連事業者との打ち合わせ、moodle バージョンアップを計画的に実施した。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　樋口　由貴子	職名　　助手	学位　修士（看護学）（産業医科大学　2017年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護学	子ども、ワクチン、感染症、発達障害児、家族支援

研　究　課　題
・　小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。 ・　大学における感染症予防対策として予防接種勧奨のガイドラインについて検討する。 ・　一保育園をモデルに感染症予防の具体的方策を検討実施し、その効果について検証する。 ・　発達障害児とその家族への支援について考察する。

担　当　授　業　科　目
小児看護学演習（前期）（看護学科）　、小児看護学実習（通年）（看護学科）、 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科）、 感染と免疫（前期）（看護学科）、診療関連技術論（前期）（看護学科）、成人・老年看護過程演習（前期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　小児看護学演習　】 　ペーパーペイシェントを用いた看護展開と実技演習を行った。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように発問し、看護展開を理解できるように工夫した。 実技演習では、安全面の留意し、根拠と工夫することの重要性について説明し実践することで、学生が習得できう援助し、実技習得に向けて学生が練習する際にも指導を行った。
授業科目名【　小児看護学実習　】 　臨床実習中は、患児と家族のベッドサイドに一緒に行き、コミュニケーション方法や技術の提供方法等を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、達成できるよう支援を求めた。 臨床実習の中で、学生がもった「疑問」・「気付き」から明日の看護に結びつける課題を見出せるよう援助した。 看護師以外にも医師、保育士、こども療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅱ　】 　臨床実習では、学生としての身なり・行動や、個人情報取り扱いの注意について指導した。 また、患者さまを実際に見て触れて感じたことから、患者さまに必要な看護を導きだすよう指導した。カンファレンスを用い自分の意見をまとめて相手に伝えることの大切さ、グループの学びとして共有し、自己に還元することの大切さについて指導した。学生が、実習の中で自己の強みと課題を見出せるよう工夫した。
授業科目名【　感染と免疫　】 　細菌培養結果を顕微鏡で観察する演習で、病棟の状況を説明しながら、この知識を病棟や生活でどう使うかなど、知識を活用できるように支援した。
授業科目名【　診療関連技術論　】 　技術の根拠と工夫することの重要性について説明し、学生が根拠を考えながら実施できるように工夫した。 また、実際に臨床で出会いやすい場面や状況について補足説明することで、臨床をイメージしやすいように援助した。

授業科目名【　成人・老年看護過程演習　】
手術後の看護演習を行った。その際、根拠となる知識を発問しながら、学生に確認し、患者をイメージできるよう声掛けを行いながら、学習の支援を行った。 演習の際に、今までの知識を活用し清潔や不潔を意識できるよう声掛けを行い、技術の習得が出来るように支援した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会会員 日本小児看護学会会員 日本小児保健協会会員 日本環境感染症学会会員 日本看護科学学会会員		平成 14 年 4 月（現在に至る） 平成 21 年 1 月（現在に至る） 平成 21 年 4 月（現在に至る） 平成 22 年 10 月（現在に至る） 平成 25 年 6 月（現在に至る）

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 1.小児看護 vol.41　No.1 JANUARY	共	2018.1	へるす出版	①臨床看護師を対象に、自閉症スペクトラム障害児に対する口腔ケアの具体的援助方法について解説した。 ②編集：飯野英親 共著者：岡暁子、飯野英親　他 ③担当部分　自閉症スペクトラム障害児に対する口腔ケア（p49－55） 総項 P128 ④AB 判
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） ①看護学生を対象としたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の抗体持続状況	共	2018.3	西南女学院大学保健福祉学部研究所　研究報告会	①看護学生を対象に小児用 DTaP ワクチンを接種し、接種から 4 年後までの抗体価推移を調べワクチンの効果について検討した。 ②○目野郁子、樋口由貴子、（植田浩司、岡田賢司、山口優子、諸熊一則）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				著書　1　（内訳　単0, 共1） 学術論文　0 翻訳　0 学会発表　1（内訳 単0, 共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
①看護学生を対象としたジフテリア・破傷風・百日咳（DTaP）ワクチン接種後の抗体持続状況	西南女学院大学保健福祉学部研究所	○目野郁子、樋口由貴子、（植田浩司、岡田賢司、山口優子、諸熊一則）	258, 000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし （申請したが 2018 年度不採択）			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
なし		

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・保健福祉学部１年生および助産別科１年生への感染症予防／予防接種手帳配布と抗体検査後の予防接種勧奨 2011 年６月～現在に至る ・親子遊びの会（ほほえみの会） ・国家試験対策委員（学科内役割）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　後藤　有紀	職名　助手	学位　学士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神看護学	精神科、ストレングス、認知症、

研　究　課　題
精神科における今後の認知症看護に関する考察。 精神疾患をもつ人へのストレングス（強み）を活かした看護支援に関する考察。

担　当　授　業　科　目
・授業の担当はしていません。 ・生活援助技術論２コマ（1月）、精神看護学概論・精神看護方法論計 11 コマ演習指導。 ・10 月から２月の精神看護学実習において３病院担当。 ・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱにおいて１グループずつ（各６名）指導担当。

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　生活援助技術論　】 実技演習・試験がスムーズに行えるよう学生の誘導や物品の配置を行った。事前に指定図書の該当箇所を確認し、知識の確認と学生の学習内容を確認した。不明な点は適宜責任者に指示を仰いだ。
授業科目名【　精神看護学概論・精神看護方法論　】 講義に必要な配布資料の印刷準備を行った。提出物の提出状況の確認・状況報告を行った。 精神科における認知症看護についてスライドと配布資料を使って解説を行った。学生が関心をもてるように、また、疾患に関する知識だけでなく、看護の視点で考えることができるように内容の工夫を行った。 グループ課題及び個人課題に関する内容のチェックと指導を行った。
授業科目名【　精神看護学演習・精神看護学実習　】 演習では、プログラム作成や演習資料改訂を行った。配布に必要な資料準備やグループワークでの指導、グループ発表時のファシリテータを行った。学生には、すぐに答えを明示するのではなく、グループメンバー同士で意見を出し合い自分たちなりの考え・解答を導き出せるように工夫した。 実習では、３病院にて計 64 名の３年次看護学生の実習を担当した。精神科や精神科でのケアの実際を学ぶことはもちろん、対象理解や自己の傾向に気付き洞察すること、コミュニケーションとは何か、ストレングス（強み）を活かした看護援助の実際について学びが深まるよう意識して指導した（カンファレンスやレポートの活用、教員と学生同士のコミュニケーションも積極的に図るよう努めた）。必要時は精神看護学実習責任者へ指導・指示を仰いだ。
授業科目名【　基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ　】 基礎看護学実習Ⅰでは、１グループ計６名の１年次看護学生の実習を担当した。１年生にとっては本格的な実習は初めてであるため、指導者や病棟看護師との連絡役を務め、患者との関わりに重点を置いて指導した。適宜実習責任者と連携を図りながら指導を進めた。 基礎看護学実習Ⅱでは、１グループ計６名の２年次看護学生の実習を担当した。情報収集から実践までの看護展開を理解し、安全に実践ができるように指導した。適宜指導者・責任者との情報共有を行い、責任者から指示を仰いだ。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本精神科看護協会 日本看護科学学会 日本精神保健看護学会		平成28年4月～ 平成28年4月～ 平成28年2月～7月 平成29年2月～

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 第106回看護師国家試験メディカコンクール解説			メディカ出版	第 106 回看護師国家試験の精神看護学に関連した一部問題の解答・解説を作成した。
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） The ethical thinking of students after psychiatric nursing practice	共著	平成 29 年 3 月 10 日	The 20th EAFONS（香港）	精神看護学実習を終えた看護学科3年生を対象にした、看護学生の倫理的感性に関する研究についてポスター発表した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・ブログ委員 ・看護学科情報システム運営（kaname.net）委員 ・物品管理委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　坂本　未穂	職名　　助手	学位　学士（西南女学院大学　2009年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード

研　究　課　題

担　当　授　業　科　目
リハビリテーション看護学（前期　看護学科）・救急・クリティカルケア看護学（前期　看護学科）・成人・老年看護学演習（前期　看護学科）・ 看護のための臨床検査（前期看護学科）・診療関連技術論（前期　看護学科）・感染と免疫（前期　看護学科） 基礎看護学実習Ⅰ（後期　看護学科）・基礎看護学実習Ⅱ（前期　看護学科）・成人急性期看護学実習（後期　看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【リハビリテーション看護学】 摂食嚥下障害のある患者のリハビリテーション看護と運動器に障害がある患者のリハビリテーション看護に入らせていただいた。摂食嚥下では、外部講師の指導の下で学生にゼリーなどを摂取してもらうため、進行がスムーズに進むよう、準備などを行った。また、運動器に障害がある患者の演習では、松葉杖や杖でのデモンストレーションを行った。その後学生に体験させたため、声掛けや行動を観察し、安全に実施できるよう配慮した。二つの演習では、実際に患者が感じることを経験できるため、それを踏まえた上でどのように看護をすべきか考えることができるよう説明を行った。
授業科目名【成人・老年看護学演習】 ペーパーペイシェントで看護過程の展開をするため、患者が思い描くことができるように臨床での経験を用いて学生へ説明した。また、今まで学んできた講義内容や、経験などを振り返させ、それを応用して看護過程が実施できるよう指導した。看護過程展開後に実技演習を実施するため、看護過程で学んだ知識や根拠を把握した上で実技ができるように指導を行った。
授業科目名【看護のための臨床検査】 心電図の演習に入らせていただいた。12誘導では胸部誘導の電極位置を理解してもらうために、その図を拡大して貼りだすことや、モデル人形を使用し、実際の貼付の仕方のデモンストレーションなどを行うことで、理解してもらうよう工夫した。また、学生同士で施行するため、羞恥心などを考え、施行ブースをプライバシーに配慮して配置した。
授業科目名【診療関連技術論】 吸引と静脈内採血の演習に入らせていただいた。学生が事前にKANAMEで動画を視聴した上で実習に臨んでいるため、その内容をもとに、一つ一つの行動が、何の根拠を持って行われているか確認しながら演習できるよう説明を行った。また、施行がスムーズに行えていなかった学生に対しては、原因を一緒に考え、成功できるように導けるようにした。

授業科目名【感染と免疫】 常在細菌の分離と観察の演習に入らせていただいた。学生が細菌に興味を持ってもらう説明を行った。また、顕微鏡やガスバーナーなどを使用するため、学生が安全に使用できるよう気を付けた。最後に計算問題の小テストを実施されたが、最後まで回答できなかった学生には、根拠をもって理解できるよう指導を行い、答えを導き出せるよう指導した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 初めての実習となるため、病棟での礼儀や身なり、病棟での一日の流れを理解してもらい、その上でどのように行動するか考えてもらうように指導した。また、コミュニケーションに困っている学生に対しては、会話に実際に入り、コミュニケーションの図り方を見学させ、そこから自分の行動に活かせるように工夫をした。患者の元から戻ってきた学生は、すぐに会話の内容や考えを振り返させ、自己の特徴に気づかせることと、患者のニーズを導き出せるように促した。
授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】 初めて看護過程を展開するため、基礎看護学実習Ⅰで学んだコミュニケーションと、講義で学んだ看護過程をもとに、患者のことを捉えられることができているか確認した。患者のことを捉えられていない学生には様々な視点で着目できるようアドバイスを行った。看護過程は、まずは記録を書いてもらい、どのような思考過程か確認し、それぞれの学生の進行状況に合わせた説明を行った。
授業科目名【成人急性期看護学実習】 学生が外来から入院、手術施行後に退院までの流れを理解してもらうよう図に書いて説明するなどの工夫を行った。また、手術侵襲や麻酔の影響、既往歴との関係を考えて看護過程を展開できるようそれぞれの学生の進行状況に合わせて指導を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護学協会	なし	2009年4月（現在に至る）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
物品管理委員　2017 年 10 月～（現在に至る）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　春藤香織	職名　　助手	学位　学士　（西南女学院大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
成人看護学	緩和・終末期看護 がん看護 看護教育

研　究　課　題
・慢性期領域にある患者の理解と看護を、学生が理解することができる効果的な指導方法を探求する。 ・慢性期看護の特性を理解させるための教員と臨地実習指導者との連携の在り方を考察する。

担　当　授　業　科　目
・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・成人・老年看護学演習 ・成人慢性期看護学実習 ・感染と免疫 ・看護のための臨床検査 ・診療関連技術論

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】 初めて患者を受け持ち、コミュニケーションを通して相手の気持ちを考え、相手を理解することを学ぶ実習である。初めて病を抱える人と接することの難しさや、言語的な表現からだけでなく非言語的な表現に目を向けることの重要性を、プロセスレコードを通し学び取れるように指導する。看護者として、患者を知るためには、疾患を知ることが重要になることが気づけるように指導する。
授業科目名【基礎看護実習Ⅱ】 何が患者のニードなのかを看護過程を展開し見出し、日常生活援助を実施する実習である。看護過程を実際活用することが、学生には難しいものである。看護過程について今までの学びを整理しながら、学生が患者の全体像を把握できるように指導した。技術の面でも、患者に合わせて計画、実施していくことの重要性を理解できるように働きかけた。
授業科目名【成人老年看護学演習】 各領域の特徴ある視点を踏まえて、看護過程が展開できるように指導を行った。情報整理の仕方から、知識をどのように活用し看護問題を見つけ出していくのかを、学生の学びが深まるように関わった。技術演習においては、学生がイメージしにくい部分を形にできるように、実際に感じ学び取れるように支援した。血糖自己測定、インスリン自己注射について、病態を意識すること、安全に針を刺すことができるように指導した。
授業科目名【看護のための臨床検査】 心電図検査を学生が実施する演習を担当。初めて心電図に触れる学生たちが、心電図検査の目的を意識すること、心電図を施行の注意点を意識し実施することができるよう指導した。学生同士で心電図を施行する状況であり、看護師側、患者側の気持ちを考え検査を行う際の心理的なケアに目が向けられるように学習を進めた。

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【診療関連技術論】 演習にて注射器や針を使用する点で、取り扱い方法や処理の仕方など安全面に配慮し指導を行った。採血の演習では模擬上肢とはいえ初めての手技であり、緊張する学生も多く一人一人に目を配らせ、手技自体を細かく指導を行った。採血をするということに学生はとらわれてしまうが、患者を確認すること、検体が一致しているのかなど、確認作業の重要性にはポイントを置いた。
授業科目名【成人慢性期看護学実習】 3 年生の現場においての実践であり、座学で学んだことを活かし患者と向き合うことになる実習である。学生であれ一人の命を預かっているということに意識付けさせた。慢性期領域において、寄り添うこと、患者教育の必要性について、今までの学びと結びつけることができるように指導を行った。学内でのペーパー患者とは違う生身の患者との関わりの中で、患者の個別性を重要視できるように、学生に介入した。 実習指導者との連携も、学生を目標に導くためには重要になる。学生の理解度や手技について、蜜に連携を行い学生の指導にあたった。
授業科目名【感染と免疫】 医療現場において感染を予防することは極めて重要なことである。そのことを認識するためには、消毒効果や消毒法について学ぶことが必要となる。学生が、いかに興味を持ち臨床現場で意識することができるように指導にあたった。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本緩和医療学会		2004 年 4 月～現在に至る 2017 年 10 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
国家試験対策委員

福　祉　学　科

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　柳澤伸一	職名　　教授	学位　修士（文学）（東北大学　1975年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
南ドイツ（スイスを含む）中・近世史	神聖ローマ帝国　　スイス誓約同盟

研　究　課　題
スイスの神聖ローマ帝国からの独立過程を考察する。当面は、近世スイスの人々に、神聖ローマ帝国を支える使命を帯びたドイツ人の一員であるとの意識が根強く存在していたことを検証する。

担　当　授　業　科　目
ジェンダー論(前・後期) 西洋の歴史と文化 (前・後期) 基礎演習 (通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ジェンダー論　】 現在のジェンダー問題を、「国連婦人の10年」以降のフェミニズムの歴史の中で捉えられるようにした。 ジェンダー問題の日本的特質を、欧米との比較の中で捉えられるようにした。 最新の新聞記事（近代家族の揺らぎ、男女格差の国際ランキング、家族政策の国際的動向など）をできるだけ多取り上げて、問題を身近に感じられるようにした。 節目ごとに、小レポートの課題を出し、受講生に授業内容の整理を促した。
授業科目名【　西洋の歴史と文化　】 ヨーロッパ世界が直面している現在の諸問題（一方にEUの拡大・深化とゆらぎ、他方に地域主義の台頭）の歴史的根源をたどることにより、現在と過去とのつながりが感じられるようにした。 フランスとドイツ、スイスを例に、中世の平和団体のあり方と近代の国家のあり方との密接な関連をたどることにより、各国の個性的、長期的発展について考えられるようにした。 節目ごとに、小レポートの課題を出し、受講生に授業内容の整理を促した。
授業科目名【　基礎演習　】 6人の教員によるオムニバス形式の授業の一環として、「歴史認識の共有可能性」をテーマにした。 比較の方法に習熟するため、日中韓三国の高校歴史教科書を素材として、比較を通じてそれぞれの教科書の特徴を考察させた。 口頭発表における効果的な発表資料の作り方を学ぶため、レジュメの作成に際して比較表の活用を促した。

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本西洋史学会 西洋史研究会 歴史学研究会 スイス史研究会	評議員（1997 年 11 月～2007 年 11 月）	1973 年 4 月～現在に至る 1973 年 4 月～現在に至る 1984 年 4 月～現在に至る 2004 年 4 月～現在に至る

２０１５年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（その他） 家族擁護論の背景 バスケの草分け	 単 単	 2017 年 5 月 2018 年 1 月	 『西南の杜』第 12 号 西南女学院大学図書館報かなめ No.25	 アメリカと日本に台頭する家族擁護論が新自由主義と同居することの意味を考察した。 西南女学院がバスケットボールを創立期から行い、北九州での草分けになったことを、日米キリスト教界の連携の一環として捉えた。この一文を敷衍して、最終講義を行った。
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
西南の杜	編集委員	2010 年 11 月～2018 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
図書委員会委員

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　谷川弘治	職名　教授	学位　社会学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床健康心理学 特別支援教育（病弱児の心理，病弱教育） 医療保育 医療ソーシャルワーク 高等教育論	病気の子ども　小児慢性疾患 小児がん　白血病　先天性心疾患　１型糖尿病 トータルケア　心理支援　心理社会的支援 セラピューティックアプローチ　治癒的遊び 教育支援　社会的支援　自立支援　家族支援 病弱教育　病弱児心理　医療保育　多職種協働 研修システム　多職種研修 大学管理運営　大学評価　地域貢献

研　究　課　題
小児医療における心理社会的支援専門職の専門性向上のシステム構築 小児医療フィールドにおける教師と保育士の言葉の運用に関する研究 小児医療フィールドにおける治癒的遊びの研究 地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究

担　当　授　業　科　目
＜看護学科＞ 臨床心理学 ＜福祉学科＞ ヒューマンサービス基礎演習 心理統計学 心理学研究法 福祉臨床心理演習Ⅰ 家族心理学演習 保育の心理学Ⅰ 保育の心理学Ⅱ 保育実践演習 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ 卒業論文

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
①授業科目名【臨床心理学】看護学科２年後期選択１単位（8 コマ＋定期試験） ＜準備＞ ・　看護師に必要な臨床健康心理学の基礎知識を身につけ，臨床の場での支援の基本を考えることをねらっている。「かかわりながらの患者理解」の方法を論じていくので，関心や学習意欲は高い。 ・　「質問・感想・意見」を回収し，質問への回答，学習を深める上で参考となる感想や意見をまとめたプリントを，次の回に配付した。 ・　看護学生としてなじみのない概念（「非機能的な思考」「自己効力の期待」「機能分析」）などについては留意するようにした。 ・　中間テストを配置し，復習を促すようにした。

＜評価＞

１．アウトカム

・ 本年度の履修登録者は41名と昨年度より減少した（2016；68，2015;32，2014；51)。そのうち41名が最後まで受講，期末試験ののち単位認定を受けた。

・ 定期試験を終えてのアウトカムは平均点 74 点でこれまでよりよい成績であった（2016；69，2015；67，2014；71)。

・ 成績のばらつきは小さく再試験実施者はなかった。ただし，期末テストだけでみると５名（12.2%）が基準を下回っていた。

・ 学生の授業評価の関連項目の変化は次のとおりであった。並びは2015→2016→2017（学科平均）である。

①自分なりの目標を達成：

3.4→3.5→3.6（3.9）

②DP1-2 関係：知識を確認，修正したり，新たに得ることができた：

3.8→3.6→3.8（4.1）

③DP1-2 関係：事象を理解する視点や考え方を得ることができた：

3.5→3.6→3.8（4.0）

④DP2-1 関係：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた：

3.5→3.6→3.9（4.0）

⑤DP2-1 関係：自分が学ぼうとしている専門分野において的確に判断する力を得ることができた：

3.4→3.6→3.7（3.9）

・ 評価は上昇傾向ではあるが，看護学科平均には及ばず，まだまだ改善の余地があると思われた。

・ 以上から教育目標は「やや達成された」と判断した。

１．プロセス

・ 全般に受講態度が良く，小レポートの記述も多かった。できるだけ回答を寄せたが，どのように活かされたかは不明であった。

・ 授業そのものは集中して受講していただけたと考えるが，授業の前後で考える機会を提供する点で課題が残った。

エビデンス

①１回３０分程度の準備４回以上１１．１％（学科１８．３％）

②１回３０分以上の復習４回以上１６．７％（学科１８．７％）

③授業以外の課題への取り組み　２２．２％（学科１８．８％）

＜まとめ＞

・ 基準不到達は小レポートの内容からある程度把握できるため，迅速な対応を行う必要がある。

・ 準備，復習については課題を提示すること，小テストの内容を検討することを考えていきたい。

②授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】福祉学科１年前期　必修１単位

＜準備＞

・ 密度の濃い対人スキルの見直しの機会となっているために次を重視してきた。

a. テーマの説明を丁寧に行う　b. 達成感がもてるよう，できたことを評価する　c. 弱点は長所でもあることを指摘する　d. 「いまできないことがあっても良いが，卒業するまでには克服するよう見通しを持たせる　f. 振り返りの時間を大切にする。

・ テーマ毎に次の流れを作るようにしてきた。

Ｘ回目：①アイスブレーク　② テーマ説明　③所定のエクササイズ　④振り返り，まとめを作成

Ｘ＋１回目：⑤まとめをもとに教員が作成した解説　⑥まとめの小レポート作成，提出　新しいテーマに移行（①から進行する）

・ ２段構えの構成で，他の学生の考えを知るなど，視野を広げたり，深めることをねらっているが，昨年度の学生の参加状況からは，２段構えでは集中できないことが考えられた。そのため，次（Ｘ＋１回目）での振り返りを簡潔にしたり，省くよう調整した。

＜評価＞

１．アウトカム

・ 成績はＤＰ４ 79%　ＤＰ５ 83%　であった。

・　学生の自己評価は平均的であるが，ＤＰ４は昨年よりも低下傾向であった。
　ＤＰ４　3.8⇒3.6⇒3.3（学科平均 3.5）
　ＤＰ５　技術 4.4 ⇒3.9⇒3.9（学科平均 3.6），表現 4.4⇒4.1⇒4.3（学科平均 3.6）であった。
・　関心に関する指標の低下は，同じ内容を同じ方法で行っていることから準備性の違い，あるいは教員との相互作用の質の差とみられる。
・　最終レポートでは，自分の今後の課題も具体的に述べることが出来ており，的確に実施出来たと考えられる。
２．プロセス
・　日々の課題は全員が熱心に取り組めていた。
・　授業の質に関しては，下記の様に評価基準と課題の明確さ，内容の分かりやすさに課題があるようであった。計画から見て学生の達成度が高く，2 段階での取り組み方にも課題があるのかも知れない。
　①評価基準の明確さ　3.3（学科平均 3.8）
　②課題の明確さ　　3.3（学科平均 3.8）
　③理解しやすさ　　3.0（学科平均 3.7）
　④参加機会　　4.1（学科平均 3.7）
　⑤質問の機会　　3.8（学科平均 3.7）
＜まとめ＞
・　１年生前期の導入教育としてのねらいは概ね果たせていると思われるが，そのねらいや評価基準が伝わりにくくなっている。
・　とくに今回のグループでは，ねらいとするところは概ねクリアできていると思われたため，さらに先に進んで実施すべき課題があるようにも思われる。2 段階の取り組みかたを修正することも含め，次年度の課題としたい。

③授業科目名【心理統計学】福祉学科 2 年後期　選択 2 単位（認定心理士希望者のみ）
＜準備＞
・　基礎となる統計量を体感できるように，データを扱い，検討をしていった。
＜評価＞
１．アウトカム
・　記述統計，分散分析の基礎，ノンパラメトリック検定について，各自ガイドがあれば計算を行って，判断を行うまで到達した。
・　成績の平均値は 76.3 であったが，計算の習熟に課題が残ったと言える。
・　学生の到達度自己評価における知識理解は学科平均を 0.4～0.5 ほど下回っていた。
・　全般に，習熟の課題，統計量の意味についての理解など，講義として触れることができなかったことがらが反映していたと推察された。
２．プロセス
・　今回は学生数が少し増えたため，お互いに意見を述べ合う状況が見られた。
・　計算が得意でない場合，ついて行きにくさがあったようだ。
＜まとめ＞
・　思考過程を客観化し，意思決定をする上での統計学の意義をじっくり考える構成を目指したい。
・　統計量の意味を理解することが中心であるため，計算の習熟よりも，内容理解を確認できるような構成を目指し，もう少し達成感を味わえるように進めたい。
・　統計量の意味と限界を検討するような演習を入れていきたい。

④授業科目名【心理学研究法】福祉学科 3 年前期　選択 2 単位（認定心理士希望者のみ）
＜準備＞
・　次の点を配慮して構成している。
　① 科学の多様な研究方法を学習する機会は少ないため，できるだけ身近な例をあげながら解説する。
　② 実際的な課題を提示し，意見を求めたり，可能な範囲でデータ分析を実施しながら進める。
　③ 中間テストを実施して，振り返りの機会を提供する。
　④ 質的調査，量的調査，実験を簡潔にして，準実験，一事例実験，実践研究の内容を充実させる。
　⑤ 理解の状況を確認しながら進行を微調整する。

＜評価＞
１．アウトカム
・　中間，期末テストをあわせた総合の正答率は８３％であった。
・　学生の到達度評価は下記の通りであった。
　ＤＰ１：新たな知識 3.7⇒3.8⇒３．５（学科平均３．８），理解の視点 3.5⇒3.8⇒３．５（学科平均３．６），
　ＤＰ３意欲：3.3⇒3.8⇒３．５（学科平均３．６）
・　目標達成：3.3⇒3.4⇒３．０（学科平均３．４）
２．プロセス
・　履修者が 2 名であり，比較的寡黙であったため議論の活性化が難しかった。学生に合わせての内容づくりが必要かも知れない。
＜まとめ＞
・　内容の精選，授業中の課題提示，質疑のやり取りなどを通して，習熟度が上がってきたように思われる。
・　今後は，理解が難しい領域中心に宿題を提示するなど，工夫を進めていきたい。

⑥授業科目名【福祉臨床心理演習Ｉ】福祉学科 2 年後期　選択 2 単位
＜準備＞
・　ソーシャルスキルトレーニングと家族療法という 2 つのテーマについて，理論の基礎をロールプレイや発表を通して学ぶように手順を明確化して取り組んできた。
・　テーマ毎のプロシージャーは次の通りとし，間に体験を挟んで理論への理解を深める構造を作った。
　導入（教員による解説）⇒　ロールプレイ・グループワーク　⇒　理論学習（発表と討論）　⇒　まとめ
・　本年度も，SST の応用について，災害時のストレスマネジメントを取り上げて検討する機会を設けた。
＜評価＞
１．アウトカム
・　本年度は資格取得に必要とする学生が多く，「関心のある内容である」という受講動機が 41%から 27%に減少した。
・　成績評価は全般に低下した。
　平均：72（昨年度 82 点，一昨年度 79 点）
　　（柱別得点割合：ソーシャルスキルトレーニング：77%，家族療法：74%，最終レポート：70%）
・　学生の授業評価を昨年度と比較した結果も下記の通り（一昨年→昨年→今年），昨年より低下していた。
　全体：自分なりの目標を達成：3.3→3.7→3.1
　DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.6→3.9→3.3
　DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.7→3.8→3.2
　DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.8→3.8→3.2
　DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.5→3.9→3.1
　DP3-1:自分が学ぼうとしている専門分野について，学びを深めたいと意欲をもつ：3.5→3.9→3.1
　DP-5-1,5-2：自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につける：3.4→３．９→3.2
　DP-5-1,5-2：コミュニケーション力や表現力を高めることができた：3.8→4.0→3.6
・　2 名の学生が途中でリタイアした。
２．プロセス
・　授業の質の評価は「説明は理解しやすい」3.3,「学生が参加する機会が設けられた」3.5,「質問を受け付け，答える機会」3.5 と学科平均より低かった。
・　学生の受講動機が大きく変化していること，途中リタイアした学生が 2 名いたことから，出発点からの変化に教員が対応し切れていなかったことが考えられる。
・　次年度に向けては，当初に受講動機を明確にすること，学習参加状況を常に検討することなど，臨機応変な対応を検討したい。
＜まとめ＞
・　「履修者の状況が変わりつつあることを意識して，従来の方法に拘泥しない」という一昨年の総括が活かせない形となった。記述の通り，学習準備状況の確認等を行い，方法に工夫を加えていきたい。

⑦授業科目名【家族心理学演習】福祉学科４年前期　２単位　選択

＜準備＞

１．構成の方針

・　学生の自我関与が強くあらわれる科目であるが，参加学生の状況で参加状況が変化するため調整を図る。
　①まず家族の発達過程において直面しがちな課題を学び，続いて支援について学ぶ。
　②発表は家族の発達で１回，家族の臨床的援助で１回，さらに自分で調べてまとめたレポートをもとにした発表１回とし，前年度よりも課題を絞った。
　③例年通り，すべての課題をオリエンテーション時に提示することで，計画的な学修を促す。

２．進行上の基本的留意点

　①毎回の議論の主題は発表担当の学生が提案するが，教員としても提案できる主題を準備しておく。
　②話し合いは学生の進め方を尊重するが，必要に応じて，家族療法の技法である円環的質問の方法を準用するなど，演習の主題に関連する技法も用いてシステムの活性化に努める。

＜評価＞

１．アウトカム評価

・　教員評価による観点別の出来具合を表す指標は，次のような結果であり，全般に向上していた。
　ＤＰ１：７９％，ＤＰ２：７７％，ＤＰ３：８７％であった。
・　学生の到達度評価は次に示すように回復傾向が認められたが，2 年前には及ばなかった。
　ＤＰ１：新たな知識 一昨年度 4.8⇒昨年度 3.3⇒本年度 3.8（学科平均 3.9）
　　理解の視点 4.3⇒3.1⇒3.5（学科平均 3.5）
　ＤＰ２：課題検討 4.0⇒3.2⇒3.5（学科平均 3.5）
　　判断 4.0⇒3.1⇒3.7（学科平均 3.5）
　ＤＰ３：意欲 4.0⇒3.1⇒3.8（学科平均 3.6）

２．プロセス評価

・　毎回の状況を観察し，学生の意見も取り入れながら，進行していった。
・　昨年度，学生の授業評価意見として課題の多さが指摘されていたことから，課題は絞り込みを行った。
・　授業の質に関しては，下記の様に平均的であった。

評価基準の明確さ	3.8（学科平均 3.8）
課題の明確さ	3.8（学科平均 3.8）
理解しやすさ	4.2（学科平均 3.7）
参加機会	4.2（学科平均 3.7）
質問の機会	4.2（学科平均 3.7）

＜まとめ＞

・　プロセスは円滑であり，学生の参加度は改善した。アウトカムも改善傾向にある。今後も，年度毎の学生の参加状況を踏まえ，改善を行っていく。

⑧授業科目名【保育の心理学Ⅰ】福祉学科子ども家庭福祉コース２年後期　必修２単位

＜準備＞

・　子どもとかかわる機会が少ない学生もいることから，事例をもとに説明を行うこと，学生相互の子どもや保育に対する考え方を共有する。
・　子どもが「自分らしくあること」と「仲間と共にあること」のように一見，相反する視点を検討し合い，保育士としてより深い見方ができることに気づく。
・　子どもの個の発達とその支援について，新生児・乳児期，幼児期，学童期に分けて，最新の知見も踏まえて検討する。

＜結果＞

１．アウトカム

・　受講動機として「必修科目である」73%，「資格取得に必要である」55%が多く，「関心のある内容である」は 9%と少なかった。
・　最終成績の平均は 78 点であり，昨年の 81 点より若干低下した。
・　低下は履修を中断した学生によるものであった。
・　評価対象別にみるとレポートＡ80%（昨年並み），レポートＢ69%（昨年 88%），小テスト 69%（昨年 74%），

期末テスト 81%（78%）であった。
・ 以上から，全般に例年並みの成績であった。
・ 学生の授業評価の結果を昨年度と比較した結果，つぎの通りであった（一昨年→昨年→今年（学科平均））。
全体：自分なりの目標を達成：3.2→3.7→3.7（学科平均 3.5）／
DP1-1,1-2：知識を確認，修正したり，新たに得る：3.8→3.9→3.6（同 3.8）／
DP1-1,1-2：事象を理解する視点や考え方を得る：3.6→3.9→3.5（同 3.7）／
DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力：3.7→3.8→3.7（同 3.7）／
DP2-1：自分が学ぼうとしている専門分野において，的確に判断する力：3.5→3.8→3.7（同 3.6）
DP1（知識・理解）領域で減少傾向があったが，アクティブラーニングに軸を置いたことが影響しているかもしれない。
・ 知識・理解と思考・判断のバランスについて，さらに検討を進めたい。
２．プロセス
・ 本年度は，多くの発言が得られる学年であったが，議論が脱線したり，冗長になる発言が比較的多かった。
・ 学生による授業の質評価は下記の通りであった（昨年度→本年度（本年度の学科平均））。
・ 全般に昨年度よりも低下していた。内容的に同じであったが，議論が冗長になりがちであったことが影響していたかもしれない。脱線しがちな場合の切り替えの言葉かけや集中を保つ環境構成について検討を加えたい。

「評価基準は明確であった」	4.1→３．５（3.7）
「学習範囲，課題が明確であった」	4.2→３．５（3.7）
「説明は理解しやすい」	3.3→３．５（3.7）
「参加する機会があった」	4.3→３．５（3.4）
「質問を受け付け答える」	4.0→３．５（3.5）

＜まとめ＞
・ 今後も，各種のアクティブラーニングの要素の導入には積極的でありたい。
・ 知識・理解と思考・判断のバランスについても検討を加えたい。
・ 学生の状況に応じた関わりの柔軟な変更については，さらに訓練をしていきたい。

⑨授業科目名【保育の心理学Ⅱ】福祉学科子ども家庭福祉コース３年前期　必修１単位
＜準備＞
・ 保育の心理学Ⅰでの学びを受け，より実践的な課題を多く取り入れて，子ども理解と保育の理解を進められるように展開してきている。
・ 今回より授業内容を見直し，具体的な事例を元に考えさせる課題を多く含むテキストを用意した。
・ オリエンテーションにおける説明をさらに具体的にして，ねらい別の評価基準・評価対象・配点を明確にした表を提示した。また，毎回の流れと作業課題を明確に示して，事前学習を促すようにした。
・ 課題は多くあるものの提出するレポートは絞り込みメリハリを付けた。
＜評価＞
１．アウトカム
・ ＤＰ１：新たな知識　一昨年度 3.4 ⇒昨年度 3.7⇒本年度 4.1（学科平均 3.9）
理解の視点 3.3⇒3.6⇒3.9（学科平均 3.5），
・ ＤＰ２：課題検討 3.2⇒3.6⇒3.7（学科平均 3.5）
判断 3.1⇒3.6⇒3.9（学科平均 3.5），
・ ＤＰ３：3.2⇒3.8⇒4.1（学科平均 3.6）
・ ＤＰ５：技術 2.8⇒3.7⇒3.8（学科平均 3.6）
表現力 2.9⇒3.7⇒4.2（学科平均 3.6）
２．プロセス評価：
・ 全般に参加度，計画性は高く，学習が深まった印象を持っている。
・ 教材を改善し，比較的円滑に進めることが出来るようになったと思われる。
・ ポストイットイーゼル® を用いて発表を行ったほか，教員も事前に課題に対する自分の考えを整理したイーゼルを作成して，解説を行った。学生たちの中には，写真として保存して帰る姿も見られ，復習にも役立つことが確認された。

・　授業の質に関しては，下記の様に平均的であった。

評価基準の明確さ	4.1（学科平均 3.8）
課題の明確さ	4.2（学科平均 3.8）
理解しやすさ	3.9（学科平均 3.7）
参加機会	4.4（学科平均 3.7）
質問の機会	4.1（学科平均 3.7）

＜まとめ＞

・　目標はやや達成されたという状況であり，学生の受講動機の向上を図ることができた。

⑩授業科目名【保育実践演習】福祉学科子ども家庭福祉コース４年通年　必修２単位

＜担当＞

・　本科目は担当教員グループが分業と協業によって構成されており，教員は各担当箇所での参加，担当を越えて共通参加での参加を行う。谷川の担当箇所は「保育の現代的課題」というテーマのうち「健康障害」である。学生は，病気の子どもの保育に関する基本的知識と病院における日常的遊び活動について学ぶ。

＜担当箇所業務の評価＞

・　積極的な参加が得られ，課題に取り組んでいた。

⑪授業科目名【専門研究Ⅰ】福祉学科３年　必修２単位

・　学生の興味関心を柱において，問題を地球することを重視した。また，現場の実践者との交流の機会を大切にした。
・　学生の興味関心を深めるために必要な基礎的な事項を押さえることができた。
・　自らの興味関心に基づいて課題を決めて取り組みはじめたところであり，問題追及，課題解決のスキルはこれからである。
・　学生の興味関心に応じて進め，課題ハ明確になっている。また，現場との繋がりに意欲的である。今後，卒業に向けて取り組みを進めていきたい。

⑫授業科目名【専門研究Ⅱ】福祉学科４年　必修２単位

本年度は履修者がなかった。

⑬授業科目名【卒業論文】　福祉学科４年　選択４単位

本年度は履修者がなかった。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本医療保育学会	理事　2009 年８月まで 理事　2015 年６月から現在に至る	1997 年６月
全国病弱教育研究会	副会長	1992 年７月
日本特殊教育学会		1992 年２月
日本心理臨床学会		1992 年４月
日本小児保健協会		1995 年４月
日本造血細胞移植学会		1996 年 12 月
Child Life Council		1998 年８月
日本小児看護学会		1999 年４月
日本育療学会		2009 年 10 月
日本教育心理学会		
日本小児血液・小児がん学会		

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修プログラム集　第９集：小児医療の現場で多職種が連携・協働していく為に求められること	共	2018 年 3 月 21 日	私製 http://kota.la.coocan.jp	科研費による研究の成果として作成された研修プログラム集である。本研究の柱の一つである「共同の学びの場をつくる力」の育成について，調査研究に基づいて検討した。 A4 判，総ページ数 40 ページ。 JSPS KAKENHI Grant Number 15K04581 による助成を受けて作成。 執筆者　濱中喜代，谷川弘治，甲斐恭子，小林京子，小野鈴奈 谷川の分担 第１章　４．職場内，職場間の連携と協働を進めるために(pp.10-16) 第２章　２．小児医療の現場で多職種が連携・協働していく為に教師に求められること(pp.24-26) 第２章　４．総括(pp.26-27) 第３章　職種を越えて学び・支え合う場を構成する中でのスタッフの成長(pp.28-34) 第４章　小児の医療現場における多職種連携・協働を学ぶ研修プログラム(pp.35-40)
多職種合同ワークショップ「病気の子どものトータルケアセミナー」研修資料集　第１集：遊びのイロハ～子どもにとっての遊びの本質とその必要性を見つめよう！	共	2018 年 2 月 28 日	私製 http://kota.la.coocan.jp	研修資料集は多職種で学ぶに相応しいテーマについて資料を提供するものである。ここでは遊びを捉える視点を深めることを目指した原純子氏の講演とグループワークを整理した。 A4 判，総ページ数 54 ページ。 JSPS KAKENHI Grant Number 15K04581 による助成を受けて作成。 執筆者：原純子，吉川由希子，大阪セミナースタッフ 谷川の役割：研修資料集の編集作業

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 病棟保育における実践過程の評価について−対話モデルによる分析試論 （査読あり）	単	2018年3月	日本医療保育学会 医療と保育 16(1) 8-16	1年間を見通して子どもたちとかかわる保育所保育に比べ，病棟保育の実践は新たな対象との出会いが続き，対象の個別性が強く，課題は焦点化され，日々の状況変化に柔軟に対応しなければならないという特性を有している。このような病棟保育の実践過程を統一的に捉え，評価する枠組が求められているが，ここでは対話モデルによる病棟保育の実践過程評価の有効性と課題を検討することを目的とし，公表されている病棟保育の実践報告を対象として対話モデルによる分析を実施した。
（翻訳） なし				
（学会発表） 小児医療の現場における多職種連携の現状と課題〜医療従事者・保育士・教師間のフォーカスグループインタビューから	共	2017年6月29日〜7月1日	第64回日本小児保健協会学術集会 （大阪国際会議場）	小児医療の現場における多職種連携の現状と課題について医療従事者・保育士・教師間のフォーカスグループインタビューを実施，各職種の見方を比較，整理し，多職種で協働していくために必要な力を抽出した。 甲斐恭子，濱中喜代，小林京子，小野鈴奈，谷川弘治
医療保育における実践過程の評価について〜対話モデルによる分析試論	単	2016年6月10日〜11日	日本医療保育学会第22回総会・学術集会 （自治医科大学地域医療情報研修センター）	対話モデルによる病棟保育の実践過程評価の有効性と課題を検討することを目的とし，公表されている病棟保育の実践報告を対象として対話モデルによる分析を実施した。
特別支援教育担当教員の小児医療における協働・連携	共	2017年8月26日〜27日	日本育療学会第21回学術集会 （ホテルグランヴェール岐山）	小児医療の現場における多職種連携の現状と課題について医療従事者・保育士・教師間のフォーカスグループインタビューの結果を受けて，とくに教師に求められることを考察した。 甲斐恭子，濱中喜代，谷川弘治

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
多職種で学び合う地域ネットワークづくりからみた大学の役割	単	2018年3月3日～4日	大学評価学会第 15 回全国大会（別府大学）	病気のこどものトータルケアセミナーin福岡を運営するスタッフの成長過程と学生参加の過程を振り返り，大学の役割を考察した。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
冊子『臨床におけることばの運用から見た医療保育と病弱保育』の作成	保健福祉学部附属保健福祉学研究所	○文屋典子　谷川弘治　豊永絵里	155,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
医療保育、病弱教育に関する多職種合同研修システムの質的向上・普及の研究 15K04581	日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C）	3年間の直接経費 3,600,000 2017年度直接経費 1,000,000	
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	2017 年度共同研究費	1,743,080	

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
修猷館高校出前講座（「臨床の知」にアプローチする　医療フィールドを例に）	講師	2017年11月3日（福岡県立修猷館高等学校）
平成 29 年度特別支援中核教員養成講座（特別支援学校教諭免許状取得コース）「病弱児の心理・生理・病理」	講師	2017年10月16日（福岡県教育センター）
第15回全国病弱教育研究会大阪大会	第4分科会　ファシリテーター	2018年1月21日（宝塚大学梅田キャンパス）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
1. 保健福祉学部長（2015 年 4 月から，現在に至る） 2. 学校法人西南女学院理事（2015 年 4 月から，現在に至る） 3. 入試会議メンバー（2015 年 4 月から，現在に至る） 4. 倫理審査委員会委員長（2015 年 4 月から，現在に至る） 5. 動物実験委員会委員長（2015 年 4 月から，現在に至る） 6. 公的研究費統括管理責任者（2016 年 9 月から，現在に至る） 7. 保健福祉学部附属保健福祉学研究所長（2015 年 4 月から，現在に至る） 8. 教学マネジメント検討会メンバー（2015 年 4 月から，現在に至る） 9. 地域連携室室長（2016 年 8 月から，現在に至る） 10. 副学長（2017 年 4 月から，現在に至る） 11. 子ども・子育て支援専門職養成の将来構想に関する検討会　とりまとめ（2017 年度から，現在に至る）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　稲 木　光 晴	職名　　教授	学位　博士（体育科学）（筑波大学，1994 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
運動生理学	筋疲労，持久性パフォーマンス，持久性鍛錬者

研　　究　　課　　題
持久性競技パフォーマンスの向上に関する研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
健康科学（前期）（看護学科） 健康科学（前期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（看護学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（栄養学科） 健康科学実習Ⅰ（前期）（英語，観光文化学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（看護学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（福祉学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（栄養学科） 健康科学実習Ⅱ（後期）（英語，観光文化学科） 運動処方論（後期）（福祉学科） 保育実践演習（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 母性の運動科学（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【健康科学】 1. 生理学的メカニズムなど、理解に時間を要すると思われる事柄については、繰り返しモデルの提示を行った。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する質問がある場合には紙に書いて提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにした。
授業科目名【健康科学実習Ⅰ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. チームで練習をしたり、試合内容などについて意見交換したりすることによって、十分にコミュニケーションを図れるようにした。

授業科目名【健康科学実習Ⅱ】 1. カロリーカウンターを使って、実際の運動と消費カロリーを関連づけさせた。 2. 学生主体でラケットスポーツの練習や試合を行わせることにより、自分たちにあった練習の仕方や試合の進め方を考えさせた。
授業科目名【運動処方論】 1. 机間指導や質問をすることによって、学生の理解度合いをチェックしながら授業を進めた。 2. 授業の最初に小テストをすることで、授業の復習ができ、内容を理解しているかのチェックを行った。
授業科目名【母性の運動科学】 1. 妊婦運動の効果について、最新の情報を提供するように努めた。 2. 授業の終わりに、授業内容に関する感想や質問を紙に書いて提出してもらい、質問については次回の授業で答えるようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本体力医学会 American College of Sports Medicine	評議員（1999 年～）	1988 年 4 月～現在に至る 1993 年 4 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について	共	2017. 10	日本家政学会九州支部第63回大会	① スポーツ施設を利用する地域在住高齢者を対象として、生活状況や身体状況を探るため、アンケート調査及び身体計測（組成測定）、握力測定、血色素測定（ヘモグロビン推定値の測定）を行い、その実態の把握を行った。 ② 共同発表者　山田志麻　山本佳代子　石井愛子　稲木光晴
				教育研究業績　総数　(2018. 4. 11現在) 著　書　6（内訳　単 0, 共 6） 学術論文　32（内訳　単 0, 共32） その他　9（内訳　単 3, 共 6） 学会発表　50（内訳　単 0, 共 50）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
1. 児童及び保護者を対象とした日本伝統文化の啓発活動（だいすきにっぽん）の展開と検証	西南女学院大学共同研究費	○青木るみ子 藤田稔子 稲木光晴 上村眞男 谷川弘治	712, 000
2. 部活学生の栄養状態や身体組成の実態調査と栄養介入後の変化に関する研究	西南女学院大学共同研究費	○山田志麻 稲木光晴 阿部弘 石井愛子 山本佳代子	1, 269, 000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称	役職名等	任期

（内　　容）		期　　間　　等
1.　シニアサマーカレッジ からだと頭を使って「活き活き長寿」	講師	2017年7月28日（本学）
2.　だいすきにっぽん―子どもたちに伝えたい「食」と「あそび」と「ことば」	スタッフ	2017年6月24日、8月23日、11月25日、12月16日、2018年1月20日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
福祉学科長 人事委員長 陸上部顧問

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　山根　正夫	職名　　教授	学位　　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
障害児保育・発達障害児（者）の援助方法・応用行動分析・保育ソーシャルワーク	障害児保育・発達障害・自閉スペクトラム障害・応用行動分析・保育ソーシャルワーク

研　究　課　題
障害児・者の援助全般について行動分析的視点から考察する。

担　当　授　業　科　目
保育者論、子ども家庭福祉論、障害者福祉論、障害児保育、社会的養護、社会的養護内容、相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、保育総合演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、保育実習Ⅰ・保育実習Ⅲ、専門研究Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　保育者論　】 子ども家庭福祉コース１年次後期開設の授業で、導入として大切な科目であり、基礎的な内容の理解を促すために、テキストとの予習を兼ねたノート作りと毎回の学生によるプレゼンテーション及び教員の解説とディスカションで授業を組み立てた。
授業科目名【子ども家庭福祉論・障害者福祉論】 社会福祉士養成のための必修科目であり、レジメを準備しパワーポイントを利用して講義した。レジメや時々のトピックスの論文などを適宜配布し、両科目の理解の深化に勤めた。レジメについては毎年空欄を作って書き込めるようにしてほしいという要望があるが、何が大事か強調されているのかについての認知力を高めるためにレジメを作成していることを学生に説明している。
授業科目名【障害児保育　】 演習系科目であり、副読本についてノート作成し定期的に提出させ、点検の上返却した。今年の授業の大半のコマは、課題に沿って担当学生を決め、プログラム準備、プレゼンテーション、ディスカッション、教員による解説の流れで授業を進めた。学生にとって自分の担当課題は理解が深まっているがそれ以外の講義内容の理解についてはばらつきが大きい。来年度も学生の主体的学習を深めさせたい。
授業科目名【　相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ　】 授業の方法はほぼ共通であるが、Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ（Ⅴの後半部分はコミュニティワーク）については、現代の児童家庭の課題を示しそれについて学生が調べ、プレゼンテーション・討議を通して学習を深める方法をとった。学生がやや制度面にだけ焦点が向けられきらいがあり、個々の生活実態の臨床的な側面からの学習の深化を得られなかったのではないかと危惧している。来年度はこの点を踏まえ、授業を進めていきたい。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本特殊教育学会 日本行動分析学会 日本発達障害学会 日本福祉学会 日本保育学会 福岡教育大学付属障害児治療教育センター研究部員 日本保育ソーシャルワーク学会		昭和51年4月～ 昭和61年4月～ 平成7年9月～ 平成12年11月～ 平成22年4月～ 平成28年～

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 平成 29 年度発達障害シンポジウム 平成 29 年度乳幼児教育学会シンポジウム		平成29年11月 平成29年11月		発達障害者の家族支援についてのシンポジウムでコーディネーターを務めた。 ABI（活動に根ざした介入）に関するシンポジウムでコーディネーターを務めた

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州市児童福祉施設等第３者評価委員会委員		平成 28 年 4 月～平成 30 年 3 月
北九州市発達障害児（者）支援体制整備検討委員会委員		平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
北九州市福祉事業団評議員		平成 29 年 11 月～
社会福祉法人福音会評議員		平成 29 年 11 月～
社会福祉法人喜久茂会理事		平成 29 年 4 月～平成 31 年 3 月
北九州市社会福祉審議会委員		平成 27 年 11 月～平成 30 年 10 月
北九州市社会福祉協議会評議員		平成 29 年 4 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室室長 宗教委員会委員 倫理審査委員会委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　岡　田　和　敏	職名　　教　授	学位　修士（社会学）（佛教大学　1984 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	医療福祉、保健医療福祉制度

研　究　課　題
医療ソーシャルワーク実践における障害者、高齢者、難病患者の諸問題に関する研究

担　当　授　業　科　目
地域福祉論　(2 年前・後期) 医療福祉論　(2 年前期) 福祉行財政と福祉計画（3 年前期） 社会福祉特講（4 年後期） 相談援助演習　Ⅰ（1 年後期） 相談援助演習　Ⅱ（2 年前期） 相談援助演習　Ⅲ（2 年後期） 相談援助演習　Ⅳ（3 年前期） 相談援助演習　Ⅴ（3 年後期） 相談援助実習指導　Ⅰ（2 年前・後期） 相談援助実習指導　Ⅱ（3 年前・後期） 相談援助実習（3・4 年） 専門研究　Ⅰ 専門研究　Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　地域福祉論　】 社会福祉の動向において「自立支援」「連携」「地域福祉」などが強く求められている時代であることを強調域で暮らす人々の生活をいかに支援していくかについて指摘するとともに、新聞記事などの活用を図り、講義が理解できるようにした。
授業科目名【　医療福祉論　】 身近な問題であるが、国家試験での正答率が低い。その為、基礎的な理解ができ、医療が身近な問題で誰しもに共通するものであることを説明し、医療保険制度の仕組み、年金制度、社会福祉との関係性についてと医療機関における専門職としての社会福祉士の役割について講義した。

授業科目名【福祉行財政と福祉計画】

社会保障制度を構築するうえで、必要になるのが財源である。福祉行財政の実際と実施体制について解説し、福祉行政の骨格や法制度、社会福祉の基礎構造改革、支援体制の実際を取り上げて解説した。

また、各種福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明し、計画策定の実際を解説した。

授業科目名【社会福祉特講　Ⅱ】

最新動向を理解できる

社会福祉の領域、特に福祉行財政と福祉計画のにおける制度・政策の最新動向について複数の講師とともにオムニバス方式で講義を行った。『福祉行財政と福祉計画の動向』『保健医療施策の動向』を担当し講義した。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅰ】

社会福祉士に求められる、自己覚知、コミュニケーション技術、個人・家族・集団・地域社会などへの支援を行う際に必要な基本的な面接技術についてをロールプレイ、グループワーク、グループ討議などを交え、体験的に学ばせた。また、現在生じている福祉的課題・問題についてグループで調べさせ発表させた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅱ】

　ソーシャルワークに関するテキストの事例をもとに、ソーシャルワークの展開過程について学び、ソーシャルワーカーが持たなければならない視点や援助の実践についてを考えさせる形で学ばせた。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅲ・Ⅳ　】

　問題の実情、社会的把握、援助の過程、アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発など相談援助の方法、技術について、医療ソーシャルワークの事例を用い、何を考え、調べ、援助をどのように展開して行くかについて学生の考えを聞きながら解説した。

授業科目名【　相談援助演習　Ⅴ　】

　地域福祉の問題の実情、社会的背景、援助のプロセス、地域住民へのアウトリーチ・ニーズ把握、地域福祉計画、サービス評価についてを地域福祉の基盤と開発に係る実践事例をもとに学ばせた。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅰ　】

　医療領域を担当。他の領域と指導内容は同じであるが、特殊性と専門性をもつ医療領域において、ソーシャルワークを如何に展開していくかイメージ出来るよう資料やビデオを活用し講義した。

授業科目名【　相談援助実習指導　Ⅱ　】

　他の社会福祉領域と実習する上では特別ではないが、医療機関の特殊性から、現場実習であってもより実践場面で活動が出来るよう、興味、疑問、不安などに対して個別に指導した。配属実習については一人ひとりの特性に応じ配属に繋げた。

授業科目名【　相談援助実習　】

　学生の希望を聞くとともに適正に配慮しながら配属先を決めた。また、各医療機関のソーシャルワーカーとの調整を行い、実習生の個別的な指導を行った。

授業科目名【　社会福祉特講　Ⅱ　】

　本講義は、6名の教員によるオムニバス方式で、「保健医療施策の動向」を2コマ担当した。保健医療機関に社会福祉士国家資格を持つ医療ソーシャルワーカーがいる意味と実践活動する際に必要となる知識の習得を目指した講義を行った。

授業科目名【　専門研究　Ⅰ　】 　病気やケガを中心に据え、各自が考え、気付き、そして、人々の生活課題から研究してみたくなったことを見つけられるよう指導した。
授業科目名【　専門研究　Ⅰ　】 　専門研究Ⅰから各自が気づき研究していくテーマについて個別に指導している。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1990 年 10 月～現在に至る
福岡県医療ソーシャルワーカー協会		1985 年 4 月～現在に至る
佐賀県医療ソーシャルワーカー協会		1998 年 6 月～現在に至る
日本医療社会社会福祉協会		1998 年 4 月～現在に至る
福岡県社会福祉士会	外部理事(2010 年 4 月～2018 年 6 月 24 日総会まで)	2010 年 4 月～現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 4 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） （その他） 地域活動について	単	6/22　9/26 11/22	北九州市立年長者研修大学校「穴生学舎」	研修講師
介護職員初任者研修	単	5/30　6/2 6/6　6/9 6/13　6/16 6/23　7/18 7/21		
				教育研究業績　総数（2017. 3. 31 現在） 著　書　0（内訳　単　共　） 学術論文0（内訳　単　共　） 翻訳　0（内訳　単　共　） 学会発表0（内訳　単　共　） その他　12（内訳　単　12　共　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市民生委員推薦委員会	委員	2017 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
北九州市福祉有償運送運営協議会	会長	2005 年 8 月～現在に至る
北九州市小倉南区社会福祉協議会評議員	評議員	2017 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日
北九州市民カレッジ企画運営委員会	運営委員	2013 年 12 月 1 日～2015 年 11 月 30 日
北九州市社会福祉協議会ふれあいネットワーク第三者委員会	委員	2016 年 5 月～2017 年 3 月 31 日
公益社団法人北九州市障害福祉ボランティア協会	理事長	2013 年 5 月～現在に至る
社会福祉法人　北九州精神保健福祉事業協会評議委員会	評議員	2017年 4 月1日～2021年 3 月 31 日
社会福祉法人孝徳会苦情解決委員会	第三者委員長	2003 年 4 月～現在に至る
入所判定委員会	委員長	2003 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人　敬寿会	理事・評議員	2017 年 6 月 27 日～2019年 6 月定時評議員会
特定非営利法人　生活支援館「パートナー」	理事	2002 年 3 月～現在に至る
社会福祉法人　療養介護事業所「ひなた家」	理事	2017年 6 月 15 日～2019 年 6 月 14 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
①　職員研修懇談会　学・短期大学部分科会　議長 職員研修懇談会の企画を行い、2017 年 8 月 21 日（月） 「大学・短期大学部の新たな学生募集戦略を探る」 －西南女学院（大学・短大部）全体の魅力・イメージを明確にして－ をテーマとして行った。 ②　就職委員会委員 ③　学生支援においては、これまで通り介護職員初任者研修（ホームヘルパー２級）の資格を取得出来るよう外部事業所との調整と講義の担当を行っている。

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　古 川 敬 康	職名　　教　　授	学位　博　士（哲　学） (The Southern Baptist Theological Seminary 1994 年)

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
メタファー論、説教のための解釈学と修辞学、喪失心理学	弁証法的メタファー、文学的解釈、悲嘆作業による意味論的癒し

研　　究　　課　　題
現代人が喪失心理学の示す悲嘆作業を経ての癒しを説教への傾聴により体験できるよう、何をどのように説教は語られることを求められているか。 具体的には、１）喪失体験に基づくメタファー的に表現されている聖書の福音の意味を明らかにする文学的解釈を行うこと、２）使信が聴き手にとって癒しの出来事となるように、福音の意味を表現する修辞学的なメタファーの活用法を明らかにすることである。

担　　当　　授　　業　　科　　目
キリスト教学Ⅰ（前期）（看護学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（福祉学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（英語学科） キリスト教学Ⅰ（前期）（観光文化学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（看護学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（福祉学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（英語学科） キリスト教学Ⅱ（後期）（観光文化学科） 宗教と人間（前期）（看護学科） 宗教と人間（前期）（英語学科） 宗教と人間（前期）（観光文化学科） 宗教と人間（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 卒業論文　（通年）（福祉学科） キリスト教と生命倫理（前期）（助産別科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キリスト教学Ⅰ】 学生と教員の集中力向上のために祈りをもって始めた。前期と後期の授業内容を１冊の教科書にまとめており、前期後期を問わずに縦横に講義ができた。また学生は、予復習がテキストによりできた。進むに当たっては、学生のほとんどにキリスト教の背景がないため、テーマ毎にレジメを配布し、理解が出来たかを質問し確認することを心掛けた。加えて、当該授業の講義の位置づけをその都度繰り返し明示して、全体の流れの中で確認できるように努めた。板書は、イメージしやすいように図解を心掛けた。 授業内容はシラバスに従って建学の精神である「感恩奉仕」の精神の背景にあるキリスト教を学術的に現代の問題に絡めて説明し、その今日的意義を理解できるように工夫した。天地創造からキリスト出現の予言までを扱った。 学問的な「批判力」の意義と、批判力の基準としての聖書の価値観を説明し、学生自身が自己の存在意義を意味論から理解を深めるように具体的例を取り上げ、また、学生同士で折々に語りあう機会を持つ工夫をした。

テストは、問題を予め提示し、学生が共同して準備するように指導し、十分復習して理解し自分で表現できる力を具えるように工夫した。

授業科目名授業科目名【キリスト教学Ⅱ】

前期の学びを復習した上で、キリスト教の成立過程、イエス・キリストに対する信仰内容、イエス・キリストの示す神の愛の理解、その愛に照らしての自己理解、及び、奉仕の精神の重要性につき、理解し深めることができるように、前期と同じ方法による工夫をした。すなわち、イエス・キリストの説いた神の国、愛と赦しの教えと癒しの活動、その死と復活と昇天の物語を通して、それぞれの場面で何が大切なこととされているかを、実生活と結びつけながら理解できるように工夫した。

また、前期のテストの総評、良く理解している答案とはどういうものが具体的に示して、後期の授業を受けるに当たって理解力を向上できるように工夫をした。

更に、学生の前期の授業評価に鑑み、後期は、愛、赦し、癒しのテーマに関しては、板書を重視し、学生が自ら考えながら授業を受けるような工夫をした。ただ、その箇所も、学生が要点を再確認できるように最後にはまとめた内容をプリントで配布した。

授業科目名【　宗教と人間　】

「人間性」に関して、学生がキリスト教学で培われた批判力を、さらに身につけることができるよう、シラバスに従い、異なる宗教、すなわち、神道、仏教、キリスト教、イスラム教、ユダヤ教を比較した。具体的には、生活に密着したテーマにそってそれぞれの宗教の特徴と相違点を再確認し理解を深める機会を多く持った。関連のビデオ鑑賞を取り入れ、宗教に関する知識を実生活と関連させて統合できるように工夫した。さらに、講義の位置づけを全体の流れの中で確認できるよう頻繁に努めた。復習がし易いように、プリントを作成し、配布した。また少人数の授業であったことから、学生との対話とその参加の機会が若干多くなる工夫をした。

またテスト前には、総復習として、他の宗教と比較により、それぞれの特徴を再確認できるように工夫した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

学生が意味論に関する基礎的理解を修得することから始め、続いてＶ・フランクルの意味論の全体像を学ぶことを目指し、その上で、喪失心理学、死生学における意味論に関する専門書を読むことができるように指導した。また、まとめ方を具体的に指導した。学生がアドラー心理学との比較に強い関心を抱いたため、その比較を取り入れた。

後半は、テーマに関する研究書を早く、多く読み、大切な個所を見出す方法を指導した。さらに、学生が養護教員を目指していることに鑑み、カール・ロジャーズの臨床心理学を意味論から研究することも取り入れ、意味論からのその意義を探求した。その上で、学生自らが、これらの専門書を読み込み、他の学生に解説し、ディスカッションを導けるように指導した。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】

専門研究Ⅰで学んだＶ・フランクルの意味論に関する基礎的理解を前提に、各学生が自分の研究テーマを設定するように指導した。そのテーマに沿って専門的知識の習得として、理解を深め、研究論文を完成させるように指導した。その際、独自の研究となるように指導を工夫した。

9 人の学生が、フランクルの意味論を前提としながらも、異なる研究テーマを選んだので、ゼミでは、各自がどこまでをどのように論文完成に向けて研究したかを発表し、他の者が質問をしたり意見を述べ、研究内容を深めるように協力し合う方法を工夫した。論文の作成に当たっては、構成の重要性を理解できるように指導に工夫した。

授業科目名【　卒業　論文　】

学生が卒論のテーマにそって、論旨を展開する構成をできるように論理の力を修得できるように工夫した。その論理的思考力をつける具体的方法として、専門研究Ⅱでの成果を卒論テーマにそって必要十分であるかを検討し、研究を自ら深めることができる力を養えるように指導した。さらに、資料の収集に当たっては、テーマとの関連のあるものを残すことができる能力、その中の重要度の濃淡の基準を設定することができる能力、それを論文に実際に用いることができる能力が培われるように指導した。特に、方法論、先行研究的なものの存在、文献リストの検討、結論がはじめの問題提起に対して適切な応答となっているかという点については、幾度も確認することを指導した。4 名の学生が各１本ずつ卒論を完成させることができたが、今年度は、資料の重要性を見極めて、資料を厳選することができるように指導に工夫した。例えば、「現代若者の生きづらさ」というテーマの卒論指導に当たっては、精神医療でご専門の平田健太郎氏の助言も頂いて、その分野の専門書

の選択も厳選し、その上で意味論的な考察をするように指導した。
授業科目名【キリスト教と生命倫理】 助産師を目指す学生の多くにとり、初めてのキリスト教であるので、前半はキリスト教の基礎的知識を扱い、その後で、キリスト教から見た生命の尊さ、生命の誕生、死の意味を扱った。続いて、優生学、ＤＶの夫婦関係、離婚などに関するキリスト教の物の見方を解説した。その上で、助産師としての自己アイデンティティ、助産師の直面する死産や五体不満足児のケアの課題なども取り上げるように努めた。プリントを配布して理解と復習がしやすいように工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
Academy of Homiletics		1991 年（平成３年）10 月
日本キリスト教教育学会		1993 年（平成５年）10 月
日本基督教学会	幹事（2007 年４月～現在に至る） 事務局（2016 年４月～現在に至る）	1993 年（平成５年）10 月
日本キリスト教社会福祉学会		1994 年（平成６年）７月
日本新約学会		1994 年（平成６年）９月
関西新約聖書学会		2010 年（平成 22 年）６月
なお、日本キリスト教文化学会	前理事（1993 年４月～2017 年３月）	1993 年（平成５年）４月

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） １．キリスト教概論ー新たなキリスト教の架け橋（第４刷）	単	2018.3	勁草書房	①　2014 年４月初版のものを、2018 年に増刷するに当たり若干の修正を行った。 ②　著者名　古川敬康 ③　総頁数　P224　（本文P216） 20.8×14.8
（学術論文） 「説教における弁証法的メタファー：不一致と類似性」	単	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.　22	①　メタファーの本質論に関するアリストテレスの修辞学的立場、I.A.. リチャーズの哲学的修辞学の立場、G. レイコフと M. ジョンソンの提唱する認知意味論の立場、それに P. リクールの哲学的解釈学の立場という４つの代表的立場を、弁証法的神学の立場による説教論に立脚して批判的に分析し、啓示としての聖書の使信を告げる説教における弁証法的メタファーにとって、適切なメタファー論は何かを提言する試論である。 ②　著者名　古川敬康 ③　総頁数　P．33-44 ④　A4

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究　―　教養教育を中心として　―	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 （林楽常） （呉雲珠） （張暁鵬）	1,229,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人北九州ナオミ福祉会	理事	2004 年（平成 16 年）4 月 ～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

（本部関係）
理事、評議会委員、連絡協議会委員、運営協議会委員、
学院宗教主任、拡大宗教委員会議長、宗教主事会議長
キリスト教センター長、キリスト教センター便り編集委員長、キリスト教教育研究会事務局長、
維持会常任幹事、職員研修懇談会職員研修委員会委員
寄付行為変更検討委員会委員
その他、職務上必要的に出席するもの：
幼稚園運営会議・卒園式、中高入学式・卒業式・入試判定会議、後援会役員会・総会、同窓会総会

（大学）
宗教主事、宗教委員会議長、運営会議構成員、
非構成委員であるが職務上出席するもの：評議会、点検評価改善会議構成員、
その他：2016 年度昇格選考人事委員会依頼の選考、
学友会関係：ＩＴＫイラストサークル顧問、映像制作愛好会顧問（本年度限りで解散）、
LOD ダンスサークル顧問

（大学短期大学部）
宗教主事

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　杉谷修一	職名　　准教授	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
教育社会学	子ども、遊び、社会化、相互行為、ニューメディア、ゲーミフィケーション

研　究　課　題
(1) 相互行為としての子どもの遊びにおけるシンボルの役割とそれをめぐる秩序形成に関する研究。 (2)教育におけるゲーミフィケーションの社会学的分析に関する研究。 (3)ニューメディアと子どもの社会関係に関する研究。

担　当　授　業　科　目
道徳教育の理論と実践（前期）（看護学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（福祉学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（栄養学科） 道徳教育の理論と実践（前期）（英語学科） 社会調査の基礎（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（看護学科） 現代と教育（前期）（福祉学科） 現代と教育（前期）（栄養学科） 現代と教育（前期）（英語学科） 現代と教育（前期）（観光文化学科） 教育原理（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（看護学科） 教育社会学（後期）（福祉学科） 教育社会学（後期）（栄養学科） 教育社会学（後期）（英語学科） 社会学概論（後期）（福祉学科） 基礎演習（通年）（福祉学科） 教職実践演習（後期） 教育実習Ｉ（福祉学科） 養護実習（福祉学科） 事前および事後の指導三期にわたる）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　道徳教育の理論と実践　】 道徳の理論に関する学習にとどまらず、教育現場での道徳教育の実践と結びついた力を養うことを心がけた。次期学習指導要領改訂など現在進行中の道徳教育の改革動向も踏まえ、特に授業としての道徳の観点から、学習指導案の構造と基本的な書き方を身に着けさせ、模擬授業と事後指導を全体で共有した。授業づくりの基本的ルールを具体的な指導案に反映させる工夫を行った。また視聴覚教材をはじめ、児童生徒にわかりやすい教材づくりを具体的に紹介した。また、アクティブ・ラーニング等新学習指導要領について解説した。

授業科目名【　社会調査の基礎　】 国家試験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、基礎をくりかえし学習することで確実に理解できるよう心がけた。特に統計に関連する分野では、計算をさせるのではなく、統計手法が何を意味し、何の役に立つのかという観点から学習を組み立てた。具体的な例、概念図などを工夫して理解を助けた。
授業科目名【　現代と教育　】 現代の子どもの遊び文化の特徴を解説し、それと比較する形で昔の遊びの変遷をたどった。特に社会的・文化的な条件が遊びに与える影響をルール・道具・名称・機能等との関連で整理し、遊び研究が単なる遊びカタログの解説とは違う点に注目させた。その上で、改めて現代の遊びを巡る状況と将来展望について論じた。遊びの様子を理解させるために伝統玩具の製作プロセスのビデオを解説し、玩具の実物を手にとって理解できるよう心がけた。現代の動向についてはＶＲやＡＲなど仮想空間上の遊びと現実の遊びや消費行動との結びつきについて解説した。
授業科目名【　教育社会学　】 子どもの発達社会学というテーマについて、家族・地域・学校といった社会化の場の相互関連をイメージさせながら授業を行った。社会化の場としての学校・地域・家族の関連を近代以降の変遷を通じて解説し、そのための補助教材を工夫した。テキストで不十分な箇所についてはビデオ教材や別資料をもとにしたレジュメ・スライドを作成した
授業科目名【　社会学概論　】 国家試験受験科目の中でも学生が不得意な分野であるため、社会学の抽象的概念を具体例で考えられるように工夫した。特にモデル図や具体例を多用したレジュメを準備し、丸覚えではなく理解できることを目指した。また、途中で復習の授業を取り入れ、キーワードや問の立て方などを示したプリントを配布し、負担を軽減しながら理解を促した。今期は動画の活用なども試みた。授業後の質疑応答なども積極的に活用した。新しい試みとして、抽象的な概念を映画のシーンなどを教材として活用した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育社会学会 九州教育社会学会 日本教育学会 九州教育学会 日本社会学会 日本教育方法学会	九州教育学会紀要編集委員（2009 年 4 月～2011 年 3 月、2016 年 3 月～2016 年 12 月）	1985 年 6 月～現在に至る 1985 年 6 月～現在に至る 1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 5 月～現在に至る 1990 年 11 月～現在に至る 1997 年 5 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 学習ツールとしてのゲーミフィケーションの可能性	単	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22	① 授業や教育的プログラムなど広い意味で学習が行われる場面に応用されてきたゲーミフィケーションについて、その特徴と可能性について検討した。 ② 杉谷修一 ③ （P71～P80）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
特定非営利活動法人生涯学習指導者育成ネットワーク	生涯学習指導者育成セミナー講師	2007.9～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員　２０１４年4月１日～現在に至る 教員免許更新講習プロジェクト（教育部門担当者）　２０１２年4月１日～２０１８年3月３１日

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　木村　茂喜	職名　　准教授	学位　修士（法学）（九州大学　1997年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会保障法	社会福祉、責任、児童の権利、社会的孤立、触法者等

研　究　課　題
福祉サービスにおける各主体の責任分担 権利主体としての児童を対象とする社会的支援のあり方 社会的孤立の状態にある触法者等に対する社会保障のあり方

担　当　授　業　科　目
法学概論(前期)(看護学科) 法学概論(前期)(福祉学科) 法学概論(前期)(栄養学科) 日本国憲法(後期)(看護学科) 日本国憲法(後期)(福祉学科) 日本国憲法(後期)(栄養学科) 社会保障論 公的扶助論(前期) 司法福祉論(前期) 権利擁護論(後期) 基礎演習 専門研究Ⅰ 専門研究Ⅱ 社会福祉特講Ⅱ（集中）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【全講義科目】限られた時間により多くの情報を学生に提供するため、詳細なレジュメや資料を配布した。レジュメ・資料を配布の際は、あらかじめ power point に枚数等の掲示を行った。講義は主に power point を用いて行い、学生の講義内容の理解の一助のため、写真・図表・グラフ・アニメーション等を多用して講義を行った。また、講義の冒頭においては、講義内容の継続性の確認および講義内容の理解をより確かなものにするため、「前回のおさらい」と題して前回の講義の要点を説明するとともに、学生が当日の講義内容・要点をあらかじめ認識するために、当日の講義内容に関する「本日のキーワード」を掲げた。さらに、やむなく欠席した学生への便宜を図るほか、学生が講義内容を復習・確認するための一助とするため、配布レジュメ・資料については、講義後に本学サーバに.pdf 方式でアップロードし、履修学生および希望する学生が自由にダウンロードすることを可能にした。
授業科目名【法学概論】講義中に生活に密着した具体的な事例を適宜挙げ、「法」がさまざまな生活の具体的場面において密接に関わっているという、看護・福祉・栄養の各専門職をめざす学生にとって欠かせない認識を持つための工夫を行った。

授業科目名【日本国憲法】抽象的な憲法理論のイメージを具体化するために、特に基本的人権に関する多くの憲法判例を紹介し、学生の理解の一助に努めた。加えて、講義の進行について、講義が開講中であった 10 月に衆議院議員総選挙が実施されたことから、今年度より統治機構（国会・内閣・裁判所）と基本的人権を入れ替えた。さらに、憲法改正の是非及び改正の内容について議論になっていることなどを踏まえ、毎回の授業後に、学生から講義内容に関する質問・意見・感想を任意で提出する機会を与えた。学生から提出された質問等については、次回の講義レジュメで回答するほか、意見や感想に関する所見を次回の講義の冒頭で述べた。
授業科目名【社会保障論】非常に複雑な社会保険制度に関する知識を学生がより確実に習得できるよう、試験を２回（前期末・後期末）行った。また、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【公的扶助論】最低限度の生活を守るための最後のセーフティ・ネットとしての役割を担う生活保護制度の重要性を、他の社会保障制度との関連と併せて説明を行った。また、生活保護の申請拒否・保護の停廃止をめぐる問題のほか、近年の生活保護法改正・生活困窮者自立支援法についても触れ、学生の制度に関する関心を高めた。さらに、貧困の実態について紹介するビデオ鑑賞も行った。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【権利擁護論】成年後見制度や日常生活自立支援事業の概要についての講義に先立って、これら各制度を理解するために当然の前提となる憲法・民法・行政法の基礎について講義を行った。また、成年後見制度の理解をより深めるために、成年後見制度に関するビデオ鑑賞も行い、学生が、成年後見制度に関する具体的イメージを理解するための一助とした。そのほか、講義レジュメの末尾に、講義内容と関連する国家試験の過去問を抜粋して紹介し、学生の目的意識、学習意欲の高揚に努めた。
授業科目名【司法福祉論】社会福祉士国家試験の試験科目である「更生保護制度」の内容を踏まえ、更生保護制度に関する説明に重点を置いて講義を行った。また、制度と実際の業務との関連について、学生がより理解できることを目指すため、３名の外部講師（保護観察官・保護司・更生保護施設長）に講義を依頼した。
授業科目名【基礎演習】１年生を対象に、大学での「学び方」を学ぶ授業である。前期は「調べる」ことと「書く」ことに重点を置き、とりわけレポートの書き方に特化した内容で演習を行った。後期は、前期の内容を踏まえて「発表する」「討論する」ことに重点をおき、「論理的思考力」の基礎について、演習を行った上で、1クラスを４グループに分けて「ディベート」を行った。
授業科目名【専門研究Ⅰ・専門研究Ⅱ】今年度も昨年度に引き続き、3 年生の専門研究Ⅰと 4 年生の専門研究Ⅱを合同で行った。社会福祉士国家試験の受験予定者もいることから、とりわけ社会保障制度を楽しく学ぶことを目的に、専門研究の成果物として「社会保障人生ゲーム」の作成を通年で行った。作業の手順は、①基本的なゲームデザイン（コース）の作成、②イベント・アクシデント（ゲームのマス）案の策定、③イベント・アクシデントに対応する社会保障制度の確認、④②③を踏まえたイベント発生効果の策定、⑤ゲームのマス、各種カードの作成、⑥遊び方説明書の作成、⑦テストプレイの上、修正を加えて完成、であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会保障法学会	学会誌編集委員(2009 年 10 月～2017 年 3 月)	1995 年 12 月～現在に至る
日本労働法学会		1998 年 5 月～現在に至る
日本司法福祉学会		2008 年 8 月～現在に至る
日本更生保護学会		2012 年 12 月～現在に至る
日本障害法学会		2016 年 12 月～現在に至る
九州社会法研究会	事務局員(会計監査担当)(2013 年 4 月～2014 年 3 月)	1995 年 4 月～現在に至る
社会法判例研究会		1995 年 4 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 触法者等に対する社会保障―触法者等に対する社会復帰支援法制試論―	単著	2018 年 3 月	西南女学院大学紀要 22 号	①社会保障法学における体系論を通じて、高齢・障害、失業などの生活困難を抱える触法者等が自立と社会参加を目指すための給付・サービスが保障される、社会保障法上の根拠付けの可能性について検討を加えた。 　社会保障法の学説上において、触法者等を社会保障法における支援の対象とすることについては消極的に捉えられている。しかし、求職者や障害者に対する一体的な支援を社会保障法の射程に入れている目的別区分説の観点から考えると、触法者等に対する支援も社会保障法の保障の対象として含まれる余地はあると考える。 ②81-89 頁
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人北九州精神保健福祉事業協会	苦情解決第三者委員	2014 年 4 月～2018 年 3 月
放送大学　総合科目「社会福祉と法」第 7 回～第 9 回	執筆担当講師・放送担当講師	2016 年 4 月～2020 年 3 月
社会福祉法人　全国社会福祉協議会中央福祉学院　社会福祉施設長資格認定講習課程「法学」	講師	2017 年 4 月～2018 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院大学生活協同組合　理事長　2017 年 5 月 24 日～2018 年 5 月 23 日 学生委員会　委員　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 教務総合人間科学小委員会　委員　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 フォークソング部　顧問 KOIKOI 顧問

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　野井　未加	職名　准教授	学位　修士(教育学)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
発達臨床心理学	NICU　ハイリスク児　心的帰属　家族への援助　極低出生体重児の社会性の発達を促進する心理的援助　保育所相談援助　個別支援計画

研　究　課　題
・「NICU 入院中のハイリスク児の母親における心的帰属の傾向とその変容過程に関する研究」 ・「極低出生体重児とのその家族に対する育児支援の成果と長期的な包括支援体制の構築のための調査研究」 ・「保育士との協働による気になる子どもへの個別支援計画立案と実行に関する研究」

担　当　授　業　科　目
ヒューマンサービス基礎演習(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科) 福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科) 保育相談支援(前期)(福祉学科) 心理学概論Ⅱ(前期)(福祉学科) 心理学基礎実験(後期)(福祉学科) 発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科) 専門研究Ⅰ(通年) 専門研究Ⅱ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【発達心理学Ⅰ(後期)(福祉学科)】 発達心理学Ⅰでは、胎児期から児童期までの発達段階や発達特性を中心に講義を行った。具体的内容としては、子どもの発達と環境、胎児期の発達、身体と運動能力の発達、知的機能の発達、感情と動機づけの発達、パーソナリティーの発達、人間関係の発達、社会性の発達、性と性意識の発達、脳と発達、発達心理学の理論などについて講義を行った。特に乳幼児期、児童期に現れやすい様々な課題について、事例を交えて説明することで、生涯発達心理学的視座をもった福祉職の育成を目指した。内容的には抽象度の高い理論的な科目であるが、人間発達の不思議さや興味深さを感じたようであるため、今後も両者のバランス(理論的であっても身近なもの)を図っていきたい。
授業科目名【福祉臨床心理演習Ⅱ(前期)(福祉学科)】 児童領域で用いられることの多いアセスメントツールである新版 K 式発達検査・田中ビネーV、WISC-III に関する講義及び実習を行った。それぞれ理論の説明を行った後、受講者各自が検査者役・被検査者役を取り、検査の施行の仕方・留意点について体験的に学ぶ機会を設けた。被検査者役の学生には、検査中に起こりうる子どもの行動を想定し演じてもらうことで、実践場面に近い状況を設定した。また、実習後には各検査のスコアリング・所見の書き方などについても解説を行った。
授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習(前期)】 ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされるスキル(①自分を表現する力を形成する、②コミュニケーションを通じて関係をつくる力を形成する、③人と協力して物事を進める力を形成する)について、小グループに分かれ、参加型・体験型の演習プログラムを中心とした授業を行った。上記の目的を達成するために、各自の意見・感想を率直に述べられるような雰囲気づくり(例：「他者の意見を批判・批評しないこと」を約束

事とするなど)に努めた。また、各自の内省力を高めるために、グループ討議だけではなく、振り返りシートを作成し記入させた。

授業科目名【福祉臨床心理学Ⅱ(前期)(福祉学科)】

福祉臨床心理学Ⅱでは、カウンセリングの基本構造、主要なカウンセリングの段階とそのプロセス、代表的な4つのカウンセリングの立場とそのプロセスについて講義を行った。カウンセリングのそれぞれの段階において、どのようなことが主題となりやすいのか、そしてクライエントが解決を導き出していくために、カウンセラーがどのような援助を行っていくのかについて、事例を豊富に取り入れ説明した。技法だけを説明するのではなく、それぞれの技法の意味・期待される効果についても解説し、学生が実践に活かせるように努力した。

授業科目名【保育相談支援(前期)(福祉学科)】

保育相談支援では、学生が保育相談支援の意義と基本的視点について理解した上で、保育相談支援に求められる基本姿勢と相談の内容、保育士の専門性を活かした支援の方法について考えることを目的としている。学生には、保育所保育指針における原則や基本姿勢について具体的行動レベルで考える・様々なニーズを抱えた家族の事例に対する支援方法について考える事を課し、その上でグループ討議をしてもらった。グループ討議の基本的姿勢として、答えは一つとは限らない事、他者の意見を評価せずあらゆる可能性を考慮に入れることをルールとして設定した。本科目の保育関係科目における位置づけ、他の科目との関連性等が分からず、「すでに学んだ事」「まだ学んでいない事」などを適宜学生に確認しながら授業を行った。その点においては、授業計画通り進まなかった点もあると思われる。しかしながら授業の質評価においては各項目 3.7-4.0 であり、学生のニーズに合った教育内容であったと評価している。授業時間中に感想等を聞いてみると、「一つの事例や現象について、これだけ深く考えたことはなかった」といったものも見られたため、方法論的妥当性は一定程度担保できているものと捉えている。

授業科目名【心理学基礎実験(後期)(福祉学科)】

心理学基礎実験では、実験を通して心理学の基礎的な方法概念について学ばせることを目的としている。また心理学のレポートの書き方、研究計画の立て方、実験等の具体的手続き、および統計処理の基本について解説した。履修者はすべて心理学の研究を行ったことがないため、実験・実習の進捗状況を適宜確認し、グループ討議を行った上で、各自が実験の目的を明確化し、目的に沿った実験・実習を進めていけるよう指導した。

授業科目名【心理学概論Ⅰ(前期)(福祉学科)】

福祉領域の専門職を目指す学生が、総合的な人間理解の基盤を確立するための1つの学問領域として心のメカニズムを究明する学問である心理学を学ぶことは極めて重要であると位置づけている。心理学概論Ⅰでは特に、神経心理学、学習理論、認知心理学、感情心理学、発達心理学の概要について解説した。情報提示の仕方(実験内容を体験する等)によっては、理論的なものであっても、身近に感じやすいことが考えられるため、今後も継続して実践していきたい。

授業科目名【専門研究Ⅰ(通年)(福祉学科)】

心理学の研究法に関する知識を深め、論文を批判的に読み、学生自身が論文作成を展開できる力を培うため、文献講読及びディスカッションを行った。ゼミへの参加態度において、学生が主体的に学ぶ姿勢が感じられた。また、曖昧に理解していたことが発表やディスカッションを通して明確になっていくことを実感したようである。本ゼミにおいては、今後も適宜解説を加えながら、学生自身が主体的に学ぶ姿勢、自らの論を展開していく力を培うことを目標にしていきたい。

授業科目名【専門研究Ⅱ(通年)(福祉学科)】

学生各自がそれぞれ興味のある内容について、レビュー論文を作成した。学生は、3 年次の専門研究Ⅰにおいて論文の読み方を学んでいたため文献検索に優れており、論文を批判的に読む力が見についていたと考えられる。従って、レビュー論文作成にあたって問題意識がはっきりしており、自らの論を進めていく事に意欲的であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本臨床心理学会 日本特殊教育学会 発達心理学会 西日本心理劇学会 日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会 九州臨床心理学会 日本心理学会	北九州地区委員(2006年4月～現在)	1998年7月～現在に至る 1998年9月～現在に至る 1998年2月～現在に至る 2001年1月～現在に至る 1997年4月～現在に至る 2006年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				教育研究業績　総数　(2018.0402現在) 著　書　0(内訳　単0,　共0) 学術論文　0(内訳　単0,　共0) 翻　訳　0(内訳　単0,　共0) 学会発表　0(内訳　単0,　共0)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学大学院人間環境学府附属発達臨床心理センター	研究員	2004 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
研究紀要委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　荒木　剛	職名　准教授	学位　（社会福祉学）（熊本学園大学 2002 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉、ソーシャルワーク、実習教育	高齢者福祉、ソーシャルワーク、社会福祉士養成教育

研　究　課　題
・高齢者福祉領域におけるソーシャルワーク実践のあり方について検討する。 ・社会福祉士養成教育における実習教育のあり方について検討する。

担　当　授　業　科　目
社会福祉概説（1 年次通年）、基礎実習（1 年次通年）、高齢者福祉論（2 年次通年）、介護技術演習（2 年次前期）、相談援助実習指導Ⅰ（2 年次通年）、相談援助実習指導Ⅱ（3 年次通年）、相談援助実習（3 年次通年）、相談援助演習Ⅱ（2 年次前期）、相談援助演習Ⅲ（2 年次後期）、高齢者支援学Ⅰ（2 年前期）、相談援助演習Ⅳ（3 年次前期）、相談援助演習Ⅴ（3 年次後期）、社会福祉特講Ⅱ（4 年次後期）、専門研究Ⅰ（3 年次通年）、専門研究Ⅱ（4 年次通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【社会福祉概説】 本科目は社会福祉士指定科目であり、1 年次開講の福祉基礎科目に位置づけられる。初学者である 1 年生にとってやや難易度が高いと思われるため、講義は教科書を中心に行った。また毎回レジュメを作成し、図表やイラストを活用することで学生の内容理解を助けた。さらに新聞記事やＤＶＤ等を用いて、社会福祉の問題やソーシャルワーカーの仕事に対する学生の関心を高められるよう工夫した。
授業科目名【基礎実習】 本科目は、学生が対人援助のフィールドで体験型学習を行うものであり、1 年次開講の福祉基礎科目に位置づけられる。講義は学生を 3 グループに分け、担当制により実施した。実習前には対人援助職への理解や実習への動機が高まるよう個別指導を実施した。また、自己学習により実習先を十分に理解させ、実習への準備性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。
授業科目名【高齢者福祉論】 本科目は社会福祉士指定科目である。講義は教科書を中心に展開するとともに、毎回レジュメを作成することで学生の内容理解を助けた。また、法制度改正など国家試験での出題が予想される内容については、丁寧に解説を行った。毎回の講義後にはコメントカードを提出させ、学生の理解度の把握に努めた。
授業科目名【介護技術演習】 本科目は介護現場に従事する外部講師 2 名による実技指導である。講義では外部講師との連携を図り、使用物品の準備や講義環境の整備等を行った。また、単元ごとにレポートを提出させ、技術面だけでなく介護者としての視点や考え方の習得度を把握した。

授業科目名【実習指導Ⅰ】
　本科目は相談援助実習（3 年次）に向けた準備学習を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。講義ではグループ学習やＤＶＤ等の視覚教材、高齢者体験セット等を活用し、学生が実習領域・施設や利用者への理解が深まるよう工夫した。また見学実習により実習内容のイメージ化と動機づけを行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】
　本科目は本学（福祉、看護、栄養）、九州歯科大学、西日本工業大学の３大学による合同講義である。内容はアクティブ高齢者の支援について講義とＰＢＬ（事例検討）を行うものである。講義では他大学・学科の学生が理解しやすいよう内容や資料を工夫した。また、3 大学の学生が多職種連携の視点から議論を深められるよう事例作成を工夫した。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】
　本科目は相談援助実習（3 年次）の事前・事後の指導を主な内容としている。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習前には、実習計画書や自己紹介票、誓約書等の作成指導を通して学生の動機を高めた。実習後には個別面談やケアプラン報告会、実習報告会を通して実習で得た学び・気づきを深めさせた。また、実習期間中は巡回訪問や帰校日を通じて、個別指導及び実習状況の確認を行った。

授業科目名【相談援助実習】
　本科目は対人援助の実践現場において学外実習を行うものである。高齢者福祉領域及び地域福祉領域を担当した。実習を実施するにあたり実習指導者との連絡調整を行い、実習環境の整備と教育効果の向上に努めた。また、学生の実習配置が円滑に進むよう、新規実習施設の開拓を行うなど実習先の確保に努めた。
　なお、9 月には実習指導者協議会を実施し、現場指導者との意見交換を行った。

授業科目名【相談援助演習Ⅱ】
　本科目は社会福祉士指定科目の１つである。講義では、ソーシャルワーカーとしての基本的視点、姿勢、支援過程、面接技法や記録について教授した。講義では毎回必ず各人に意見発表の機会を与え、主体的な態度を引き出せるよう心掛けた。また、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイ等を積極的に取り入れ、体験・参加型の講義となるよう努めた。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】
　本科目は社会福祉士指定科目の１つである。講義では高齢者への支援事例を用いてケアマネジメントの手法や権利擁護のアプローチを教授した。また、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等を取り入れ、学生同士で様々な視点から事例検討が進められるよう工夫した。
※相談援助Ⅲ・Ⅳ・Ⅴはオムニバス形式のため講義内容・方法は同じ。

授業科目名【社会福祉特講Ⅱ】
　本科目は４年次の開講科目であり、国家試験対策としての位置づけでもある。講義では、高齢者福祉を担当し、国家試験で出題が予想される制度改正部分や学生の理解度が低いと思われる内容を中心に教授した。
　なお本科目は教員５名によるオムニバス形式であり、授業運営の調整役を担った。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
　本科目ではゼミ全体で研究テーマを設定した上で、学生を２グループに分け指導を行った。できる限り学生が研究への関心を高め、自主的に取り組めるよう努めた。

授業科目名【専門研究Ⅱ】
　本科目では学生各人が関心のある研究テーマ・課題を設定し、レポート作成に取り組んだ。学生指導においては、各人とのコミュニケーションを密に図り、進捗状況に応じた個別指導を心掛けた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉士会 日本社会福祉学会 日本地域福祉学会 日本介護福祉学会 日本ケアマネジメント学会		1998年4月～現在に至る 2002年3月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2007年3月～現在に至る 2008年1月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文） 地域包括支援センターにおける社会福祉士の地域支援に関する研究 －質的分析による構造と課題の把握－	単	2018年3月	『九州社会福祉学』第14号	① 地域包括支援センターの社会福祉士12名にインタビュー調査を実施し、地域支援の構造と展開上の課題を明らかにしたもの。 ② P25 - P38
（報告書） 介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題 －地域包括支援センターにおけるソーシャルワークの役割－	共	2018年3月	『福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター研究報告叢書』Vol.56	① 養護者による高齢者虐待の兆候を発見する上での介護支援専門員の課題と支援ポイントに関する調査報告書。 ②共著者名 本郷秀和、鬼﨑信好、永田千鶴、村山浩一郎、松岡佐智、畑香理、袖井智子、田中将太 ③担当部分 第2章第3節2項「基礎資格別の調査結果」（P48 - P85） 第3章第1節「地域包括支援センターの役割 －CM支援における社会福祉士への期待－」（P141 - P142）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域包括支援センターにおける地域のインフォーマル資源の主体形成を図る実践（2016 年度～2018 年度）	文部科学省	○荒木剛 （本郷秀和）	1,000,000
高齢者虐待の予兆察知における介護支援専門員の現状と課題－ソーシャルワークによる支援の方向性－（2014 年度～2017 年度）	文部科学省	○（本郷秀和） （鬼崎信好） （永田千鶴） （袖井智子） （畑香理） 荒木剛	4,680,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市社会福祉協議会 （権利擁護・市民後見センター運用委員会）	委員	2009 年 4 月～現在に至る
北九州市社会福祉協議会 （福祉人材バンク事業運営委員会）	委員	2012 年 4 月～現在に至る
社会福祉法人兼恵園 （評議員会）	評議員	2017 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試会議（2016 年 4 月～現在に至る） 学生募集委員（2016 年 4 月～現在に至る） 地域連携室室員（2016 年 8 月～現在に至る） ＣＯＣ＋連携講義検討部門・公開講座部門（2015 年 11 月～現在に至る）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　上村　眞生	職名　　准教授	学位　博士（教育学）（広島大学2012年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育学 幼児教育学	保育の質 保育士のストレス・メンタルヘルス 保育士の労働環境 幼児期の食育

研　究　課　題
・保育士のメンタルヘルスに関する国際的状況 ・保育士の労働環境、社会的地位について、科学的根拠を基に改善について考察する。 ・幼児における食育活動の衛生面の課題克服と教育的意義の再検討を行う。

担　当　授　業　科　目
保育原理（前期） 保育内容　環境（前期） 保育内容　総論（前期） 保育課程論（前期） 保育内容　表現（後期） 保育の表現技術Ⅳ（後期） 保育実習Ⅰ（3年前期～4年前期） 保育実習Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅰ(3年前期～4年前期) 保育実習指導Ⅱ(通年) 保育実践演習（通年） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育原理】 保育の原理・原則を教授するに当たり、知識の提示に留まることがないよう、関連する例題、ディスカッションを事前に行い、学生の中でイメージや考え、関心が喚起されてから、教授活動を行った。毎年受講人数の増減があるため、授業進行においてグループ化等に配慮している。
授業科目名【保育内容環境】 保育における環境構成の重要性に加え、保育内容「環境」の構成・展開方法を教授した。実践的な知識・技術の獲得のため、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。各授業前後に各回の目的を提示することによる学習効果が見られた。
授業科目名【保育内容総論】 保育内容に関する最終的な演習科目としての位置付けから、学外での演習や演習内容の充実を図った。そのため、実体験に基づく理解の促進が見られるようになったが、その反面、課題の量が増え、実習や就職活動との兼ね合いから学生の負担が多く気なったことが伺われた。

授業科目名【保育課程論】 保育の計画に関して、長期・短期計画について解説した上で、「保育課程」の作成方法を指導した。保育課程作成にあたり必要となる乳幼児の発達、現代の保育における諸課題について、より認識しやすいよう各グループによる発表を基に、ディスカッション、解説を行い、実際に学生一人一人が保育課程を作成する試みを実施した。高度な専門的内容であるため、学修のフォローとして個別指導も実施した。
授業科目名【保育内容表現】 表現活動の意味や学生自身の表現を豊かにすることだけでなく、そのための方法論を学生自身が導くことができるよう、毎時間講義と演習を行い、演習中には直接指導をし、授業終了後は振り返りのための課題を与えた。授業評価アンケートからは、目的を持って参加した姿が伺われた。
授業科目名【保育の表現技術Ⅳ】 保育者として必要な身体表現に関する知識と経験を蓄積することと、乳幼児の身体表現を引き出す保育環境の構成、指導上の注意点について、演習後に解説し、理解を深めるよう工夫した。学生の身体活動の経験不足による課題達成困難を訴える者もいたが、授業評価アンケートからも概ね目標は達成できたと考える。
授業科目名【保育実践演習】 　保育実践力を養うために総合的な演習を実施した。4 年間の学びの集大成という位置づけであり、内容的に非常に多岐・多様に渡っていたため、授業評価アンケートや学生の話から有用性は一定程度感じているものの昨年同様、「課題の量」については課題である。
授業科目名【専門研究Ⅰ】 研究とは何かということを教授すると共に、学生の関心を引き出すために、毎時間ディスカッションを行った。また、毎回課題を設け、プレゼンテーションを課した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 個人で研究テーマを決め、テーマに即した研究活動を支援した。研究の実施に加え、ゼミ内でのプレゼンテーションを課し、物事を客観的に捉え、他者に伝える力を養うことを心がけた。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ・Ⅱ】 保育実習を行うにあたり、必要な知識・技術だけでなく、社会人として、専門職としての振舞い等についても教授を行った。また、実習指導案や日誌については、演習を通して実践的な指導を行った。実習後の振り返りでは、個別指導に加え、全体報告会を実施し、実習内容を再確認するとともに、個別に必要な指導を行った。
授業科目名【保育実習Ⅰ・Ⅱ】 実習先との連携をとった上で、保育実習中の巡回指導において個別の課題を抽出し、適宜指導・助言を行った。また、1 日の実習終了後に学生個人が感じた課題については、その日のうちに助言するよう指導体制を採った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	特になし	２００５年６月～現在に至る
日本小児保健協会	特になし	２００６年７月～現在に至る
日本保育園保健学会	特になし	２００７年８月～現在に至る
日本ウェルネス学会	特になし	２００９年５月～現在に至る
日本発育発達学会	特になし	２０１６年３月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
社会人基礎力養成のための「意図的な Hidden Curriculum（潜在的カリキュラム）」構築に関する研究	西南女学院	○上村眞生 小田日出子 天本理恵 塚本美紀 篠木賢一 橋本久美子 三宅利佳 小川 尚 伊藤 直子 八尋 春海 伊東 幸雄	1,388,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
・福岡県青少年アンビシャス運動 砂山アンビシャス広場	ボランティア委員	2001 年 4 月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

・情報システム管理運用委員　2017 年 4 月 1 日～現在に至る
・PHOTO 部　顧問　2010 年 12 月 14 日～現在に至る

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)

氏名　今村　浩司	職名　准教授	学位　修士（福祉社会）（福岡県立大学）

研究分野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス（精神保健福祉）領域におけるソーシャルワーク	ソーシャルワーク、臨床実践、メンタルヘルス（精神保健福祉）、生活支援、権利擁護、成年後見、触法障害者、更生保護

研究課題
精神障害者の地域生活支援に関しての研究 精神科病院からの長期入院者の退院支援・地域移行に関しての研究 精神保健福祉士の専門性向上に関しての研究 精神障害者の成年後見に関しての研究 触法精神障害者の地域定着に関しての研究

担当授業科目
相談援助の基盤と専門職（福祉学科１年通年必修４単位） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ（福祉学科３年前期選択４単位） 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ（福祉学科３年後期選択４単位） 精神障害者地域生活支援論（福祉学科４年後期選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ（福祉学科３年通年選択２単位） 精神保健福祉援助実習指導Ⅱ（福祉学科４年通年選択２単位） 精神保健福祉援助演習Ⅰ（福祉学科２年後期選択１単位） 精神保健福祉援助演習Ⅲ（福祉学科４年後期選択１単位） 精神保健福祉援助実習Ⅰ（福祉学科３年選択４単位） 精神保健福祉援助実習Ⅱ（福祉学科４年選択４単位） ヒューマンサービス基礎演習（福祉学科１年前期必修１単位） 相談援助演習Ⅰ（福祉学科１年後期必修１単位） 専門研究Ⅰ（福祉学科３年通年必修２単位） 専門研究Ⅱ（福祉学科４年通年必修２単位）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【相談援助の基盤と専門職】 福祉学科１年で開講される、相談援助実践に不可欠な社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の基盤的要素と、その実施者の専門職であるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の現状や課題の理解を深める、本学科における最も重要な講義科目の一つである。毎時間最初に導入材料として現代社会の状況をマスメディア等の資料を使用して状況を把握させ、特段専門職としての視点の形成に努めた。よりリアリティに学ぶために、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つ、刑務所福祉専門官やスクールソーシャルワーカーの現任者をゲスト講師に招聘し講義を展開した。また、リアクションペーパーにより理解度を確認するとともに、予習、復習にかけた時間、利用した教材等々も記載させ、学んだことと感想の他に、本日の学生自己への点数も記載させ、次回の講義につなげるように工夫した。後期は、本講義において重要語句であるキーワードを設定し、毎時間の最初に確認テストを行い理解を深めた。
授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ】 精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神

障害者に対しての援助技術全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、視聴覚教材等も利用して、より理解の促進に努力した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ】
精神保健福祉士国家試験受験資格に必要な科目であるため、可能な限り国家試験を意識づけるように教授した。また、精神保健福祉士受験をしない受講生もいることから、毎時間オリジナルのレジュメを作成配付し、精神障害者に対してのリハビリテーション全般の具体的実践事例を提示して説明を行い、理解の促進に努力した。更には精神科リハビリテーションの実際を視聴覚教材導入して理解を深めさせた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神障害者地域生活支援論】
精神障害者の地域生活の現状と課題について、具体的実践事例を交えながら解説した。4 年後期に開講することから、精神保健福祉全般に対しての総まとめ的講義内容となるよう、これまでに学習して理解をしてきたことの整理整頓を促すために、振り返りを中心として理解を深めた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅰ】
精神保健福祉士レーン担当の 3 人の教員合同で行うもので、事前にそれぞれの役割の分担を行って実習に対しての理解を深めさせた。特に実習前及び実習後それぞれに学生の疑問に感じていることを整理させ、そのことについて調査をして学習できるよう工夫した。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助実習指導Ⅱ】
上記同様 3 人の教員合同で行い、実習Ⅰを踏まえた上で、更なるステップアップを目指していけるよう疑問点の整理や到達目標の具体的な設定などの詳細な指導を行って理解を深めさせた。より実践的な理解が深まるように、実習後の報告会を設定して、受講生全員で理解を深める努力をした。実習指導という観点から、よりリアルに内容を展開させた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅰ】
精神保健福祉士としての導入の演習としての位置づけであり、先ずは精神障害者とのかかわりの重要性を中心に理解を深めた。精神障害者のイメージやその家族の思い、地域社会での状況、精神科病院での場面設定等々を行い、グループ化して具体性を持って検討を深めた。また、グループ別に北九州市内の精神保健福祉に関する社会資源マップ作成を行い、実践に生かせる知識を深めた。次年度への、より専門的知識と実践での実習に対してのイメージも膨らませるよう心掛けた。

授業科目名【精神保健福祉援助演習Ⅲ】
精神保健福祉士として現場実践を行う時に、必要と思われる技術の習得を中心に行った。特にソーシャルワーク場面で欠かせない面接技術やリハビリテーション技術を織り交ぜて、理論と併せて開設を行い、理解を深めさせた。さらには、学生に役割を持たせてロールプレイを行い、それぞれの観点からの体験させる講義の展開に努力した。また、4 年後期に開講することから、精神保健福祉士国家試験受験対策的な内容も併せて行うよう心掛けた。

授業科目名【ヒューマンサービス基礎演習】
対人サービスを行う専門職養成のために、5 名の教員で統一テーマに沿ってコミュニケーション、自己表現、チームワークの 3 つの技能の習得を目指して、特にグループ化しての授業を中心に展開させた。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【相談援助演習Ⅰ】
相談援助者の基本的理解である「受容」「傾聴」「共感」を中核に、クライエントに寄り添う重要性を習得させることに努力をした。小グループでの活動を中心に、できるだけきめ細かい関わりが行えるよう配慮した。毎時間リアクションペーパを配付して、講義終了後回収し、次の時間にそのフィードバックを必ず行うよう心掛けた。

授業科目名【専門研究Ⅰ】
14 名のゼミ生に対して、精神保健福祉士として現場実践力の重要性を考えて、できる限りの現場中心の話題提供を行った。それに対して感じた点や疑問点を言語化や文章化し、理解を深めさせた。よりリアリティを高めるため、積極的に精神科病院や刑務所等の施設見学を行って、具体的現実感を習得させることに努力した。また、精神保健福祉士、社会福祉士の具体的イメージを抱かせるために、専門職団体が開催する研修会等々の案

内を常に行い、参加を促進した。さらには、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験との関連性を、常に意識付けるように指導した。
授業科目名【専門研究Ⅱ】 専門研究Ⅰを踏まえた上で、具体的に実践的な精神保健福祉士としてのイメージを持たせるように指導を行った。また、学生それぞれに「卒業研究（ゼミ論）」のテーマを与え、学術的実践的アドバイスを行い、総まとめができるように指導を行い、研究成果を報告会で発表させ、報告集としてまとめた。また、社会福祉士、精神保健福祉士ダブル合格と、医療や福祉の業界への就職という２つの目標を定めて活動をした。3 月 31 日現在、9 名全員の就職が内定し、社会福祉士と精神保健福祉士の国家試験に 9 名全員全てが、ダブル合格をした。ゼミ生の国家試験全員ダブル合格は、一昨年度以来２回目である。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会（精神保健福祉士学会）	理事（2001 年～現在）	1994 年～現在
日本社会福祉士会（社会福祉士学会）	代議員（2010 年 6 月～2012 年 6 月）	1996 年～現在
日本社会福祉学会	代議員（2013 年～現在）	1996 年～現在
日本病院・地域精神医学会		2006 年～現在
日本精神障害リハビリテーション学会		2008 年～現在
日本精神保健福祉学会		2012 年～現在
九州精神神経学会		2012 年～現在
日本更生保護学会		2013 年～現在

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書　等） １．認定成年後見人ネットワーク「クローバー」ハンドブック（第 10 版）	共	2017 年 5 月	公益社団法人日本精神保健福祉士協会	①　日本精神保健福祉士協会所属で認定成年後見人養成研修を受講し、「クローバー」に登録した方々への成年後見の実務的マニュアルの改訂第10版。精神保健福祉士と成年後見の関係性や、その重要性を述べている。 ②　公益社団法人日本精神保健福祉士協会 ③　作成当時の作成担当委員会委員長として本誌作成の中核になり担当。共同研究であり本人担当部分抽出不可能。 総頁数・46頁 Ａ４判

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
２、精神障害者の人権救済（新版）精神保健当番弁護士ハンドブック	共	2018年2月	福岡県弁護士会	①　福岡県弁護士会が、精神保健当番弁護士に対して発行したもので、「退院後受入環境調整の方法と制度」を解説した。 ②　福岡県弁護士会精神保健委員会 ③　笠修彰、今村浩司 ④　総頁数　184頁 Pp63～66
（学術論文　等） １．精神障害者社会適応訓練事業からみる就労支援の現状と展望 【査読あり】	共	2018年1月	一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会誌「Brand new day」平成２８年度号	①　精神障害者の就労支援について、社会適応訓練事業を通して、歴史的背景やその役割りを検討し、現状と展望について論じた。 ②　一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会 ③　今村浩司、笠修彰、西島秀幸 ④　総頁数　121頁 Pp97～108
２．北九州成年後見センターの地域実践　法人後見における精神保健福祉士の役割	共	2017年11月	「精神保健福祉」VoL.48No.2 通巻 110号	①　北九州成年後見センターの実践を通して、成年後見制度における法人後見での精神保健福祉士の役割について検討した。 ②　公益社団法人日本精神保健福祉士協会 ③　今村浩司、安部裕一 ④　pp112～114
３．グループホーム職員を対象とした研修内容の現状と課題～文献検討を通して～ 【査読あり】	共	2018年3月	「九州社会福祉学」第14号	①　グループホームに勤務する職員を対象とした研修に関する文献について整理し、職員を対象とした研修の課題について検討した。 ②　日本社会福祉学会　九州地区ブロック ③　納戸美佐子、今村浩司、中村貴志 ④　総頁数113頁 Pp91～101
４．法人後見における社会福祉専門職の役割の考察～北九州成年後見センターの現状と課題	共	2018年3月（予定）	「医療ソーシャルワーク研究」　No.8	①　成年後見制度の中の法人後見における社会福祉専門職の役割りの考察を行った。第一稿では、主に法人後見

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
を中心に～（第一稿） 【査読あり】				の整理を行った。 ② 日本医療ソーシャルワーク学会 ③ 今村浩司 ④ 受理掲載証明書あり
５．法人後見における社会福祉専門職の役割の考察～北九州成年後見センターの現状と課題を中心に～（第二稿） 【査読あり】	共	2018 年 3 月（予定）	「医療ソーシャルワーク研究」　No.8	① 成年後見制度の中の法人後見における社会福祉専門職の役割りの考察を行った。第二稿では、主に北九州成年後見センターの活動を中心に現状と課題の検討を行った。 ② 日本医療ソーシャルワーク学会 ③ 今村浩司 ④ 受理掲載証明書あり
（学会発表　等） １．「知っていますか？認定成年後見人ネットワーク「クローバー」の活動 ～「クローバー」の現状と課題～」 【審査あり】	共	2017 年 9 月	第 16 回日本精神保健福祉士学会学術集会大阪大会（於　大阪府立国際会議場グランキューブ大阪）	①日本精神保健福祉士協会内に設定されている、認定成年後見人ネットワーククローバーの現状課題について検討し報告した。 （○岡田 昌大、長谷川 千種、齋藤 敏靖、宮部 真弥子、今村浩司、岩崎 香等）
２．訪問看護ステーションにおける精神保健福祉士の配置に関する全国ニーズ調査 【審査あり】	共	2017 年 9 月	日本精神保健福祉学会　第６回学術研究集会（於　神戸学院大学）	①訪問看護ステーションにおける精神保健福祉士の配置に関してニーズ調査を行い、その結果を分析して報告した。 （○吉田光爾、藤野恭子、山口創生、大塚淳子、今村浩司）
３．不幸にも罪を犯してしまった障害者や高齢者の支援について	単	2017 年 9 月	日本医療ソーシャルワーク学会　第８回山梨大会（於　山梨県立大学）	①矯正施設から出所する、障害者や高齢者の方々のサポート体制についての現状と課題について報告を行い、ワークショップを行った。 （○今村浩司）
４．精神科退院前訪問指導における精神保健福祉士の役割の一考察	共	2018 年 1 月	第 63 回九州精神医療学会（於　ＪＡ　ＡＺＭホール　宮崎市）	①精神科病院における精神科訪問看護指導に関する、精神保健福祉士の役割を検討し、その現状と課題を整理した。 （○山本匠　今村浩司）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）
（1）　共　同　研　究

研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方中規模私立大学における地域貢献活動のプロジェクトマネジメントの研究	西南女学院大学　共同研究費	○谷川弘治、今村浩司、吉原悦子、樋口真己、笹月桃子、石丸美奈子	1,761,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本精神保健福祉士協会	理事	2001 年 4 月～
福岡県精神保健福祉士協会	副会長	2001 年 4 月～
福岡県精神科病院協会精神保健福祉士会	顧問	2012 年 7 月～
北九州地区精神保健福祉士協会	会長	2002 年 9 月～
北九州地区社会福祉専門職 5 団体連絡協議会	代表世話人	2006 年 4 月～
北九州市手をつなぐ育成会	苦情解決委員長	2005 年 10 月～
北九州成年後見センター	理事	2006 年 3 月～
北九州市障害福祉ボランティア協会	理事	2005 年 4 月～
北九州精神保健福祉事業協会	評議員	2001 年 4 月～
福岡地方裁判所	精神保健参与員	2005 年 7 月～
北九州市保健福祉局	オンブズパーソン	2012 年 4 月～
北九州市精神保健福祉審議会	委員	2005 年 4 月～
北九州市障害支援区分認定審査会	委員	2006 年 4 月～
北九州市教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー運営協議会	委員	2008 年 4 月～
北九州市高齢者支援と介護の質の向上委員会	委員（地域包括支援部会兼務）	2006 年 4 月～
北九州市要保護児童対策地域協議会	委員	2008 年 7 月～
福岡県精神保健福祉審議会	委員	2013 年 4 月～
福岡県精神医療審査会	委員	2013 年 4 月～
厚生労働省（社会福祉振興・試験センター）　精神保健福祉士国家試験委員会	委員	2014 年 4 月～ 2014 年 6 月～
北九州市障害者差別解消法委員会	委員長	2016 年 8 月～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
大学・大学短期大学部地域連携室　副室長 ＦＤ部門会議ＦＤ研修委員会　リーダー 公開講座委員会　委員長 西南女学院大学精神保健福祉研究会　顧問（精神保健福祉士養成レーンの卒業生と在学生の会）

福祉学科精神保健福祉士養成レーン担当
教員免許状更新講習会　講師（養護教諭）
高大連携講義　講師（西南女学院高等学校）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　納戸　美佐子	職名　准教授	学位　博士（医療福祉学）2005年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
高齢者福祉	認知症高齢者・グループホーム

研　究　課　題
・グループホームに入居している認知症高齢者の認知症の行動・心理症状（BPSD）について機能的アセスメントに基づいた対応方法を検討する。

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅰ（通年）（福祉学科） 基礎演習（通年）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅱ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅲ（後期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅳ（前期）（福祉学科） 相談援助演習Ⅴ（後期）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 相談援助実習指導Ⅱ（通年）（福祉学科） 相談援助実習（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科） 高齢者支援学Ⅰ（福祉学科・看護学科・栄養学科・九州歯科大学・西日本工業大学）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅰ　】 本講義においては、テキストとともに、関連資料やビデオ等を活用し、相談援助の場面について具体的にイメージできるよう工夫した。ビデオ教材を用いた学習では、要点をまとめたワークシートを作成し、学生が主体的に学べるように工夫した。また、学生が理解度を自ら把握できるようにするために、確認問題を作成し実施した。さらに、講義終了後にコメントカードを配布し、質問等については、次回の講義で説明を行った。
授業科目名【　基礎演習　】 本演習では、「調べる」「聴く」「読む」「書く」「発表・討論する」ことを通して、大学での学びに必要な力を身に付けることを目的としている。6名の教員が7コマずつ担当し、教員が設定したテーマに沿って演習を行っている。担当分においては、教材として新聞を用いた。大学生が新聞を読むことの意義や大学生活における新聞活用の方法について考えることなどをテーマとした。個人ワークだけでなくグループワークを行い、自分の意見を他者に伝える力、他者の意見を聴く力を育む機会を提供出来る様にした。

授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】

本演習では、参加型・体験型のプログラムを用いることにより、ヒューマンサービスの専門家として基礎的に必要とされる基礎的能力を形成できるよう工夫した。本演習では、グループワークを多く取り入れているため、単に「楽しい」だけで終わってしまわないように振り返りシートを配布し、学んだ内容について整理できるようにした。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

本演習では、ロールプレイなどを用いて、相談援助専門職に必要な相談援助の方法や支援の視点について体験的に学べるようにした。また、事例の活用やグループディスカッションを行うことにより、福祉課題や利用者の状況について理解を深めることができるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートを準備し、学生の理解度に応じて、補足説明を行うようにした。

授業科目名【相談援助演習Ⅲ・相談援助演習Ⅳ・相談援助演習Ⅴ】

本演習では、ロールプレイや事例を用いることにより、相談援助専門職の役割や必要な基礎的な技術および知識等に関して、学生が体験的に学ぶことができるよう工夫した。ワークシートや振り返りシートの確認を行い、学生の理解状況を把握するよう心掛けた。また、グループディスカッションやプレゼンテーションを行う機会を設定し、ディスカッションやプレゼンテーションについて継続的に学べるようにした。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】

本講義では、3 年次の相談援助実習において高齢者福祉施設での相談援助実習を行う学生を担当した。調べ学習やグループワークを用いることにより、相談援助実習指導の意義・目的、高齢者に関する福祉的課題等について自ら考えることが出来るよう工夫した。

授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】

本講義では、高齢者福祉施設での相談援助実習を行う学生を担当した。実習前の指導では、調べ学習を行い、実習施設について理解出来るようにした。また、実習後の指導では、個別面談を行い、学生の課題や達成した目標などについて学生自身が整理できるようにした。

授業科目名【専門研究Ⅰ】

専門研究Ⅰでは、各学生が関心をもっている福祉課題について、調べ学習を行った。学生は、調べた文献について、各自発表を行った。また、その内容について学生同士でディスカッションを行い、多角的な視点から課題を把握できるよう工夫した。

授業科目名【専門研究Ⅱ】

専門研究Ⅱでは、在宅介護に関する文献研究を行った。課題設定や研究方法について適宜助言・指導を行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

本講義では、「地域包括ケアシステムの構築と高齢者の社会参加」の一部を担当した。講義では、高齢者の現状や社会参加の意義や社会参加を進めるための支援について解説した。福祉学科以外の学生が受講しているため、基本的な用語の説明を丁寧に行うよう心掛けた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会学会員		2000 年 5 月 ～現在に至る
日本老年行動科学会学会員		2000 年 6 月 ～現在に至る
日本行動分析学会学会員		2001 年 4 月 ～現在に至る
日本地域福祉学会学会員		2002 年 4 月 ～現在に至る
日本認知症ケア学会学会員		2002 年 7 月 ～現在に至る
日本福祉心理学会学会員		2004 年 10 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 社会福祉士国家試験模擬問題集 2018	共	2017 年 7 月	中央法規	① 社会福祉士国家試験に関する模擬問題を作成した。 ② 編集者名　一般社団法人日本ソーシャルワーク学校連盟 ③ 担当部分「相談援助の基盤と専門職」の問題を作成した。 P.42, p106, p171, p172 総頁数 p206 ④ B5 判
（学術論文） グループホーム職員を対象とした研修内容の現状と課題～文献検討を通して～	共	印刷中	九州社会福祉学	① 本研究では、グループホームに勤務する職員（以下、職員）を対象とした研修に関する文献について整理し、職員を対象とした研修の課題について検討した。 ② 共著者名　納戸美佐子 ,今村浩司, 中村貴志 ③ 全てにおいて中心的に関わった。
地域在住高齢者の心身機能に関する 6 年間の長期追跡調査	共	2017 年 8 月	作業療法ジャーナル	①本研究では、地域在住高齢者を対象に、自宅生活を継続している高齢者の心身機能を長期に追跡調査し、その特徴を明らかにした。 ② 共著者名　田中純子, 上城憲司, 井上忠俊, 村田伸, 納戸美佐子 , 中村貴志 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可
地域在住高齢者における認知機能調査	共	2017 年 7 月	厚生の指標	① 地域在住高齢者の MMSE 得点を性別に分類し、年齢階級、教育年数別に検討することで、認知症に対する介入研究の基礎資料とする

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
地域高齢者のライフスタイルと認知機能との関連	共	2017年7月	西九州リハビリテーション研究（西九州大学）	ことを目的とした。 ② 共著者名　宮原洋八，上城憲司，井上忠俊，田中純子，納戸美佐子，中村貴志 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可 ① ライフスタイルに関する22項目の質問票を用いて、地域高齢者を対象に、ライフスタイル調査の数量化を試みた。 ② 共著者名　宮原洋八，上城憲司，井上忠俊，田中純子，納戸美佐子，中村貴志 ③ 共同研究につき、本人担当部分抽出不可
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
情報共有 IT ツールを活用した認知症に伴う行動・心理症状対応プログラムの実践的開発	日本学術振興会	○納戸美佐子 （鈴木明宏）	780,000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）
（2）　個人研究

研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　容)	役　職　名　等	任　期 期　間　等
戸畑区地域ケア研究会 日本福祉心理学会第15回大会	運営委員 実行委員	平成27年4月～現在に至る 平成28年12月～平成29年9月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　(役職、委員、学生支援など)
COC＋事業　教育プログラムワーキンググループ　2016年4月～現在に至る 予算委員会　2017年4月～現在に至る

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　嶋村　美由紀	職名　　講師	学位　修士（社会福祉学）日本社会事業大学大学院　1998年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
精神保健福祉	精神保健福祉士 ソーシャルワーク

研　究　課　題
精神科病院における精神保健福祉士（精神科ソーシャルワーカー）の役割について考察する。 また、精神障害者と家族との関係と精神保健福祉士の関わり（質の向上）について考察する。 当事者や家族へのアプローチ方法と、その支援について整理する。 障害者の障害受容について考察する。

担　当　授　業　科　目	
・精神保健福祉に関する制度とサービス	・精神障害者の生活支援システム
・精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	・相談援助演習Ⅰ
・精神保健福祉援助演習Ⅱ・Ⅲ	・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ	
・社会福祉概説（栄養学科）	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　精神障害者の生活支援システム　】 精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。テキストの内容はもちろんだができるだけ受講生に現実の事例や制度、政策との結びつきを具体的に示し、ビデオ等も使いながら、興味がわくような講義内容になるよう努めた。精神保健福祉の歴史・制度やサービスについての復習を行い知識の定着に努め、講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。
授業科目名【　精神保健福祉援助演習Ⅲ】 精神保健福祉士国家資格受験資格取得のためのまとめを行う演習であるため、実習での体験を共有し、各自で考える力が備わるよう考察を促した。特に気になった話題については、時間をかけて専門職としての視点や姿勢から考えることが出来るように議論した。また少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めていけるよう工夫した。
授業科目名【　精神保健福祉援助演習Ⅱ　】 精神保健福祉士国家資格受験資格取得のための演習であるため、精神科への理解やソーシャルワークの視点などを各自で考える力が備わるよう調べたり、議論をしたり、ロールプレイをしたりしながら考察が深まるように促した。特に気になった話題については、時間をかけて専門職としての視点や姿勢から考えることが出来るように議論した。少人数の演習であるため、学生同士の意見交換や報告・発表等を行い、自律度を高めて精神保健福祉援助実習への導入とふりかえりをした。

授業科目名【　精神保健福祉に関する制度とサービス　】 精神科や精神障害者に関しての興味関心が広がるように努め、学生の将来について考えることができるよう情報提供を行った。視覚教材を用いたり、双方向のやりとりを行ったりしながら、学生が眠くならないように工夫した。講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。重点項目や学生の理解が不十分な制度については、複数回説明して、事例を用いながら学生自身の言葉や方法で理解が進むようにした。歴史の流れについては、他の講義とも連動して記入したり確認したりできるように年表を作成することも効果的であることを伝え、学生個人が作成した資料を有効に受講時間に使えるようになることの意義も伝えた。
授業科目名【　精神保健福祉相談援助の基盤（専門）　】 精神保健福祉士国家試験科目であるため、指定教科書以外のテキストからも抜粋しながら毎回講義のレジュメを作成し、受講生の理解を深めるよう努めた。机上の空論で終わらないよう、できるだけ受講生に現実の事例や当事者の様子等を具体的に示し、ビデオ等も使いながら興味がわくような講義内容になるよう努めた。双方向でのやりとりを通じて、学生一人一人が講義に参加し、自身で考えることが必要であることを伝えた。講義の最後には振り返りのコメント用紙を配布し、次回のはじめにフィードバックを行った。
授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 福祉の領域や、ソーシャルワーカーの役割・視点等について、具体的事例を提示した上で、学生各自が考えて調べたり、他のメンバーの意見を聞いたりする中で、各々の考え方や他者との関わり方などに気づき、また、再発見することができるように関わった。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習Ⅱ　】 精神保健福祉援助実習Ⅱに向けての実習指導を行った。障害福祉サービス事業所等社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。障害者福祉サービス事業所等地域の社会資源での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　】 精神保健福祉援助実習Ⅰに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、学生の理解を深めるよう努めた。精神科医療機関での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　】 精神保健福祉援助実習Ⅱに向けての実習指導を行った。社会資源について、精神疾患・精神障害者について、精神保健福祉士の役割・視点について、さらに地域で生活している精神障害者の現状や思いについて学生の理解を深めるよう努めた。地域での実習に備えて必要な知識・技術及び実習生としての心構えなど、一人一人の学生の準備が整うよう配慮した。
授業科目名【　社会福祉概説　】 栄養学科の学生に向けての講義である為、社会福祉に興味関心がわくような、時事問題や、身近な内容を導入し、福祉への理解を促すことに努めた。講義の最後には、コメント用紙を配布し、理解度や質問等を書いてもらい、次回講義時にフィードバックを行った。ビデオを使って視覚的なアプローチも行い、学生の視野を広げるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本精神保健福祉士協会 日本精神衛生会 日本精神保健福祉学会 特別ニーズ教育学会		1998 年 2004 年 2012 年 2013 年

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（講座） やさしい精神保健福祉講座		2017年10月	北九州市立精神保健福祉センター	「精神障がい者を地域で支える」

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州市精神医療審査会	保健福祉委員	2004 年 4 月～現在
北九州市自殺対策連絡会議	委員	2010 年 11 月 1 日～現在
発達障害児・者家族等支援事業審査会	委員	2014 年 4 月～現在
社会福祉法人喜久茂会ふたば保育園	評議員	2017 年 4 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　文屋　典子	職名　　講師	学位　修士(社会学)（関西学院大学　1994年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	ソーシャルワーク方法論、子ども家庭支援 ファミリーソーシャルワーク

研　究　課　題
子ども家庭支援における社会構成主義的アプローチの可能性

担　当　授　業　科　目
相談援助の理論と方法Ⅱ（通年） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 相談援助実習（通年） 相談援助演習Ⅱ（前期） 基礎実習（通年） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 保育実習Ⅲ（通年） 保育の表現技術Ⅰ（前期） 保育の表現技術Ⅱ（後期） 保育実践演習（通年） 家庭支援論（前期） 専門研究Ⅰ（通年） 専門研究Ⅱ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助の理論と方法Ⅱ　】 ミクロ・メゾ・マクロの多角的視点と相互作用的視点を理解し、学生自身が問題状況を捉える“視点”をみにつけることに重点をおいた。ソーシャルワークのアプローチについてはその起源となる社会的背景や基盤理論をふまえてそれぞれの特徴を理解し、アセスメントや介入における“視点”の違いを理解し、説明できることに重点をおいた。できる限り多くの視聴覚教材や事例を用いることによって、用語の暗記にとどまらず、臨床的感覚を覚えながら理解を深められるよう授業を展開した。学生には毎回の授業で授業内容を要約して提出することを課し、学生の理解度の把握と授業内容や進め方の見直しに役立てた。また、理解が不十分な点や誤りについては添削して返却、補足説明を行った。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 実習前の事前学習、実習後の振り返りでは個別指導を各学生につき複数回行い、各自の課題を明確にするよう心掛けた。特に、実習後の振り返りでは、実習期間中に経験したこと、感じたこと、学んだことについて学生自身が語ることを促し、個別指導やグループディスカッションを活用して語りをさらに引き出すこと、学びを深めること、自己の課題に結びつけることに重点をおいた。前期実習の終了から後期実習開始までの期間

に学生が取り組んだ内容、成長した部分などを実習先の実習指導者と共有することによって、実習指導者よりさらに細やかな指導やサポートをいただき、全員が達成感とともに無事実習を終了することにつながった。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】

子どもの発達や特性について理論系科目で学んできたことを復習し、子どもの状態を適切な用語を用いて説明できることに重点をおいた。また、見学実習においては、学生が実際に子どもたちとの関わりを体験し、知識理解を深めるきっかけとなること、自己の克服すべき課題に気づき、実習に向けて事前準備に取り組むことをねらいとした。

授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】

事例学習やロールプレイを通して、困難を抱えた状況にある人をできる限り具体的にイメージし、どうかかわっていくかを実践的に学ぶことに重点をおいた。援助関係形成のためのコミュニケーション技法を実際に用いること、情報収集、仮説設定、言語的やりとりが実際にはどのように行われ、見立てのためにほかの授業で学んだ知識がどのように使われるのかを実際的に学べるよう、ロールプレイ、解説、グループ討議により、多様な事例を用いて授業をすすめた。

授業科目名【　基礎実習　】

本科目は１年次に対人援助の現場で体験型の実習を行い、対人援助の仕事と利用者に対する理解を深めようとするものである。実習前には対人援助職に求められる姿勢について学び、実 習への動機が高まるようグループ学習と個別指導を実施した。また、自己学習により実習先の理解を深めさせ、実習への準備 性を高めた。実習後には、個別面接や実習報告会を行い、実習体験から得た学びや気づきの深化を図った。

授業科目名【　保育実習指導Ⅰ　】

本科目は３年次８月の保育所実習、３年次２～３月の施設実習の実習前・実習後指導に当たる科目である。保育の現場において実習生として保育技術を実践できるよう、毎回の授業の中で保育技術を実践的に学ぶことを取り入れた。実習目標の設定や実習計画書の作成、実習記録の書き方の指導においては保育士としての専門性を学ぶということを意識させ、特に施設実習においては社会福祉士としての視点と保育士としての視点が学生の中でも混在する部分を整理して、“社会福祉士としての視点をもちつつ保育士としての専門性を学ぶこと”について学生が理解して実習に臨めるよう実習前指導を行った。実習後は振り返りと実習報告に関する個別指導に重点をおいた。

授業科目名【　保育実習指導Ⅲ　】

本科目は３年次８月の保育所実習、３年次２～３月の施設実習を踏まえ、児童福祉施設における保育実習を希望する学生が履修する科目である。これまでの保育実習、相談援助実習において学んできたことと自身の課題をふまえつつ、実習目標を設定し実習計画書の作成するよう個別指導を強化した。また、福祉専門科目において学んできたことを総合して、実習先での支援の実際、現場の課題、利用者理解を深め、実習に臨めるよう事前学習にも重点をおいた。実習期間中の巡回指導や実習後の振り返りにおいて各学生の学びや課題を整理し、実習のまとめと実習報告につなげた。

授業科目名【　保育の表現技術Ⅰ・Ⅱ　】

学生の入学までのピアノの習熟レベルに応じて課題を設定し、各自、個人練習を効率的に行えるよう練習計画を立てて授業に臨むよう指導した。今年度はピアノを弾いた経験のない学生・楽譜を読めない学生が多くいたため、楽典を理解しつつ、演奏するうえで楽典の知識がどのように役立つかを学生自身が実感できることを意識して指導を行った。“弾けるようになりたい曲”を目標に設定することで、学生一人ひとりが練習に意欲的に取り組むことができ、すべての学生が目標を達成することができた。入学前の時点で習熟度の高い学生においても、保育者としてピアノを弾くことを意識させ、さらに練習に熱心に取り組んだ。奏法に改善の必要性がある場合にはその克服に適した課題に取り組むことを通して、学生の演奏の向上を目指した。

授業科目名【　保育実践演習　】

科目全体での学習目標として、“保育専門職として協働の意味と意義を学ぶこと”を掲げ、全体のプログラムを通してこの点について学びを進化させつつ、保育士に求められる技術と知識を高めることをめざした。なかでも、＜劇の創作と発表＞と＜保育の現代的問題の検討＞を担当し、＜劇の創作と発表＞においては発表に向けて、グループ内での役割分担と役割遂行、発表に向けて気づきや改善点について意見を共有しながらよりよい発表づくりをめざして学生間で協働できるようサポートを行った。＜保育の現代的問題の検討＞においては、子育てする親の気持ちを受けとめることをテーマに、各学生が親の思いを共感的に聞くことを実践的に経験し、そこからの学びを学生間で共有し、保育の現代的問題の検討を行った。２つのテーマのうち、学生自身

が選択してこの授業に参加していたことから、学生の取り組みに対する意欲が高く、学習成果も大きかったと考える。
授業科目名【　家庭支援論　】 　現代の家族をとりまく状況を概観し、子ども家庭福祉領域で家族を支援することの意義と家族の様々なかたち、家族をめぐる価値観の多様性にも触れつつ、家族を理解するための概念と家族をシステムとして捉える理論をふまえ、家庭支援に求められる援助者の多角的な視点を学生が理解できるよう努めた。本科目は知識習得にとどまらず、学生自身が知的好奇心を働かせて学びを深める意欲へとつながれば、卒業後も実践者としてさらに学びを進化させることにつながるものと考える。具体的事例や視聴覚教材などを厳選し、学びの意欲を高めることができるよう、今後も工夫していきたい。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会		1992 年 10 月～　　現在に至る
日本キリスト教社会福祉学会		2001 年 3 月～
日本ブリーフサイコセラピー学会		1991 年 11 月～
日本家族研究・家族療法学会		1998 年 11 月～
日本小児保健学会		1997 年 5 月～
日本特殊教育学会		1999 年 8 月～
日本保育学会		2011 年 10 月～
日本医療保育学会		2016 年 5 月～

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
社会福祉法人　喜久茂会	評議員	2017 年 4 月 1 日～2021 年 6 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生募集委員 キャンパスハラスメント相談員 吹奏楽部顧問

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　杉本　有紗	職名　　講師	学位　　人間環境学（修士）（九州大学 2003 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
認知症高齢者の臨床心理学的援助	認知症、高齢者、施設入所、対人交流、コミュニケーション役割、役割意識、援助的介入

研　究　課　題
認知症高齢者の臨床心理学的援助に関して、個別の実践事例を積み重ね、具体的援助方法を考察する。また、援助対象となる認知症高齢者の心理について、対人交流および役割意識という観点から考察していく。その際、援助プロセスに伴う認知症高齢者の心理的変化プロセスについても考察する。さらに、認知症高齢者の対人交流形成とその効果を評価するため、コミュニケーション役割や役割意識の評価方法についても検討していく。

担　当　授　業　科　目
基礎演習（通年）（福祉学科） ヒューマンサービス基礎演習（前期）（福祉学科） 心理学概論Ⅰ（前期）（福祉学科） 発達心理学Ⅱ（前期）（福祉学科） 発達臨床心理学演習（前期）（福祉学科） 福祉臨床心理学Ⅰ（後期）（福祉学科） 社会心理学（後期）（福祉学科） 福祉臨床心理演習Ⅲ（後期）（福祉学科） 心理学基礎実験（後期・２コマ）（福祉学科） コミュニティ心理学（後期）（福祉学科） 専門研究Ⅰ（通年）（福祉学科） 専門研究Ⅱ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎演習　】 本演習では、１年生を対象とし、大学生として必要なアカデミック・スキルのアップを目指した。 2017 年度は 14～15 名のグループを１グループあたり７回、全４グループを担当した。課題図書の要約・読解、意見の述べ方、文献の引用、レポートのまとめ方をスモールステップで課題を課し、体験的に理解が深まるよう工夫した。個々人へのフィードバックを重ね、最後に一つのブックレポートを作成させた。学生１人１人がそれぞれの現在の学習スキルへの気づき、成長のヒントが得られるよう指導を心掛けた。
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 本演習では、新入学というタイミングでヒューマンサービスの基礎となる対人場面でのスキルアップを目指した。14，５名のグループを１名の教員で担当し、一人ひとりの学生が対人場面における自己のスキルや心理への気づきが得られるよう促した。毎回小レポートを課し、フィードバックを行うなど、学生が積極的に課題に取り組めるよう工夫を行った。
授業科目名【　心理学概論Ⅰ　】 本講義では、発達心理学、人格心理学、臨床心理学、社会心理学の研究方法、基礎となる理論や著名な研究、導き出されたな理論等、心理学の概論について解説を行った。分野が多岐に渡るため、学生の記憶の定着を図るべく、毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。試験前には、積極的に質問を受け付け、研究室での個別指導も行った。

授業科目名【　発達心理学Ⅱ　】

本講義では、青年期から老年期までの人間の発達を、身体的、認知的、心理社会的側面から解説を行った。青年期、中年期の発達を概観し、老年期を中心に据えることで人生後半期における発達的変化を捉えられるようにすすめていった。適宜プリントを配布し、具体的な例を挙げながらテキストを読み深め、パワーポイントにて要点をつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう、心掛けた。

授業科目名【　発達臨床心理学演習　】

本演習では、事例論文についての解説ののち、論文講読を行った。発達心理学、臨床心理学に関係する事例論文を学生が持ち寄り、論文講読、学生同士のディスカッションを行うことで、この分野の理解を深めるよう促した。学生の興味に沿って積極的な発言を促したりするなど、学生の参加しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。論文の比較についての課題を課すなど、各臨床分野での最新の研究の動向について整理し、理解が深まるよう指導した。

授業科目名【　福祉臨床心理学Ⅰ　】

本講義では、臨床心理学の基礎となる精神分析理論、学習理論、人間性心理学の理論と、フロイト、エリクソン、クライン等の発達理論、またそれらの理論に基づく心理療法、心理アセスメントについて解説を行った。

専門用語などは初めて聞く学生も多いため、テキストに加え補足プリントを配布し、語句や概念の理解を促した。毎回、前回の内容を振り返る時間を設けるようにした。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートの質問には逐次応答し、学生が質問しやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

授業科目名【　社会心理学　】

本講義では、社会心理学の基礎となる理論や著名な研究、社会心理学の概論について解説を行った。
日常生活との接点を考えることが、理論の理解に結び付きやすいため、毎回、紹介した理論が日常生活ではどのような形で現れるかを考えて小レポートにするよう促し、次回始めに授業内にてフィードバックし、知識の定着を図った。プリントにて詳細を、パワーポイントにてポイントをつかめるように工夫した。小レポートのフィードバックを行うことで、学生が質問しやすいやすい雰囲気を作るよう心掛けた。

授業科目名【　福祉臨床心理演習Ⅲ　】

本演習では、高齢者臨床におけるアセスメントや心理面接についての指導を行った。発達的側面からの理解を振り返った上で、臨床場面における高齢者の心理について考えながら、アセスメントの手順、アセスメントの際の配慮、アセスメントのフィードバックのあり方について、演習を行った。また、認知症高齢者の心理についてビデオや文献を通して理解した上で、心理療法の目的、手順、具体的配慮、前後のアセスメントについて、演習を行った。具体的な手続きを学ぶことで、学生が心理的課題への理解を深められるよう工夫した。

授業科目名【　心理学基礎実験　】

本演習では、心理学の具体的な研究手続きについて演習を行った。目的に沿った研究方法、データ収集、データ解析を指導した。また、問題と目的、方法、結果、考察という形式に則った論文レポートにまとめる作業について指導した。学生の理解、課題の進み具合に沿って指導を行った。

授業科目名【　コミュニティ心理学　】

本講義では、コミュニティ心理学の基本的理念と具体的実践についての講義、解説を行った。4 年次開講科目ということもあり、一方的な講義ばかりではなく、疑問提示や質問をする機会を積極的に設けることで、議論しながらこれまで身につけた臨床心理学や社会福祉学の理論と比較する中で、コミュニティ心理学の特徴について理解を深めるよう工夫した。

授業科目名【　専門研究Ⅰ　】

本年度は受講する学生は１名であった。前期は、当該学生の興味関心に沿った専門文献の講読を行い、ディスカッションする中で理解を深めるよう促した。後期からは、学生の関心のある領域の研究論文を選択するよう課題を課し、専門研究Ⅱに向けて、論文の形式や研究の方法論についての検討、研究の内容理解、関心のある福祉・心理領域の研究への課題と展望をイメージアップするよう促した。

授業科目名【　専門研究Ⅱ　】

本年度は受講する学生は０名であった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本心理臨床学会	会員	２００１年～現在に至る
西日本心理劇学会	監事（2012 年 4 月～現在に至る）	２００１年～現在に至る
日本ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｲｼｮﾝ心理学会	会員	２００２年～現在に至る
日本発達心理学会	会員	２００７年～現在に至る
日本心理学会	会員	２００８年～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 該当なし				
（学術論文） 該当なし				
（翻訳） 該当なし				
（学会発表） 該当なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
該当なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
該当なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学大学院人間環境学府付属総合臨床心理センター	研究員	2017 年 4 月～2018 年 3 月（1 年間）
大分県中津児童相談所	非常勤心理判定員	2017 年 4 月～2018 年 3 月
大分県中津児童相談所	児童養護施設職員研修担当	2017 年 5 月～2017 年 11 月
西日本心理劇学会	第 43 回鹿児島大会　ワークショップ講師	2018 年 2 月 17 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
【大学】 後援会委員会　委員 キャンパス・ハラスメント委員会　委員 教育の質の保証プロジェクト　担当 【学科】 ヒューマンサービス基礎演習　担当

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　通山　久仁子	職名　　講師	学位　　修士（人間関係学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
障害者福祉、地域福祉	障害者家族、親当事者、主体形成、発達障害、地域福祉活動、NPO

研　究　課　題
「発達障害のある人の親」が行う、発達障害のある人や家族を支援する地域福祉活動に着目し、親としての当事者性（「親当事者」性）を基盤にした自発的な実践活動の生成・展開過程とその活動の意義、またこれらの活動を通した主体としての「親当事者」への変容過程とその意義について明らかにする。

担　当　授　業　科　目
ヒューマンサービス基礎演習（前期） 相談援助演習Ⅰ（後期） 相談援助演習Ⅱ（前期） 相談援助演習Ⅲ（後期） 相談援助演習Ⅳ（前期） 相談援助演習Ⅴ（後期） 相談援助実習指導Ⅰ（通年） 相談援助実習指導Ⅱ（通年） 就労支援サービス論（後期） 福祉経営論（前期） 生命倫理（後期） 社会福祉特講Ⅱ（集中）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　ヒューマンサービス基礎演習　】 初年次の演習科目であるため、ゲーム性のあるグループワークをできるだけ取り入れ、仲間づくりが促進できるようにした。そしてこのグループワークの中で、自分の意見を述べる機会を多く設け、自己表現力が養えるよう努めた。また学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。
授業科目名【　相談援助演習Ⅰ　】 グループワークを通して他者と意見を共有しながら、考察を深めていく機会をできるだけ設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。また学生自身が設定した問題意識に基づいてプレゼンテーションを行う機会を設けた。福祉的課題・問題の理解については、「地域における子ども家庭支援」をテーマとして取り上げ、子ども食堂を運営している実践者の講話を聴いたり、子ども食堂でのボランティア体験を組み入れたりした。
授業科目名【　相談援助演習Ⅱ　】 本演習は相談援助に関わる実践技術を学ぶ演習であるが、技術や技法だけでなく、その基盤にある福祉的理念を同時に伝えられるよう努めた。また技術や技法を学ぶための教材については、学生の関心が高い虐待などの福祉課題を取り入れるようにした。そして学生がその技術・技法を体得し、実習などの実践現場で活かせるよう、繰り返しロールプレイで練習する機会を設けた。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅲ　】

本演習は相談援助実習前の準備段階にある時期に開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で実際に用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。ただそれが技術のみの習得にとどまらないように、その基盤にある福祉的理念を十分に説明する機会を設けるようにした。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅳ　】

本演習は相談援助実習と連動して開講される演習であるため、より実践場面を意識し、臨床現場で用いられる相談援助技術・技法に焦点化し、演習を行った。中でも実習で学生が行うアセスメント・プランニングの視点の習得を目標に事例演習を行った。実習後の指導では、実習生の自己評価結果をレーダーチャートで示せるようにし、自身の到達度を視覚的に認識できるよう工夫した。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助演習Ⅴ　】

本演習は相談援助技術を学ぶ最後の演習であるため、実習で習得した知識や技術を総合して、学生が創意工夫しながら福祉課題に対する課題解決方法を見出していけるような演習となるよう努めた。また個別支援というミクロレベルのソーシャルワークから、地域というメゾレベルのソーシャルワークへと展開できるような視点が習得できる事例を教材として用いるようにした。その中では、これまでの学生の学びの中では馴染みの薄い、地域の組織化や社会福祉調査、ソーシャルアクションの視点を習得できるような事例を取り入れた。学生のふり返りの時間を必ず設定し、さらにその個別の内容をグループ全体にフィードバックして、気づきを共有できる時間を設けた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】

実習前指導を行う本科目では実習への動機づけや、福祉実践に臨む視点形成に焦点を置いた講義を展開した。講義にできるだけワークを取り入れ、学生が自身で考える機会を増やすように工夫した。また車いす体験と、基本的知識の習熟度試験を行い、基本的な技術と知識を確認する機会を設けた。見学実習では、施設からのオリエンテーションだけではなく、現場体験の時間を組み入れ、見学実習後のふりかえりとして、まとめのプレゼンテーションを行う機会も設けた。個別指導の際には、それぞれの学生の特徴や傾向をできるだけ把握し、3年次の実習指導につなげられるよう心がけた。

授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】

実習体験から自ら気づき、考察できる力を育成することを目標に実習指導を行った。事前学習では実習に臨む視点形成、考察するための基礎力をつけることに焦点化した。特に実習日誌作成の方法については演習を繰り返し、指導時間を集中的に設けた。また後期実習前には、個別支援計画書の作成について集中的に指導時間を設けた。事後学習では、それぞれの体験のプレゼンテーションの機会を設け、さらにそれをグループで共有することを通して、学生同士の対話から実習体験を意味づけ、理解を深められるような機会を多く設けるようにした。

また実習施設と共同で開発した実習プログラムを標準化していくため、各施設との共通認識の形成に努めた。

授業科目名【　就労支援サービス論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習でできるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。またこれらの講義内容について、実践現場で困窮者支援を展開している実践者の講話を取り入れたり、視覚教材を用いたりしながら、就労支援のサービス内容を具体的に理解できる機会をつくった。

授業科目名【　福祉経営論　】

本科目は社会福祉士国家試験の指定科目である。そのため養成テキストに沿った講義を展開し、国家試験に必要な知識を伝達するとともに、受験時にも復習でできるような詳しいレジュメを作成した。そして学生が国家試験を意識できるよう、講義中に国家試験を用いた問題演習を取り入れた。また国家試験の受験年度でもあるため、これまで学んだ基礎的な知識を復習する機会も設けた。

本科目は福祉経営という学生には馴染みづらいマクロな視点を必要とする科目であるため、新聞記事等を用いて時事的な問題を扱ったり、学生と年齢が近い若手の実践を取り上げたりなどして、学生が身近にとらえられるような話題を提供するようにした。

授業科目名【　生命倫理　】 　本科目では、生命倫理の課題に対して、学生が第三者としてではなく、当事者として考えられるよう、学生も将来的に直面する可能性のある、生殖補助医療や出生前診断といった、身近な話題を取り上げるようにした。またこれらの課題を具体的に理解できるよう、DVD 等の視覚教材をできるだけ用いるようにした。そしてこれらの課題を通じて学生が人間の生死に対する自身の考えを深められるよう、できるだけ学生同士で討議を行う機会を多く設けるようにした。
授業科目名【　社会福祉特講Ⅱ　】 　本科目は5人の教員によるオムニバス形式の講義である。4 年次の国家試験対策として位置づけられており、福祉サービスの組織と経営・就労支援サービス論を担当した。講義では、本試験で出題が予想される内容や学生の理解が不十分な内容を中心に、問題演習を取り入れながら実施した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本社会福祉学会 日本発達障害学会 障害学会		2004 年～現在に至る 2005 年～現在に至る 2009 年～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 発達障害のある人の「親当事者」のライフヒストリーにみる地域福祉活動の展開過程	単	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本稿では「親当事者」の主体化過程を、子どもの養育歴、地域福祉活動の展開過程と関連づけながらライフヒストリーとして描き、地域福祉活動の実践主体としての「親当事者」とはどのような主体なのかを明らかにした。考察として、「親当事者」は発達障害者支援の制度化をけん引してきた主体であること、そして他者との協働を生んできた主体であることを提示した。加えて「親当事者」による協働の基盤には「対話的行為」（小野　2014）があったことを明らかにした。 ②pp.45-58

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
発達障害者の「親当事者」組織と多様なアクターの協働による地域生活支援に関する研究	日本学術振興会	1,950,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特定非営利活動法人 nest 北九州市障害程度区分認定審査会	理事 委員	2008 年 6 月～現在に至る 2013 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
【保健福祉学研究所運営委員】 2017 年度より本委員を務めている。講演会や報告会の運営の補助を行った。 【社会福祉士国家試験対策講習会】 オリエンテーション時に国家試験に向かう心構えについて丁寧に説明し、1 年間モチベーションを継続して保っていくことができるよう動機づけを行った。今年度は前期に一問一答試験（基礎編）、後期には一問一答（応用編）と過去問 3 年分の問題演習を継続して行い、互いに競争心を持って学習に臨めるような環境をつくるようにした。またこれまでの国家試験対策に加え、最初の段階で勉強方法を指導する時間を設け、受験勉強の体制にスムーズに入れるようにした。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　西丸　月美	職名　　講師	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
養護学、学校保健、健康教育	専門性、連携、学校看護婦

研　究　課　題
養護教諭の専門性について、歴史的背景をもとに連携を中心に考察する。また、学校看護婦がどのように、他職種と連携をしていったか考察する。

担　当　授　業　科　目
地域保健学Ⅱ、看護臨床実習、事前及び事後の指導、基礎看護技術、養護実習、学校保健教育法、学校保健Ⅱ、教職実践演習、看護学、教職実践演習、専門研究Ⅰ、専門研究Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【地域保健学Ⅱ】 本科目は養護教諭一種免許状取得に必要な科目であり、看護臨床実習（病院実習）、養護実習の履修要件を満たすための科目である。現代社会における心身の問題と医療の動向について学び、養護教諭としての健康相談の具体的な方法・技術および子どもの健康問題の解決支援及び連携の方法を解説した。また、将来、養護教諭として健康相談の実践ができるように、グループワーク（ロールプレイなど）も取り入れておこなう。 授業では、地域保健学Ⅰで学んだ知識を基礎に、できるだけ具体例を示し、グループワーク、ロールプレイ等を取り入れ、関心を高めるように心がけた。また、養護実習での経験したことを事例として、事例検討会行った。
授業科目名【基礎看護技術】 本科目は養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の履修要件を満たすための科目である。当科目では、養護教諭として必要な基礎的看護技術、および児童・生徒に身体的健康問題が生じた場合の援助方法に関する知識を養うことを目的とする。感染防御技術を中心とした「健康と環境」、健康状態を判断するための「フィジカルアセスメント」、学校現場で起こりうる状況に対する「応急処置」に関する基礎的知識と看護技術、学校現場で遭遇することの多い健康問題への対応としての「健康問題がある場合の援助技術」について、講義による解説と、現場で役立つ技術の演習を実施した。 授業では、看護の基礎技術をできるだけ理解しやすいように具体的な事例や用具を用いて行った。さらに、養護実習で経験する身体計測についても、学生が計画し実践できるように工夫した。 看護技術については、授業で学んだ知識や技術を学校現場や病院実習で実践できるために、15 コマ目に実技試験を行い、知識や技能の定着を確認した。

授業科目名【看護臨床実習】

本科目は、養護教諭一種免許状資格取得に必要な科目であり、病院実習、養護実習の要件を満たすための科目である。机上の学修を実際の医療の現場に参加することにより、より実践的な知識および技術を深めることを目的として実習をおこなう。さらに、医療活動の実態を知ることにより、広く保健医療の一環としての学校保健の在り方について考察し、養護教諭の果たすべき役割を見出せるよう実習をすすめていく。

3 年生の病院実習の経験を踏まえて、学校における養護教諭の実践に生かしていけるよう、グループワーク等を取り入れより具体的な事例を用いて授業を行った。

4 年生の看護臨床実習では、病院実習の経験を踏まえ、学校現場で実際行う、保健指導の模擬授業、ロールプレイなどを取り入れ知識理解の定着を確認し授業を行った。

授業科目名【学校保健教育法】

学校における保健教育の意義及び教育課程基準の改訂の基本方針等について概説し、小・中・高等学校における保健学習、保健指導の位置づけ、目標・方針・内容等について解説する。児童生徒等の発達段階に応じた授業成立の要件を学び、指導計画、指導内容、指導方法、指導案の作成、教材研究、評価法について習得する。小・中･高等学校及び特別支援学校における保健教育の授業を展開できる能力を養うことを目指す。

授業では、保健教育の理論について学び、学習指導要領に基づき指導案を作成した。一人ひとりが、保健指導の指導案、教材を作成し、10 分間の保健指導を行った。模擬授業について、全員で参観し、自己評価・他者評価を行いグループでディスカッションを行った。

教育実習で模擬授業を行うための事前準備の段階ととらえ、実践力をつけることができるように工夫した。

授業科目【学校保健Ⅱ】

学校保健１の教授内容を踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について講義を行った。主な講義内容は、児童生徒等の発達過程や子どもの特性を踏まえた保健室機能と養護教諭の役割、児童生徒等の健康診断、学校感染症予防、疾病管理、学校安全と危機管理、保健指導と健康相談などである。

授業では、養護教諭の具体的な活動例を提示し、グループワーク演習も行った。特に保健室経営についての講義では、「私の理想とする保健室」について、ディスカッションを行い、グループごとに発表を行った。

授業科目【事前及び事後の指導】

養護実習に臨むための準備を整え心構えをするとともに、実習後の整理を追求的におこなう機会となることを意図している。実習前は実習校での学校教育活動と学校経営・運営に参与するにあたって必要となる知識及び技術を身につけることを目指す。実習後は体験を通して修得した事項や課題について学生相互に意見交換させることにより自省的整理や定着化を図ることを期待する。

授業では、養護実習を前に、オリエンテーションを行い人権学習・現職養護教諭の講話などを実施した。さらに、4 年生が養護実習で学んだことを 3 年生に発表できるように時間を設定し、4 年生と 3 年生の交流を実施した。

授業科目【看護学】

看護の概念、看護の歴史及び養護教諭として必要な看護の基礎理論と養護診断について解説する。各論においては、ライフサイクルに応じた、小児看護、思春期看護、耳鼻咽喉科疾患の看護、眼科疾患の看護、歯科保健などについて解説する。また、学校保健と看護との関係について考察を加える。児童生徒等に多く見られる突発的な傷病について､緊急度の判断の方法及び適切な処置･対応を行うために必要な知識と技術についても解説する。

授業では、各論ごとに特徴的な疾患についてグループでプレゼンテーションを行い、ディスカッションを行った。また、解剖学、生理学の知識の定着が図れるよう、課題を作成し授業内容を工夫した。

授業科目【教職実践演習】

この授業は、これまでの教職課程での学習及び養護実習を振り返りながら、養護教諭としての使命感、保護者や地域への責任、信頼される学校づくり等の課題について考える機会となることを意図している。また、児童生徒等の理解の方法や専門性を高めるためのリソース活用法など、各演習テーマについて、グループ学習や討議・発表といった演習形式で学習し、養護教諭の実践的技能と資質・能力の向上を目指す。

養護実習での課題をグループごとにディスカッションをおこない、課題解決に向けてグループワークを行った。さらに、現職の養護教諭の講話「性に関する指導」、「特別支援教育における養護教諭の役割」について行い、実践力を高めるための工夫を行った。特に「性に関する指導」については、グループごとに指導案を作成し、模擬授業を実施した。

授業科目【養護実習】 　養護実習を通して養護教諭として必要な態度を養い、学校保健の推進と実践力を培うことを意図している。小・中・高等学校において３週間の養護実習を体験する。実習内容は実習校の実状に応じて計画する。養護教諭の職務内容については実習校の重点的な保健活動あるいは実習期間中の行事等を考慮する。但し実習機会のない項目についても可能な限り講話や資料で学習し、実習校における保健活動全体の概要を把握できる養護実習にできるように事前、事後の指導を行った。
授業科目【専門研究Ⅰ】 　専門研究Ⅰでは、　テーマを設定し、先行研究等の文献の中から興味のある文献について提示し、グループでディスカッションを行った。さらに、各自が興味のあるテーマを設定し、研究ができるように指導を行った。 　また、3 年生と 4 年生の交流を行い、教員採用試験対策等につて情報交換を行った。
授業科目【専門研究Ⅱ】 　専門研究Ⅱでは、専門研究Ⅰでの研究をさらに深めるために、各自がテーマを設定し、プレゼンテーションを行った。養護教諭として視点から専門性を深め、さらに、少人数でのグループワークを通して、コミュニケーション能力や表現力の養成にも工夫した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本学校保健学会員		平成 21 年 4 月～(現在に至る)
日本教育心理学会員(現在に至る)		平成 21 年 9 月～(現在に至る)
日本人間性心理学会会員(現在に至る)		平成 22 年 6 月～(現在に至る)
日本教育カウンセラー学会員(現在に至る)		平成 26 年 8 月～(現在に至る)
日本学校心理士会学会員(現在に至る)		平成 27 年 1 月～(現在に至る)
日本アロマコーディネーター協会会員（現在に至る）		平成 27 年 1 月～(現在に至る)
日本養護教諭教育学会　第 23 回学術集会　熊本大会実行委員　事務局		平成 27 年 10 月～(現在に至る)
日本産業カウンセラー協会学会員(現在に至る)		平成 28 年 2 月～(現在に至る)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） １．Adler Mates（Ⅰ）	共	１９９５年	ホープエディショナル	①熊本アドラー心理学を日々の生活や人間関係の中で実践し、体験した記録をまとめた。養護教諭としてひとりひとりに応じた対応を行った。その中で、個別の保健指導を通して、生徒の対応について養護教諭としての実践をまとめた。 ②共著者名　柴山謙二他 ③Ｐ73～75
２．Adler Mates（Ⅱ）	共	１９９６年	ホープエディショナル	①熊本アドラー心理学研究会が、６年間毎月出した「アドラー・メイツ・レター」をまとめた研究会誌である。その中で養護教諭として日々の執務の中で、集団・個別の保健指導を実施し、児童生徒に対しての実践をまとめた。 ②共著者名　柴山謙二他 ③P192～P194
（学術論文） １．不登校・教室外登校の児童生徒に対する養護教諭の支援の方法	単	2010 年	熊本大学教育学部紀要, 人文科学 59:34-46,2010-12-03	養護教諭は，学校教育全般を通して児童生徒の健康のみならず人間的な発達も支援していく立場にある。また、養護教諭は、児童生徒の体格、体力、疾病、栄養状態の実態や不安や悩みなどの心の健康に関する実態や保健室で捉えた傷病の実態を多面的に把握する。本稿では、不登校・教室外登校の児童生徒に対する養護教諭の支援の方法について明らかにすることを目的とした。その結果、養護教諭の支援の方法は、漫然とではなく、ある程度段階にのっとって、子どもたちの状態や行動を観察し、その児童生徒に応じた保健指導を行いながら対応していた。

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				著書　2　（内訳　共2） 学術論文　（内訳　単１）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
養護教諭の専門性について	西南女学院保健福祉学部研究所　研究費	○新谷　恭明 一期崎　直美 西丸　月美	350,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名 等	任　　期 期　間　等
（教育上の実績）		
1.熊本大学教育学部　養護教諭特別別科	非常勤講師	1998.10
2.玉名市養護教諭部会研修会　講師	講師	2011.7
3.熊本県公立学校新規採用養護教諭研修　講師	講師	2012.7
4.荒尾市養護教諭部会　研修会　講師	講師	2012.8
5.南関町養護教諭部会　研修会　講師	講師	2013.8
6.熊本県公立学校 10 年経験者研修・新規採用養護教諭研修　講師	講師	2014.7
7.長洲町養護教諭部会　研修会　講師	講師	2015.8
8.熊本県公立学校養護教諭（12 年目以上）キャリアアップ研修　講師	講師	2016.10
（職務上の実績）		
1. 熊本県学校保健会養護部　理事（運営委員）兼務玉名郡市学校保健会養護部長		1995.4 ～1996.3
2. 荒尾市学校保健会養護教諭部部長		2002.4

3. 荒尾市学校保健会保健主事部長		～2003.4
4. 熊本県公立学校教員採用試験対策講座（熊本大学）		2008.4 ～2010.3
5. 玉名学校保健会養護教諭部部長		2016.4 ～2017.3

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会委員　2017 年 4 月～2018 年 3 月 免許更新講習講師　　2017 年 8 月 シニアサマーカレッジ講師　2017 年 9 月

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　金谷　めぐみ	職名　講師 特別契約教員第Ⅱ種	学位　修士（芸術学）（日本大学　2003年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
キリスト教音楽 幼児音楽教育 声楽	明治時代、讃美歌、聖歌

研　究　課　題
キリスト教音楽の研究において、明治時代に日本で歌われたカトリックの聖歌と正教会の聖歌、そしてプロテスタント教会の讃美歌について楽譜付讃美歌が出版された経緯を記し、文献的考察を行った。

担　当　授　業　科　目
保育の表現技術1（前期）（福祉学科） 保育の表現技術Ⅱ（後期）（福祉学科） 西洋の音楽と文化（前期）（人文学部　英語学科・観光文化学科） 西洋の音楽と文化（後期）（保健福祉学部　看護学科・福祉学科） 保育実践演習（通年）（福祉学科） 基礎演習（通年）（福祉学科） 保育実習指導Ⅰ（通年）（福祉学科） 保育実習指導Ⅱ、Ⅲ（通年）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の表現技術Ⅰ】 音楽理論では、今回新たに作成したテキストを用いて授業を行った。テキストの内容を説明し、到達目標を最わすことで、学生の学習意欲の向上をはかった。授業では、机間指導を行い、1 人ひとりに適した細やかな指導けた。復習課題として練習問題を出し、内容の理解を深めた。また、ピアノの実技指導では、ピアノ初心者と上級者のクラスを分けることで、各自が自分のペースで練習し、上達できるよう、工夫した。
授業科目名【保育の表現技術Ⅱ】 歌唱では曲の歌詞について具体的に説明し、学生が自ら音楽の表現できるよう、呼吸および発声法を用いて実践的な指導を行った。幼児唱歌の弾き歌いにおいては保育の現場を想定した伴奏の体験をさせることで演奏技術の向上を図った。
授業科目名【西洋の音楽と文化】 キリスト教音楽について録音やパワーポイントによる資料を用いて解説した。学生が西洋音楽の歴史について理解するだけでなく、西洋の音楽文化と日本の音楽文化との接触について深く考えることができるよう授業内容を工夫した。また、讃美歌への関心を高めるため、授業で学生がリクエストした讃美歌について解説し、讃美歌成立の知識をもって讃美できるよう工夫した。

授業科目名【保育実践演習】 音楽劇の創作および発表において、発表後に振り返りの時間を設けることで、協働することについての気づきや反省点をグループおよび全員で共有するなどの工夫をした。練習では舞台における危険性やその対処法、舞台マナー、演じ方、声の出し方などを口頭による説明だけでなく実践することで学生自身が体得できるよう工夫した。
授業科目名【保育実習指導Ⅰ】 実習の現場で行う設定保育を想定し、指導案の作成と手遊びや絵本の読み聞かせの発表を行い、改善すべきところや感想を全員で共有することで、実習での実践力を養うことができるよう工夫した。 また、指導案作成においては、練習を重ね、個別の指導を繰り返すことで、一人ひとりの指導案を書く力を養うことができるよう工夫した。
授業科目名【保育実習指導Ⅱ】 「保育実習指導Ⅰ」に引き続き、実習の現場を想定し、指導案の作成および設定保育の発表を行った。 実習前に設定保育を想定し、発表することで、その反省から指導案の内容をより深め、保育現場における実践力を養うことができるよう工夫した。また、個別指導において十分な時間を確保し、学生の学習内容を補強するよう努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本声楽発声学会 日本演奏連盟		2012年10月～現在に至る 2013年～現在に至る 2009年12月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 明治時代に歌われた聖歌・讃美歌	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	① 明治時代にローマ・カトリック、ロシアの正教会、そしてアメリカのプロテスタント教会の各教派の宣教師がキリスト教と音楽を伝えた。日本人は宣教師と協力し、日本人が歌える聖歌および讃美歌を短期間で翻訳または創作した。讃美歌は、日本における西洋音楽普及の先駆けとなった。本稿では、明治時代の聖歌・讃美歌における日本の西洋音楽の導入について記した。 ② 共著者名　植田浩司 ③ P59-70

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
苅田キリスト教会	奏楽者	2006 年～現在に至る
苅田町四季の音楽会実行委員会	委員	2010 年 4 月～現在に至る
国立音楽大学同調会福岡県北九州支部	役員	2011 年 4 月～現在に至る
通所介護施設「和楽庵」	講師（音楽）	2011 年 4 月～現在に至る

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
入学式の讃美指導 大学および短期大学部チャペルの讃美指導 西南女学院中学・高等学校讃美歌コンクール審査員および講評（2017 年 6 月 3 日） 大学および短期大学部クリスマス礼拝の讃美指揮、聖歌隊指導、独唱讃美（2017 年 12 月 15 日）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　山本　佳代子	職名　助教	学位　学士（体育学）福岡大学 1996 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育学	障害児・者　レクリエーション・あそび 余暇活動　放課後等デイサービス

研　究　課　題
障害のある子どもを育てる保護者が期待する、子どもの余暇の過ごし方について考察する。 障害のある子どもの余暇活動支援に関わる学生の意識調査

担　当　授　業　科　目
基礎実習 相談援助演習Ⅰ 相談援助実習指導Ⅰ 相談援助実習指導Ⅱ 相談援助実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎実習】 担当教員でグループを分け、個別指導ができる体制を整えている。実習前の授業では、実習先についての事前学習に、座学だけでなく実技も取り入れ、学生が実習生として求められる姿勢や態度、それぞれの領域で基本的に求められる技術を実際に身に着けた上で実習に臨めるよう工夫した。
授業科目名【相談援助演習Ⅰ】 グループワークを多く取り入れ、自分の意見を相手に伝えることに慣れること、相手の意見を聞くこと、そこから新たな視点を得ることなどを目標とした。そのためにグループワークは毎回メンバー構成を変え、多くの人と意見交換しながら課題に取り組めるよう工夫した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅰ】 実習前は、制度の理解や実習先の情報収集の他に、ＤＶＤ視聴や見学実習を取り入れ、具体的に実習をイメージできるよう取り組んだ。また、事前学習ではテーマ選択から発表までグループで取り組む機会を設け、同じ領域に実習に行く学生間で、今後協力しあい実習やその後の課題に取り組んでいけるよう工夫した。
授業科目名【相談援助実習指導Ⅱ】 実習に関する書類作成等を個別指導することで、一人ひとりが明確な課題を持って実習に臨むことができるよう指導した。実習中の巡回指導や実習後の振返りでは、実習体験から得た学びや今後の課題などを聞き取り、またそれらを全体でも共有し、体験できなかったことも知識として一人ひとりが吸収できるよう配慮した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本レジャー・レクリエーション学会 九州レジャー・レクリエーション学会		2004～ 2013～

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について	共同研究	2017.10	日本家政学会九州支部第63回大会	スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況や身体状況を探るため、アンケート調査及び身体計測（体組成測定）、握力測定、血色測定を行い、その実態を把握することにより、地域住民の健康増進を図ることを目的とした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
部活学生の栄養状態や身体組成の実態調査と栄養介入後の変化に関する研究	西南女学院大学	○山田志麻 稲木光晴・阿部弘 石井愛子・ 山本佳代子	1269000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
障害のある子どもの余暇活動支援【ちゃれんじ】	子どもゆめ基金	216,000 円	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特定非営利活動法人 日本障害者スポーツ指導者協議会 福岡支部	監査	2009.4～

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○学生がボランティア活動に積極的に取り組めるよう、掲示やメール案内の他に、外部機関とのコーディネート、ボランティア講習会などを開催している。 ○福祉学科の学生と共に活動している、障害のある子どもを対象としたスポーツ・レクリエーション活動【ちゃれんじ】では、子どもやその家族の余暇活動支援を行っている。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　嶋田　くるみ	職名　　助手	学位　学士（西南女学院大学　2014年卒）

研　究　分　野	研究内容のキーワード

研　究　課　題

担　当　授　業　科　目

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅰ　】 授業準備、補助。
授業科目名【　相談援助実習指導Ⅱ　】 授業準備、補助。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅰ　　】 授業準備、補助。
授業科目名【　精神保健福祉援助実習指導Ⅱ　　】 授業準備、補助。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本精神保健福祉士協会 福岡県精神保健福祉協会 筑豊地区精神保健福祉士協会 西南女学院精神保健福祉研究会	書記	なし

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
学生総合支援室アドバイザー

栄　養　学　科

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　八木　康夫	職名　　教授	学位　　博士(医学)　(産業医科大学 2003 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
運動生理学 生理学 生理心理学	exercise, recognition, information proceeding, event related potentials, P300, reaction time, elderly, supplements

研　究　課　題
高次脳機能に及ぼす運動の効果を、事象関連電位 P300 及び反応時間（RT）を用いて検討する。運動の効果について、一過性の効果、慢性効果、加齢効果、脳血流への効果を検討している。また、高次脳機能に及ぼす歯科咬合の効果についても検討している。その他、運動パフォーマンスに及ぼすサプリメントが代謝経路に及ぼす効果、高次高機能に及ぼす効果についても検討している。近年、アスリートのパフォーマンスに及ぼす栄養素の効果について検討を始めた。

担　当　授　業　科　目
健康科学（栄養学科、１年前期） 健康科学実習Ⅰ（栄養学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（栄養学科、１年後期） 運動生理学（栄養学科、4 年前期） 健康体力評価論（栄養学科、4 年後期） 卒業ゼミ（栄養学科、4 年通年） 卒業研究（栄養学科、4 年通年） 健康科学（英語学科、観光文化学科、１年前期） 健康科学実習Ⅰ（英語学科、観光文化学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（英語学科、観光文化学科、１年後期） 健康科学実習Ⅰ（看護学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（看護学科、１年後期） 健康科学実習Ⅰ（福祉学科、１年前期） 健康科学実習Ⅱ（福祉学科、１年後期） スポーツ科学実技（短期大学保育科、１年通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　健康科学　】 1.　PCを用いてプレゼンテーション・ソフトウェアーによる資料提示をおこない、必要に応じて資料を配布した。 2.　最新のトピックスの引用、および、最新の資料の提供に努めた。 3.　単元毎に小テストを行い、1週間内に採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導した。 本講における小テストの導入は、受講態度は積極的な参加態度に変容したばかりか、質問をする学生が回を追う毎増し、それはクラス全体の積極性を生みだし、授業内容の理解度はこれまでになく明確に向上したと思われる。
授業科目名【　健康科学実習Ⅰ　】 1.　受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。 2.　3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。 3.　各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把

握させ、運動意欲を喚起した。
4. 1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
5. 健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、集団スポーツ種目を実施した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。その結果、受講者は積極的行動へ変容したと思われる。

授業科目名【　健康科学実習Ⅱ　】
1. 受講者は、夏休み明け、後期末に体力測定および体組成（体脂肪量等）の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係を把握できるようにした。
2. 各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させることによって自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。
3. 1および2について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。
4. Ⅱでは職場や地域で行われている個人またはペア種目であるラケットスポーツを導入した。自己の技能到達度の把握とそれに基づく技能獲得目標の設定、ルールや競技器具の正しい使い方と物理的性質の把握による種目の理解、ペア同士の個人的理解に基づく勝利を目指した積極的チームワークの形成を促した。その結果、参加態度は積極的行動に変わったと思われる。

授業科目名【　運動生理学　】
1. パソコンを用いて視聴覚機器による資料提示および配布資料を毎時間行い、最新の資料の提供に努めた。
2. 単元毎に小テストを行い、翌日採点結果を各学生に提示し、学習意欲を誘導するよう努めた。
3. 単元毎に授業ノートを提出させ、添削し、授業に対する緊張感と聴講する集中力を高めるよう努めた。

授業科目名【　健康体力評価論　】
1. 運動生理学の基礎的知識と基礎的実験測定の定着を前提とした、仮説の立て方、実験の方法、結果の解析方法を演習方式で講義した。
2. 数回の実験測定を実際に行い、結果の分析、統計処理を学生の前で行い、仮説の検証の実例を目の前で行い、全データ、統計処理結果を手渡し、レポートを作成させ、測定および解析の実体験から検証方法の基本的考え方を定着させるようにした。
3. 受講者は、自己のデータ及び受講者のデータから論文形式でレポートを作成し、書くレポートごとに個別的指導を行い、論知的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本運動生理学会	常任理事（2008.7~至現在）	1992.4
日本体力医学会	評議員　（2017.4~至現在）	1985.4
日本生理学会		1991.4
日本臨床神経生理学会		1997.4
西日本生理学会		1990.4
九州体育学会		1988.4

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他） 平成29年度 福岡県バスケットボールリーグ戦 準優勝	共	2017.4.14-21	福岡県大学バスケットボール連盟	福岡県総合選手権の出場権を獲得した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第22回 全九州大学春季バスケットボール選手権大会 第4位	共	2017.4.26-5.11	九州大学バスケットボール連盟	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
女子66回 西日本学生バスケットボール選手権大会 三回戦進出	共	2017.6.1-68.8	関西大学バスケットボール連盟 （大阪）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第67回 九州地区大学体育大会 第3位	共	2017.7.5-7	九州大学体育連合 （熊本地区）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第24回 九州大学バスケットボールリーグ戦 第4位	共	2011.9-10	九州大学バスケットボール連盟 （九州各地）	九州地区の大学の順位を決める大会は、一部リーグで全10試合を行い第4位であった。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦
平成29年度 福岡県総合バスケットボール選手権大会 出場	共	2017.11.8-9	福岡県バスケットボール協会 （福岡市）	顧問:八木康夫 監督:木村友彦
第53回 三地区大学バスケットボール選手権大会 Bチーム優勝 Aチーム準優勝	共	2017.12.8-11	九州、中国、四国大学バスケットボール連盟 主管：中国大学バスケットボール連盟 （広島）	A・Bの2チームで出場し、参加大学約５０大学中１・２位を独占した。 顧問:八木康夫 監督:木村友彦

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本バスケットボール協会 日本体育協会 公開講座シニアサマーカレッジ 福岡共同･教員免許状更新講習	JBA 公認 C 級コーチ バスケットボール指導員 講師 講師	~2016.3 ~2017.9.30 ~2015.8 2015.8.18

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
人事委員：全学科人事審査及び昇格審査等 学生委員：委員会活動、栄養学科の新入生研修会の計画と総指揮、栄養学科オリエンテーション・記念行事･卒業式栄養学科オリエンテーションの計画・進行・司会等 総合人間科学小委員会委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　南里　宏樹	職名　　教授	学位　博士（医学）（九州大学　1983年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養代謝学　生化学　臨床栄養学　細胞生物学	活性酸素　酸化ストレス　抗酸化防御機構 糖毒性　糖化タンパク質　血管内皮細胞

研　究　課　題
栄養が健康に及ぼす影響を、おもに活性酸素による酸化ストレスと高血糖による糖毒性に注目して、生化学・細胞生物学的手法を用いて解析する。特に、高血糖による血管内皮細胞の機能障害を、活性酸素に対する抗酸化防御機能との関連において検討する。

担　当　授　業　科　目
基礎栄養学Ⅰ(前期)　2クラス 基礎栄養学Ⅱ(後期)　2クラス 病理学(後期)　2クラス 臨床栄養学実習Ⅰ(前期)　2クラス 管理栄養士演習Ⅱ(前期) 管理栄養士演習Ⅶ(後期) 運動・環境と栄養(後期)　2クラス 健康と栄養(後期)(看護学科) 栄養学概論(前期) 卒業ゼミ(通年)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　基礎栄養学ⅠおよびⅡ　】 基礎栄養学は、化学を苦手とする学生が多いので、生化学と関連づけながら講義した。また、講義の始めに前回の講義内容を簡単に復習して、全体の流れが分かるように留意し、重要事項は繰り返し強調するように心がけた。講義で使用したスライドは、すべて印刷して資料として配布した。また、管理栄養士国家試験の過去問題(2000年～2017年)の解説集、基礎栄養学の重要項目の練習問題を早期に配付し、日ごろの予習復習に役立つようにした。後期の基礎栄養学Ⅱについては、担当教員の怪我により、後半は、尾上教授に講義を担当していただいた。
授業科目名【　病理学　】 病理学は、栄養学科の学生にとって難解な医学専門用語が多いため、できるだけ具体的な図解や例を挙げるようにした。これまでの授業評価では、「授業進行が速い」、「重要ポイントがわからない」などの感想が多いので、重要事項はなるだけゆっくり、繰り返し強調するように留意した。後期の後半（6回分）については、担当教員の怪我により、後半は、田川教授に講義を担当していただいた。
授業科目名【　臨床栄養学実習Ⅰ　】 糖質代謝、脂質代謝、たんぱく質・アミノ酸代謝、エネルギー代謝、貧血に関連する臨床検査指標の測定、数値の解釈について、各種疾患の病態と栄養代謝を関連づけて理解できるように留意した。また、実習内容の栄養学的および医学的意義について考えさせるための課題を出し、レポートを提出させた。

授業科目名【　管理栄養士演習ⅡおよびⅦ　】 三人の教員が分担する栄養学科４年生のための演習で、わたしは「基礎栄養学」と「病理学」を担当した。2000 年～2017 年の基礎栄養学、病理学に関する管理栄養士国家試験の問題について、分野別に分類し、分野ごとに 10～15 年分の問題をまとめて解くやり方で演習を実施した。その際、問題に関連する周辺事項を幅広く理解させるため、問題についての詳しい解説や重要事項をまとめたプリントを配布した。演習と自主講義と併せて、前期 11 回（うち自主講義６回）、後期８回（うち自主講義４回）実施した。後期の後半は、担当教員の怪我により、自主講義は中止した。また、夏休みの集中ゼミを２日間(4 コマ)を実施した。
授業科目名【　栄養学概論　】 本科目は、1 年生の初年次教育を目的としたオムニバス方式による講義および体験学習である。今年度の体験学習では、管理栄養士の仕事に対する理解を深め、管理栄養士としての自覚を高めることを目的として、実社会で管理栄養士として活躍している本学の卒業生、および、現在、在学中の先輩学生によるセミナーを開催した。各教員は 10 人前後の学生グループを受け持って、ルーブリック評価を用いてレポートを評価した。
授業科目名【　運動・環境と栄養　】 三人の教員が分担する栄養学科３年生のための講義である。わたしの怪我により、わたしの担当分は、八木教授、岡部教授に講義を担当していただいた。
授業科目名【　健康と栄養（看護学科）　】 三人の教員が分担する看護学科１年生のための健康と栄養に関する講義である。わたしの怪我により、わたしの担当分は、古田准教授、坂巻准教授に講義を担当していただいた。
授業科目名【卒業ゼミ】 基礎栄養・応用栄養・臨床栄養に関連するテーマを自分で選択し、それについて主に文献的に調査・検討して、最後にレポート(パワーポイントによる発表とワードによる論文)にまとめるという形式で実施した。文献の集め方、発表の仕方、レポートの作成方法について指導した。レポートの作成は 11 月までである程度目途がついていたが、わたしの怪我により、12 月以降は十分な指導ができなかった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1977 年４月より現在に至る
日本栄養・食糧学会		2003 年５月より現在に至る
日本肥満学会		2008 年４月より現在に至る
日本栄養改善学会		2014 年１月より現在に至る
2015 年第 62 回日本栄養改善学会学術総会実行委員会	総務委員会副委員長（2014 年～2015 年）	

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
				教育研究業績　総数（2018..3.31 現在） 著書　8　（単 0　共 8 ） 学術論文　64　（単 3　共 61 ） 学会発表　97　（単 0　共 97）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
図書館長（2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日） 図書委員（委員長）（2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日） 研究紀要委員（2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日） 栄養学科長（2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　尾　上　　均	職名　　教授	学位　　教授

研　究　分　野	研究内容のキーワード
生化学 細胞生物学	細胞内 Ca^{2+}動員機構 細胞内 Ca^{2+}恒常性維持機構 タンパク質相互作用 インスリン分泌

研　究　課　題
① 細胞内カルシウム動因機構 ② 細胞内カルシウム恒常性の維持機構 ③ イムノフィリンと細胞内カルシウム放出チャネルとのタンパク質間相互作用 ④ インスリン、グルカゴン分泌に影響をおよぼす食品成分に関する in vitro 研究

担　当　授　業　科　目
栄養学概論 生活の中の化学 生化学Ⅰ 生化学Ⅱ 生化学実習 人体の構造と機能実習 管理栄養士演習Ⅱ 管理栄養士演習Ⅶ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　栄養学概論　】 ● 生理学、生化学、細菌学、食品学および病理学が、栄養学、特に基礎栄養学を習得するための基礎となる科目であること、さらに基礎栄養学という土台の上に応用栄養学や臨床栄養学が構築されていくことを、相関図を用いて説明した ● 上記の基礎額がいずれも生命に関連したライフサイエンスであること、その上に構築される栄養学も当然ライフサイエンスであること、そして人の健康にとって栄養という営みが極めて重要なファクターであることに力点を置いて説明した ● 哲学、生物学、化学、物理および数学といった最も基礎的な学問領域の相関図を用いて、自然科学の中での栄養学の位置づけを説明した ● 講義は、昨年までのものに改訂を加えたスライドを用いて行った
授業科目名【　生活の中の化学　】 ● 栄養学を習得していく上で必須となる化学の基本的知識として、化学結合と電子の関係、酸と塩基、触媒、化学反応論および化学平衡の概念の理解させることを、目標の中心として講義を行った ● 三段論法についての説明および演習を一コマ設けた ● 本科目、生化学Ⅰおよび生化学Ⅱをとおして共通に使用する化学・生化学の基礎プリントを配布し、私の講義に共通の普遍的概念および基礎知識の修得を促すように努めた ● 講義は、スライドを用いて行った。講義時間内に情報を取り入れることに学生を集中させるため、スライドのレジュメは、鍵となる重要なものを特に選んで配布した ● 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　生化学Ⅱ　】

- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　生化学Ⅱ　】

- 本科目は、「生活の中の化学」および「生化学Ⅰ」で講義した知識、概念、用語をつかって、代謝全般の各論、生体内情報伝達機構に関する講義へと発展させた。
- 講義に用いるスライドには改訂を加えて使用した
- 生化学Ⅰで配布した講義内容のキーワードや重要項目をまとめたプリントの続きに改訂を加えて配布した。
- 平行して開講した「生化学実習」と本科目の内容に特に関連性が深い項目については、同じ週に行うよう努めた
- 講義中に話した内容に関する質問をこまめに学生を指名して行い、理解度の把握に努めた

授業科目名【　人体の構造と機能総合実習　】

- 分子模型を用いた実習、および酵素反応実験や電気泳動実験による基礎的な生化学実験実習を通して、生化学Ⅰ(同時期に開講)で学んだ生体化合物の基本構造、および生体反応の特徴を肌で感じることを目標とした
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、酢酸、および簡単なアミノ酸の模型を一人で組み立てられるように指導し、特に不斉炭素とは何かを理解させることを心掛けた
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　生化学実習　】

- 実験を通じて「事実（データ）を有りのままに観察して物事を論理的に理解し、論理的に考察すること」、および「定性性」ならびに「定量性」の概念、センスを身につけることを目標とし、学生にそのことを一貫して要求し続けた
- 実験ノートの重要性を強調し、毎回の実習後、学生のノートをチェックした
- 分子模型を用いた実習では、全員が、グルコース、アミノ酸、脂肪酸の模型を一人で組み立てられるように指導した
- レポートは、「事実の観察」および「論理性」を主眼に採点した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅱ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 管理栄養士Ⅱでは、代謝の基礎と総論、および糖代謝を重点的に取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅶ　】

- 生化学ⅠおよびⅡで履修した範囲を主に講義と練習問題を組み合わせた授業内容にした
- 管理栄養士Ⅶでは、免疫、ヌクレオチドの代謝、糖誘導体などややレベルの高いトピックを取り扱った
- 練習問題はオリジナルに作成した

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会		1995年５月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９）

氏名　　甲　斐　達　男	職名　　教　授	学位　　農学博士（九州大学　1992 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
応用微生物学、食品科学、分子遺伝学、音声学	パネットーネ、パン、穀物、酵母、乳酸菌、ゲノム解析、低糖質食品、Ⅰ型糖尿病、音声解析、音源修復

研　　究　　課　　題
（1）　パネットーネ乳酸菌と酵母のゲノム解析
（2）　Ⅰ型糖尿病患者対応の低糖質加工食品の開発
（3）　ライ麦に含まれる酵母増殖因子の同定およびその特性解析
（4）　カストラートの音源修復
（5）　声楽家の歌声特性解析

担　当　授　業　科　目

科　　目　　名		単位数 必修	単位数 選択	開講学期（備考）
微生物学	（栄養学科）×２クラス	2		前期
食品衛生学実験	（栄養学科）×２クラス	1		前期
管理栄養士演習Ⅲ	（栄養学科、オムニバス）	2		前期（担当コマ数：４）
栄養学概論	（栄養学科、オムニバス）	2		前期（担当コマ数：１）
加工食品機能論	（栄養学科）×２クラス	2		後期
食品衛生学	（栄養学科）×２クラス	2		後期
微生物学実験	（栄養学科）×２クラス	1		後期
管理栄養士演習Ⅷ	（栄養学科、オムニバス）		1	後期（担当コマ数：４）
卒業研究	（栄養学科）通年科目		4	通年
卒業ゼミ	（栄養学科）通年科目		2	通年

授業を行う上で工夫した事項

授業科目名**【微生物学（3年生対象）・食品衛生学（2年生対象）・加工食品機能論**（２年生対象）**】**

１．定期試験の問題を７年連続で同じ内容と同じ形式（５択問題５０問）にて実施してきた結果、学年ごとの学力特性が把握でき、４年次の国家試験対策への取り組み方を学年ごとに調整するのに役立った。

２．学生の要望により、成績を学生に開示しているので、評価方法に関するクレームは無かった。

３．教科書以外の授業資料はプリントで配布した。併せて、電子ファイルを教材フォルダが DL できるように便宜を図った。

４．２年生Ｂクラスでは私語がたまにあった。「私語が他人の迷惑になる」ことを根気強く説明し続けたい。ここ数年の間に、授業中に携帯をいじる学生が増大してきた。私語と同様に減点処置を検討したい。

授業科目名**【食品衛生学実験（3年生対象）・微生物学実験（2年生対象）】**

１．例年通り、実験における班構成についてはチームワークが発揮できるよう学生の要望をうまく取り入れ、かつリーダーシップを発揮できるような学生を各班に配置し、学生同士が自由に前向きなディスカッションがしやすい雰囲気作りに努力した。この手法は今年度も成功した。班のメンバー構成は極めて重要であることを再認識した。

２．例年通り、全員参加型の授業（アクティブラーニング）になるよう工夫し、成功したと思われた。

３．今年度から実験レポートを、フルレポート形式から書き込み方式に変更した。それによって、上位の特定の学生だけでなく、全学生の質向上が観られた。

授業科目名**【卒業ゼミ･卒業研究】**（４年生対象、卒ゼミ６名、卒研１名が対象）

１．今年度もグループワークではなく、ひとりに１テーマの研究課題とした。卒ゼミにまったく参加せず単位を取得できなかった学生は一昨年４名、昨年度はゼロ、今年度は１名であった。手法としては、グループワークを廃したことは成功だったと考えられる。卒研生も研究を完遂して研究発表会を行うことができた。今年は、卒ゼミ名からも２名の研究発表ができた。

２．受講生を対象にした就職指導を今年度も継続し、全員が第一志望の就職を決めることができた。また、管理栄養士国家試験に合格できるようサポートを継続した結果、今のところ全員が合格圏内にいる。

授業科目名**【管理栄養士演習Ⅲ・Ⅷ】**（４年生対象）

１．昨年度は気質上、極めて指導の難しい学年であったが、今年度は補講の出席率も高く、学習量も多く、比較的にやり易い学年であった。前期の定期試験の成績が相当に悪かったので心配したが、徐々に例年どおりに学力が回復し、後半の全国模試では担当分野の成績は全国平均を上回った。

２．今年度から国家試験の時期が３月末から３月初めに変わるので、どのような結果が出るか心配である。担当分野である「食べ物と健康分野」の補講（単位とは無関係の補講）の回数は、昨年同様３０コマとし、前期はベーシックな「よくわかる管理栄養士合格テキスト」を、夏休み以降は全国で利用されている「クエスチョンバンク」を用いて、その内容に添って解説することで、学生の理解度の向上を図った。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生化学会	正会員	1991 年 4 月～現在に至る
日本生物工学会	正会員	1994 年 4 月～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1995 年 4 月～現在に至る
米国穀物化学会	正会員	1995 年 4 月～現在に至る
日本食品科学工学会	正会員	2000 年 4 月～現在に至る
日本食品衛生学会	正会員	2002 年 4 月～現在に至る
日本音声学会	正会員	2010 年 4 月～現在に至る
情報処理学会正会員	正会員	2012 年 4 月～現在に至る
日本声楽発声学会	正会員	2014 年 4 月～現在に至る
日本調理食品研究会	正会員・理事	2017 年 4 月～現在に至る

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文）				
①　食材と生薬	共著 総説	2017 年 12 月	日本調理食品研究会誌 Vol.23、No.3、17-26、2017 長藤信哉、甲斐達男（Corresponding Author）	生薬として漢方に利用されているもののなかには、一般の食材として利用されているものが少なからずあり、薬効を考えれば使用に際して注意を要する。そこで、生薬の中で食材として利用されているもの全てについてリスト化し、それらの特性をまとめ上げた。
②　日本の特殊小麦粉	単著 総説	2018 年 3 月	日本調理食品研究会誌 Vol.23、No.4、152-158、2017 甲斐達男	海外では観られない特殊製法によって造られる日本独特の特殊小麦粉について、製法、および、二次加工上と分子レベル

研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				の特性を総括的にまとめた。特殊小麦粉については、これまで文献で紹介されたことがなかった。
				研究業績　総数 （2018.1.25 現在） **著書　４** （単 0、編者・著者 1、共著 3） **学術論文　５３** （単 11、筆頭 18、責任著者 15、共 9） **国内学会発表　１６** （単 0、筆頭 7、責任発表者 3、共 6） **国際学会発表　６** （単 0、筆頭 5、責任発表者 0、共 1） **国内講演　５**（単 3、筆頭 2） **海外講演　１**（単 1） **特許　１５** （筆頭発明者 6、責任発明者 9）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
１．バイオインダストリー協会 ２．内閣府食品安全委員会 ３．福岡県調理師講習 主催：職業訓練法人福岡地区職業訓練協会 講習名：食品学	正会員 モニター 講師	1989 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る 開催日時：2017 年 10 月 1 日（日）、10：00-13：00 開催場所：福岡人材開発センター3F（福岡市東区千早 5-3-1）

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
１．国際交流委員会委員 ２．予算委員会委員 ３．学科初年次教育セミナーワーキンググループメンバー ４．学科改革百十委員会メンバー ５．学科国試対策ブラッシュアップセミナー（担当コマ数：前期６コマ　後期７コマ） ６．教員免許状更新講習講師 主催：西南女学院大学 講習名「わたしたちの食生活を支える食品添加物」 開催日時：2017 年 8 月 23 日（水）13：00-14：30、14：40-16：10 開催場所：西南女学院大学 3201 講義室

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　田　川　辰　也	職名　　教　授	学位　博士（医学）（九州大学　1995 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
循環器内科学　血管内皮機能　酸化ストレス 動脈硬化予防	血管内皮機能障害　一酸化窒素（NO） 抗酸化食品

研　　究　　課　　題
抗酸化食品による血管拡張機能（血管内皮機能）の改善作用に関する研究 非薬物的介入による代謝異常における動脈硬化の予防に関する研究 食生活改善による血管のアンチエイジング戦略ー栄養学による血管内皮機能の改善ー 心血管イベント抑制のための栄養学的戦略ー若年成人からの動脈硬化予防ー

担　　当　　授　　業　　科　　目
疾病診断治療学Ⅰ（前期） 臨床栄養学実習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅰ（前期） 栄養学概論（前期） 疾病診断治療学Ⅱ（後期） 臨床栄養管理学（後期） 病理学（後期） 管理栄養士演習Ⅵ（後期） 臨床栄養活動論（後期） 卒業ゼミ（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【疾病診断治療学Ⅰ、Ⅱ】 疾病診断治療学Ⅰ、Ⅱの講義では、人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患について、栄養学との関 留意して概説している。講義内容としては、消化器、肝臓、膵臓、心臓、腎臓などの代表的疾患について、その 症状、診断、治療（食事療法を含む）について概説している。パワーポイントによるスライドやプリント等の補 材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、疾患を学ぶにあ て、各臓器の生理機能と疾患を関連づけて理解できるように、その基礎となる解剖生理学や生化学を復習した 臨床生理学・臨床生化学の講義をしている。資料については、次回の授業プリントを先に配るようにし、予習 いようにした。昨年に引き続き、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに の確認テストを行っている。授業アンケートでは、説明がわかりやすいという意見をいただいた。今後もわかり い授業を心がけるつもりである。
授業科目名【臨床栄養管理学】 臨床栄養管理学では、ニュートリション・サポート・チームの一員として管理栄養士が備えておくべき栄養管理の専門知識や技術の基本を学び、さらに保健、医療、福祉との連携の中でも、ケア・マネジメントに参画できる能力を養うことを目的として、授業を行った。臨床における栄養管理システムと栄養評価について説明することができるようになるよう、指導した。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材の活用し、学生の集中力を高め、できるだけ多くの内容を吸収できるように工夫した。また、予習しやすいように次回の授業プリントを先に配るようにした。また、理解度の把握、確認のため、昨年に引き続き、理解度の把握、確認のため、授業では、始めに前回の復習テストを、終わりに授業の確認テストを行っている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ・Ⅵ】

管理栄養士演習では、単に国家試験対策として問題を解かせるだけでなく、毎回の授業で、テストとレクチャーを組み合わせ、ポイントをまとめたプリントを作成し、学生たちが疾患の成り立ちやその治療法に対する理解を深めることができるように努めた。管理栄養士演習Ⅰは過去問を中心に、管理栄養士演習Ⅵは学生の不得意分野を重点的に講義し、参考プリントを作成し、理解しやすくなるように心がけた。今後も学生に理解しやすい授業を心がけるつもりである。

授業科目名【栄養学概論】

栄養および栄養学とは何か、また、人の保健・健康に対してどのような影響や意義もつのかを理解することにより、学生自身が栄養学を学ぶ意味を考え、展望を持って学べる姿勢を養う栄養学概論において、栄養と健康および疾患との関係を理解するため、病院での管理栄養士の役割を説明した。特に、栄養サポートチーム(NST)の活動、患者のQOL（生活の質）の改善に対し興味が持てるように努力した。

授業科目名【病理学】

病理学においては、臨床病態学、診断学を中心に講義した、私自身の臨床医（総合内科、循環器内科）としての臨床経験を活かし講義し、終末期医療、尊厳死、LIVING WILL、SECOND OPINION などの医療倫理や EBM(Evidence based Medicine)についても詳しく説明し、現代医療の問題点を理解するよう努力した。また救命救急法についても講義し、救急で現場でも役立つよう指導した。講義の内容的には、2 年生で受講する臨床生理学・臨床生化学への橋渡しになるように工夫した。パワーポイントによるスライドやプリント等の補助教材を活用した。

授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】

基本的な身体診察法、救命救急法、心電図、75g 糖負荷試験、GI 値などの実習授業を行った．これらの内容は、医療現場の実際を体験することであり、医療スタッフとしての管理栄養士を目指すためには重要な内容である。学生たちが興味をもてるように、できるだけ医療の現場に近い形態で、体験型の実習にこだわって実習を行った。学生たちは、実際の医療現場に対する興味が深まったと考えられた。また、症例検討会を行い、症例のアセスメントをトレーニングした。

授業科目名【臨床栄養活動論】

臨床栄養活動論のなかで、医療人の倫理について、講義している。管理栄養士は当然医療人であり、倫理観が問われるが、医師や看護師における倫理と管理栄養士の倫理の違いについて、解説している。また、講義内容を理解できているかどうか、確認するため、授業の最後にレポートを提出させ、確認している。今年は、障害者に対する倫理観を問う「クワガタと少年」のビデオを見せ、「電池が切れるまで」の読み聞かせをして、その感想文を書かせて、学生たちの理解度を確かめた。

授業科目名【卒業ゼミ】

前腕血流量測定装置であるプレチスモグラフ、大動脈波伝播速度測定装置である form、酸化ストレス測定装置である FRAS4 を使用し、血管内皮機能と酸化ストレスの測定を行っている。研究課題としては、アルギニン、緑茶カテキン、エイコサペンタエン酸などの食品による血管内皮機能改善効果や抗酸化作用を調べている。学生に研究の面白さを知ってもらえるよう、できるだけ、学生主導で研究を計画、実行している。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本循環器学会	循環器専門医（1996 年 3 月～現在に至る） 九州支部評議員（2004 年 4 月～2008 年 3 月）	1989 年 4 月～現在に至る
日本内科学会	認定内科医（1994 年 9 月～現在に至る） 認定総合内科専門医（2005 年 12 月～現在に至る）	1989 年 6 月～現在に至る
日本高血圧学会	評議員（2002 年 4 月～現在に至る） 特別正会員（2003 年 4 月～現在に至る） 高血圧専門医（2009 年 4 月～現在に至る）	1992 年 8 月～現在に至る
日本臨床薬理学会	会員	2002 年 5 月～2009 年 9 月

日本医師会 日本栄養改善学会	産業医（2005年2月～現在に至る） 健康スポーツ医（2006年1月～現在に至る） 会員	2002年6月～現在に至る 20014年10月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1. 大学連携事業として地域密着型食育活動の展開 −3年間の取組並びに今後の展開−	共	2018年3月	西南女学院大学紀要 22巻	① 西南女学院大学栄養学科と九州歯科大学は連携公開講座を北九州の地域住民を対象に公開講座を実施した。公開講座は2部制とし、第1部は講演、第2部は教員と学生による食事提供とした。この活動は地域貢献、地域密着型の食育活動になると考えられる。また、学生が公開講座の遂行に関わる一連の管理栄養士業務を実体験する。3年間の活動をまとめた。 ② 共著者名　近江雅代、境田靖子、青木るみ子、辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、田川辰也 ③ 担当部分　講演、学生指導 (P91-P100)
（翻訳）				
（学会発表） 1. 地域住民の骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する食育推進活動の取り組み −2016年度実施報告−	共	2017年5月	第5回日本食育学会総会・学術大会（於　愛媛大学）	① 西南女学院大学と九州歯科大学は、「食と健康」に関する啓発活動を通して、地域住民の健康増進に貢献することを目的とした連携公開講座を開催している。平成27年に引き続き、平成28年もこの開講座の参加者の骨密度を測定した。結果、86%が低骨量に該当した。本公開講座の栄養支援の介入を積極的に行い、骨粗鬆症予防のための食育活動をより一層強化したいと考える。 ② 共著者名　手嶋英津子、浅野嘉延、田川辰也、近江雅代 ③ 講演・学会報告要旨集 (P K-010)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開 □～第３報：３年間の取組と今後の課題～	共	2017年９月	第64回日本栄養改善学会総会 （於　アスティとくしま）	①　西南女学院大学栄養学科と九州歯科大学は連携公開講座を北九州の地域住民を対象に公開講座を実施した。公開講座は2部制とし、第1部は講演、第2部は教員と学生による食事提供とした。この活動は地域貢献、地域密着型の食育活動になると考えられる。また、学生が公開講座の遂行に関わる一連の管理栄養士業務を体験することにより、管理栄養士を目指す動機付けになると考えられた。 ②　共著者名　近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也 ③　栄養学雑誌75巻（5号）(P132)
3. 正常若年成人女性における内因性女性ホルモンの血管拡張機能への影響	共	2017年９月	第64回日本栄養改善学会総会 （於　アスティとくしま）	①　正常若年成人女性において、内因性女性ホルモンの変化が血管拡張機能に及ぼす影響を検討した。反応性充血時の前腕血流量を、女性ホルモンの分泌が多い排卵期と、少ない月経期で比較した。結果、月経期に比べ、排卵期では反応性充血時の前腕血流量の増加が有意に多かった。内因性のエストロゲンは、血管拡張機能に保護的に働くと考えられた。 ②　共著者名　田中貴絵、田川辰也 ③　栄養学雑誌75巻（5号）(P139)
4. 施設利用高齢者の食欲指標SNAQと栄養状態及び健康関連QOLとの関連性について	共	2017年９月	第64回日本栄養改善学会総会 （於　アスティとくしま）	①　食欲指標SNAQ(Simplified Nutritional Appetite Questionnaire)と身体面、心理社会面、生活面に関わる器質的、機能的要因との関連を調査し、SNAQの有用性について検討した。結果SNAQによる食欲不振の判定は、低栄養、低体重および健康関連QOLの低下と関連があることが示唆された。 共著者名　山田志麻、岩崎正則、濱嵜朋子、増田 渉、田川辰也、角田聡子、安細敏弘 ③　栄養学雑誌75巻（5号）(P157)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開 ～第４報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会総会 （於　アスティとくしま）	②　A大学とB大学は連携公開講座を北九州の地域住民を対象に公開講座を実施した。公開講座は2部制とし、第1部は講演、第2部は教員と学生による食事提供とした。3年間この事業を実施した。本事業への参加数と生活習慣改善との関連性について検討した。参加回数4回以上の参加者は、3回以下の参加者に比べ、講演についての理解度が高く、減塩、脂肪分を取り過ぎない、魚をよく食べる、よく噛んで食べる、定期的に体重を測定する、定期的に血圧を測定する、の実践率が有意に高かった。本事業への参加を重ねることにより、生活習慣の改善に繋がったと考えられた。 ③　共著者名　石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、田川辰也、近江雅代 ③　栄養学雑誌75巻（5号） (P140)
（講演会等の発表） 1. それは突然やってくる！急性心筋梗塞の恐怖	単	2017年7月	2017年度第1 回西南女学院大学・九州歯科大学公開講座	①　急性心筋梗塞の病態及び危険因子を説明するとともに、動脈硬化の予防および食事療法などの治療について解説した。 ②　テキスト (P1-P15)
2. 腸活でスッキリ！お腹にいいこと始めませんか?	単	2017年10月	2017年度第13回西南女学院大学・九州歯科大学公開講座	①　今、話題の腸内環境について、解説するとともに、腸内環境を改善させる食事について、説明した。 ②　テキスト (P1-P8)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学	○田川辰也、他 10名	1,051,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
ω-3 系多価不飽和脂肪酸による心筋梗塞発症抑制戦略	文部科学省	1,430,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
九州大学医学部同窓会	同窓生名簿編集員	2009 年 4 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員会　委員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 動物実験委員会　委員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 内部監査部門　責任者　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 キャンパスハラスメント相談員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 外部資金導入促進プロジェクト　コーディネーター　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 ブラッシュアップ支援（国家試験対策）委員会　委員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 弓道部顧問　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 アドバイザー

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　近江　雅代	職名　　教授	学位　博士(医学)(福岡大学 2002 年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床栄養学、栄養形態学	全身性エリテマトーデス、食事因子、症例対照研究、低タンパク栄養、生食野菜の殺菌、超微形態学的研究

研　究　課　題
・全身性エリテマトーデスに関する症例対照研究 ・栄養バランスに配慮したお弁当メニューの開発および提案 ・非加熱野菜による食中毒防止のための殺菌方法の確立 ・『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開 ・低タンパク栄養が母親および乳仔ラットに及ぼす影響

担　当　授　業　科　目
栄養治療学Ⅰ(前期) 栄養治療学Ⅱ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)(分担) 臨床栄養活動論(後期)(共担) 総合演習Ⅱ(前期)(分担) 臨地実習Ⅱ(後期)(共担) 管理栄養士演習Ⅳ(前期)(分担) 管理栄養士演習Ⅸ(後期)(分担) 栄養学概論(前期)(分担) 臨床栄養学(後期)(看護学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養治療学Ⅰ・Ⅱ】 本科目は、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目標としている。各回、疾患の成因および病態について、2 年次までに修得した科目と関連付けながら解説した。その上で、各疾患における栄養食事療法の意義と目的を説き、栄養アセスメント、栄養ケア計画・実施、モニタリングが連動していることを理解できるよう、留意した。教科書を最大限使用し、かつ、ノート作成をするために、できるかぎり板書を行い、講義した。教科書での不足に関しては、補足プリントの配布を行った。また、毎回の講義終了後、講義内容を復習するための確認テストを配布した。提出されたテストは次回の講義までに採点し、学生に返却することにより、学生は自身の知識の修得を確認することに繋がったものと思われる。本科目は、臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)と密接に関係した科目であるだけでなく、臨地実習要件科目でもあるため、厳しく、かつ、わかりやすい講義を心がけた。
授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】 本実習は、各疾患の病態および栄養状態を把握し、調理実習を通して、栄養・食事療法に対応できる知識および技術を修得することを目標としている。『栄養治療学Ⅰ・Ⅱ』で修得した知識を活用し、身体状況や栄養状態に応じた疾患・病態別の献立を作成し、調理することのできる能力を養うよう、留意した。各回、1 疾患を挙げ、栄養管理のポイントを説明した後、調理示範を行いながら、調理のポイントや留意点を説明した。調理実習中は、各班をまわり、個別指導を行った。また、献立作成能力を高めるため、全員の提出献立にコメントをつけ、学生は自身の献立内容の振り返りを行い、今後の献立作成への課題を見つけることができたと思われる。傷病者の栄養管理では、治療用特殊食品を使用することも多く、実習後は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えていることもあり、業者協力のもと、治療用特殊食品を用いた調理実習も行った。また、実

習の最終回には、献立作成に必須である食品の目測についての試験(数種類の食品の名称ならびに重量を目測で解答)を行い、食品の目測に対する能力を点数化することで、病院実習ならびに栄養士・管理栄養士業務に向けての、より自主的・意欲的に臨むきっかけになったものと推察する。

授業科目名【臨床栄養活動論】

本科目は、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることを目的としている。そのため、現在、医療の現場で活躍されている管理栄養士、医療に関する法律の専門家、ならびに、臨床現場における経験の豊富な医師を特別講師として招聘し、医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際を学び、医療人としての心構えを培った。実際、学生の多くは本科目受講により、職業選択に対し、参考になったと回答しており、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。また、3 年後学期終了後、学生は臨地実習Ⅱ(臨床栄養：病院)での学外実習を控えており、本科目が臨地実習Ⅱに対する動機づけならびに専門的知識・技術修得の重要性の気づきにもなったものと思われる。

授業科目名【総合演習Ⅱ】

本科目は、様々な症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、管理栄養士として、適切な栄養管理ができる能力を養うことを目的としている。各回、1～2 疾患の症例を提示し、まずは学生自身で検討を行った後、症例疾患の成因、病態および治療法について、学生からの解答を導きながら、説明した。その後、詳細な解説を配布して、疾患を総合的に理解し、具体的な栄養管理方法を解説した。また、最終学年の演習であることから、管理栄養士に必要な最新の情報や関連領域のトピックについても、説明した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

本実習は、臨床栄養の実践活動の場(病院)における学外実習を通して、管理栄養士として必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、具備すべき知識・技能を修得することを目標としている。病院において、2～3 週間の実習を行うため、事前学習として、4 回のオリエンテーションを実施し、実習の目的、実習に対する心構えおよび身だしなみ等について、細かく指導した。実習評価表に記載されている項目に関しては、学生自身の知識を整理するために、自己学習ノートの作成を指示し、実習に対する事前学習の機会を設けた。また、実習施設より出された課題については、時間を問わず、個別に添削指導し、実習をお願いする大学として、できる限りの指導を行った。実習中は、実習施設を訪問し、施設の実習指導担当者の指導等に基づき、学生への指導を行った。また、今後の実習のあり方や事前指導等について、病院管理栄養士の方との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善や実習先確保に繋げた。実習終了後は、事後指導として、事後報告会を開催した。施設ごとに発表資料を作成し、全実習施設が発表を行った。また、その報告会には新 3 年生を出席させることにより、臨地実習Ⅱへのモチベーションを高めることに繋げた。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ・Ⅸ】

本科目は、管理栄養士国家試験教科『臨床栄養学』分野の出題傾向およびポイントを理解することを目標としている。臨床栄養学の問題数は 28/200 問であり、本演習の中で、過去 5 年分を網羅するよう、スケジュールを組んだ。1 回の演習において、学生は 10～15 問の過去問を解き、その後、詳細な解説を配布して、1 問ずつ説明を加えながら解説した。

授業科目名【栄養学概論】

本科目は、管理栄養士としてどのような社会的貢献ができるのか、また、将来のキャリアに対する自己の課題を認識し、4 年間の学習への動機づけを行うことを目標としている。全 8 回の講義のうち、第 3 回『管理栄養士に必要な知識および技能とは？4 年間の学習内容について～資質の高い管理栄養士となるために～』を担当した。生活習慣病の蔓延、平均寿命の延伸、医療費の増大等、現代の日本について理解を促し、社会に貢献できる管理栄養士の必要性が高まっている現状を説明した。臨床的および予防的な食支援のできる管理栄養士を目指すため、管理栄養士として身につけるべき知識および技術を解説し、管理栄養士養成施設のカリキュラムに沿って、本学栄養学科の開講科目を説明した。また、第 8 回『私の目指す管理栄養士～社会で活躍している卒業生 3 名による講話～』では、現在、病院、高齢者施設および行政にて管理栄養士として勤務している卒業生を招聘、それぞれの職域における管理栄養士業務等について講話をいただき、講師紹介、学生からの質疑応答等の司会進行を務めた。全 8 回の講義を通して、管理栄養士としての目的意識を強く持ち、4 年間の過ごし方等について改めて考え、今後の学習意欲を高めるものになったと思われる。

授業科目名【臨床栄養学】

本科目は、栄養補給法および病院における栄養管理の概要ならびに主な疾患の病態や栄養状態に基づいた栄

養ケアについて解説し、臨床栄養管理の実際について理解することを目標としている。看護師に必要な臨床栄養の知識を理解するために、病院における栄養管理に始まり、疾患別の栄養管理を解説した。教科書を最大限活用し、重要ポイントについては、板書を行った。教科書の不足に関しては、補足プリントの配布を行った。講義では、これまでに経験した栄養管理の実際や栄養に関するトピック等を話題として取りいれ、臨床栄養をより理解しやすくなるよう、努めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003年　4月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員・評議員	2003年　4月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員・評議員	2003年　4月～現在に至る
日本給食経営管理学会	正会員	2012年　4月～現在に至る
日本臨床栄養協会	正会員	2012年　4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 1. 大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開～3 年間の取組ならびに今後の課題～	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本事業は、西南女学院大学および九州歯科大学の教員と学生の協働による地域密着型食育活動であると同時に、参加型学生教育として、学生の積極的参加を促している。参加者の世代は幅広く、回を重ねるにつれ、参加者数は漸増し、本事業への参加回数が多いほど、参加者の講演に対する理解度は高く、生活習慣の改善が認められた。本事業は健康日本 21(第二次)の目標達成に繋がる健康づくりの場の構築に寄与しているものと思われる。また、参加者の約半数以上がリピーターであり、本事業が参加者同士の交流の場となり、参加者全体の健康増進に対する意識を高めているものと思われる。 ②共著者名：近江雅代、境田靖子、青木るみ子、辻澤利行、秋房住郎、日髙勝美、田川辰也 ③担当部分：実施、考察および論文執筆
（翻訳） なし				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 地域住民の骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する食育推進活動の取り組み	共著	2017年6月	日本食育学会第5回学術大会 （於　愛媛大学）	①連携公開講座の食育イベントとして、骨密度測定・栄養支援を実施した。2016 年度対象者の年齢は 73.9±8.9 歳、骨密度若年成人平均値 81.9±8.1%であり、86%が低骨量に該当した。アンケートでは骨折経験『有』が 33 名(39%)、そのうち 25 名(76%)は50 歳以上での骨折であり、約 8 割以上の高齢者で骨密度の低下が予測され、地域住民の骨粗鬆症予防・改善および要支援・要介護状態や寝たきりを回避するためには、栄養支援を含めた食育推進活動をより一層強化したいと考える。 ②共同発表者名：手嶋英津子、浅野嘉延、田川辰也、近江雅代 ③日本食育学会第5回学術大会講演要旨集(PK-010)
2. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第 3 報：3 年間の取組と今後の課題～	共著	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①本事業は西南女学院大学および九州歯科大学の教員と学生の協働による地域密着型食育活動である。第3報では3年間の取組と今後の課題について報告した。開催回数とともに参加希望は増加し、平均応募者数134人、平均参加者数111名であった。特に学生による給食提供が実施された回の参加率が高かった。参加世代は幅広く、本事業が健康づくりの場の構築にも寄与していることが示唆された。また、参加者にとって学生による手作りといった事業実施者の顔が見えるコンテンツが参加率の上昇に寄与していることが推察された。 ②近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也 ③第64回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P248)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第 4 報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共著	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①大学連携公開講座の参加者は 3 年間で延べ 1,221 名、約半数以上がリピーターである。第 4 報では参加回数と生活習慣改善との関連性について検討した。参加回数 4 回以上群は講演の理解度ならびに食行動・食スキルの実践率が有意に高かったことから、本事業への参加を重ねることにより、講演に対する理解度は高まり、生活習慣改善に繋がったものと思われる。また、参加者の約半数以上がリピーターであり、本事業も定着していることから、本事業が参加者同士の交流の場となり、参加者健康増進に対する意識を高めていると推察される。 ②石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、田川辰也、近江雅代 ③第64回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P273)
4. 女子学生の月経前症候群(PMS)と栄養素等摂取量との関連	共著	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①本研究では、女子学生の PMS と栄養素等摂取量との関連について検討した。回顧的月経困難質問票(MDQ)合計スコアは月経前が月経後に比べて有意に高く、MDQ 増加率にはアルコール、水溶性食物繊維、飽和脂肪酸%E が正の関連を認めた。以上のことからアルコール、水溶性食物繊維、飽和脂肪酸の摂取が多いと PMS の症状が強くなる可能性が示唆された。ただし、アルコール摂取量との関連については、本研究の対象者は年齢的に摂取量が少ないため、他の年齢層においても検討が必要と考える。 ②森口里利子、今井克己、岩本昌子、近江雅代、中園栄里、津田博子 ③第64回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P277)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
5. 糖尿病教育入院患者の食品摂取状況と体重、BMI、HbA1c との関連性について	共著	2017 年 10 月	第 55 回日本糖尿病学会九州地方会 (於　フェニックス・シーガイアリゾート)	①糖尿病教育入院患者の入院前食品摂取状況と体重・BMI・HbA1c の関連を調査した。対象は 109 名(男性 64 名、年齢 60.1±13.5 歳、BMI26.1±5.3、罹病期間 7.9±8.7 年)であり、BMI は食行動点数、表 1、体重は年齢、表 1、表 5、HbA1c は年齢と相関がみられたことから、年齢層により、食事摂取状況が体重・BMI・HbA1c に影響を及ぼすことが示唆された。今後は表 1、5 の聞き取りを重視し、個人に合った問題点を抽出することにより、より効果的な改善が期待されるものと思われる。 ②瀬戸瑠璃、増田圭子、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、野原栄 ③第55回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集
6. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第 1 報：大量調理前後での比較検討～	共著	2017 年 11 月	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会 (於　藤女子大学)	①大量調理前後における自覚疲労度、疲労部位、身体活動量の比較検討を行った。大量調理に携わる学生を対象とし、前日と調理後にアンケート調査を実施、調理当日を含む 1 週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理後の自覚症は『目がいたい』『全身がだるい』『横になりたい』『足がだるい』の項目にて、調理後の痛み・だるさの訴えは『腰部』にて高かった。大量調理後の自覚疲労度、疲労部位の訴えおよび総消費量は高く、肉体的疲労度は増加した。疲労実態の把握により、給食業務における役割分担等、効率的かつ安全に運営するためのシステム構築に繋げたいと考える。 ②近江雅代、石井愛子、手嶋英津子、境田靖子 ③第 13 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P41)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
7. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第２報：身体活動量の実際～	共著	2017 年 11 月	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会（於　藤女子大学）	①大量調理における総消費量、歩数および運動量の実際と経時的変化を検討した。対象は大量調理に携わる学生８名、調理当日を含む１週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理開始時刻は 8:00、終了時刻は 14:00、歩数の記録は調理開始から２時間ごとに行った。調理後の総消費量、歩数、運動量のいずれも、有意に高値を呈した。調理後の歩数は前日に比し圧倒的に多く、特に 10:00～12:00 までの歩数が著しく上昇した。大量調理作業は日常生活に比較して、1 日の総消費量、歩数および運動量が高くなり、特に『盛り付け～提供作業』において、歩数のピークが認められた。 ②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第 13 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P39)
8. 半年で２回の教育入院を経た患者からみえた HbA1c の変化と食行動質問票の有用性	共著	2018 年１月	第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会（於　国立京都国際会館）	①半年で２度の教育入院を経験した患者の食行動の特徴、HbA1c の変化について検討した。初回教育入院時に比し、食行動質問票の点数は減少傾向を示し、それに伴い検査データも改善した。従って、食事聞き取りが困難な患者では食行動質問票は回答しやすく、具体的な問題点の把握が容易であるため、本人にフィードバックすることにより、今後の療養意欲を高めることに繋がるものと思われる。 ②瀬戸瑠璃、増田圭子、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、野原栄 ③第21回日本病態栄養学会年次学術集会講演要旨集(PS-191)

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　総数 (2018.3.31現在) 著書4：(内訳：単0、共 4) テキスト2(内訳：単0、共 2) 学術論文22(内訳：単2、共20) 学会発表62(内訳：単6、共56)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 栄養学科教員	1,139,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
・福岡大学医学部看護学科『食と生活』	非常勤講師	2008年4月～現在に至る
・福岡女学院看護大学『食生活論』	非常勤講師	2016年4月～現在に至る
・株式会社西鉄ストアとのコラボ商品(弁当・惣菜)の開発および提案	責任者	2014年3月～現在に至る
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	給食担当	2014年4月～現在に至る
・平成29年度佐世保市第1回食育実践者ネットワーク会議講演『給食施設に応じた献立作成のコツ』	講師	2017年6月1日
・平成29年度佐賀県学校給食・食育研究発表会講演『児童生徒における望ましい食習慣の形成』	講師	2017年8月21日
・第43回福岡県栄養改善学会	座長	2017年9月17日
・北九州小倉・糠床糠炊き研究会平成29年度講演会～乳酸発酵と郷土料理の栄養的価値～『ぬかとぬか炊きの栄養・効能』	講師	2017年10月1日
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座2017年度第3回シンポジウム『腸活でスッキリ！～お腹にい	シンポジスト	2017年10月21日

いことはじめませんか？～』		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員（2014 年 4 月～現在に至る） ・教育の質保障プロジェクト委員（2014 年 6 月～現在に至る） ・管理栄養士国家試験対策委員（2013 年 4 月～現在に至る）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　岡部　明仁	職名　教授	学位　博士（バイオサイエンス）（奈良先端科学技術大学院大学　2001年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
神経科学、神経生理学、神経解剖学、自律神経機能、呼吸生理、病態生理	抑制性神経伝達物質（GABA、グリシンなど）、Cl^-共輸送体、細胞内Cl^-濃度、呼吸リズム、延髄、摂食・満腹中枢、視床下部

研　究　課　題
１．発達期における細胞内Cl^-濃度の減少に伴う、GABA作用の興奮性から抑制性へのシフトが呼吸リズム形成に与える影響の検討。 ２．哺乳から食餌行動へ移行する際の、視床下部におけるGABA神経回路変化の形態学的検討。

担　当　授　業　科　目
解剖生理学（前期） 解剖生理学実習（前期） 管理栄養士演習II（前期） 応用生理学（後期） 人体の構造と機能総合実習（後期） 運動・環境と栄養（後期） 管理栄養士演習VII（後期） 生理学（後期）（福祉学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【人体の構造と機能総合実習】 昨年度まで、顕微鏡を用いた組織切片のスケッチを行っていたが、本年度はバーチャルスライドを用いて教員とパソコン上で話し合いをしながら、これから観察する標本について予備知識を学んでもらうようにした。その後、顕微鏡観察を行うことにより、実際の標本のどの部分に着目すべきかの理解度を高めるよう配慮した。
授業科目名【実習を除くすべての科目】 講義で使用した資料（スライド）を、講義終了後に講義資料配布システムにて全て公開し、いつでもどこでもカラーで確認できるようにした。加えて、そのシステム上で、小テストや定期試験の正解を公開し、自習に役立ててもらうよう配慮した。
授業科目名【　　】

授業科目名【　　】

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生理学会 日本解剖学会 日本神経科学会 北米神経科学会	評議員（2002 年 4 月～現在に至る） 代議員（2013 年 11 月～現在に至る）	1999 年 7 月～現在に至る 2001 年 10 月～現在に至る 1996 年 7 月～現在に至る 1999 年 11 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） Changes in the expression and localization of signaling molecules in mouse facial motor neurons during regeneration of facial nerves.	共著	2017. 11	J. Chem. Neuroanat.	査読あり Kim, J., Kobayashi, S., Shimizu-Okabe, C., **Okabe, A.**, Moon, C., Shin, T., Takayama, C. マウス顔面神経損傷モデル動物を用いた神経再生過程とそれに関与する抑制性神経伝達物質との関連の検討。
（翻訳）				
（学会発表） Relationship between neuropathic pain and changes in GABAergic signaling in the model of tibial nerve injury.	共著	2017.7.20-23	第 40 回日本神経科学大会　幕張メッセ（千葉）	Kosaka, Y., Yafuso, T., Kim, J., Shimizu, C., **Okabe, A.**, Takayama, C. マウス脛骨神経損傷モデルを用いた神経障害性疼痛とGABA伝達機構の変化についての報告。
				教育研究業績　総数　（2018.3.31現在） 著　　書　　2（全て共著、査読あり） 学術論文　　34（全て共著、査読あり） 学会発表　　111（全て共著）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
胎児期に完成する呼吸リズムにおけるGABAシナプスと細胞内Cl-濃度の発達変化	日本学術振興会	○　岡部明仁 （清水千草）	1,300,000
発達過程マウス舌下神経核におけるGABA関連分子の組織学的研究	附属研究所研究費助成（西南女学院大学）	○　岡部明仁 （塩坂貞夫）	56,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
動物実験委員会　委員　2017年4月1日～

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　久保　由紀子	職名　准教授	学位　修士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育	乳幼児栄養の実際、栄養教育マネジメント 高齢者の栄養改善、栄養ケアマネジメント

研　究　課　題
・2015 年 1 月に実施した幼児期の食生活及び生活習慣調査から、幼児期の栄養の実際と体位との関連を考察する。また小児肥満予防を目的とした食育活動の展開とその効果についても考察する。 ・高齢者施設における栄養管理、経口摂取による栄養改善の方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
栄養教育論Ⅱ（前期） 栄養教育論実習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅳ（前期） 栄養学概論（前期） 栄養教育論Ⅰ（後期） 栄養教育論実習Ⅱ（後期） 管理栄養士演習Ⅸ（後期） 臨床栄養活動論（後期） 臨地実習Ⅱ（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養教育論Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育の対象となる全てのライフステージ・ライフスタイル・健康度別に、栄養・健康上の特徴と問題点を捉え対処することができるよう、基礎的理論の解説と併せて実際の場面におけるエピソードを交えて講義し、考え判断する力が備わるよう指導した。また、講義開始時には前週の振り返りを行い、終了時には確認テストを行って各自の予習・復習の助けとなるよう工夫した。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ　】 栄養教育論で学んだ理論がどのように展開されていくのか、単なるコピーペーストではなく、各自がマネジメントサイクルの過程を理解し実践していくことができるよう授業を計画した。また、栄養教育は人を対象とした行為である。模擬指導を行い実施後の振り返りを議論することで、理論の理解を深め他者とのコミュニケーションのとり方について学び、自分の考えを纏めて他者に伝えることができるよう場面を設定した。
授業科目名【臨床栄養活動論　】 学内の講義及び実習で学習した臨床の場における管理栄養士の活動について、理論と実際を総合的に理解し、臨地実習に向けて課題発見、解決できる力をつけることを目的に、テーマ別に外部講師を招聘し講義して頂いた。臨地実習の事前学習とすることができるよう、復習として講義後の考察、次週の予習として課題レポートを課した。

授業科目名【臨地実習Ⅱ　】
実習先から課せられた課題について、学内で学んだ理論が実践の場ではどのように応用、展開されていくのか理解できるよう、具体的事例を示して添削指導した。また、実習日程表及び課題を基に説明を加え、今までの学習の振り返りを行い、実践に対応できるよう事前学習の指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本病態栄養学会		1973年4月～現在に至る 2000年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1．幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連（第3報）	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会　学術総会 （於　アスティとくしま）	①　幼児期の肥満が成人期の生活習慣病の増加の一因になることが指摘されておりまた、幼児期は生活習慣の基礎づくりの時期である。「幼児期の体位、食生活及び生活習慣」の実態を把握し、今後の食育活動の基礎資料とすることを目的に調査し報告した。 ②　共同発表者名 天本理恵 第62回日本栄養改善学会学術総会要旨集p282

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
平成 29 年度　北九州市食育に関する実態調査　調査結果について	北九州市	○天本理恵 久保由紀子	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
第5回北九州市健康づくり活動表彰選考会議	選考審査員	2017 年 10 月 11 日
北九州市立保育所給食調理業務受託候補者選定検討会	選定委員	2017 年 10 月 3・4 日
北九州市小児保健研究会	理事	2013 年 7 月 1 日～現在に至る
北九州市小児口腔保健学会	理事	2013 年 2 月 16 日～現在に至る
第 25 回北九州市小児口腔保健学会総会・学術大会	シンポジウム座長	2017 年 6 月 25 日
北九州市丸山公民館栄養講座	講師	2017 年 7 月 14 日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
就職委員会　副委員長　　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　坂巻 路可	職名　准教授	学位　博士（医学）（神戸大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析	副腎髄質細胞、カテコールアミン、ポリフェノール

研　究　課　題
「メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析」 生活習慣病においては、精神的なストレスも疾患を誘発する一因となり、メンタルヘルス対策が重視されている。本研究では、精神鎮静作用やリラックス効果の知られる香草の浸出液（ハーブティー）に含まれる個々のポリフェノールについて、交感神経系機能へ作用を示すものを細胞レベルで同定し、細胞系での作用機序等の解析と動物を用いた系で、生体内での影響の関連性を解析して、最小有効摂取量・許容限界量や作用機序を多角度から検討していくことを目的としている。

担　当　授　業　科　目
栄養学実習（前期）（栄養学科） 総合演習Ⅱ（前期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅳ（前期）（栄養学科） 高齢者支援学Ⅰ（前期　集中講義）（栄養学科、福祉学科） 臨床栄養管理学　（後期）（栄養学科） 臨床栄養学実習Ⅱ（後期）（栄養学科） 管理栄養士演習Ⅸ（後期）（栄養学科） 臨地実習Ⅱ(後期）（栄養学科） 国際栄養論（後期）（栄養学科） 栄養学（後期）（福祉学科） 健康と栄養（後期）（看護学科）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養学実習】 栄養学実習では、対象者の栄養状態を的確に評価・判定し具体的な栄養管理の方法を提案できる知識と技術の習得を目指している。各実習テーマについては、演習で解説したテーマを可能な限り次週に実体験できるよう実習が計画されている。本年度は、創作料理がテーマの実習において、各自が食事の改善を目的に献立を作成をする時間を余裕をもって行えるよう時間配分を行った。また、本年度は第 15 回目に総まとめの時間を組み込んだことにより、これまでの実習内容の見直しを行うことができ、より深い理解に繋げることができた。
授業科目名【総合演習Ⅱ】 総合演習Ⅱでは、各回に設定されたテーマに沿い症例検討を行った。演習の進め方として、本年度も症例の病態についての説明後、各自で栄養ケア計画について考えをまとめ、その後のグループディスカッションに繋げた。グループの意見はホワイトボードにまとめ、学生の相互理解を図った。また、全体討議及び教員による解説を行い、正しく理解し学習内容が定着するよう努めた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅳ、管理栄養士演習Ⅸ】 管理栄養士演習Ⅳでは、関連する国家試験問題を解き、全ての問題について解説を行った。解説においては、解答直後に解説をするのではなく、少し時間をおき、各自で調べ、正答を導き出せるよう時間配分を工夫した。各選択肢については、関連事項も併せて解説し、図・表にまとめる等して理解を深めるよう指導した。解説後、正しく理解したうえで、各自で正文を作成できるよう授業を進めた。後期の管理栄養士演習Ⅸでは、受講生が

持っている参考書にも配慮した問題作成を工夫した。理解度に応じた、解説の仕方、問題の難易度を検討しながら授業を進めた。

授業科目名【臨床栄養管理学】

臨床栄養管理学では、テキストに沿ったパワーポイント資料による講義を行った。講義のパワーポイント資料は、予復習が行いやすいよう、事前に配布した（冬季休暇などを挟む場合を除く）。毎回の講義の最後には、小テスト（またはそれに代わるもの）を行い、学生がポイントを理解しやすいよう確認を行った。正答できていない問題については、返却時に解説を行い、正しい知識の定着を図った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ】

高齢者支援学Ⅰにおいては、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について理解を深めるため、西南女学院大学、九州歯科大学、西日本工業大学の 3 大学による合同で、集中講義が行われた。本年度は、1 日目に講義、2 日目に演習が組まれ、演習時の班構成は、3 大学の学生が交流を図れるよう振り分けられた。グループワークでは、アクティブシニアが活動的な生活を送り続けるための支援について活発な意見交換がなされた。

授業科目名【臨床栄養学実習Ⅱ】

臨床栄養学実習Ⅱの実習の進め方においては、各回に設定されたテーマとなる疾患の病態について解説し、献立の示範をしながら、調理操作におけるポイントの説明を行った。また、当日の実習内容の説明後、次回の実習についても、事前に献立等の資料を配布し、概要を説明して次週に備えた。

グループで実習を行うため、調理の際には、作業工程表を事前に作成して作業担当者を記載するよう指示した。各自の作業内容が把握しやすく、また作業の負担割合に偏りがないか確認しやすい。今後も、実践的に理解が深まるよう、実習内容の改善・工夫に努める。

授業科目名【臨地実習Ⅱ】

臨地実習Ⅱでは、医療施設における実習（二週間または三週間）に備え、事前学習、事前オリエンテーションが行われた。事前学習では、実習における学びの明確化を図り、実習施設からの課題等においては、十分に検討し準備が進められるよう、個々の学生に対する細やかな指導に努めた。また、実習期間中は、巡回指導を行い学生の実習態度や実習施設の状況の把握に努めた。実習終了後の報告会では、各医療施設における実体験や学びを共有しながら統合的な理解を深める。

授業科目名【国際栄養論】

国際栄養論では、我が国の栄養問題また栄養政策について、十分に理解したうえで世界の栄養問題について理解を深めることができるよう、講義を進めた。情報収集においては、図書館やパソコン室の利用、JICA 研修施設における体験学習を通して、世界の食生活や栄養問題について多くの資料が得られるよう授業計画をたてた。また、それらをまとめて発表を行うことで知識の定着を図った。

授業科目名【栄養学　福祉学科】

福祉学科の「栄養学」では、例年通り、日常生活に関連づけて栄養学をより身近に感じ学習が円滑に進められるよう工夫した。栄養素は種類が多く、似通った性質のものもあるため、特徴を整理しながら理解できるよう数分間のブレイクタイムを設けたり、関連分野の情報提供を行ったりしながら興味をもって講義に臨めるよう工夫した。

授業科目名【健康と栄養　看護学科】

「健康と栄養」は、看護学科の１年生を対象としている。より身近に「栄養」を感じてもらうよう、各回に設定された講義テーマの内容の他に、関連分野の情報提供を積極的に行った。また、担当の最後の講義では、これまでの講義のポイントをまとめた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養・食糧学会 日本栄養改善学会 日本栄養士会 日本薬理学会 日本公衆衛生学会		2003 年～現在に至る 2003 年～現在に至る 2004 年～現在に至る 2006 年～現在に至る 2006 年～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） マリアアザミのフラボノリグナン類のシリマリンが膵β細胞由来細胞株 MIN6 からのインスリン分泌に及ぼす影響		2017 年 10 月 21 日（土）	第 35 回産業医科大学学会 会 場:産業医科大学	① 本研究では、sylimarinのストレス応答を検討する目的で、ウシ副腎髄質の初代培養細胞を用い、sylimarinの、カテコールアミン神経系への作用及びMIN6細胞を用いグルコース刺激によるインシュリン分泌への影響について検討した結果を報告した。 ② 共著者名：坂巻路可, 豊平由美子, 吉永有香里, 石兼真, 高橋富美

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　総数　(2018年 4月10日現在) 著　書　7 (内訳　単0, 共7) 学術論文　16 (内訳　単0, 共16) 学会発表　32 (内訳　単0, 共32)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
メンタルヘルス不調の予防・改善作用を有するポリフェノールの探索と有効性の解析	科学研究費助成事業(平成28年度基盤研究Ｃ（一般)	○坂巻路可 （豊平由美子）	1,400,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期 期間等
産業医科大学訪問研究員 **福岡県研究教育栄養士協議会**	訪問研究員 運営委員及び連絡委員	2004年4月 ～ 現在に至る 2010年4月 ～現在に至る

学内における活動等　(役職、委員、学生支援など)		
研究紀要委員	委員	2016年4月 ～現在に至る
国家試験対策委員	委員	2009年4月 ～2014年3月31日、2015年4月1日～現在に至る。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　相良かおる	職名　准教授	学位　博士（工学）奈良先端科学技術大学院大学

研　究　分　野	研究内容のキーワード
情報科学：自然言語処理	自然言語処理　辞書　データベース　医療用語 日本語学　語彙調査　語彙分類

研　究　課　題
医療文書の分かち書き用辞書ComeJisyoを作成し無償公開している。 実践医療用語を対象とし、語彙調査および語彙分類に関する研究に着手している。

担　当　授　業　科　目
情報科学演習Ⅰ　（前期）（栄養学科）　A37　B36 現代社会と統計　（前期）（栄養学科）　67 情報科学演習Ⅱ　（後期）（栄養学科）　29 健康情報処理論　（前期）（栄養学科）　A46　B47 健康情報処理実習（後期）（栄養学科）　A51　B47 卒業研究・演習　（通年）（栄養学科）　6

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　情報科学演習Ⅰ】履修生：Aクラス37名、Bクラス36名 栄養学科では初年時導入教育を行っていない。そこで、本科目で情報検索を含むレポートの作成法やモル及び規定濃度等の計算についての授業を行うこととし、オリエンテーション時に履修するようにアナウンスし、選択科目であるが1年生のほぼ全員が履修している。 上記内容に加え、情報処理に必要な基本的知識、クラウドコンピューティングやSNS等の最新のICTに関する情報、インターネット犯罪の現状および情報倫理などの講義と、Word及びExcelの基本操作の演習が含まれる。タイピング教材には日本国憲法全文と、管理栄養士国家試験に頻出するカタカナ語を用いている。また、1年生前期の授業であることから、図書館の協力を得て、図書館の活用法および図書検索の演習を行っている。
授業科目名【　情報科学演習2】履修生：39名 本授業では、Wordの演習としては、「ネット依存症の予防」等の実用的なパンフレットの作成、Excelの演習としては、銀行およびクレジット会社で使われている利息計算、そして社会調査に必要な知識・スキルを学ぶための教材としてジェンダー統計や生活基本調査等の統計資料を用い、情報の加工と表現法を行っている。また地域社会の一員としての貢献について気付き、学ぶために、自分の住む地域の名物料理、名産の食材とそれらの栄養成分、機能等を調べ、地域活性化事業を提案し、レポートにまとめ、PowerPoint を使ったプレゼンテーションの演習を行っている。パンフレットおよびプレゼンテーションについては、評価票を用いてクラス全員で評価し、成績評価に反映している。

授業科目名【　現代社会と統計　　】履修生：67 名

栄養学科１年前期開講の選択科目であるが、２年次開講の必須科目「健康情報処理論・実習」、「公衆衛生学」の前提知識となる記述統計学を教えることから、出来るだけ履修するようにオリエンテーション時にアナウンスし、１年生のほとんどが履修している。

授業の最初 10 分程を使い、四則演算の簡単な計算や塩分の濃度計算などを行い、分数や少数について学び直している。そして講義 60 分の後、確認のための小テスト 20 分を行い、理解度を確認し次回の授業速度の調整を行っている。

また、記述統計や比率の計算を身近な便利なものと認識できるように、廃棄率・可食部の計算とバラツキ（標準偏差）についての授業を終えた頃に、野菜・果物などの食材を実際に購入して重量を測り、バラツキを観察し、またそれらを調理する過程で食品成分表の廃棄率と実際に測定した廃棄率を比較しレポートにまとめる課題を課している。

授業科目名【　健康情報処理論　　】履修生：A クラス 46 名、B クラス 47 名

マスメディアやインターネット上で流布している健康情報の信頼性の評価方法と、自分が必要とする健康情報の収集方法、そして科学的根拠を示す上で基本となる推測統計学の基本を教える授業であるが、適切な教科書がなく、毎回資料を配布して授業を行っている。「フードファディズム（Food faddism）」と「3 た論法（飲んだ、治った、効いた）」については、具体的な事例を紹介し、また身近にある事例を見つけて信頼性を評価するレポート課題を課し、問題解決型の授業を行っている。

資格取得のため、膨大な知識を暗記する科目が多いことを踏まえ、本授業では、暗記型、一方向型の講義ではなく、学生自身で情報を吟味し、問題を見付け、意思決定する過程を学ぶ「教えない」授業を心掛けている。

授業科目名【　健康情報処理実習　】履修生：A クラス 51 名、B クラス 47 名

本授業は、「現代社会と統計」、「健康情報処理論」で学んだ知識を前提とし、「栄養疫学（栄養学研究）」や「公衆栄養」に必要な統計的手法を学ぶ必須科目である。管理栄養士として調査研究する際に必要な、食に関わるアンケート調査票の作成、実施、集計、分析、報告書の作成という一連の流れに沿って学生参加型、共同学習型の授業を構成し、成果物が卒業後も活用出来るように、教材（統計分析やグラフ作成用課題の Excel シート等）を作成している。また、評価においてもグループ評価 20%、課題提出 20%、授業貢献 10%とし、毎回の授業の取組を評価するようにしている。

学　会　に　お　け　る　活　動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
情報処理学会		1996 年
教育工学会		2000 年
医療情報学会		2002 年
日本看護科学会		2004 年
大学女性協会		2008 年
日本女性科学者の会		2009 年
言語処理学会		2011 年
情報知識学会		2014 年

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（学術論文） 1. 医療記録における語彙の月別出現分布	共著	2017 年	情報処理学会シンポジウムシリーズ Vol.2017.No.2, 人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 p.103-110.	全８頁 相良かおる、山崎誠、中島直樹、山下貴範、小野正子 12 か月分の医師経過記録を対象に対数尤度比検定により定めた各月の特徴語の季節変動を調べ、連続する２か月間で共通する特徴語数が多いことを明らかにした。
（翻訳）				
（学会発表） 2. Web アンケートを用いた参加型研修の試み	共著	2017.6	日本医療情報学会看護学術大会論文集 ：JAMI-NS 18, 79-82, 2017-06-30 日本医療情報学会看護部会	全4頁 相良かおる, 渡邉春美, 須原麻砂江, 胡美恵, 三原友吾 Webアンケートを使った参加型研修会について述べている。
3. 他職種で考える経過記録における課題 －Web アンケート結果からの考察－	共著	2017.6	日本医療情報学会看護学術大会論文集 ：JAMI-NS 18, 159-162, 2017-06-30 日本医療情報学会看護部会	全4頁 渡邉 春美, 胡 美恵, 須原 麻砂江, 三原 友吾, 相良 かおる 他職者が考える電子カルテにおける課題について考察を述べている
				（2017年4月1日現在）合計95 学術論文　19 国内会議　44 国際会議　7 テキスト・参考書　3 学位論文（修士・博士）　2 紀　要　6 報告書　2 随　筆　9 図　書　4 招　待　2 特　許　5

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
経過記録における語彙の季節変動に関する計量的研究	学内共同研究	○相良かおる、 小野正子 （山崎誠）	591,000
電子カルテと連携する音声認識システムのニーズ 把握及び音声認識システムに用いられる医療用語辞書の編纂に 関する研究	厚生労働省 科学研究補助金 臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	○（野田和敬） 研究協力 相良かおる	7,690,000 （2017 年）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
実践医療用語辞書 ComeJisyo プロジェクト（特定非営利活動法人　言語資源協会正会員）	代表	2012 年～現在
エフコープ　情報開示審査会	審査委員	2017 年 7 月－2019 年 6 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
◆　図書委員 ◆　個人情報保護委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　天　本　理　恵	職名　　准教授	学位　博士　（医学）九州大学 2012 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
応用栄養学　分野	小児栄養、母性栄養、栄養指標（臨床検査）、生活習慣病（主に癌、加齢性疾患）とミトコンドリア

研　究　課　題
1. 生活習慣病（主に癌や加齢性疾患）とエネルギーおよび栄養代謝（ミトコンドリアを中心に）との関連を形態学、分子生物学的に検討する。また、新しい栄養指標となるような血液中のタンパク質をみつける。 2.　極低出生体重児の成長、発達と栄養管理等について考察する。 3.　幼児と保護者の食生活および生活習慣に関する実態調査を行う。

担　当　授　業　科　目
応用栄養学Ⅰ　（　２年後期　栄養学科　）
応用栄養学Ⅱ　（　３年前期　栄養学科　）
総合演習Ⅰ　（　３年前期　栄養学科　）
総合演習Ⅱ　（　４年前期　栄養学科　）
応用栄養学実習　（　３年後期　栄養学科　）
管理栄養士演習Ⅲ（　４年前期　栄養学科　）
管理栄養士演習Ⅷ（　４年後期　栄養学科　）
臨地実習Ⅰ　（　３年後期　栄養学科　）
卒業ゼミ　（　４年通年　栄養学科　）
栄養学概論　（　１年前期　栄養学科　）
母子栄養学　（　前期　助産別科　）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　応用栄養学Ⅰ,Ⅱ、総合演習Ⅱ、栄養学概論（講義は１回のみ）　】 1. 視覚教材に Power　Point を使用して講義を行っている。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。 2. １の教材を印刷したプリントと、関連資料を毎回配布し、重要なところをマークさせた。また、Power　Point 教材だけでは不十分なところについては、板書にて図式化し、学生に書き取らせることで理解を深めてもらうようにした。板書＋スライドで大事なポイントはダブルチェックさせ学生の理解を促した。 スライドを印刷したプリントを配布しているが、板書を写すスペースも確保した配布資料の作成を行っている。 3. 毎回の講義終了時に、講義内容の小テストを行い、学生に解答してもらった後で、解説して回収し次の講義の時に返却した。この小テストによって学生にその日の講義内容とポイントを復習させた。 小テストに書かれた学生からの質問や感想には、１人ずつ全員に必ず答えて返却した。 以上のことより今後も出来る限り学年の特性に合わせた、かつ重要ポイントを外さない授業計画に配慮する。
授業科目名【　応用栄養学実習　】 毎年度ではあるが、この実習では、管理栄養士として役に立つ知識や技術を身に付けてもらうために、特殊な食品を使用した献立や、日頃家庭では作ることのないライフステージ別の献立を作製させ印象づけるようにした。この実習を行うために粉ミルクメーカーや食物アレルギー用の食品等（特殊食品）の会社に協力をお願いした。実習では、学生に献立を調理させる前に示範をし、調理の際の留意点や栄養管理のポイントを説明した。また各ライフステージにおける栄養管理上のポイントを中心にスライドで講義を行い、講義と調理実習を

セットで行うことで各ライフステージにおける食生活の違いを視覚的にも聴覚的にも捉えることが出来る講義内容となるように考えた。今年も書類上の献立作成では不安な料理や製菓に関しては、助手（教育支援職員）の方たちと一緒に勤務時間外に試作を行うなどして検討した。（この実習は講義時間だけでなくその前後に多くの時間を要してしまう実習であるため、この実習が行えるのは助手の先生方が手伝って下さるおかげだと感謝しています。）学生にとって有意義かつ実践できる実習になるように今後も改善を行っていく。

授業科目名【　総合演習Ⅰ、臨地実習Ⅰ　】

総合演習Ⅰは、臨地実習Ⅰ（小学校、事業所、児童福祉施設、高齢者福祉施設における給食の運営に関わる学外実習）と抱き合わせとなる演習であり、実習前の指導や、課題、媒体作成、プレゼンなど、もう一人の担当教員および助手教員とともに演習時間外も含め、指導に尽力した。特に、媒体作成に関しては、演習時間外の多くの時間をさいて、学生個々に合わせた個別指導、助言を行った。この科目に関しては、今後も個別指導を徹底していく。

授業科目名【　管理栄養士演習Ⅲ、Ⅷ　】

管理栄養士演習（国家試験対策）では、毎回項目別に試験問題を作成し、実施した。
その問題の解説を行うために、沢山の関連資料を配布し（わかりにくいところや重要項目はポイント集を作成して配布した。）一緒にチェックしていくことで学生の理解を促した。さらにポイントや解説は出来るだけ板書し、何度も学生に書き取らせることで、理解を促した。毎回のテストの正解率を表にしたものを作成し、正解率の低い問題にはアドバイスやポイントを書いて配布して復習させた。また正規の講義時間以外に行う、学科が開設しているブラッシュアップ講座においても、同様の演習を実施し、学生への理解を促すことに努力した。今後も継続してこの講義形式で講義を展開していく。

授業科目名【　卒業ゼミ　】

福祉学科が開いている極低出生体重児の親子遊びの会『ほほえみの会』にゼミ活動の一環として、学生たちを参加させている。提供する間食の作製やレシピの作成、ほほえみの会の親子を支援するための教育媒体の作成など、試作、訂正を繰り返しながら、学生たちが主体的に動けるようにそのサポートを行った。また福祉や看護の学生たちと共に企画から実施、評価を行うことで、学生たちに自然と協働の精神が育まれていると考える。

授業科目名【　母子栄養学　助産別科　】

視覚教材に Power　Point を使用して講義を行った。文字だけのプレゼンテーションは学生の集中力を低下させるので、写真や図を多く取り入れて視覚的に捉え易い教材になるように努力して作成した。
また調乳については講義だけではなく、実際に学生たちに調理して（調乳して）もらうことで、乳汁栄養に関する理解を促した。さらに母性の栄養補給法に関して、実習先での課題があれば出来る限りのアドバイスを行った。助産別科の学生は食と栄養に関心が深く、熱心であり、私自身も講義、指導がしやすいと感じている。学生たちも、この講義が助産師として活躍していくときに、役に立つと評価しており、今後も将来役に立つと学生に思ってもらえる講義内容にしていきたいと考える。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会		2002 年 4 月～現在に至る
日本栄養改善学会		2002 年 4 月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2002 年 11 月～現在に至る
日本スポーツ栄養学会		2017 年 4 月～現在に至る
日本癌学会		2010 年 6 月～現在に至る
日本分子生物学会		2012 年 9 月～現在に至る
日本臨床栄養学会		2004 年 4 月～2018 年 3 月 31 日

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1. 管理栄養士講座 三訂給食経営管理論	共	2017. 4	建帛社	①管理栄養士に必要な給食マネジメントの事例や図表を多く使用して、給食経営管理を系統的に学べるように作成した教科書である。 ②朝見裕也、小松龍史、外山健二　編著、青木るみ子他 12名 ③担当部分 第 16 章-災害と給食 p.171-174 第 21 章-事業所給食 p.221-226 総頁 p.244 ④B5 判
（学術論文） 1. Cardiomyocyte-specific loss of mitochondrial p32/C1qbp causes cardiomyopathy and activates stress responses	共	2017.5	Cardiovascular Research	①p32タンパク質を欠損させ、ミトコンドリア機能異常にしたマウスの心臓（心筋）では、心筋症を起こし、ストレス応答を活性化させることが推察され、p32タンパク質が心機能にも深く関わっていることが考察された。 ②Toshiro Saito1, Takeshi Uchiumi1, Mikako Yagi, Rie Amamoto, Daiki Setoyama,Yuichi Matsushima, and Dongchon Kang ③担当：培養細胞の免疫染色および心臓組織の組織染色、免疫染色、観察等

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2.Neural-specific deletion of mitochondrial p32/C1qbp leads to leukoencephalopathy due to undifferentiated oligodendrocyte and axon degeneration	共	2017.11	Scientific Report	①p32 タンパク質を欠損しているためにミトコンドリア機能異常を起こしたマウスの脳では、オリゴデンドロサイトの発育遅延や、軸索の退化、白質の空砲化等を起こすことがわかった。またそのマウスは生後 8 週程度の短命であることもわかった。様々な結果により白質脳症にもミトコンドリアの呼吸機能不全が関係していることを推察した。 ②Mikako Yagi, Takeshi Uchiumi, Noriaki Sagata, Daiki Setoyama, Rie Amamoto, Yuichi Matsushima & Dongchon Kang ③担当：培養細胞の免疫染色および脳組織の組織染色、免疫染色、観察等
3. Doxycycline induces apoptosis via ER stress selectively to cells with a cancer stem celllike properties: importance of stem cell plasticity	共	2017.11	Oncogenesis (2017) 6:3	①癌幹細胞の特性を持たせた前立腺癌の球状形成細胞（sphere –formingcells）と、ミトコンドリアのタンパク合成を阻害して、ミトコンドリア機能異常を起こさせる抗生物質であるドキシサイクリンを使用して実験を行った結果、通常抗がん剤治療等で死滅しにくい癌幹細胞（本研究では sphere –formingcells）においても、ドキシサイクリン投与によってミトコンドリア機能異常等を起こし、ER ストレスを介したアポトーシスを起こすことが考察された。 ② Takashi Matsumoto,Takeshi Uchiumi, Keisuke Monji, Mikako Yagi, Daiki Setoyama, Rie Amamoto , Yuichi Matsushima, Masaki Shiota, Masatoshi Eto and Dongchon Kang ③担当：培養細胞の免疫染色、観察等

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） 1．幼児期の食生活及び生活習慣と体位との関連性（第３報）	共	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会（於　アスティ徳島）	①幼児期の子どもの食育活動の基礎資料を得ることを目的に、北九州市保育士会および私立幼稚園連盟に調査協力を依頼し、承諾を得た 22 施設の 4, 5 歳児対象に、児と保護者の食生活、生活習慣、体型に関する親の意識と児の体位との関連を解析、考察を行った。 ②久保由紀子、天本理恵 ③第 64 回日本栄養改善学会要旨集 p. 282
2．北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第３報：3 年間の取組と今後の課題～	共	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会（於　アスティ徳島）	①本学で実施している九州歯科大との連携公開講座の３年間の取り組みに関しての結果報告と、今後の食育活動展開に関しての考察を行った。 ②近江雅代、石本祐子、青木るみ子他６名 ③第 64 回日本栄養改善学会要旨集 p.248
（その他） 1．子どもの食と健康 成長期に必要なエネルギーと栄養素の摂取について（シンポジウム）	共	2017.6	北九州市　小児口腔保健学会（於　九州歯科大学）	①成長期に必要なエネルギーと栄養素について、特にたんぱく質とカルシウム摂取に焦点をあて、講演した。 ②天本理恵 ③小児口腔保健学会要旨集
2．平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査結果　報告書	共	2018.3	北九州市	①平成 29 年度北九州市食育に関する実態調査の調査結果および考察を記載した報告書である。 ②北九州市、久保由紀子、天本理恵 ③CD-R にて提出　総頁 91 頁（冊子の発行には現時点では至っていない。）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績　2017年度分 著書　1（内訳　単0，共1　） 学術論文　3（内訳　単0，共3　） 学会発表　2（内訳　単0，共2　） その他2　（内訳　単0，共2　）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
ミトコンドリア異常と代償的葉酸代謝亢進の分子基盤と予防栄養の探索	文部科学省科学研究費補助金（基盤C）	○天本理恵 （内海　健）	3,510,000 （2017年4月-2020年3月）
社会人基礎力養成のための「意図的なHidden Curriculum(潜在的カリキュラム)」構築に関する研究	西南女学院大学共同研究費	○上村眞生 小田日出子 橋本久美子（教務課）他9名	1,278,000
平成29年度北九州市食育に関する実態調査解析委託	北九州市	久保由紀子 ○天本理恵	82,080

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
北九州市食育推進懇話会	構成員（座長）	2017年7月～2019年3月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
地域連携室室員　（子ども・子育て支援分野）　2016年8月～現在に至る 学生募集　委員　2014年4月～現在に至る 学外）門司学園高等学校　模擬授業　2017.10.20 学外）早鞆高等学校　模擬授業　2017.12.15 ほほえみの会（主担当　福祉学科　野井　准教授）における　栄養相談等の栄養士業務、子どもの遊びの支援　2014年4月～現在に至る チアリーディング部（ルーシス）顧問　2002年4月～現在に至る（部員0名のため活動休止中）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　古田 吉史	職名　准教授	学位　博士（農学）（九州大学　2009 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
農芸化学、プロセス工学	応用微生物学 食品科学 生物機能・バイオプロセス

研　究　課　題
～ 北九州の伝統食の一つである『糠漬け（糠床)』に関する研究とモノ造り ～ 1. 米糠からオリジナル糠床の作製（モノ造り） ⇒10・20 年先を見据えて各年度の糠床を保存・継承する 2. 熟成糠床並びに浸漬野菜に吸着する微生物叢の調査 3. 糠床中の生菌数に及ぼす各種の条件検討（水分量、塩分濃度、撹拌頻度 etc） 4. 新規に作製した糠床を用いたぬか炊き（さば・いわし）の試作 5. 北九州近郊に伝わる 100 年糠床からの有用微生物の分離 （食材への接着性が高い・生残性が高い・特殊な生産物を生産する乳酸菌や酵母 etc） 6. 分離した植物性乳酸菌や酵母の糠床への応用（風味改良・減塩糠床の作製 etc） 7. 該植物性乳酸菌の他の加工食品への応用

担　当　授　業　科　目
食品学Ⅱ（前期）（栄養学科）×2 クラス フードスペシャリスト論（前期）（栄養学科）×1 クラス 食品栄養実習（前期）（栄養学科）×2 クラス 管理栄養士演習Ⅲ（前期）（栄養学科）分担 栄養学概論（前期）（栄養学科）分担 食品学Ⅰ（後期）（栄養学科）×2 クラス 食品流通・消費論（後期）（栄養学科）×1 クラス 食品学実験（後期）（栄養学科）×2 クラス 管理栄養士演習Ⅶ（後期）（栄養学科）分担 健康と栄養（後期）（看護学科）分担 卒業ゼミ（前期・後期）（栄養学科）12 名

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【食品学Ⅱ】 ①食品学Ⅰとは異なり食品学Ⅱは、実際の食品により近い内容であるため、学生に理解しやすいようにできる限り多くの具体例を挙げて説明することを心掛けた。 ②同時期に開講する食品栄養実習（加工食品の製法や特性について学ぶ）での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。 ③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。 ④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

授業科目名【フードスペシャリスト論】
①フードスペシャリスト論は、フードスペシャリスト資格の導入科目であり、取得を目指す学生や資格に関心のある学生が多く受講しているが、フードスペシャリスト自体が学生らにとって馴染みのない資格であるため、1 限分をフードスペシャリスト資格についての内容説明（特徴や資格取得のメリット、受験手続等を含める）と学生からの自由な質問を受け付ける時間に充て、資格に対する学生の理解度の向上を図った。
②本科目はフードスペシャリスト資格要件科目全般の網羅的な内容であるため、できる限り広範囲に広く・浅くを心掛けて教授した。
③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
④講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。
⑤フードスペシャリスト論全般の内容の中から学生自らがテーマを選択し、それに関する情報を収集してまとめる課題を学生たちに提供した。

授業科目名【食品栄養実習】
①同時期開講の食品学Ⅱの内容を、実体験を通して具体的に！より深く！真剣に・楽しく学ぶ！ことに重点を置き、授業に臨んだ。
②食品学Ⅱの講義内容を極力リンクさせること、並びにレポートの各項目ごとに課題を与えて自ら調べてまとめる機会を提供することで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。
（レポート課題の学生への説明については、実技前の解説時に時間を掛けて誤解が生じないように詳細な説明を行った）
③実習書や食品学Ⅱの講義でカバーしきれない内容については、適時配布資料を準備し学生に配布した。
④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ及び管理栄養士演習Ⅷ】
①過去５年分の国家試験及び過去２年分の模試の内容を網羅した参考資料を作成して学生に配布。
②参考資料をベースに、知識のすり込みを図るために国家試験問題と模試の解説を繰り返して実施。
③食品表示制度などの学生にとって難解なヵ所や、補足説明が必要なヵ所については追加資料を作成して学生に解説。

授業科目名【食品学Ⅰ】
①食品学Ⅱとは異なり食品学Ⅰはかなりサイエンス色が強く、難解な項目も多く含まれる。そのため、国家試験にもよく出題されるような重要なヶ所については時間を多くかけて説明し、それ以外のヵ所については深く掘り下げ過ぎることで学生達が拒絶反応をしめさないように説明することを心掛けた。
②また、同時期に開講する食品学実験（食品に含まれる成分の化学特性について理解する）での実体験に講義内容を極力リンクさせることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。
③講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

授業科目名【食品流通・消費論】
①本科目は食品の流通と消費の場面を深く掘り下げた内容で、栄養士養成科目の中でも非常に特異的な科目である。そのため、まず学生らに科目の内容自体への関心度を高めてもらうということ、次に馴染みのない分野の内容を如何に学生らに分かり易く伝えることができるか、というこの２点を心掛け講義に臨んだ。
②講義中における学生の集中力や習熟度の向上、「見る・聴く・書く」のバランスを良好に保つために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布した。
③講義終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。
④食を取り巻く諸問題や最新の話題への学生らの興味・関心を高めるためにレポート課題を課した。

授業科目名【食品学実験】
①同時期開講の食品学Ⅰの講義内容を実体験を通して具体的に学ぶ、及び食品学実験は学生らが体験する最初の化学実験であるため、実験の心得や器具・機器の取り扱いの初歩について学ぶ、ことに重点を置き授業に臨んだ。
②食品学Ⅰの講義内容を各実験の解説時に極力リンクさせること、並びに学生らの記憶が薄れないよう各項目毎に適時レポートを提出させることで、学習内容のより効果的なすり込みを図った。

③提出されたレポートの実験結果や考察の不備・間違い等に関しては、翌週の実験冒頭で解説を行い、学生らの理解が正しく深まるように努めた。
④講義の終盤に「まとめと振り返りテスト」を実施し、学生らの習熟度の把握と知識の定着を図った。

授業科目名【健康と栄養】
①食品にあまり馴染みのない看護学科の学生たちの食品への興味・関心を喚起するために、食品が持つ栄養特性や危険性のみならず、「日頃から食している食物の分類や加工特性等についても楽しく学ぶことができる」ということを心掛けて講義に臨んだ（食品に関する豆知識や雑学的な要素を多く盛り込んだ）。
②講義における学生の集中力と習熟度の向上を図るために、毎回穴埋め式のテキストを準備し学生に配布。

授業科目名【卒業ゼミ】
①ゼミ生16名をA~Dの4グループに分け、グループ毎にゼミ活動を実施（少人数グループ制）。
「今年度のゼミ活動で行った内容は以下の3点」
・無農薬米糠から各グループオリジナルの熟成糠床の作製（3ヶ月～1年）
・作製した糠床を用いたぬか炊き（さば、わし）の試作
・糠床の水分量、塩分濃度が糠床中の微生物叢並びに浸漬野菜（きゅうり、なす）に付着する微生物叢に与える影響について調査
②糠床の調製や正確な微生物培養実験など、ゼミ生がほとんど経験したことがない内容に関しては、実際に一緒に操作を行いながら（OJTにて）指導を行い、徐々に技術の育成を図った。
③作製したオリジナル糠床の評価やぬか炊きの試作に関しては全ゼミ生で行い、意見交換・情報交換を行った。
④就職活動や国家試験対策については個別に対応し、状況に応じて助言・指導を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本生物工学会	正会員	1995.4～現在に至る
日本農芸化学会	正会員	1997.4～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 糠床浸漬による野菜に付着する微生物叢の変化	共著	2017.9.13	第69回 日本生物工学会大会	①本研究で使用した糠床間で、乳酸菌数と酵母数、並びにその比率は大きく異なっていた。コントロール（未浸漬の野菜）と比べ糠床に浸漬した野菜では、何れの糠床に浸漬した場合でも、一般細菌数が著しく減少し、乳酸菌数・酵母数は増大した。付着した乳酸菌数・酵母数は全体的にキュウリと比べてナスの方が多く、糠床自体の菌数が多いほど付着菌数も多いと思われた。また、糠床の水分量が高くなるほど、並びに塩分濃度が低くなるほど、糠床中の菌数および野菜に付着する菌数（特に乳酸菌数）も多くなる傾向にあった ② 共著者名 田中貴絵、甲斐達男 ③ 第69回 日本生物工学会大会講演要旨集
				教育研究業績　総数　44 著書　1（単0、共1） 学術論文　13（単1、共12） 学会発表　21（単0、共21） 特許　9（登録8、出願1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
北九州小倉糠床・糠炊き研究会	顧問	2017 年 4 月 ～ 現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
1. FD 委員 2. 学生募集委員（高校訪問など） 3. 入試問題作成業務 4. 管理栄養士国家試験対策ブラッシュアップ支援（前期・後期・夏休み・春休み） 5. フードスペシャリスト資格認定試験の諸手続き（主担当） 6. 高校での模擬授業の実施 7. 西南女学院リアル授業体験 week への参画 8. ゆめみらいワーク 2017 への参加　2017.8.26 9. 北九州小倉糠床、糠炊き研究会主催市民ファーラムにおける講演　2017.10.1 10. NHK 総合番組「うまいッ！」へ糠床の専門家として出演　2018.1.14 に放送 11. 2016 年度授業表彰受賞（西南女学院大学）2017.7.27

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　銀光	職名　　准教授	学位　博士(医学)（九州大学　2005年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
分子疫学研究 栄養疫学研究	大腸がん　糖尿病　胃がん　食生活習慣 遺伝子多型　疫学

研　究　課　題
１．症例対照研究におけるDNA修復酵素遺伝子多型と大腸がんに関する分子疫学研究 ２．アルコール関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究 ３．コーヒー摂取と胃がんに関する栄養疫学研究 ４．コーヒー摂取習慣関連遺伝子多型と2型糖尿病に関する分子疫学研究

担　当　授　業　科　目
公衆衛生学（前期） 健康管理概論（前期） 栄養疫学（後期） 管理栄養士演習Ⅰ（前期） 管理栄養士演習Ⅵ（後期） 栄養学概論（前期） 衛生学（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆衛生学】 聞き取れにくい場合があると予想していたので、できるだけきれいなスライドを作成し、授業内容が分かりやすくすることに気をつけた。新しいシラバスに基づいて、予習・復習をすることを勧めた。
授業科目名【　健康管理概論　】 スライドの数を減らし、授業中の演習を増やして、学生の意欲を出そうとしたので、結果的に時間的な余裕を持つことができた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅰ　Ⅵ　】 国家試験対策の授業で、演習を中心に行った。また解説プリントなど資料をできるかぎり配布し、授業内容を充実させた。
授業科目名【栄養疫学】 公衆衛生学では、スライドを中心にした授業だったが、学生が教科書を読む習慣があまりないことに気がついた。それで、栄養疫学の授業中、学生に教科書の重要な部分を読ませることを取り入れた。また授業中に発表や討論など応用的内容を取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アジア太平洋がん予防学会 日本疫学会 日本癌学会 日本がん疫学研究会 日本公衆衛生学会	会員 会員 会員 会員 会員	2002 年　10 月～現在に至る 2003 年　1 月～現在に至る 2003 年　10 月～現在に至る 2004 年　8 月～現在に至る 2010 年　12 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 健康管理概論 第 3 版 第 8 章	共著	2017年2月	講談社	栄養学 NEXT　シリース 教科書 「社会・環境と健康」 健康管理概論　第 3 版 東あかね・久保加織　編
（学術論文） 1. Association of genetic polymorphisms with erythrocyte traits: Verification of SNPs reported in a previous GWAS in a Japanese population.		2018年2月	*Gene*. 2018 Feb 5;642:172-177.	①日本多施設共同コホート研究において、2006 年と 2007 の間で募集された 35―69 歳、4972 人の男女を対象とした。赤血球特性を備えた 7 つの選択されたＳＮＰの連合を分析しました。TERT rs2736100 遺伝子多型と喫煙習慣の間に重要な相互作用が見られた。 ②　共著者　Seiki T, Naito M, **<u>Guang Yin</u>**, 他9名 ③　役割：データ収集、統計分析、P172-177
2. Associations between Dietary Patterns, ADRβ2 Gln27Glu and ADRβ3 Trp64Arg with Regard to Serum Triglyceride Levels: J-MICC Study.	共著	2016年9月	*Nutrients*. 2016 Sep 6;8(9). pii: E545.	①　日本多施設共同コホート研究において、食事パターンと中性脂肪の関連、及びアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3との関連を検討したものである。朝食パターンとアドレナリン受容体遺伝子多型ADRβ3 Trp64Argの交互作用により、中性脂肪レベルと関連していたことが示された。 ②　共著者　Hinako Nanri, **<u>Guang Yin</u>**, 他16名 ③　役割：データ収集、統計

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
3. ALDH2 polymorphism is associated with fasting blood glucose through alcohol consumption in Japanese men.	共著	2016年5月	*Nagoya J Med Sci.* 2016 May;78(2):183-93.	分析、P1−16 ① 日本多施設共同コホート研究における名古屋大学大幸地区横断研究においで、ALDH2遺伝子多型と血清空腹時血糖値との関連を検討した。ALDH2遺伝子多型は飲酒習慣を通じて、空腹時の血糖値と関連していたことが示された。 ② 共著者 **Guang Yin,** Mariko Naitou, 他16名。 ③ 役割：論文作成、データ収集、統計分析 P183−193
4. Associations between vitamin D receptor (VDR) gene polymorphisms and colorectal cancer risk and effect modifications of dietary calcium and vitamin D in a Japanese population.	共著	2015年3月	*Asian Pac J Cancer Prev.*2015;16(5):2019-26.	① この研究では、福岡大腸がん研究において、大腸癌患者 685 例および対照 778 例の比較検討を行った。ビタミン D レセプターである ApaI 遺伝子多型と大腸がんリスク低下との関連が見られた。 ② 共著者：Takeshige N, **Yin G**, 他 12 名 ③ 役割：データ収集、論文作成 P2019-2026
5. Genome-wide association study of clinically defined gout identifies multiple risk loci and its association with clinical subtypes.	共著	2015年2月	*Ann Rheum Dis.* 2015 Feb 2. pii: annrheumdis-2014-206191. doi: 10.1136/annrheumdis-2014-206191.	① この研究は、1994 名の日本人男性痛風患者と 2547 名の健康な対照を用いた Genome-Wide Association Study である。ABCG2 遺伝子と SLC2A9 遺伝子が痛風発症と関連していることが示唆された。 ② 共著者 Mtsuo H **Yin G** 他 38 名 ③ 役割：論文作成、論文作成、データ収集 doi:10.1136/annrheumdis-2014-206191

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（翻訳） なし				
（学会発表） 1. 遺伝子多型と赤血球系検査値との関連：既報ゲノムワイド関連解析結果の検証	共著	2016年1月	第 26 回　日本疫学会学術総会（米子コンベンションセンター）。	①対象者はJ-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）静岡地区ベースライン調査に参加した 35―69 歳の男女4995名である。この研究では、日本人における赤血球系検査値と 7 種の SNP との関連を確認した。 ②清木俊雄、内藤真理子、銀光、他9名 ③第 26 回疫学会学術総会抄録集（P150）
2. がん罹患歴とPTPN11遺伝子多型（rs2301756）の関連：J-MICC　Study 静岡地区	共著	2015 年 10 月	第 74 回　日本癌学会学術総会（名古屋国際会議場）	①対象者はJ-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）静岡地区ベースライン調査に参加した 35―69 歳の男女5000名である。この研究では、PTPN11遺伝子多型と女性のがん罹患歴との関連が示された。 ②川合紗世、銀光、浜島信之他5名 ③第 74 回癌学会学術総会抄録集（p280)
3.　ABCG2 dysfunction causes not only renal urate overload hyperuricemia but also renal urate underexcretion hyperuricemia	共著	2015年1月	第25回疫学会学術総会（於　名古屋）	①J-MICC Study（日本多施設共同コーホート研究）ベースライン静岡地区調査参加者のうち、2267 名を対象とした。この研究では、ABCG2の遺伝子機能障害は高尿酸血症発症に影響を与えていることが示唆された。 ②共同発表者：松尾洋孝、銀光　他18名

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				③第 25 回疫学会学術総会抄録集（P103) 教育研究業績総数 （2018年3月31日現在） 著書　3 （内訳　単 1,共 2） 学術論文　40 （内訳　単　0, 共　40） 学会発表　25 （内訳　単　0, 共　25)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
コーヒー摂取習慣遺伝子多型と２型糖尿病に関する分子疫学研究	独立行政法人日本学術振興会	4.680,000 円	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　容)	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　(役職、委員、学生支援など)
情報システム管理運用委員会　委員 2015 年～2017 年 保健福祉学部研究所運営委員会　委員　2017 年―2019 年

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　青木　るみ子	職名　　講師	学位　修士（栄養学）（神戸学院大学　2004 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
給食経営管理 健康教育学・食教育 栄養学	給食施設・衛生管理・HACCP 青年期・食教育・ライフスキル・ボディイメージ 幼児期・学童期・食育

研　究　課　題
1. 中小規模給食施設における衛生管理体制に関する研究 2. 児童およびその保護者を対象とした食育料理教室の実施と教育効果の検討 3. ライフスキル形成を基礎とするボディイメージ改善教育の検討 4. 幼児期を対象とした食教育の現状調査～保育園と幼稚園における教育者および実施内容の検討～ 5. 青年期の生活習慣と健康および幸福感に関する研究（大学生健康・栄養調査：多大学共同研究）

担　当　授　業　科　目
栄養学概論（1 年前期） 給食計画論（2 年前期） 給食経営管理論（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅰ（2 年後期） 給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期） 総合演習Ⅰ（3 年前期） 臨地実習Ⅰ（3 年後期） 管理栄養士演習Ⅴ（4 年前期） 管理栄養士演習Ⅹ（4 年後期） 卒業ゼミ（4 年通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【給食計画論】2 年前期科目 　後期開講科目である給食経営管理実習Ⅰ（以降、実習Ⅰとする）の基盤となる科目である。 本講義では、給食システムの「栄養・食事管理」業務を重点的に解説している。給食を提供するための栄養・食事管理の内容として、①対象者の栄養アセスメント，②食事摂取基準 2015 年版の給食管理における活用，③献立立案，④栄養・食事管理の評価、改善，について演習を通して理解と実務の習得を促した。講義は、指定教科書を中心に行うが、行政通知などの追加資料および重要ポイントをまとめた PP を活用した。また、実習Ⅰ（後期）の栄養・食事管理の資料とするため、履修学生個人の栄養アセスメントを実施させ、実務に結びつける指導を意識している。得られた情報の秘匿性は十分に説明した上で、教員が情報を集約し、実習Ⅰのアセト情報として活用することとしている。 　本講義では、実習Ⅰに必要な知識として「食材料管理」や「生産・提供管理」，「衛生管理」も詳細に解説している。特に「生産・提供管理」に関しては、給食の品質に大きく影響する管理事項であるため、履修学生には、本講義と当時開講されている給食経営管理実習Ⅱ（3 年前期：以降、実習Ⅱとする）の給食試食および試食に関するレポート提出を義務付けている。試食の回数としては 2 回であるが、「給食」を経営管理する責任者としての管理栄養士の位置づけや、「献立作成」、「生産・提供管理」の注意点、「衛生管理」の重要性を意識する良い機会となっている。「衛生管理」については、厚労省食中毒発生状況調査等のデータを数値化して見せ、さらに実際の食中毒事故の原因や影響等を紹介し、「食中毒」という事故を身近な危険として認識させるようにし、衛生管理への意識向上を図っている。

授業科目名【給食経営管理論】2年後期科目

各種給食施設の特徴及び給食における経営マネジメントを中心に学ぶ科目である。経営学の要素が多く含まれるため、時事ニュースや企業が展開している経営マネジメントやマーケティング、環境分析の実例を挙げ、それに基づいた理解を促している。本講義の中では、同時開講となる実習Ⅰの帳票類全般の解説も行っている。会計・原価管理に必須の「損益分岐点分析」や食材原価の管理に必要な「ABC 分析」等を演習することにより、実務につながる内容とした。特に「ABC 分析」には、前年度の実習Ⅰの食品の総使用量を使用しており実習と講義の連動性を重視している。衛生管理に関しては給食計画論で解説しているが、食中毒事故を防止するためにも重要な内容であるため、「大量調理施設衛生管理マニュアル」に則した帳票の確認も行い、周知徹底に努めた。さらに、3年生後期に控える臨地実習Ⅰの実習先の概要把握に必要な内容として、各給食施設の特徴に関して、各施設の基本事項を重点的に説明し、臨地実習に向けての学習内容として理解を促した。この項目はライフステージ別の栄養学である『応用栄養学』や行政の栄養学である『公衆栄養学』との関連もあるため、これらの科目との関係性も意識した解説を心掛けている。また、各種特定給食施設の内容として、定期的に改定が行われる『診療報酬』や『介護報酬』についても、改定部分を簡略化して説明している。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】2年後期科目

給食における対象者の把握、献立作成業務、大量調理の理論と実際を学ぶ実習である。給食施設における食事の提供のために、対象者の栄養アセスメント、栄養管理、献立作成、調理工程管理、提供管理、原価管理等の管理栄養士業務の一連の流れについて実習を通して習得できるよう指導を行った。実習Ⅰでは、「栄養・食事管理」、「食材料管理」、「生産・提供管理」、「衛生管理」を重点的に指導している。1クラスを8班編成とし、4班単位で一連の業務を担当させている。その際、「管理栄養士」班を1班設け、実習全体の管理者としての責務を課した。近年の傾向として、調理技術が未熟な学生が多く、食材の取り扱いの基礎から指導の必要性が増している。また、衛生管理に関しても基本的な理解ができておらず、器具の取り扱いから作業区域の使い分けまでを徹底して指導を行った。給食施設で備える義務のある帳票の説明から書類の書き方の指導、確認を全て入念に行った。さらに、本実習では管理栄養士としてリーダーシップ力を身につけることも目的としているため、実習当日に十分な調理現場指導が行えるよう、作業工程の確認と打ち合わせの時間を別途授業時間外に設け、1班単位で指導を徹底した。

授業科目名【給食経営管理実習Ⅱ】3年前期科目

実習Ⅰに引き続き、1クラス8班編成で実習を実施した。本実習は、「給食計画論」で集約した履修学生の栄養アセスメント情報をもとに、「給与栄養目標量」を算定し、これを基準に各班で「大学生（女性：18～29歳）対象給食献立」の立案を「実習Ⅰ」の課題として行い、献立をもとに提供食数120食の「生産計画」をし、実施・提供をするものである。「給食経営」という特殊分野の理解を深めるため、「給食計画論」～「給食経営管理実習Ⅰ」～「本実習」というように、連動した内容としている。

実習を進めるにあたり、実習Ⅰ同様に、4 班単位で業務を行わせ、「管理栄養士」業務担当班に管理者としての責務を課した。本実習では、実際に給食の食券販売を行い、現金管理を行わせ、食品納入業者との対応を通して、特定給食施設の運営および経営管理を行う上での管理責任者としての意識付けを行っている。近年、事業所給食における栄養管理や栄養情報提供の充実や食環境整備が推進されているため、昨年度より、栄養情報提供の媒体や食環境を充実させることに力を入れている。各実習班が提供する給食献立に沿った栄養教育媒体を作成し情報提供を行うと同時に、行事や季節、郷土色あふれる食空間のコーディネートも自由に行わせている。ただ作って提供する実習と比較して、準備に必要な労力は多くなったが、学生間のコミュニケーションもあわせて増加し、協働の姿勢が身についてと考える。例年、給食を提供するにあたって、提供当日の準備のみでは時間内の終了が難しいため、授業時間外での前日準備や指導を実施している。時間外の準備に関しては、学生の空き時間等を活用し、比較的、負担の無いように配慮を行ってはいる。

以上のように。給食経営管理実習ⅠおよびⅡは連続した実習計画となっている。学生に教授すべき項目も多く、そのため担当教官の指導も授業時間外に多くの時間を割いている。しかしながら、実習を実施する上での十分なサポートが得られていないのが現状で、実習Ⅱの提供時にはアクシデントの発生も起こっている。
助手や学生の能力を考慮し、実習内容の再検討の必要性を痛感している。

授業科目【総合演習Ⅰ】3年前期科目

3 年後期科目である「臨地実習Ⅰ（給食の運営）」のための事前指導を中心とした科目である。学外での最初の実習であるため、一般常識の定着のため外部講師による「マナー講習」を導入している。また、「高齢者施設」、

「児童福祉施設」の現役栄養士・管理栄養士による給食管理業務の実際に関しての講義を行うことで、「臨地実習Ⅰ」への理解を促した。給食施設では食事の提供と同時に健康・栄養情報の提供を行う義務があるため、臨地実習先の施設の対象者に適した栄養教育のテーマを設定させ、栄養教育および媒体計画をし、栄養教育を実施させた。本科目による栄養教育は、同時開講の「栄養教育論実習Ⅰ」の進度に合わせて、担当教員同士の協力体制の下で指導を行った。

授業科目【臨地実習Ⅰ】3年後期科目

学外における「給食の運営」の実際を学ぶための実習である。小学校、事業所、高齢者福祉施設、児童福祉施設を実習先とし、各特定給食施設の仕組みや対象者に対しての栄養・食事管理を学ぶことが目的である。実習に際し、実習先より課せられる事前課題（献立作成、栄養教育計画等）の指導を個別に実施した。また、事後指導として、実習先への礼状の指導および臨地実習Ⅰのまとめを行う報告会を実施した。報告会には、次年度の実習生である2年生の出席を義務付け、次年度対象学生のため導入教育としての位置づけも持たせている。

授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ・Ⅹ】4年前・後期

「給食経営管理論」分野の管理栄養士国家試験対策科目である。演習Ⅴでは、特定給食施設関連法規、マーケティング理論、会計・原価管理、生産管理、食材料管理を中心に解説した。また、演習Ⅹでは、病院給食関係する診療報酬、高齢者給食に関係する介護保険報酬、学校給食実施基準、食事摂取基準の給食管理への活用、大量調理施設衛生管理マニュアルの改定内容等を中心に重要ポイントを解説した。診療報酬および介護報酬は近年の改定内容を中心に知識の定着を行った。各項目とも過去約10年間の国家試験問題および業者模試の問題を徹底的に解説し、繰り返し問題を解かせることで、知識の定着に努めた。その際、管理栄養士演習全体の指定教科書としている要点集と給食経営管理論の教科書の該当箇所の見直しを行った。以上の指導方法は例年通りであるが、本年度も得点率は飛躍的に上昇した。

授業科目名【卒業ゼミ】4年通年

①児童対象の食教育を主体とした料理教室の企画・運営を実施させた。企画の段階から、学生の自主性を優先して計画を行わせ、要所での指導を行った。対象者の日常生活上の問題点の把握から行い、計画に反映させていった。教員主体ではなく、学生主体としたことで、学生自身の考える力や問題点の修正能力等が養われたと考える。料理教室の実施回ごとに反省会による振り返りを行い、学生同士で計画、実施内容、当日の進行等の問題点を抽出し、次回の計画へと反映するという一連の流れの定着が確認できた。また、栄養学科 2~3 年生のボランティア学生の指導も学生が行っており、人事管理の難しさや重要性に気づく機会となったようである。

②北九州市に本社を置くスーパーマーケット「ハローディ」と共同し、店舗利用者対象の食育料理教室を企画、実施した。今年度は『食物アレルギー対応の日常食』がテーマであり、アレルギー対応食の振り返りができたようであった。

③障害者支援施設の給食部門と連携したお弁当の企画・販売を行った。販売店舗の立地、客層、現在の人気商品等のマーケティングリサーチから行い、献立計画・立案を行わせた。今回は夏期（8~9月：5週間）の販売であったことから、夏野菜を多用した野菜摂取が可能な献立内容とした。栄養面はもちろん、衛生面でからも弁当として適しているか、また、給食施設の人事・設備面で生産可能かどうかを考慮し、計画を進めた。今回の実践活動から、献立はただ単に栄養面に着目するだけでは不十分であることを身をもって学ぶことができたようである。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会	正会員	2006.4～現在
日本学校保健学会	正会員	2010.4～現在
日本健康教育学会	正会員	2010.4～現在
日本調理科学会	正会員	2012.4～現在
日本栄養士会	正会員	2012.4～現在
日本給食経営管理学会	正会員	2013.9～現在
日本災害食学会	正会員	2016.4～現在

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 給食経営管理実習 第１版第２刷	共著	2018.4.20	医歯薬出版株式会社	①管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム2015準拠の第10巻目の教科書である。給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解について纏められている。 ②監修　特定非営利活動法人日本栄養改善学会 編者　富田教代，神田知子，朝見祐也 共著者　青木るみ子，他11名 ③担当部分　第３章　6）p.57～58 第４章　3）～5）p.68～75
管理栄養士講座 三訂給食経営管理論	共著	2017.4.5	建帛社	①管理栄養士養成課程に必要な給食経営におけるマネジメント、マーケティング、食品流通、給食のコントロールに関して詳細にまとめられている。 ②編者　朝見祐也，小松龍史　外山健二 共著者　青木るみ子，他12名 ③担当部分　第16章 p.171～173 第21章 p.221～225
（学術論文） 高齢者対象弁当企画を介した食生活支援活動	共著	2018.3.	西南女学院大学紀要 Vol.22.	①食生活の面から地域高齢者を支援することを目的に高齢者向け弁当の企画のための基礎調査の報告である。 ②共著者名　青木　るみ子、境田　靖子 ③p.101～109
大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開―3 年間の取り組みならびに今後の課題―	共著	2018.3	西南女学院大学紀要 Vol.22.	①2014~2016 年度の 3 年間の活動報告と今後の展望を報告した。 ②共著者名　近江雅代、境田靖子、青木るみ子、辻澤利行、秋房住郎、日高勝美、田川辰也

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳） なし				
（学会発表） 児童及び保護者を対象とした日本伝統文化の啓発活動（だいすきにっぽん）～活動内容と活動プログラム評価～	単著	2017.9	日本栄養改善学会（徳島）	①児童及びその保護者を対象に「日本の伝統文化の継承」をテーマとし活動を、行ってきた。活動を継続する上で、より良い活動を企画・運営するため、2016年度からは活動プログラムの評価のための流れを検討した。本報告では、現在までの活動内容および活動プログラム「食」の評価内容について報告した。 ②発表者　青木るみ子、
児童及び保護者を対象とした日本伝統文化（「食」と「あそび」）の啓発活動～参加者アンケートの集計より～	共著	2017.11	日本給食経営学会（札幌）	①2014年度より伝統文化の継承を目的に、地域の児童とその保護者を対象に「食」と「あそび」を組み合わせた活動を行ってきた。今後も活動を継続する上で、活動内容が適した内容であったかを検証するため、2016年度終了時に参加者アンケートを実施した。本報告では、アンケート集計結果について報告した。 ②共同発表者　青木るみ子、藤田稔子、稲木光晴、林田正雄、阿南寿美子、上村眞生、谷川弘治
給食経営管理実習における使用食品の廃棄量調査（第２報）	共著	2017.11	日本給食経営管理学会（札幌）	①本学の給食経営管理実習においても、独自の食品廃棄率を検討する目的で廃棄量調査を実施しており、その調査結果を報告してきた。本報告では、2015年度～2017年度の廃棄量調査から得られた結果と学生指導上の効果について報告した。 ②共同発表者：岡本采美、 青木るみ子

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				教育研究業績総数 （2018年度3.6現在） 著書　2（内訳　単0　, 共2） 学術論文　12（内訳単１, 共11） 学会発表　26（内訳単1，共25）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
児童及び保護者を対象とした日本伝統文化の啓発活動（だいすきにっぽん）の展開と検証	西南女女学院大学学内共同研究費	○青木るみ子 稲木光晴 藤田稔子 上村眞生 谷川弘治	690,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
社会福祉法人北九州市福祉事業団 北九州市社会福祉研修所	平成29年度 福祉施設給食研究研修講師 平成29年度 福祉施設調理員研修会講師	平成29年9月 平成30年2月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
キャンパスハラスメント委員会 管理栄養士国家試験対策委員（栄養学科） だいすきにっぽん食分野担当 料理研究部顧問

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　境田　靖子	職名　　講師	学位　修士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
公衆栄養	DOHaD 説，低出生体重，生活習慣病， 食育，青年期，食生活

研　究　課　題
①妊娠前からの体重管理による低出生体重児と将来の生活習慣病予防との関連について ②青年期の食生活改善を目指した指導プログラムの開発

担　当　授　業　科　目
公衆栄養学Ⅰ（後期） 公衆栄養学Ⅱ（前期） 地域栄養活動論（後期） 公衆栄養学実習（後期） 臨地実習Ⅲ（後期） 管理栄養士演習Ⅴ（前期，分担） 管理栄養士演習Ⅹ（後期，分担） 卒業ゼミ（通年） 栄養学概論（前期、分担）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【公衆栄養学Ⅰ，Ⅱ】 ・指定教科書を重点的に使用し、重要な箇所についてはマーカーで線を引かせていたが、口頭での指示プラスOHC を用いて学生と作業を共有するよう努めた。 ・教科書にないものについては、必要に応じてパワーポイントの資料を配布し、内容によっては教科書に指定したページに添付するように指導した。 ・適時、小テストや課題を実施し、定期試験へ向けての足掛かりとなるように支援した。 ・国家試験の出題レベルに合わせると授業時間数が不足し、１つ１つの内容が不十分になるため、最低限臨地実必要な範囲にまとめるように心がけた。 ・臨地実習の履修要件のため、厳しく指導した。 ・日本人の食生活の変遷については、ビジュアルでイメージを膨らまし納得できるようにDVD を用いて指導した。
授業科目名【地域栄養活動論】 ・後期の臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター）の事前学習となるように、公衆栄養学ⅠおよびⅡの復習をしながら、実習先の都道府県または市町村の業務概要についての理解を深めるよう努めた。 ・臨地実習ノートの予習項目に沿って、人口動態統計、衛生行政報告例について、特に管理栄養士が必要とする項目が実際に記載されているページを示し、地域の実態把握から地域診断の方法を具体的に学生と共に進めたため、準備時間は相当かかったが、学生の演習および臨地実習の予習は例年よりスムーズに進めることができた。 ・訪問介護における栄養改善活動と配食サービスの実態について、テレビ放映された実際の管理栄養士の活動（NHK プロフェッショナル等）を見ることでイメージがわくように工夫した。

授業科目名【公衆栄養学実習】 ・後期に実施される臨地実習Ⅲ（保健所・保健センター，病院実習）での課題実践に備えて、実践的な集団指導の手法の取得と事業評価の能力を取得できるように尽力を注いだ。 ・個人課題の比重を下げ、班課題の比重を上げ、学生一人一人の負担が分散するようにした。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅴ，Ⅹ】 ・公衆栄養学ⅠとⅡで網羅できない範囲を管理栄養士演習Ⅴで行った。 ・演習Ⅹでは模試の正答率を分析し、正答率の低い問題の解説を重点的に行うなど、国家試験の合格へ繋がるよう努めた。 ・最新の行政情報の把握に努めた。
授業科目名【卒業ゼミ】 ・まなびとESDステーションでの食事診断会、北九州市保健福祉局の食育推進事業の企画・運営等、栄養学科公開講座での司会や展示ブースの運営など、管理栄養士としての実践力が身に付くようにフィールドワークを中心に活動した。 ・今年度は、上記活動を3テーマに分け小グループでゼミ報告書の作成をし、取りまとめた。
授業科目名【栄養学概論】 ・学科統一の評価法に従い、学生のレポートについてルーブリック評価を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本公衆衛生学会		2000年4月～現在に至る 2003年6月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 1.大学連携事業としての地域密着型食育活動の展開―3年間の取組ならびに今後の課題―	共	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本学および九州歯科大学による地域密着型食育活動について、2014～2016年度の3年間の成果について報告した。 ②共著者名：○近江雅代，境田靖子，青木るみ子，辻澤利行，秋房住郎，日髙勝美，田川辰也 ③担当部分：共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 （p91～98）
2.高齢者対象弁当企画を介した食生活支援活動	共	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本学栄養学科が主催する公開講座の参加者に対し、地元スーパーマーケットと共同で企画・作成した弁当を昼食として提供し、弁当や食生活に関するアンケートを実施した。 ②共著者名：○青木るみ子，境田靖子 ③担当部分：共同研究につき，本人担当部分抽出不可能 （p101～109）
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 妊娠前・主産後 3 か月における母親の体格変動と低出生体重児の出生率に関する検討	共	2017 年 5 月	第 71 回日本栄養・食糧学会大会(於　沖縄コンベンションセンター)	①出産後3か月の時点で、非妊娠時の体重より低くなっている者は、誤った体型認識を持つ傾向が高く、母親の妊娠期間中の食事内容に影響を及ぼしている可能性が示唆された。 ②○由田克士，福村智恵，福村都麦，宮地香奈，辻本洋子，境田靖子，岩橋明子 ③第71回日本栄養・食糧学会大会講演要旨集 （p351）
2. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築（第 6 報）出生時体重と母親の体格、食習慣	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①市町村が実施する乳幼児健康診査においてアンケートを実施した。低出生体重児の出生リスクとして母親の身長や非妊娠時BMI等があげられるが、他に母親の食べる速度や朝食欠食などの要因が関係する可能性が考えられた。 ②○辻本洋子，境田靖子，岩橋明子，福村都麦，宮地香奈，福村智恵，由田克士 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 （p253）
3. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築（第 7 報）−体重増加量と食生活の関連	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①母親の非妊娠時BMIに応じた妊娠時の体重増加量別に出生児の体重を比較すると、BMI普通群においても体重増加量が不足群において低出生体重児の出現率が高かった。 ②○境田靖子，岩橋明子，辻本洋子，福村都麦，宮地香奈，福村智恵，由田克士 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 （p253）
4. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築（第 8 報）−身長を考慮した体重増加量	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①母親の身長を155.5cmと160.0cmで3区分に分けると、高身長群において低身長群より、妊娠期の体重増加量が高く、児の出生体重mも高い傾向が見られ、妊娠期の体重増加において身長を考慮する必要性が示唆された。 ②○由田克士，境田靖子，岩橋明子，辻本洋子，福村都麦，宮

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				地香奈，福村智恵 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 (p253)
5. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築（第 9 報）−年齢を考慮した体重増加量	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①母親の出産時年齢を25歳、30歳、35歳、40歳未満、40歳以上の5群に分け、妊娠期の体重増加量および出生児の体格について分析すると、母親の年齢が高くなるほど体重増加量は低くなり、その傾向は経産婦において強く見られた。しかし、出生児の体格や在胎週数に差は見られなかった。 ②○宮地香奈，境田靖子，岩橋明子，辻本洋子，福村都麦，福村智恵，由田克士 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 (p254)
6. 乳幼児健診情報等を活用した母子の健康増進・食育推進体制の構築（第 10 報）−経済的要因と知識等との関連	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①経済的な暮らし向きについて、苦しい、普通、ゆとりありの3群に分類すると、母親の非妊娠時BMIや児の出生体重や在胎週数に差は見られなかったら、母親のファストフード利用率は苦しい群が高く、食事バランスに関する知識や料理をすることへの意欲は苦しい群が低い傾向が見られた。 ②○岩橋明子，境田靖子，辻本洋子，福村都麦，宮地香奈，福村智恵，由田克士 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 (p254)
7. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開〜第 3 報：3 年間の取組と今後の課題〜	共	2017 年 9 月	第 64 回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①2 大学連携による 3 年間にわたる地域密着型食育活動の成果について報告した。学生による給食提供が含まれる講座における参加者の満足度が高かった。 ②○近江雅代，石本祐子，青木るみ子，境田靖子，辻澤利行，天本理恵，坂巻路可，久保由紀子，田川辰也 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
				(p248)
8. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第4報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会(於　アスティとくしま)	①2大学連携による3年間にわたる地域密着型食育活動の成果について報告した。参加回数が高い者ほど、講座の内容に即した生活習慣の実践度が高い傾向が見られた。 ②○石井愛子，田中貴絵，手嶋英津子，山田志麻，境田靖子，田川辰也，近江雅代 ③栄養学雑誌 Vol.75,No.5 (p273)
9.　近畿都市部における出生体重と母親の身体状況・生活習慣に関する検討	共	2017年11月	第16回日本栄養改善学会近畿支部学術総会（於　大阪青山大学）	①多胎児を除く低出生体重児と出産した母親とそれ以外の母親について、年齢に差は見られなかったが、身長、非妊娠時体重、非妊娠時BMIおよび喫煙状況に差が見られた。 ②○築山園美，西口久美子，丸山恭司，桑田生子，佐藤雄一郎，福村都麦，宮地香奈，辻本洋子，岩橋明子，境田靖子，福村智恵，由田克士 ③第16回日本栄養改善学会近畿支部学術総会講演要旨集 (p54)
10. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第1報：大量調理前後での比較検討～	共	2017年11月	第13回　日本給食経営管理学会学術総会（於　藤女子大学）	①大量調理前後における自覚疲労度、疲労部位および身体活動量の比較検討を行った。調理後の自覚症は前日に比し、『目がいたい』『全身がだるい』『横になりたい』『足がだるい』の項目において、高いスコアを示した。調理後の総消費量は前日に比し、高値を呈した。 ②○近江雅代，石井愛子，手嶋英津子，境田靖子 ③学会学術総会プログラム・講演要旨集 (p41)
11. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第2報：身体活動量の実際～	共	2017年11月	第13回　日本給食経営管理学会学術総会（於　藤女子大学）	①大量調理における総消費量、歩数および運動量の実際を把握し、経時的変化を検討した。調理後の総消費量、歩数および運動量のいずれにおいても、前日

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				に比し、有意に高値を呈し、調理後の歩数は前日に比し圧倒的に多く、中でも10:00～12:00までの歩数が著しく上昇した。 ②○石井愛子，手嶋英津子，境田靖子，近江雅代 ③第13回　日本給食経営管理学会学術総会プログラム・講演要旨集 （p39）
12. Relationship between the low birthweight appearance rate and the weight gain during pregnancy in healthy Japanese women.	共	2018年3月	5th International Conference on Nutrition & Growth（於 Palais des Congrés de Paris,France）	①非妊娠時BMIが普通であった女性について、妊娠期間中の体重増加量が不足，適正、過剰の3群に分類し分析したところ、体重増加不足群は、過剰群に比し、母親の出産年齢と低出生体重児の出現率が有意に高く、在胎週数は短かった。また、不足・過剰群は適正群に比し食知識が低く、過剰群は妊娠中の喫煙は過剰群で有意に高かった。 ②○境田靖子，岩橋明子，辻本洋子，宮地香奈，福村都麦，築山園美，福村智恵，由田克士 ③5th International Conference on Nutrition & Growth Program Book （p75）
13. Relationship of maternal physical status and lifestyle to the birthweight of Japanese infants.	共	2018年3月	5th International Conference on Nutrition & Growth（於 Palais des Congrés de Paris,France）	①低出生体重児を出産した母親は非妊娠時および出産直前の体重および妊娠中の体重増加量も低かった。また、妊娠前に喫煙をしていた母親の低出生体重児出産のオッズは1.4（CI: 1.02-1.26）であった。 ②○由田克士，境田靖子，辻本洋子，岩橋明子，宮地香奈，福村都麦，築山園美，福村智恵 ③5th International Conference on Nutrition & Growth Program Book （p76）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				教育研究業績総数 （2018．3．31現在） 著書　3（内訳　単0，共　3） 学術論文13（内訳 単1，共12） 翻訳　0 学会発表 69（内訳 単0，共69）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
乳幼児健診を利用した母親の食生活と低出生体重児の出現の要因の検討	平成 28 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)	○境田靖子 由田克士 福村智恵 辻本洋子 岩橋明子	1,560,000 円
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	2017 年度西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 近江雅代 境田靖子 手嶋　英津子 石井愛子 田中貴絵 浅野嘉延 高橋甲枝 稲木光晴 （日高勝美） （辻澤利行）	1,139,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の食育推進」	北九州市	322,612 円	北九州市保健福祉局委託事業「若い世代の食育推進」

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会　（2016 月 4 月 1 日～現在に至る） （学科内）国家試験対策委員（2012 年 4 月 1 日～現在に至る）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　山田　志麻	職名　　講師	学位　修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
調理学、調理科学、食育、地域開発歯科学 高齢者の栄養、スポーツ栄養	調理科学　食品学　食育　高齢者　嚥下食　咀嚼 低栄養　健康増進

研　究　課　題
・スポーツセンターを利用する高齢者の身体状況 ・在宅高齢者の口腔状態と栄養状態 ・低カロリー和菓子の開発 ・部活生の食生活

担　当　授　業　科　目
・応用調理学実習 ・フードコーディネート論 ・管理栄養士演習Ⅲ ・栄養学概論 ・基礎調理学実習 ・調理学 ・管理栄養士演習Ⅷ ・高齢者支援学Ⅰ ・卒業ゼミ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 応用調理学実習 】 １年後期で学んだ基礎調理の知識や技術を活かし、さらに応用調理の技術を身につけるため、低コストで多数の料理を作れるよう心掛けた。また、少量調理から大量調理へのステップアップのための知識習得のため、食品の重量やカサ、栄養や見た目の彩や盛付など幅広く説明を行った。
授業科目名【 フードコーディネート論 】 ﾌｰﾄﾞｽﾍﾟｼｬﾘｽﾄ認定試験 100％合格のため、ガイドラインにそった講義を行い、過去問で出題頻度の高い問題やキーワードを中心に単元ごとにまとめて講義した。
授業科目名【　調理学　】 調理学の中核として、食材それぞれの特徴、取扱い（保存や調理加工）、それにともなう調理科学について、例をあげながら具体的に説明した。最終的には、単元ごとにまとめた復習プリントを作成し、すべての重要項目や国試出題頻度な高いキーワードについて学習させた。
授業科目名【　基礎調理学実習 】 食や栄養、食文化やマナーなどに関して、知識や理解、経験等が乏しい現代の学生を対象としているため、食品について見る、触れる、切る、調理、盛付、配膳まで一連の流れが理解できるようつとめた。また、食品の取り扱いや食品成分表の使い方、栄養価計算の方法まで次の応用調理で困らないよう周知徹底させた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅲ】 １年次に履修した調理学の復習及びまとめを行い、国家試験問題の基礎固めを行った。

授業科目名【高齢者支援学Ⅰ 】 今年度開講された、この集中講義では、多職種連携講座として、栄養学科の学生だけでなく、看護、福祉、歯科、工学を学ぶ学生に高齢者の保健福祉医療分野での知識を 2 日間で習得させる科目であるため、浅く広く高齢者の栄養について説明するよう心掛けた。
授業科目名【管理栄養士演習Ⅷ】 1 年次に履修した調理学から、さらに調理科学、食品学などを含む国家試験の出題率の高い問題を中心に解説し、復習及び確認を行った。
授業科目名【 卒業ゼミ 】 7 名のゼミ生に対し、本人の意思に任せ、各自でテーマを決め、1 人 1 テーマを研究課題とした。それぞれのペースや内容にあわせ、指導助言を行い最終的に本人の経験や学習につながるようなゼミとなるよう努めた。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養改善学会 日本家政学会 日本口腔衛生学会 日本調理科学会		1997 年 1997 年 2013 年 2013 年

２０１７年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
（著書）				
（学術論文） Relationships among sense of coherence, oral health status, nutritional status, and care need level of elderly according to path analysis	共著	Article accepted on 17 January, 2017	Geriatrics & Gerontology International	sense of Coherence（前向き姿勢）と口腔内状況、栄養状態をパス解析を手法を使って検討した。
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 施設利用高齢者の食欲指標 SNAQ と栄養状態及び健康関連 QOL との関連性について	共著	2017 年 9 月 15 日	第 64 回日本栄養改善学会	食欲指標 SNAQ と身体面、心理社会面、生活面に関わる器質的、機能的要因との関連を調査した結果、SNAQ による食欲不振の判定は、低栄養や低体重、嚥下機能の低下、健康関連 QOL の低下と関連があると示唆された。
北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第４報：参加回数と生活習慣改善との関連 性～	共著	2017 年 9 月 14 日	第 64 回日本栄養改善学会	大学連携事業の一環として、地域住民の健康増進を目的とした食育活動を行った結果、参加者の増加や講演内容に対する理解度も向上していることから、事業の効果が示唆された。
スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について	共著	2017 年 10 月 7 日	2017 年度（一社）日本家政学会九州支部第６３回大会	スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況や身体状況を探るため、アンケート調査及び身体計測等を行った結果、地域に在住する比較的活動量が多い自立した高齢者であっても、筋肉量が減少し、身体機能が低下している可能性が示唆された。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
部活学生の栄養状態や身体組成の実態調査と栄養介入後の変化に関する研究	西南女学院大学	○山田志麻 稲木光晴 阿部弘 山本佳代子 石井愛子	1,269,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
2017 グリーンパーク食育事業 （地域貢献活動：南瓜収穫、調理実習）	食育担当者、調理指導責任者	2017 年　年 2 回
2017 浅生スポーツセンター栄養相談 （地域貢献活動：栄養相談）	栄養相談責任者	2017 年　年 4 回
お茶の赤星園、林兼産業株式会社 共同食品開発事業	食品開発担当者	2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・浅生スポーツセンターでの栄養相談　　2017 年 6 月～現在に至る ・ハラスメント相談委員　　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・COC+高齢者支援学　委員　　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・アドバイザー　　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・高齢者支援学ⅠⅡ担当者　2017 年夏期より集中講義　～現在に至る ・宗教委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・キリスト教センター委員　2016 年 4 月 1 日　～現在に至る ・生協委員　2017 年 4 月 1 日　～現在に至る

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　手嶋　英津子	職名　　講師	学位　修士（栄養科学）（中村学園大学 2013 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
栄養教育	食行動　QOL　食育　ICT 教育

研　究　課　題
・ICT を活用した新しい食育の授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発 ・北九州市における骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する栄養支援の効果

担　当　授　業　科　目
栄養カウンセリング論（前期） 栄養教育論実習Ⅱ（後期）(分担) 学校栄養指導論Ⅰ（前期） 学校栄養指導論Ⅱ（後期） 教育実践研究（三期）(分担) 教職実践演習(栄養教諭)（後期）(分担) 事前及び事後の指導(三期)（分担） 栄養教育実習（通年） 栄養学概論（前期）(分担)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【栄養カウンセリング論】 本科目は、人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性や、カウンセリングマインドを持つことの重要性を理解することが目標である。授業は、ワークシートを活用し、テキストとパワーポイントを使用して解説した。パワーポイント資料や、補足資料はプリントして配布した。また、栄養カウンセリングに必要なスキルを身に付けることができるように、多くの事例を提示し、グループワークやロールプレイを実施した。さらに、ロールプレイによる発表を行い、フィードバックすることで多くの気づき(身だしなみ、姿勢、態度、話し方など)を共有できた。今年度の課題は、学生のコミュニケーションスキルを高めることであったため、学生同士で意見を共有する時間を毎時間設けた。また授業の改善・充実のために、授業の最後に振り返りを行い、学生の理解度や課題を把握するように努めた。
授業科目名【栄養教育論実習Ⅱ】 本実習は、栄養カウンセリング論や栄養教育論で学んだ知識と関連付けて、栄養カウンセリングに必要な技術を修得し、疾病別に対応した栄養教育を実践的に修得することを目標とする。個人栄養支援では、主にロールプレイングを実施し、聞き取りによる食事調査や栄養カウンセリングの実際を体験した。また、栄養教育に使用する媒体として、リーフレットやパワーポイントの作成を行った。提出された媒体は、全員に個別指導を行いながら返却し、訂正を繰り返すことで資料作成能力を高めることができたと考えられる。授業での課題や発表時には、必ずフィードバックをする機会を設け、各自の課題を見つけ改善へと繋がるように工夫した。

授業科目名【学校栄養指導論Ⅰ】

本科目は、栄養教諭の使命と役割をよく理解して、児童生徒の食に関する実態を把握し、食に関する課題を解決するための、意識・態度・姿勢を持つことを目標とする。栄養教諭の職務内容や、職務の実態を学ぶ数少ない専門科目である。昨年度は受動的な学習が多かったため、今年度は、グループワークや発表を多く取り入れ、教員として必要である思考力や表現力が身に付くように工夫した。また、ICT 機器を活用できる栄養教諭養成のために、電子黒板やタブレット端末等の ICT 機器を積極的に取り入れた。

授業科目名【学校栄養指導論Ⅱ】

本科目は、学校栄養指導論Ⅰの基礎学習をふまえ、小・中学校の教科における食に関する指導内容や授業計画案を作成し、具体的に指導する実践力を身に付けることを目標とする。授業は、非常勤講師の先生と担当し、主にワークシートを中心とし、重要なポイントが明確にわかるようになっている。さらに、小テストを毎回実施することで、重要ポイントが確認でき、知識の定着へと繋がった。授業計画案～模擬授業は、学生の理解度に合わせて個別指導を行った。また、教員としての表現力を高めるために、毎時間、異なる対象者を設定し、食や健康に関連する内容で１分間スピーチを実施した。回を重ねるごとに話し方や態度が変化することで、学生の自信へと繋がり、大変有益であったと実感した。

授業科目名【事前及び事後の指導】

本科目は、栄養教育実習の事前・事後指導を実践する科目である。非常勤講師の先生と担当し、栄養教育実習を受けるに当たっての心がまえや、予備知識の確認、食の指導に関わる授業研究についての解説を行った。食に関する指導については、模擬授業を繰り返し実施、評価することで、教員としての姿勢や取組について意識を高めた。また、授業外においても個別指導を実施し、指導案の作成や課題の添削等、できる限りの指導を行った。実習中には、全ての実習校を訪問し、校長先生や栄養教諭の先生との意見交換を行い、次年度以降の実習内容の改善に繋げた。実習後は、実習報告書および発表資料を作成し、実習報告会で発表をした。また、その報告会には３年生も参加し、次年度の栄養教育実習へのモチベーションを高めることに繋げた。

授業科目名【教職実践演習（栄養教諭）】

本科目は、教職課程担当者と協力して、これまでの教職課程での学習と栄養教育実習を振り返りながら、栄養教諭としての使命感や、実践的技能と資質・能力の向上を目標とする。将来、栄養教諭となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能を補うことが必要である。そのために、4 年間の学びの振り返りを行い、課題を解決するための授業を実施した。特に、指導力不足に焦点を当て、模擬授業を実施し課題解決に取り組んだ。また、外部講師として現職の栄養教諭(中学校)を招き、講義後に交流の場を設けることや、小学校への研究授業の参加等、教育現場との積極的な関わりを通して、栄養教諭の職務や意義と役割を再認識し、学びの集大成となるように工夫した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会	正会員	2003 年４月～2013 年３月 2015 年４月～現在に至る
日本栄養改善学会	正会員	2003 年４月～2013 年３月 2015 年４月～現在に至る
日本病態栄養学会	正会員	2008 年４月～現在に至る
日本食育学会	正会員	2015 年４月～現在に至る
日本健康教育学会	正会員	2016 年４月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） 1.小学校におけるICTを活用した食育の授業のための iPad アプリの開発 －朝ごはんをテーマとして－	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本研究では、2020年からの教育の情報化に向けて食育の授業のためのアプリを開発した。対象は小学生とし、「望ましい朝ごはんを選択すること」を目的としている。アプリの特徴としては、児童が選んだ朝食の組合わせを配置や色で視覚的に確認できることである。模擬授業等を通してアプリを使用し、評価および改善につなげることが今後の課題である。 ②共著者名：手嶋英津子、領木信雄 ③担当部分：実施、考察および論文執筆
2.和食作りを通した日米学生の国際交流活動	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本研究では、和食作りを通した米国学生との国際交流を実施した。本取組により、参加した日米学生の理解を深め友情をはぐくむことができた。また、和食作りを通して日本の文化についても理解を深めることができたと考えられる。 ②共著者名：手嶋英津子、塚本美紀 ③担当部分：実施、考察および論文執筆
（翻訳） なし				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 地域住民の骨粗鬆症の現状ならびに骨密度改善に対する食育推進活動の取り組み	共著	2017年6月	日本食育学会第5回学術大会 （於　愛媛大学）	①連携公開講座の食育イベントとして、骨密度測定・栄養支援を実施した。2016年度対象者の年齢は73.9±8.9歳、骨密度若年成人平均値81.9±8.1%であり、86%が低骨量に該当した。アンケートでは骨折経験『有』が33名(39%)、そのうち25名(76%)は50歳以上での骨折であり、約8割以上の高齢者で骨密度の低下が予測され、地域住民の骨粗鬆症予防・改善および要支援・要介護状態や寝たきりを回避するためには、栄養支援を含めた食育推進活動をより一層強化したいと考える。 ②共同発表者名：手嶋英津子、浅野嘉延、田川辰也、近江雅代 ③日本食育学会第5回学術大会講演要旨集(PK-010)
2. 食育の授業のためのiPadアプリの開発	共著	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①本研究では、2020年からの教育の情報化に向けて食育の授業のためのアプリを開発した。対象は小学生とし、「望ましいおやつを選択すること」を目的としている。アプリの特徴としては、児童が選んだ朝食の組合わせを配置や色で視覚的に確認できることである。 模擬授業等を通してアプリを使用し、評価および改善につなげることが今後の課題である。 ②手嶋英津子、領木信雄 ③第64回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集
3. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第4報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共著	2017年9月	第64回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①大学連携公開講座の参加者は3年間で延べ1,221名、約半数以上がリピーターである。第4報では参加回数と生活習慣改善との関連性について検討した。参加回数4回以上群は講演の理解度ならびに食行動・食スキルの実践率が有意に高かっ

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				たことから、本事業への参加を重ねることにより、講演に対する理解度は高まり、生活習慣改善に繋がったものと思われる。また、参加者の約半数以上がリピーターであり、本事業も定着していることから、本事業が参加者同士の交流の場となり、参加者健康増進に対する意識を高めていると推察される。 ②石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、田川辰也、近江雅代 ③第64回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集(P273)
4. 糖尿病教育入院患者の食品摂取状況と体重、BMI、HbA1c との関連性について	共著	2017 年 10 月	第 55 回日本糖尿病学会九州地方会 (於　フェニックス・シーガイアリゾート)	①糖尿病教育入院患者の入院前食品摂取状況と体重・BMI・HbA1c の関連を調査した。対象は 109 名(男性 64 名、年齢 60.1±13.5 歳、BMI26.1±5.3、罹病期間 7.9±8.7 年)であり、BMI は食行動点数、表 1、体重は年齢、表 1、表 5、HbA1c は年齢と相関がみられたことから、年齢層により、食事摂取状況が体重・BMI・HbA1c に影響を及ぼすことが示唆された。今後は表 1、5 の聞き取りを重視し、個人に合った問題点を抽出することにより、より効果的な改善が期待されるものと思われる。 ②瀬戸瑠璃、増田圭子、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、野原栄 ③第55回日本糖尿病学会九州地方会講演要旨集
5. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第 1 報：大量調理前後での比較検討～	共著	2017 年 11 月	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会 (於　藤女子大学)	①大量調理前後における自覚疲労度、疲労部位、身体活動量の比較検討を行った。大量調理に携わる学生を対象とし、前日と調理後にアンケート調査を実施、調理当日を含む 1 週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理後の自

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				覚症は『目がいたい』『全身がだるい』『横になりたい』『足がだるい』の項目にて、調理後の痛み・だるさの訴えは『腰部』にて高かった。大量調理後の自覚疲労度、疲労部位の訴えおよび総消費量は高く、肉体的疲労度は増加した。疲労実態の把握により、給食業務における役割分担等、効率的かつ安全に運営するためのシステム構築に繋げたいと考える。 ②近江雅代、石井愛子、手嶋英津子、境田靖子 ③第 13 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P41)
6. 大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第２報：身体活動量の実際～	共著	2017 年 11 月	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会（於　藤女子大学）	①大量調理における総消費量、歩数および運動量の実際と経時的変化を検討した。対象は大量調理に携わる学生８名、調理当日を含む１週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。調理開始時刻は 8:00、終了時刻は 14:00、歩数の記録は調理開始から２時間ごとに行った。調理後の総消費量、歩数、運動量のいずれも、有意に高値を呈した。調理後の歩数は前日に比し圧倒的に多く、特に 10:00～12:00 までの歩数が著しく上昇した。大量調理作業は日常生活に比較して、1 日の総消費量、歩数および運動量が高くなり、特に『盛り付け～提供作業』において、歩数のピークが認められた。 ②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代 ③第 13 回日本給食経営管理学会学術総会講演要旨集(P39)
7. 半年で２回の教育入院を経た患者からみえた HbA1c の変化と食行動質問票の有用性	共著	2018 年１月	第 21 回日本病態栄養学会年次学術集会（於　国立京都国際会館）	①半年で２度の教育入院を経験した患者の食行動の特徴、HbA1c の変化について検討した。初回教育入院時に比し、食

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				行動質問票の点数は減少傾向を示し、それに伴い検査データも改善した。従って、食事聞き取りが困難な患者では食行動質問票は回答しやすく、具体的な問題点の把握が容易であるため、本人にフィードバックすることにより、今後の療養意欲を高めることに繋がるものと思われる。 ②瀬戸瑠璃、増田圭子、安永勝代、手嶋英津子、近江雅代、野原栄 ③第21回日本病態栄養学会年次学術集会講演要旨集(PS-191) 教育研究業績　総数 (2018.3.31現在) 著書 1(内訳：単0、共 1) テキスト 1(内訳：単0、共 1) 総説 1(内訳：単0、共 1) 学術論文 5(内訳：単1、共 4) 学会発表 33(内訳：単0、共33)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
ICTを活用した新しい授業デザインの構築とタブレット端末用教材アプリの開発	西南女学院大学共同研究費	○手嶋英津子 領木信雄	1,245,000
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 栄養学科教員	1,139,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
・西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座	「骨密度測定」担当	2015 年 4 月～現在に至る
・北九州市保健福祉局主催　食育キャンペーン 2017	「骨密度測定」担当	2017 年 8 月 22 日
・北九州市企救丘市民センター (食育アプリを使った食育イベント)	責任者	2018 年 2 月 10 日

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教職課程委員会（2015 年 4 月～現在に至る） ・平成 29 年度大学機関別認証評価部会　第 2 基準部 ・教員採用試験対策個別指導（一次試験、二次試験） ・教員免許更新講習会テキスト担当、講師

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　石本　祐子	職名　　助手	学位　　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード

研　究　課　題

担　当　授　業　科　目
・食品衛生学実験（前期：1クラス） ・食品栄養実習（前期：2クラス） ・応用調理学実習（前期：2クラス） ・基礎調理学実習（後期：2クラス） ・応用栄養学実習（後期：2クラス）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　食品衛生学実験　】 実験を行うにあたり、対象となるサンプルの調製については、操作手順が複雑なものもあるため、手順に誤りのないよう、特に指導においては留意した。また、細かい操作を慎重に行う必要性が高く、安全に且つ確実に結果に結びつけることができるよう、抽出操作や展開など、各班を回りアドバイスした。
授業科目名【　応用調理学実習　】 1年次後期に基礎調理学実習を経ての応用実習であり、基礎的な調理技能習得の確認と作業の効率性を併せ指導にあたった。これから展開される他の調理系実習にも共通する事柄や衛生面等に関しては、特に厳しく指導を行い、学生の意識向上にも努めた。自発的な質問も多く、学生の理解度に合わせ、個々の実習が有意義なものとなるようアドバイスした。
授業科目名【　食品栄養実習　】 作業にかかる時間配分や使用する器具類について、事前に打ち合わせを行い実施した。実習前講義での実習理論や目的を理解し、要点を押さえながら学生が実習に臨めるよう、各班での実習指導にあたった。この実習は、班ごとに配合をかえたものを交換して製造評価することもあり、比較という観点からもポイントを助言し、市販の加工食品製造への関心が高まるよう指導を行った。また、実習項目によっては、使用器具が特殊なものもあり、怪我のないよう留意した。
授業科目名【　基礎調理学実習　】 1年次後期、学生にとっては初めての調理系実習である。調理への関心を持ち、それを将来的には職業の中で活かすために食品自体の特徴について理解し、栄養価計算をはじめとした献立作成等についても進んで取り組めるよう、食材料の取り扱いや調理法による形態の変化など一つ一つ習得するよう指導した。また、グループとして一つの献立を調理するにあたり、作業の効率性やチームワーク、声かけなども重要であることを助言した。

授業科目名【　応用栄養学実習　】

3 年次後期科目であるこの実習では、学生は調理作業にも慣れ、作業は比較的容易にこなしているように感じるが、ライフステージ毎の調理形態の工夫や、加熱調理の差異についても理解できるようアドバイスを行った。学生がこれまでの調理系実習で得た知識と経験とを生かし、対象者に適した「食作り」ができることを目指して、示範調理をとおして理解が深められるよう心掛けた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
・日本栄養士会 ・日本栄養改善学会 ・日本栄養・食糧学会 ・日本食品科学工学会 ・日本農芸化学会		2006 年 5 月～現在に至る 2006 年 5 月～現在に至る 2014 年 4 月～現在に至る 2014 年 4 月～現在に至る 2016 年 4 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第 3 報：3 年間の取組と今後の課題	共	2017.9	第 63 回日本栄養改善学会学術総会 （於　徳島大学）	①2014年度より「食と健康」に関する啓発活動として地域住民を対象とした大学連携公開講座を開催している。参加世代は幅広く、健康日本21（第二次）の目標に繋がる健康づくりの場の構築に寄与していることが推察された。 ②共同発表者　近江雅代、石本祐子、青木るみ子、境田靖子、辻澤利行、天本理恵、坂巻路可、久保由紀子、田川辰也 ③第63回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集 ｐ248

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教職員懇親会委員 栄養学科国家試験対策委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　石井　愛子	職名　　助手	学位　医学(博士)(山口大学 2014年)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
分子栄養学	エンドサイトーシス、疲労実態

研　究　課　題
・ヘパリンによる細胞内への物質取り込み増強効果の新たな機能解析 ・大量調理における疲労実態、身体活動に及ぼす影響の調査

担　当　授　業　科　目
栄養学実習(前期) 給食経営管理実習Ⅱ(前期) 総合演習Ⅰ(前期) 給食経営管理実習Ⅰ(後期) 臨床栄養学実習Ⅱ(後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　栄養学実習　】(前期：2クラス) 栄養価計算や食事摂取頻度調査表(FFQ)のソフト、栄養アセスメントキットは学生が初めて使用するため、使用方法の指導を行った。身体計測、高齢者体験キットの装着時には手伝い、学生全員がスムーズに体験できるよう促した。
授業科目名【　給食経営管理実習Ⅰ、Ⅱ　】(前期・後期：2クラス) 大量調理の作業で注意する点や、施設・器具の使用方法について、学生が疑問に思うことに対して指導を行った。調理作業については、学生がこれまでの学習の積み重ねを活かし、大量調理に応用できるよう学生自身で考える力を身につけるよう助言した。前日準備では、念入りに打ち合わせをし、当日使用する器具の確認、準備指導を行った。管理栄養士班が、主体的に調理作業の手順や食事提供の順序など指示が出せるように促した。衛生管理については、器具の洗浄、実習室の掃除について細かく指導を行った。
授業科目名【　総合演習Ⅰ　】(前期：2クラス) 栄養指導の発表では、栄養媒体の片づけや準備を手伝い、進行がスムーズに行くよう促した。臨地実習に必要な物品の準備・購入に関しては、業者と連携し、必要に応じて個別に対応した。栄養媒体に使用する模造紙、画用紙の発注、管理を行った。外部講師による講義では、滞りなく進行するよう応対した。臨地実習の報告会では、タイムキーパーとして進行がスムーズに行くよう努めた。
授業科目名【　臨床栄養学実習Ⅱ　】(後期：2クラス) 経腸栄養管理の実習では、器具の使用方法が複雑であったため、細かく指導を行った。軟・流動食の実習での重湯や全粥作成では、火加減が大事であるため、特に注意を促した。調理実習では、学生に食材の分配をしてもらい、野菜の切り方や食材の計量など、今後の実習に応用できるようサポートした。実技試験の食材重量の目測では、食品交換表の写真と同様に見えるよう、食材の選別や、お皿の置き方を工夫した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本薬理学会		2008年　4月～現在に至る
山口医学会		2011年 12月～現在に至る
栄養学若手研究会		2012年　4月～現在に至る
日本栄養・食糧学会		2014年　9月～現在に至る
福岡県栄養士会		2015年　4月～現在に至る
日本栄養改善学会		2015年　4月～現在に至る
日本給食経営管理学会		2016年　9月～現在に至る
日本災害食学会		2017年　2月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第4報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共著	2017.9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会 （於アスティとくしま）	①地域住民の健康増進に貢献することを目的として、A大学およびB大学と連携して、公開講座を開催している。これまでの参加者は3年間で延べ1,221名、約半数以上がリピーターである。参加者に対して、アンケートを行った結果、参加回数が4回以上の方が講演内容についての理解度が有意に高く、講演内容に即した食行動・食スキルについての実践率も有意に高かった。 ②石井愛子、田中貴絵、手嶋英津子、山田志麻、境田靖子、

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				田川辰也、近江雅代
スポーツ施設を利用する地域在住高齢者の生活状況と身体状況について	共著	2017.10	第 63 回日本家政学会九州支部（於佐賀女子短期大学）	①スポーツ施設を利用する地域在住高齢者について、生活状況および身体状況の調査を行った。AWGSにおけるアルゴリズムの基準によると身体機能が低下していた者は50名中13名、筋量の減少が認められた者は50名中23名であった。以上の結果によりサルコペニアとされる者は50名中9名であった。 ②山田志麻、石井愛子
大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第１報：大量調理前後での比較	共著	2017.11	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会（於藤女子大学）	①大量調理に携わる学生8名を対象とし、大量調理前日および調理後『自覚症しらべ」、「疲労部位しらべ」によるアンケートを行った。調理後の自覚症は前日に比し、『目がいたい』、『全身がだるい』、『横になりたい』、『足がだるい』の項目において、高いスコアを示した。疲労部位に関しては、調理後において、『腰部』が高かった。 ②近江雅代、石井愛子、手嶋英津子、境田靖子
大量調理における疲労実態ならびに身体活動に及ぼす影響～第２報：身体活動量の実際～	共著	2017.11	第 13 回日本給食経営管理学会学術総会（於藤女子大学）	①大量調理に携わる学生8名を対象として、大量調理当日を含む1週間、生活習慣記録機を装着し、身体活動量を測定した。大量調理当日と前日を比較した結果、調理後の総消費量、歩数および運動量のいずれにおいても、有意に高かった。中でも歩数は圧倒的に多く、『盛り付け～提供作業』において歩数のピークが認められた。 ②石井愛子、手嶋英津子、境田靖子、近江雅代

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地域住民の健康増進のための食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○田川辰也 近江雅代 境田靖子 手嶋英津子 石井愛子 田中貴絵、 浅野嘉延 高橋甲枝 稲木光晴 (日高勝美) (辻澤利行)	1,067,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
ヘパリンによる細胞内への物質取り込み増強効果の新たな機能解析	西南女学院大学付属研究所研究費	140,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
後援会学校委員 管理栄養士国家試験対策委員 西南女学院大学・九州歯科大学連携公開講座(受付、給食提供)

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　田中　貴絵	職名　　助手	学位　博士（医学）（山口大学　2012年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
細胞生物学	エストロゲン 血管拡張機能

研　究　課　題
・女性ホルモンによる血管拡張機能

担　当　授　業　科　目
解剖生理学実習（前期） 生化学実習（前期） 臨床栄養学実習Ⅰ（前期） 人体の構造と機能総合演習（後期） 微生物学実験（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【解剖生理学実習】(前期)　１クラス ・　学生にとって、初めてレポート提出が課される実習科目であることを考慮し、実習中の態度やレポートの提出期限の厳守について指導した。 ・　身体計測器具や検査機器、顕微鏡などの様々な機器について、使用法を詳細に説明した。特に顕微鏡の使用頻度が高いので、正しい使用法を繰り返し指導した。
授業科目名【生化学実習】(前期)　２クラス ・　学生にとって、初めての本格的な実験であることを考慮し、実習中にノートをとることや、実習時の服装等について指導した。 ・　実験器具の取り扱いを詳細に説明した。特に、禁止事項を行った際に引き起こされる結果や事故について解説し、安全な器具の取り扱いができるよう指導した。
授業科目名【臨床栄養学実習Ⅰ】（前期）２クラス ・　測定の試料として生体試料を取り扱う際に、感染の防止に細心の注意を払い怪我のないよう努めた。 ・　生化学、生理学的測定において複数の測定項目がある場合、試料・試薬が混同することがないよう、ラベルによる色分けや配置を工夫した。
授業科目名【人体の構造と機能総合演習】（後期）２クラス ・　分子模型を用いた実習では、正解を示す前に構造式と見比べ、学生自身が間違いに気づき修正できるように指導した。 ・　顕微鏡を用いた上皮組織観察において教科書と標本の違いを理解した上で、個々の細胞の形状・機能を判別できるよう指導した。

授業科目名【微生物学実験】（後期）2クラス

- 複数の試料を調製する場合、学生が間違えないようにラベルによる色分けや配置を工夫した。
- 微生物の培養手法や食品分析法を通して実験の基本操作を身につけ、食品に関連する微生物についての理解を深められるよう形状や特徴について解説・指導した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本薬理学会 日本栄養改善学会 山口大学医学会		2007年8月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1. 正常若年成人女性における内因性女性ホルモンの血管拡張機能への影響	共	2017.9	第64回日本栄養改善学会学術総会（於　アスティとくしま）	① 前腕血流量を測定することにより、若年成人女性におけるエストロゲンと血管内皮機能の関係を検討した。月経周期内においてエストロゲンの変動が血管拡張機能に影響を及ぼし血管拡張機能に保護的に働くと考えられた。 ② 共同発表者　田中貴絵, 田川辰也

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
2. 北九州市における大学連携事業としての食育活動の展開～第４報：参加回数と生活習慣改善との関連性～	共	2017. 9	第 64 回日本栄養改善学会学術総会（於　アスティとくしま）	①　本学と九州歯科大学による大学連携公開講座の参加者アンケートの結果をまとめた。公開講座への参加回数が多い参加者ほど生活習慣改善への意識が高まっている傾向が見られた。大学連携講座が参加者の健康増進に対する意識を高めていると推察される。 ②　石井愛子，田中貴絵，手嶋英津子，山田志麻，境田靖子，田川辰也，近江雅代

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
『食と健康』に関する地域密着型食育活動の展開	西南女学院大学共同研究費	○　田川辰也 近江雅代 境田靖子 手嶋英津子 石井愛子 田中貴絵 浅野嘉延 稲木光晴 (辻澤利行) (日高勝美)	1,139,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
職員研修委員会　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　岡本　采美	職名　　助手	学位　　学士（栄養学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード

研　究　課　題

担　当　授　業　科　目
給食経営管理実習Ⅱ（前期） 食品衛生学実験（前期） 栄養教育論実習（前期） 給食経営管理実習Ⅰ（後期） 応用栄養学実習（後期） 基礎調理学実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【食品衛生学実験】 実験前の準備では、学生が間違えないよう試薬や器具にラベルを貼り、分かりやすく示した。実験中は、目的や実験原理を確認させ、安全な操作が進められるよう作業場所の整理を行い、注意事項や実験のポイント等の声かけを行った。
授業科目名【給食経営管理実習Ⅰ】 実習室には使用したことがない調理器具や機器がある為、使い方をあらかじめ説明し、実習時に困らないよう指導した。学生が主体となって行う準備の段階では、初めて行う作業があるため丁寧に説明し、自ら考えて取り組むよう促した。管理栄養士としての役割を確認させ、衛生面への意識が向上するよう指導した。
授業科目名【応用栄養学実習】 各ライフステージの身体特性や栄養特性のポイントを確認させながら指導した。各回で作る食数が異なり、調理内容も応用的な内容となっている為、学生が理解しやすいよう準備を行った。また、掲示や声かけを行い、スムーズに実習が進められるよう工夫した。
授業科目名【基礎調理学実習】 調理実習が初めてとなるこの科目では、学生が調理実習に取り組みやすいよう、使用する器具や材料などを分かりやすく示した。学生一人一人の理解度を把握しながら指導し、実習が遅れている学生については声をかけ、実習の進行を促した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本栄養士会入会 日本栄養改善学会会員 日本給食経営管理学会会員		2014年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る 2017年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

人　文　学　部

英　語　学　科

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　マルコム　ロス スワンソン	職名　　教授	学位　　大学教育部大学院修士課程

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
1. Active learning 2. Technology in the classroom 3. Self-access learning centres	Active learning, student-centered learning, tablet devices, self-access, presentations

研　　究　　課　　題
1. Language study through active learning 2. Digitising language learning 3. Use of portable technologies as student resources

担　　当　　授　　業　　科　　目
• Advanced English Discussion I & II • English Discussion I & II • English Extension I & II • Area Studies II • Extensive Reading, I, II, III (supervision) • Media English / English Multimedia • Media Skills • Oral English I & II • Presentation Skills / English Presentation • 専門演習 • 卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Advanced English Discussion I & II】 　アクティブ・ラーニングの機会を更に提供するため新しいテキストを導入し、コースの再構築を図った。2018 年度の目標：批判的思考法を重視した授業を導入する。
授業科目名【English Discussion I & II】 　調査的技法の育成を更に促進するために、iPad を利用したプログラムを授業に組み込んだ。 　2018 年度の目標：時事問題について学生が認識するために、調査課題の方法についてのプログラムを授業に導入する。
授業科目名【English Extension I & II】 　英語を使用する機会を作るための新しいコースとして導入した、最終年度である。残念ながら、多くの学生が再受講となっている。

授業科目名【Presentation Skills / English Presentation】 学生が自分のペースで学習可能なプログラムを導入した科目に完全に再フォーマットした。 この方法を導入したことで、学生は自分の学習に責任を持つよう仕向けることが可能になった。更に、学生は自分の進歩を確認することが可能となった。結果、多くの学生が優秀な成果を成し遂げている。 2018 年度目標：授業内能力育成のためのワークショップを導入する予定である。
授業科目名【Oral English I & II】 この科目は多くの非常勤講師が担当している。今年度は新教員が担当することになったため、カリキュラムに従った学習課題を示すために、より明瞭なガイドラインを作成しなければならなかった。 2018 年度目標：英会話において文法基礎学習をより重視したコースにすべてを再フォーマットする。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国語学教育学会	会員 第４２全国語学教育学会　大会研究発表記録集編集長 Website 編集委員	１９９６年～現在に至る ２０１７年１０月 ２０１０年５月～現在に至る
CALICO（コンピュータ支援言語教育コンソーシアム）	会員	２００５年５月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　要
（著書）				
（学術論文） 学生のためのプレゼンテーション技術の構築について	共著	2018年3月	西南女学院大学紀要 Vol.22	本論は、授業でのプレゼンテーション技術の個人指導に焦点を当てて論じたものである。大人数授業では、公平な指導、観察、評価することは困難であった。しかし、学生が自分のペースで学習する方法を導入することで、自分の学習に責任を持つことが可能になる。更に評価は、継続的で分かりやすいものとなるため、学生はいつでも自分の進歩を確認できる。結果、学生は、プレゼンテーションにおいて自信が強まり能力も向上したことが分かった。
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） Developing a Sustainable Extensive Reading Programme	共著	2017年4月	JALT 北九州	授業科目「Extensive Reading」のプログラムの組み立て方及び維持方法について討議した。 共同研究者：Paul Collett
Creating a walled garden SNS for active language learning	単著	2017年6月	JALT CALL 2017, 松山	授業科目のなかで行っている、学生の個人的なＳＮＳを教材としその創り方について発表した。
Presentation skills in college classes	単著	2017年7月	Apple Distinguished Educators International Symposium 京都	プレゼンテーションの授業において、学生が、タブレットを使用した創造的なプレゼンテーション方法について発表した。
Design Skills	単著	2017年10月	Apple Distinguished Educators Workshop 福岡	このワークショップは、iOSやMacで作成したものをより見やすく、分かりやすくするために、よいデザインの原理をどのように使えるかを発表している。
Active Learning for Building English Skills	単著	2017年11月	特定非営利活動法人 ACROSS 大阪	アクティブ・ラーニングがどのように学習者の学びを促進するかについて説明し、実際の言語活動の様子も体験してもらった。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（１）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（２）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
梅光学院大学ＥＳＳスピーチ・コンテスト	ESS Contest 審査員	2017 年 6 月
第３６回福岡県高等学校英語スピーチコンテスト	スピーチ・コンテスト審査員	2017 年 9 月
キャンベル杯ディベート＆スピーチ・コンテスト	西南女学院高等学校ディベート＆スピーチ・コンテスト審査員	2018 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教育経費予算配分委員 　英語学科の予算委員を担当し、2017 年度副委員長となる。 ウィンチェスター留学生プログラム編成担当 　留学プログラムを編成した。また、2018 年度プルグラムの運営も引き継ぎ行うため、準備している。 情報システム管理運用委員 　531 教師のアクティブ・ラーニング・センターについて取り組んだ。2017 年度副委員長となる。 オープンキャンパス、英語学科のオープンキャンパス、保護者懇談会、ZIONCUP（スピーチコンテスト）の委員となって企画、運営を行う。 英語学科ウェブサイトの管理 英語学科のウェブサイト情報をアップデイトするための委員会の責任者となる。 英語学科フレッシュ・キャンプ委員 プログラムの企画検討を行う。（行き先：山口県西長門リゾートホテル） 東峰村エコツーリズム・プロジェクト 春期 英語学科学生とフィールドトリップに参加し、ローカルツーリズムにおける農業について体験学習を行った。 地域貢献活動「だいすきにっぽん」プログラムの参加 　プログラムの講師となり、ニュージーランドのマオリの文化について小学生を対象の体験学習を行った。英語学科学生にもプログラムに参加してもらっている。 大学祭での 3 年生ゼミの出店

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　横　溝　紳　一　郎	職名　　教授	学位　博士（ハワイ大学大学院　1997 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小中連携の英語教育、学習意欲と教師の言動の関わり、教師教育者の役割、アクティブ・ラーニング	連携（アーティキュレーション）、学習意欲（モティベーション）、アクション・リサーチ

研　究　課　題
小学校と中学校の英語教育の連携の「あるべき姿」を、協働的アクション・リサーチを通じて調査・分析している。また、教師の言動が学習者の学習意欲にどのような影響を与えるのかについても、包括的な調査を行っている。加えて、「実習生や現職教師に対して、教師教育者がどのように働きかけるべきか」についての、理論的・実証的研究を進めている。また、アクティブ・ラーニングについて、理論・実践の両面で、研究を進めている。

担　当　授　業　科　目
日本語教育実習（通年） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年：教職課程） 教育実習Ⅱ（通年：教職課程） 異文化間コミュニケーションⅠ（前期） 日本語教育方法論Ⅰ（前期） 日本語教育方法論演習Ⅰ（前期） 専門演習Ⅰ（前期） 英語教科教育法Ⅱ（前期：教職課程） 異文化間コミュニケーションⅡ（後期） 日本語学概論（後期） 日本語教育方法論Ⅱ（後期） 日本語教育方法論演習Ⅱ（後期） 専門演習Ⅱ（後期） 英語教科教育法Ⅲ（後期：教職課程） 教育実践演習（後期：教職課程）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【日本語教育実習】 教育実習の教壇実習授業として、⑴ウィンチェスター大学からの留学生相手の授業、⑵北九州 YMCA で と、2 度実施した。昨年同様の実習授業時間を確保した。また、それに付随する形で、事前・事後指導だけで 実際の教壇実習指導の現場でも必ず実習生と行動を共にした。
授業科目名【卒業研究】 卒業論文の完成まで、授業時間だけでなく、授業外の時間やメールを活用して、個別対応の指導を課外授 う形で行った。各履修生が選んだテーマを最大限に尊重することで、卒業論文執筆への意欲を高めた。
授業科目名【事前及び事後の指導：教職課程：集中】 教育実習の前後に、英語の教え方に関する具体的なアドバイスを与えた。
授業科目名【教育実習Ⅱ：教職課程】 教育実習に行く前、学生の教案作成や教材準備等の面で、具体的な指導を行った。
授業科目名【異文化間コミュニケーションⅠ】

この分野についての専門的な知識をほとんど持っていない学生対象の授業であるため、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。また、集中力の維持をめざして、(1) 教科書の使い方の工夫、(2) 画像や映像教材の多用、(3) ふり返りの時間の確保、(4) わたしメッセージの発信、(5) 座席指定と数回の席替え等の対策を講じた。

授業科目名【日本語教育方法論 I】

日本語教員養成課程の履修生が一番初めに受ける授業なので、開講時の学生の学習準備は、ほぼゼロである。それ故、日本語の教え方に関する基礎的な知識を広く網羅することに努めた。また、ゼロからのスタートを意識して、学期を通しての授業を構築することをめざした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【日本語教育方法論演習 I】

1 年次に学んだ基礎的な知識を日本語授業に活かす方法を体得する演習授業なので、すでに得た知識内容をリサイクルしながら、それを実際に体験するような形で、授業をデザイン・運営した。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【専門演習 I】

『社会人基礎力』、すなわち「前に踏み出す力（一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力）」「考え抜く力（疑問を持ち、考え抜く力）」「チームで働く力（多様な人とともに、目標に向けて協力する力）」の 3 つの力を培うアクティビティを、継続して演習形式で行った。

授業科目名【英語教科教育法 II】

教師の役割、読む・聞く・話す・書くことの教え方、読む・聞く・話す・書くことを統合した教え方等、英語の教え方について、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。そのことにより、英語の学び方も学べる環境を整えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【異文化間コミュニケーション II】

日本語と英語の違いに表れた文化的差異に焦点を当て、授業を運営した。視聴覚教材等の使用により、国際平和やことばの力にまでテーマを拡大し、社会的出来事を広く深く考える機会を履修生に与えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【日本語学概論】

日本語学についての基礎知識に関する授業なので、日本語の音声から社会言語学までの広範囲にわたって、予習→授業での解説→日本語教育能力検定試験の問題回答、という流れで進めた。

授業科目名【日本語教育方法論 II】

日本語教育についての入門期の授業なので、解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。テーマとして「教室運営」を選び、教師の言動の大切さを伝えた。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。

授業科目名【日本語教育方法論演習 II】

次年度の日本語教育実習につなげるために、授業観察、教案作成、マイクロ・ティーチング、等を演習形式で行った。マイクロ・ティーチングの直後に、撮影した授業の DVD を作成し、各授業担当者にその日のうちに手渡し、映像による授業のふり返りの機会を与えた。

授業科目名【専門演習 II】

ロジカル・ライティングの能力向上をめざして、演習形式で授業を進めた。

授業科目名【英語教科教育法 III：教職課程】 発音の教え方、「教室運営」のし方、テストの作成方法、アーティキュレーション（連携）の作り方など、英語科教育法 II でカバーしなかった内容に焦点を当て解説のみにとどまらず、実際に体験させながら、授業を進めた。その結果、英語科教育法 II と英語科教育法 III を受講することにより、英語教育に関する基本的な知識を得ることを可能にした。毎回の授業で、「担当教員による問いかけに個人で考え、個人の考えをペアで話し合い、その話し合いをグループで共有する」という Think-Pair-Share を何度も行うことで、一方的な講義形式を排除した。
授業科目名【教育実践研究：教職課程】 他の担当教員と協力して、授業内容を調整しながら進めた。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本語教育学会	評議員（2001 年 7 月～2007 年 6 月） 研究集会委員（2006 年 7 月～2011 年 6 月）理事（2007 年 7 月～2013 年 6 月） 言語系学会連合運営委員会委員（2013 年 7 月～現在に至る） 授賞候補選考委員会（2016 年 7 月～現在に至る） 地域ブロック運営委員会委員（2016 年 7 月～現在に至る） 代議員選挙管理委員会委員（2016 年 7 月～現在に至る）	1988 年 8 月～現在に至る
九州日本語連絡協議会	事務局長（2007 年 4 月～2011 年 3 月）	2005 年 10 月～現在に至る
日本教師教育学会		2004 年 4 月～現在に至る
日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク	副代表（2010 年 10 月～現在に至る）	2010 年 10 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 1. 小学生向けの文字指導教材の可能性と課題−中学生スローラーナーのリメディアル教材として−	共同	2017.11	2017 年度日本教育アクション・リサーチ・ネットワーク大会（千葉）	① 小学校高学年生向けに開発された『アルファベットと友だちになろう！』を中学生のスローラーナーに使用し、その成果に関する総合的分析を行った。 ② 共同発表者　河村扶美・松下周（・松田由起子・高橋志成・山崎晴菜
2. 日本語教育力の向上を主目的とした養成課程の中で，受講生は どのように変容するのか−2 名の受講生の比較・対照を通して−	単独	2018.3	第 15 回沖縄県日本語教育研究会大会	① 3年間、日本語教育力の向上を主目的とした養成課程の受講生A ・B 2名の変容を、縦断的データに基づき分析・考察した結果、「社会人基礎力」の向上につながっているという興味深い結果が得られた。
				教育研究業績　総数　（2018.3.31 現在） 著　書　26　（内訳　単　3 ，共　23 ） 学術論文　38　（内訳　単　30 ，共　8 ） 翻訳　1　（内訳　単　0 ，共　1 ） 学会発表　66　（内訳　単　32 ，共　34 ） （その他） 視聴覚教材　3　（内訳　単　2 ，共　1 ） 書　評　1　（内訳　単　1 ，共　0 ） 科研成果報告書　4　（内訳　単　0 ，共　4 ） 事　典　1　（内訳　単　0 ，共　1 ） 文化庁委嘱　事業報告書　2　（内訳　単　0 ，共　2 ） その他の報告書等　11　（内訳　単　0 ，共　11 ） 以上

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

教師教育者・メンターの成長に関する研究ー熟達者と新人の情感性と身体性に着目してー	日本学術振興会	○ (柳瀬陽介) (樫葉みつ子) (今井浩之) (玉井健) (山本玲子) (長嶺寿) (田尻悟郎) (吉田達弘) 横溝紳一郎	1.000,000
ICT 活用による授業の質向上および業務の効率化を目指した教員研修プログラムの開発	日本学術振興会	○ (山田智久) 横溝紳一郎	1.000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2） 個 人 研 究			
研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考
小学校高学年における英語の読み書き指導に関する衝動的アクション・リサーチ	日本学術振興会	1,100,000	

社 会 に お け る 活 動 等		
団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等
福岡市立博多小学校外部評価委員	委員長	2007 年 4 月～現在に至る
福岡市立博多中学校サポーター会議	委員	2007 年 4 月～現在に至る
福岡市国際教育礎プラン運営指導委員会	委員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡市国際教育懇話会	座長	2015 年 4 月～現在に至る
福岡県立香住丘高等学校スーパーサイエンス・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2011 年 4 月～現在に至る
福岡県立香椎高等学校スーパープロフェッショナル・ハイスクール事業運営指導委員会	委員	2015 年 4 月～現在に至る
福岡市中学英語教育研究会主催 Yoko-Yoko Network	コーディネーター	2012 年 4 月～現在に至る
公益財団法人日本英語検定協会講師派遣	講師	2012 年 4 月～現在に至る
福岡県教育委員会主催英語教員指導力向上研修	指導助言者	2017 年 4 月～現在に至る

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）

国際交流委員会　委員長　2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 学生募集委員会　委員　2013 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 教職委員会　副委員長　2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 外部資金導入プロジェクト　委員　2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 就職委員会　委員（代理）　2017 年 8 月 1 日～2018 年 3 月 31 日 ハラスメント相談員　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

※　2016 年度様式から、学部長による評価・改善記入（助手については、学科長による評価・改善記入）は行われません。

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　村橋　素行	職名　　教授	学位　フランス語学士（西南学院大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード

研　究　課　題
ナサニエル・ホーソーンのアメリカ国民文学確立への営みを支えた、彼の歴史観、キリスト教観について。

担　当　授　業　科　目
前期：Intensive Reading I,　TOEIC 演習 A,　TOEIC 演習 C 後期：Intensive Reading II,　TOEIC 演習 B,　TOEIC 演習 D,　現代ビジネス人材論，インターンシップ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Intensive Reading I, Intensive Reading II】 ・　高校までの文法・語法・構文についての学修内容を再確認し、その知識に基づく英文解釈を徹底。 ・　教材の客観的理解と、検討の視点を提示することにより、クリティカルシンキングを支援。 ・　規範文法では説明できない生きた英語への対応力を養成。 　習熟度別クラス編成において、下級クラスでは基本事項の確認に時間を傾斜配分。
授業科目名【TOEIC 演習 A, TOEIC 演習 B, TOEIC 演習 C, TOEIC 演習 D】 ・　国際的なビジネスや社会生活のしくみや実例紹介を通じ、実社会で必要とされる英語情報の処理技能向上につながる学修を重点的に支援。 ・　個人別の弱点分野の把握に努め、添削や研究室で個別指導。
授業科目名【現代ビジネス人材論】 ・　社会人基礎力の概念と、その各能力要素について自律的な向上への努力を支援。 ・　ビジネス実務で不可欠な分析手法、口頭・文書による各種コミュニケーション、企業会計知識、マナーなど、即戦力として必要な基本技能を整理して提供し、演習を実施。 ・　レポートや英語・日本語による各種実務書類の作成演習において、個人別添削でフィードバック。
授業科目名【インターンシップ】 ・　インターンシップで当面必要とされる職場における基本動作、基本知識の獲得と自主的な業界研究を支援。 ・　社会の動向に関心を持ち、自らの視点で意見をまとめて発表するための手法養成、及び丁寧な文章表現、謙虚な話法を指導。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本アメリカ文学会 九州アメリカ文学会 北九州アメリカ文学研究会	編集委員	2014年5月 同上 2014年9月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） ポジションペーパーとしての『緋文字』 主要人物の命名方法に探る Hawthorne の立脚点	単	2017.4.30.	北九州アメリカ文学 4号 東筑印刷(株) 北九州アメリカ文学研究会	・ナサニエル・ホーソーンは『緋文字』制作にあたって、自らをアメリカ国民文学の旗手として、密かにウィリアム・シェークスピアに自己同一化したと思われる。作者が、作中人物名に埋め込まれた作者の隠されたマニフェストについて、英国清教徒革命との関連で論じた。 ・P107-118
（翻訳）				
（学会発表） 『緋文字』に埋め込まれたホーソーンの立脚点 登場人物の命名法から探る作家の意図	単	2017.8.19.	北九州アメリカ文学研究会第 10 回研究発表会	ナサニエル・ホーソーン作『緋文字』では、Hester Prynne の姓が、英国清教徒革命時に実在した清教徒 William Prynne に基づくと推測されているが、対立する王党派には Chilling-worth という聖職者が実在していた。清教徒の闘士 Prynne の生き様は『緋文字』における Prynne、Chillingworth の姿と重なり合うが、その類似性のみが命名の理由ではなかった。これについて、17 世紀の英国と植民地の町ボストン、そして 19 世紀アメリカ文学の状況を三点観測し、隠された作者の意図を論じた。
同上	単	2017.9.30.	日本ナサニエル・ホーソーン協会　第 67 回九州支部研究会	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　大谷　浩	職名　　教授	学位　ＥＦＬ修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育、第２言語習得	日本の英語教育改革、小中高大連携、英語力評価試験

研　究　課　題
日本の教育システム全体を視野に入れつつ、小規模地方大学が英語教育分野で果たすべき役割を考察し、もって勤務校の発展につながる方策を追究する。具体的には、高校卒業後も英語力向上に意欲を持つ学生に対して、いかにして実際にその力を向上させるかが最大の課題。また、英語を通して視野を広げさせ、自らがどのような社会貢献ができるかを自覚し、それに向け努力する態度を養成するか、などの研究。

担　当　科　目
英語学概論Ｉ、英語学概論 II, Extensive Reading III, Paragraph Writing, Creative Writing, Academic English Writing, 専門演習、卒業研究

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【英語学概論　Ｉ】 教科書で説明されている内容をふまえ、より身近で学生達に馴染みのある事例を交えながら、わかりやすい説明を心がけた。抽象度が高く理解が進まない分野については、予定よりも多くの時間をかけて確実に理解できるまで説明した。毎回の授業でリアクションペーパーを提出させ、自らの学習を振り返る時間を取った。
授業科目名【　英語学概論　II　】 英語学概論Ｉに同じ。
授業科目名【　Academic English Writing　】 教科書にある例題をきっかけに、関連事項を新聞記事から紹介して、その後、各自でリサーチを行わせ、英語でまとめる演習を行った。CreativeWriting までと異なり、引用文献の引用方や、文献一覧の書き方も指導した。また、常に卒業論文の書き方と深く関係することを教示した。
授業科目名【　Extensive Reading III　】 学生のレベルを考慮し、難しすぎない教材を選出した。読むだけでなく、内容が把握できているか、の確認を行えるようにした。
授業科目名【　Paragraph Writing　】 クラス全体への説明では理解できない学生が多いので、個人指導の時間を必要に応じて多めに取った。

授業科目名【　Creative Writing　】 　自分たちが関心のあるテーマを選ばせ、それについて書かせるようにした。書いた内容は尊重しつつその表現の仕方について、クラス全体から意見を求めながら書き方を向上する指導を行った。
授業科目名【　専門演習　】 　2 年時までの勉学や生活に問題を抱える学生達なので、ゼミに参加することが楽しく感じられる工夫をした。覚えて楽しく役に立つ表現集を使ったり、互いの悩みを隠さず打ち明けられるような雰囲気を作り出したりすることに心がけた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
全国英語教育学会 九州英語教育学会	役員（常任）、幹事（常任）、事務局長（2001-2001）	1995 年 1994 年

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（その他）	単著	2017 年 6 月、8 月、9 月、11 月、1 月、3 月	ニューヨークタイムズで学ぶ、斬れる英語	朝日新聞社　The Asahi Weekly 連載コラム

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
なし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試委員会委員、学生募集委員会委員、教学マネージメント教育の質保証WGメンバー、入試問題作成委員責任者、高校への出前授業担当、英検２次面接対策講座担当、地域連携室室員（女性活躍WG責任者）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　塚本　美紀	職名　　准教授	学位　修士（教育学）（テンプル大学　2005年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
英語教育学	異文化理解教育、異文化理解・対応力の測定、ESD(Education for Sustainable Development)

研　究　課　題
異文化理解教育に関して、異文化理解・対応力の測定について中心に考察する。また、持続発展可能な社会の在り方について、英語教育および国際理解教育の観点から考察を深めたい。

担　当　授　業　科　目
Grammar & Composition I (A)、(B)（前期） 小学校英語教育入門（前期） 英検演習 E（前期） 専門演習 I（前期） 北九州文化論（前期） Grammar & Composition II (A)、(B)（後期） 小学校英語教育研究（後期） 英語教科教育法 I（後期） 英語教科教育法 IV（後期） 専門演習 II（後期） 卒業研究（通年） 事前及び事後の指導（通年）（英語学科） 教育実習 II（通年）（英語学科） 教職実践演習（中・高）（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【Grammar & Composition I】 　重要な文法項目や表現に繰り返し触れることができるよう設計されている教材を使用し、学生が予習、授業、復習の流れの中で、学習項目を習得できるようにした。さらに、言語活動の時間をとることができるように、配布資料を活用して解説するなどして解説の時間の短縮化を図った。
授業科目名【小学校英語教育入門】 　グループ討議やプレゼンテーションがしやすい教室を使用し、学生が討議を通して自らの理解を深め、プレゼンテーションの機会を増やすことによって自らの考えをまとめて言語化する力がつくように工夫した。広い教室を使用することで、学生の発表の音声が大きく明瞭になった。

授業科目名【英検演習 E】
　学生の動機付けを高め、予習や復習に取り組みやすくするために、習得すべき語彙や文法項目などについて、毎回の授業での目標を明確に設定し、毎回小テストを実施した。

授業科目名【専門演習 I】
　国際語としての英語の在り方について、学生が理論と実践の両面から理解できるように、さまざまな文献を読んだり、さまざまな国の人々と英語で交流したりする機会が持てるようにした。

授業科目名【北九州文化論】
　北九州のことを様々な面から理解できるように、北九州市に関するいろいろな種類のデータや文献を用意し、決められたテーマについて、毎回プレゼンテーションをすることを課した。

授業科目名【Grammar & Composition II】
　授業で学んだ文法項目や英語表現が定着するよう、身の回りのことや自分が考えていることなどについて、口頭で発表したり、さまざまなテーマで英文エッセーを書く機会を設けた。

授業科目名【小学校英語教育研究】
　授業で学んだ学習の理論やメソッドについての理解を深めることができるように、実際の授業のビデオや指導案を見て討論したり、全員に模擬授業をさせたりした。

授業科目名【英語教科教育法 I】
　学生にとっては、馴染みの薄い用語などが多く出てくるので、学生が理解しやすいよう具体例などもあげながら説明した。また、毎回、授業の内容に関連することについてのレポートの提出を求め、学修したことの理解を深めるようにした。

授業科目名【英語教科教育法 IV】
　これまで学修した理論を実践に活かせるよう、全学生が模擬授業を実施する機会を設けた。また、学生が実施する模擬授業を録画し、それを見ながら振り返りを行った。

授業科目名【専門演習 II】
　来年度の卒業論文の執筆に備え、各学生が自分の興味のある分野の書籍や論文についてのプレゼンテーションを実施する機会を設けた。また、それについての質疑応答を通して、テーマ設定が適切であるかどうか考えさせた。

授業科目名【卒業研究】
　計画的に卒業論文を執筆できるように、論文の書き方や執筆のスケジュールについてのガイドラインを作成した。また、自らが設定したテーマについての思考を深められるように、定期的に進捗状況を発表してもらい、他のゼミ生から質問に答える機会をもった。

授業科目名【事前及び事後の指導】
　英語教科教育法 IV で行った模擬授業で明らかになった課題を克服する形で、模擬授業を行ってもらった。このことによって、模擬授業を実施した学生も、見学した学生も、授業改善のプロセスの一部を体験できたと思う。また、中学校や高等学校の教員を招き、教員の在り方や指導法等について講演してもらった。

授業科目名【教育実習Ⅱ】 　教育実習については、受け入れ校によって対応が大きく異なることもあるので、全体での指導は汎用性のあるものに留め、個別の案件については臨機応変に対応できるよう学生と電子メールや SNS ですぐに連絡がとれるようにして対応した。
授業科目名【教職実践演習】 　学生が将来授業を行う際の選択肢が増えることをねらって、ワールドカフェ形式の討論やパワーポイントを用いた発表など、授業のやり方にさまざまな形を取り入れた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
アクロス「英語教師のための異文化研究会」 日本 ESD 学会 北九州サステナビリティ研究所	副代表理事（２０１６年８月～現在に至る） 監事（２０１７年６月～現在に至る）	１９９０年９月～現在に至る ２０１７年４月～現在に至る ２０１７年６月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） “Factors Impacting on the Career Motivation & Demotivation of NNS Language Teachers in Cambodia, Sri Lanka & Japan”		2018. 2	14th CamTESOL Conference （於　Institute of Technology of Cambodia, Phnom Penh, Cambodia）	①　カンボジア、スリランカ、日本における英語を母語としない教員のキャリアに対する動機付け要因についての考察 ②　共同発表者名　井川好二 塚本美紀
			教育研究業績　総数（2018. 3. 31現在） 著書　　１　　（内訳　単　０、共　１） 学術論文　９　　（内訳　単　６、共　３） 学会発表　８　　（内訳　単　０、共　８）	

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「異文化理解・対応力」ルーブリック開発のための基礎研究	日本私立学校振興・共済事業団	○塚本美紀 （井川好二）	500,000 円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本英語検定協会 北九州 ESD 協議会 Zonta International（世界の女性の地位向上を目指す国際的奉仕団体）	面接委員 会員 アドボカシー・奉仕委員会副委員長	１９９３年７月～現在に至る ２０１０年４月～現在に至る ２０１６年６月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員会　副委員長（２０１４年４月１日～２０１８年３月３１日） キャンパスハラスメント相談員（２０１４年４月１日～２０１８年３月３１日） ゴールデンＺクラブ　顧問（２０１４年４月１日～２０１８年３月３１日） 教職員懇親会　委員（２０１６年４月１日～２０１８年３月３１日） 点検評価改善会議大学機関別認証評価部会総括担当教員（２０１６年１０月６日～２０１８年３月３１日）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　ブラウン馬本　鈴子	職名　　講師	学位　文学博士

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
イギリス文学、イギリス文化	ドリス・レッシング、ジェイン・オースティン ジェンダー、イギリス、

研　　究　　課　　題
主に現代の女流イギリス文学に関する研究を行う。大まかには、女性の精神的・社会的な幸福にフェミニズムがどのように関与しているのかの分析を行う。 現在の具体的な研究課題は､授業でも取り扱っている文学作品を扱った映画に関する研究を進めることである。

担　　当　　授　　業　　科　　目
前期 英検演習 A、英米文学入門 I、英検演習 C、英米文学研究、基礎演習 II、専門演習 I、北九州文化論 後期 英米文学特殊講義、英語資格演習 V、基礎演習 I、英語文学入門 II、英検演習 D、専門演習 II

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　　英語文学入門Ⅰ・II　　】 英語でかかれた文学の入門講座として、欧米人なら誰でも読んだことがある本を読んでいく過程で、文学作品の技法や背景をていった。「英語文学 I」から「英語文学 II」に進むにおいて、イギリス人の子供なら大抵最初に手にする絵本である *The Tale o Rabbit* を原文で読む事から始め、次に、英語学習者用に編集されたオックスフォードの graded readers 版のレベルを徐々に上げた。それぞれの作品を原作と比較しながら読み終わる毎に、映像資料（DVD）を見て、小説の理解を深めるように促した。学生たち業で取り上げた英米文学作品をきっかけに、文学作品の魅力に触れ、今後の専門的な文学作品研究の応用力を身につけた。また、速読を進める中で、英語力の向上を図った。
授業科目名【　基礎演習Ⅰ・II　　】 大学での学習に必要なスタディ・スキルの基本を身につけることを目標としたこの講義では、盗用などの研究倫理指導を行い、要約の仕方からレポートの書き方に到るまでの基礎技術を日本語と英語の両面で学習させた。 パソコン室を利用する週を設け、パソコンを使ったプレゼンやレポートを課し、パソコン技術を向上できるようにした。そしてプレゼンテーションが自信を持って行えるように、その心構えや効果的な発表の仕方を学べるようにした。最終的に学生たちは、「基礎演習 I」においては日本語で、「基礎演習 II」においては英語で、パワーポイントによるプレゼンを各自が決めたテーマで行った。
授業科目名【　　英米文学特殊講義　　】 小林章夫書作の『イギリスの詩を読んでみよう』(NHK 出版）の本が絶版になったので、学生に好評であったその本に書かれていた詩をベースに、技法説明や、詩の紹介などの内容は更に発展させ、詩の技法や鑑賞法を学習していくことができる書き込み式の学習教材を作成し、毎回の授業で配布した。更に、音やリズムに親しむために欧米のポップソングのリスニング練習用のプリントも作成し、毎回配布した。学期後半にはいくつかの有名な詩を暗唱するテストを個別に行い、リズムや発音の指導も行った。

授業科目名【　　英米文学研究　　】
Lauren Weisberger による The Devil Wears Prada: A Novel というベストセラーの小説のスクリーンプレイを映画と併用しながら精読することで、セリフや文化背景を紹介した。小説とスクリーンプレイの比較の中でフェミニズム的な文学の読みを実践した。学生には毎回プリントを配布し、理解度をモニタリングすると共に、感想を書かせてそれにコメントをつけ返却した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本英文学会九州支部 映画英語教育学会（ATEM）九州支部 日本オースティン協会	支部評議員（なし）	2001 年 10 月～現在に至る 2006 年 10 月～現在に至る 2015 年 11 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 特になし				
（学術論文） 特になし				
（翻訳） 特になし				
（学会発表） 特になし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

特になし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
特になし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
特になし		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
倫理審査委員副委員長 ハラスメント委員 FD 委員 学生委員会（阿部先生代理）

観　光　文　化　学　科

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 （様式９（2017））

氏名　須藤 秀夫	職名　教授	学位　修士（経営学） （米国ペンシルバニア大学ウォートン校　1978 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際金融、　国際経済、　国際ビジネス	金融危機、企業統治、　金融資本主義 企業の社会的責任(CSR)　ESG 投資

研　究　課　題
・金融危機および通貨危機を発生させる要因（企業統治、米国金融規制緩和など）について考察する。 ・企業の社会的責任(CSR)、CSR を基準にする投資(SRI、または ESG 投資）について、欧米と日本での動向を考察する。

担　当　授　業　科　目			
科　目　名	単位数		
	必　修	選　択	
国際経済入門（2 学科合同）（前期）		2	
国際ビジネス論（2 学科合同）（前期）		2	
基礎演習 A（前期）	1		
専門演習 II　（前期・後期）	2		
卒業研究　（前期・後期）	4		
多国籍企業論　（後期）		2	
ビジネス・ファイナンス　（後期）		2	
専門演習 IB	1		

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【国際経済入門（前期）】（観光文化学科と英語学科学生向け 2 学科合同） ・学生の疑問・質問を「出席票(兼)質問票・感想票」に書かせ、学生にとって授業で分かりにくかった点等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させることに努めた。 ・複雑な事象（例えば、通貨危機、世界的金融危機等）の因果関係、仕組みなどをなるべく図示して、また最新のデータや写真を使って解説し、学生の興味を引き出すことに努めた。 ・最近の新聞記事を配付して、授業で扱っている国際経済の事項（輸出とアベノミクス、自由貿易協定 FTA/EPA、ドル円為替相場等）が、現在進行中の世界と日本の出来事であることを理解させるように努めた。 ・学生の国際経済に対する関心・意識を向上させるために、新聞・雑誌の記事等から得られる情報に関するレポートの提出課題を与えた。 ・覚えてほしい語句は、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【国際ビジネス論　（前期）（英語学科学生および観光文化学科学生向け合同】

・学生からの質問を「出席票(兼)質問票・感想票」の形で受け付け、学生にとって分かりにくかった点、知りたいこと等を把握しつつ、次の授業で解説して、学生の理解を向上させること、積極的な受講態度を引き出すことに努めた。
・複雑な貿易取引、対外直接投資の仕組みなどをなるべく図示して解説し、理解しやすくなるように努めた。
・国際ビジネスの現場の状況、考え方を知り、理解してもらうために、商社の中国ビジネスの歴史的事例、多くの学生が関心をもつ日本航空の中国人マーケットでの文化的摩擦の事例を取り上げ、提出課題とした。これによって学生が国際ビジネスの異文化理解および異文化間コミュニケーションの側面に関心を寄せることを狙った。
・貿易・直接投資の取引に関する新聞・雑誌の記事を紹介し、学習していることが現在の世界のビジネス社会で起こっている事例と関係していること、また就職事情にも関係することが理解できるように努めた。
・覚えてほしい語句（タックス・ヘイブンなど）は、教材の中で穴埋めの形で学生の注意を促す工夫をした。

授業科目名【基礎演習Ａ　（前期）】

・教材として『知へのステップ』を使用、高校と大学での学びの違いを理解させ、自分の意見を分かり易く伝える重要性、なぜ自分はそう考えるのかをきちんと言えることの重要性を理解させることに重点をおいた。そして、実践として、自分でテーマを選び、口頭でプレゼンし、論文を作成する経験をさせた。それにより、発信することの面白さを感じ取ってもらおうとした。
論文作成の課程で、改善するために何をすべきかを学生と個別に面談し議論した。
・学生に漢字の出題をさせ、仲間に答えさせる時間帯を設けることにより、飽きが来るのを避けること、参加意欲を引き出すこと、漢字という基礎学力の重要性に気付かせることを狙った。

授業科目名【多国籍企業論（後期）】

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し学生の理解の改善に努めた。
・学生にとって馴染みのある企業（ネスレ、Disney 等）の経営戦略等に関する具体的な事例、新聞記事を数多く提示し、学生が多国籍企業を身近に感じ、もっと知ろうとする意欲が高まるように努めた。
・写真やビデオを用いて、CSR、企業戦略などに関する事例（ナイキ等）を紹介し、書物だけではわかりにくい現場の情景を実感させ、理解を深めるように工夫した。
・学生自身が関心をもつ多国籍企業のホームページ・決算短信などからその企業の中核的生産活動、社会的責任、社会貢献活動などについてのレポートを提出する課題を与えた。その狙いは、その企業の活動に関する理解・認識から、その企業のファンになること、さらには就職先候補として検討するように仕向けることである。
・馴染んでもらいたい重要な語句（CSR、BoP ビジネス等）を、教材の中で穴埋めの形式にして学生に書かせ、学生の注意喚起を促した。

授業科目名【ビジネス・ファイナンス（後期）】

・「出席票(兼)質問票・感想票」を使い、学生の理解が不十分なのはどういうことか、学生が関心を寄せるのはどういうことかを把握し、それに基づいて次の授業で解説し、学生の理解の改善に努めた。また、一方通行にならないように、学生とのやりとりを通して理解を容易にするように努めた。
・複雑な外国為替取引の仕組み、決算書の読み方、損益分岐点などの解説に際しては、図を多用した。
・財務分析を理解させ、前向きの受講態度を引き出すため、学生が個々に関心をもつ同業２社が実際に発表している数字を比較分析する課題を与えた。また、危ない会社を見分ける方法など、就職活動に役立てられることを狙った。
・EXCEL を十分使わず習い放しにしている嫌いがあると見受けられたので、EXCEL の表計算を使った収支計画の課題を与え、EXCEL の知識・スキルの有用性に気づくことを狙った。
・最近の新聞記事を紹介し、授業で扱っている財務の問題（営業黒字、損益分岐点比率、格付けなど）が今日的な経済問題につながっていることを示し、学生の関心を高めることに努めた。
・利回り計算、為替差損益などは、金融界に就職すると求められる資格である外務員（金融商品）の試験に必須の項目であることなどを強調し、動機付けを図った。

授業科目名【専門演習 IB　(後期　2 年生向け)】

・論文作成の過程で、3 回程度、各学生と面談して、追求したいことの「問い」の形での明示、主張したいことを初めに明示、その理由の明示など、論文改善の方向を示して、仕上げの後押しをした。

・論文作成のルール・倫理として、引用文献の適正な表示、他人の文章を自分のもののように取り込むことなく、自分の論述とは区別して示すよう強調した。

・ポスターセッションにおいて、各人が言いたいことが見て聞いている人にはっきり伝わるように、ポイントを示すように指導した。

授業科目名　【専門演習 II　(前期・後期)】

・実際の為替相場を使った模擬外為ディーリングで利益を挙げる競争を行わせ、どのように為替取引が利益・損失につながるのか、どのような要因が相場の変動につながるのか等の理解を深めさせることに努めた。

・日本の経済社会（金融政策、自動車業界、コンビニ業界の再編、人工知能(AI)等）に関する文献（『これからの日本の論点』、『2017 年の日本の論点 100』）を輪読し、自分の意見を言わせるとともに、自分で疑問に思ったことを質問として書かせた。これにより、経済社会問題に対する関心と理解を深めさせるように努めた。

・こうした議論、発表に際しては、学生のコミュニケーション能力向上を狙って、自分はこう考える、どうしてそう考えるのかを言うように指導した。

・グループワークとして、ある商品を外国一国で作って売るための海外進出に際して必要な情報を自分たちで考える課題を与え、国際ビジネス展開への理解と関心を高めることを狙った。

・議論においては、こうなったら、次に社会はこうなる、次にこうなると考える・予想することが大事であり、数字や事例・事実で裏付けを示すことが主張を強める大事な要素であることを強調して、気づきを促した。

・就職対策として、自分が関心をもつ企業の研究を取り上げた。企業の社会的責任（CSR）にどう取り組んでいるか、サプライチェーン（何をどこから調達して、何を作り、誰にどのように提供するのか）はどうなっているかを発表させ、議論し深掘りを試みた。また、自分の長所・短所をどのように認識しているかを各自に述べさせ、それに対してゼミ仲間および教員がこういう長所はあるよ、短所にどう向き合っているかなどと議論した。

授業科目名【卒業研究（前期・後期)】

・考察・論述の枠組みが筋道立っていてしっかりするように、学生各人との一対一の対話、email 交信などを通して、学生に考えさせた。とくに、何を言いたいのか、なぜ自分はそう考えるのか、という論旨を明確にすること、信頼性のあるデータ・事例などの論拠を明示することを強調した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネス研究学会 日本金融学会	会員 会員	2002 年 10 月～現在に至る 2012 年　5 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
				教育研究業績　総数 （2018年3月31日現在） 著書　　なし 学術論文　17 （内訳　単15　共2） 翻訳　　なし 学会発表　なし

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
・人文学部長 ・英語学科長の代行（兼務）（阿部学科長が2017年7月以降長期入院・療養のため） ・バドミントン部顧問

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　八尋春海	職名　教授	学位　修士(文学)　（九州大学　1993 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学	阿蘇市、観光資源、公的機関

研　究　課　題
阿蘇市における観光資源の活用

担　当　授　業　科　目
海外旅行実務（前期）(観光文化学科) (前期) (観光文化学科) (前期) (観光文化学科) 基礎演習A(前期) (観光文化学科) 専門演習ⅠA(前期) (観光文化学科) 映画で学ぶ欧米文化(後期) (観光文化学科) 映画で学ぶ世界遺産(後期) (観光文化学科) ホテルブライダル論(後期) (観光文化学科) (後期) (観光文化学科) 専門演習Ⅱその1(通年) (観光文化学科) 卒業研究その1(通年) (観光文化学科) 卒業研究その2(通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【海外旅行実務】 学生が国内旅行実務をまだ理解していないという前提で、旅行業法や約款についてはていねいに復習を行った。
授業科目名【映画で学ぶ欧米文化】 分かりやすく「ここがポイント」とはっきり言って、学生の理解の手助けをした。
授業科目名【ホテルブライダル論】 ホテルに関しては他の科目でも学習する機会があるため、ブライダルの方に時間を割いて丁寧に説明を行った。

授業科目名【映画で学ぶ世界遺産】 世界遺産に関連するエピソードを数多く紹介することで、学生の記憶に残りやすくした。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本比較文化学会	理事（2006 年～現在）、副会長（2010 年～2016 年）	1996 年
日本比較文化学会九州支部	支部長（2010 年～現在）	1996 年
余暇ツーリズム学会	九州支部事務局長（2009 年～現在）	2005 年
映画英語アカデミー学会	理事・福岡支部長（2013 年～現在）	2013 年

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文） 阿蘇市における観光資源としての草原」	単著	2017 年 7 月	『比較文化研究』127 号 日本比較文化学会	阿蘇市に存在する草原の保全と活用について、さまざまな公的団体や民間企業などの取り組みについて論じた。 p.155-p.117
阿蘇市における観光関連の公的団体の活動について	単著	2017 年 12 月	『比較文化研究』129 号 日本比較文化学会	阿蘇市にある観光関連の公的団体の関係や取扱い業務における課題について論じた。 p.175-p.186
（翻訳）				
（学会発表） 阿蘇市内における観光関連の公的団体の活動について	単独	2017 年 7 月	2017 年度余暇ツーリズム学会九州支部大会 (於　都久志会館)	阿蘇市にある観光関連の公的団体の関係や取扱い業務における課題について論じた。

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
阿蘇市の飲食店による地元食の活用	単独	2018年２月	2017 年度日本比較文化学会九州・中四国・関西３支部合同研究会 （於　西南女学院大学）	阿蘇市にある飲食店の店内、屋外、ホームページにおいて地元食材をどうアピールしているのかについて論じた。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
地方自治体と地域内各種団体との協働に関する研究	西南女学院大学	○八尋春海 荒木剛 樋口真己	358,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）
学生部長（2016 年４月～2018 年３月） キャンパスハラスメント防止対策委員会委員長（2017 年４月～2018 年３月） 教育経費予算委員（2017 年４月～2018 年３月）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　林裕二	職名　教授	学位　修士（文学）（西南学院大学　1993年）

研究分野	研究内容のキーワード
英語学	統語論、会話分析、文体論

研究課題

英語学の領域で、特に会話分析、談話分析を専門とする。ビジネスコミュニケーションにおけるレターや文学作品、映画(脚本）を言語資料として、人間関係をどのように言語が反映するかを考察する。それらの分野の知見を援用した創作活動として、詩・英語俳句等にも取り組む。

担当授業科目

総合人間学概論　(前期)　(英語学科・観光文化学科)
Extensive Reading Ⅰ　(前期) (観光文化学科)
基礎演習A　(前期)　(観光文化学科)
英文講読Ⅰ (前期) (観光文化学科)
ビジネス英語入門 (後期) (英語学科・観光文化学科)
Extensive Reading Ⅱ　(後期)　(観光文化学科)
英文講読Ⅱ (後期) (観光文化学科)
専門演習Ⅱ　(通年) (観光文化学科)
卒業研究　(通年) (観光文化学科)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【総合人間学概論】(英語学科・観光文化学科)

全８回中の１回を、人文学部の両学科長で担当する。学生側からすれば、大学教育の基礎の根幹をなす学部共通の最初の授業である。人文学部のどちらの学科の学生でも入学時に押さえておくべき基本的なポイントに焦点を当て、PPT を使い講義をした。シラバスについては評価について入念に説明した。

授業科目名【Extensive Reading Ⅰ】(前期) (観光文化学科)

E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室での必修科目。高校の必修授業「情報」で、PC の使い方の基本ができている学生もいる。但しタッチタイピングの習熟度には大きな差がある。チエルに取り組むことで、副次的な効果としてタッチタイピングのスキルと高めることにもなった。個々の学生のペースに応じて、リスニング、語彙力、読解力を高めるトレーニングをした。また学習時間を担保できるように、毎回課題を出し、達成度を確認した。ネット環境があれば、どこからでも利用可能であり、学生自身が自分の通算学習時間を知ることができるので、目標（2.500 マイルの達成）を持たせて計画的に取り組めるようにした。スマホでの学習も今学期から可能となり更に環境は整ってきた。

授業科目名【基礎演習A】(前期) (観光文化学科)

必修科目(演習研究科目)。大学の授業を受けるために必要なノートの取り方などのスキルを少人数の授業で学ばせた。また入学時に友人ができないという孤独感に陥らないようにするため、グループへの帰属意識のある学習集団を作り、教員との信頼関係の第一歩を築かせるようにした。そのためにも、学生のペア作業、共同作業を多く取り入れた。ディベートを学年全体の取り組んだ３年目の年である。学年大会の前に、クラスで準備をさせて、クラス内でディベート練習をさせて、クラス内で目標を定め役割を決めて本大会に臨ませた。能動的に全員が関わるということで、active learning の体験を持った。優勝をすることで、時間をかけてグループワークをすることの価値を理解させた。

授業科目名【英文講読Ⅰ】(前期) (観光文化学科)

選択科目で、受講者は２年生だった。E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室で行なった。CHIeru の強みである、文字と音声との両方からの英語の理解力を強めることで、読解力を基礎の上のレベルから強化した。同じく CHIeru を利用した、一年次の Extensive Reading Ⅰ、Ⅱよりも英語のレベルが高く、内容が多様なものとして、社会的な話題に関心が向くような話題に広げていった。比較的簡単な章では、理解度を上げての速読を、より高度な章では精読の練習をさせた。

授業科目名【ビジネス英語入門】(英語学科・観光文化学科)

人文学部合同で２，３、４年生（60 名程度）が受講。最も学生が不得意とする読解の力を伸ばすために、全員を対象にいくつかのビジネスに関わる記事を全訳させ、提出させた。見本となるレベルから、共通の誤りを含むものまでを　見本として印刷して、読み合わせを行なった。ダウンロードで音声を聞く教材を使い、スマホでもトレーニングできるようにして、そのトレーニングの仕方を学ばせた。具体的には、教材理解後にそれを自信をもって声を出して音読できる方法を身につけることができるようにスマホの録音機能も活用させた。

授業科目名【Extensive Reading Ⅱ】(後期)　(観光文化学科)

E　E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室での必修科目。教材は、CHIeru と英語の発音のテキストである。既に前期に CHIeru に慣れており、前期よりも質的充実と練習量増を目指した。しかしながら慣れることで手抜きのテクニックを覚え始めて、問題解決の場面で、「考える」という最も重要な活動をせずに、単に答え合わせに終始する学生も出てきた。それを防ぐためにも、確実に自分で考えざるを得ない状況を増やすようにするために、ペアで会話の場面を創作させて、読み込ませて、上演させた。それをスマホで動画で撮影させて、それをクラスで相互評価させることで、意欲を引き出した。

授業科目名【英文講読Ⅱ】

選択科目で、受講者は２年生だった。E-Learning の CHIeru(チエル)を使うマルチメデイア教室で行なった。CHIeru の強みである文字と音声との両方からの英語の理解力強化を目指した。受講生の受講開始時点の力がかなりのレベルに達していたので、より専門性の高い教材を選び、精読中心のトレーニングをした。それと平行して、語彙力強化のトレーニングを E-Learning の強みを生かし、一人ひとりの学習量が確実に増えるようにマイル数での目標を与えた。また少人数(7 名）の受講生に個別指導と組み合わせて、英語の接触時間を少しでも増やさせることで、語彙力強化も行なった。

授業科目名【専門演習Ⅱ 】(通年) (観光文化学科)

「卒業研究」で卒論を仕上げる前の年度として、研究の仕方の基礎が理解できているかを確認をし、積み重ねを行った。基本的には映画「ローマの休日」の多読図書の輪読をした。知識注入型の講義ではなく、問題発見・解決ができるように、いくつもの場面を提示した。その一つが新聞の読者の声の欄への投稿である。当初は自分で主題そのものを考えて、文章を書くこと自体に抵抗があったが、次第に採用者が出てくるにつれて、ゼミ全体の意識が高まった。知識の枠組みを広げて、論理的な文の構成を体得するために、新聞の社説をペンで手写しすることを繰り返した。これに加えて、英語の多読もさせたので、授業外の負担が大きいと感じる学生もいた。映画「ロ

ーマの休日」の脚本（英語）を分担して輪読させた。司会も学生にさせて、甘くなり過ぎない限り、学生の自主性に任せるようにした。プレゼンテーション能力を高めるために、また内容のある話題を説得的に話す訓練として、Show & Tell(学生に題材を用意させて説明させること）を毎週させた。

授業科目名【卒業研究】

3 年次の専門演習Ⅱに続いて、映画「ローマの休日」の多読図書の輪読をした。その後に現在の東海道を旅するアメリカ人の視点からの旅行記(英語多読図書）を輪読した。基礎的な積み上げ（特に、文法、語彙強化）がこの学年でも必要だった。新聞の投稿も 7 月まで継続した。卒論については、既に３年次に卒論製作のタイムテーブルを提示していたが、就職活動の日程も影響してか、なかなかうまく運ばなかった。後期の最初から、時間配分を卒論作成へと比重を増やしていった。原則として 11 月以降は全体指導の授業を月一回として、残りは個別の卒論指導とした。質的研究を取り入れた卒論の構成を理解するために、1 年次の基礎演習 A のテキスト（知へのステップ）を再読した。しかしながら、最も大切な卒論の知的な深みについては、文献を安易に Web から利用することで、論考が深まらないままの学生もいた。卒論作成が終盤を迎えるになる後期の後半でも、個別にあるいは少人数で、文献検索の方法と文献の使い方を繰り返し学ばせて、理解を深めることが必要だった。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
国際ビジネスコミュニケーション学会（旧日本商業英語学会）	九州・山口支部会長　(2010 年 2 月～現在に至る) 本部理事　(2015 年 11 月～現在に至る)	1993 年 6 月～現在に至る
映画英語教育学会	九州支部会計監査　(2006 年 1 月～2011 年 12 月) 紀要査読委員(2010 年 4 月～2012 年 3 月) (2018 年 1 月～現在に至る) 九州支部副支部長(2008 年 10 月～2011 年 10 月) 九州支部運営委員（2012 年 1 月～現在に至る)	1994 年 2 月～現在に至る
日本コミュニケーション学会	九州支部紀要編集委員（2011 年 9 月～2015 年 6 月)	1994 年 12 月～2015 年 3 月
日本人類言語学会		2002 年 10 月～2004 年 3 月
英語コーパス学会		2003 年 4 月～2009 年 3 月
日本比較文化学会		2010 年 2 月～現在に至る
万葉学会	九州支部会計監査(2013 年 3 月～現在に至る)	2014 年 2 月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 俳句(英語) １句	単	2017. 6	朝日新聞英語デジタル欄　Asahi Haikuist Network (http://www.asahi.com/english/haiku/)	①朝日新聞デジタル（The Asahi Shimbun Digital）紙上で、主宰者 David McMurray 氏による選句を掲載するコーナーに掲載。 ②2017 年 6 月 30 日
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） 1. 村上春樹「ノルウェイの森」の呼称について ―日英語の対照研究―	単	2017.5	日本比較文化学会第39回全国大会・2017年度日本比較文化学会国際学術大会 （於：静岡県立大学）	①「ノルウェイの森」と Jay Rubin（2000年）の英訳を対照させて、呼称について考察する。日本語の呼称関係は、鈴木孝夫（1973）を、英語では、D. Biber et.al.(1999) を援用している。英語の呼称の豊かさから登場人物たちの人間関係に文体的分析を加えた。
2.ノルウェイの森研究 ー読ませる魅惑ー	単	2017.7	2017年第6回村上春樹国際シンポジウム （於：同志社大学）	①「ノルウェイの森」では、著者は「セックスと死について徹底的に言及すること」を目標とした。原作と英訳は Rubin (2000) を使い、登場人物たちの造形のいたるところに性と死を埋め込み、著者が目的を達成していることを示した。
3.イシグロカズオ「日の名残り」再考 ーノーベル文学賞受賞からのヒントー	単	2018.2	2017 年度日本比較文化学会関西・中国四国・九州３支部合同研究会 （於：西南女学院大学）	① *The Remains of the Day*（日の名残り1989）等で、ノーベル文学賞を得たイシグロ・カズオは、米国歌手Tom Waitsの一節に触発されたことを明らかにした。この著者の制作上の意図を取り込んで、信頼できない語り手 である主人公の語りのほんの一瞬のクライマ

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				ックスを、そうさせてものが何であるのかを考察する。
4. 俳句の国際化とユネスコ文化遺産登録運動	単	2018. 3	2017 年度日本比較文化学会九州支部研究会 （於：アクロス福岡）	①ネットにより俳句（ハイク）は世界的になっており、様々な国・地域の言語でハイクが作られている。国際化につれて、国内ではユネスコ文化遺産登録運動が始まった。指定へ向けての組織の設立趣旨では、俳句が保全すべき文化的遺産を持つものとする。俳句の国際化の流れを概観して、文化遺産登録運動が、はたしてその無形文化遺産の趣旨に沿うものであるかどうかを議論し、登録の必要は必ずしもないと結論づける。
				教育研究実績 総数　(2018. 4. 12 現在) 著書　1（内訳　単 1、共 0） 学術論文　0（内訳　単 0、共 0） 翻訳　0（内訳　単 0、共 0） 学会発表　4（内訳　単4、共0

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（2）　個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 (内　　容)	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
財団法人　日本英語検定協会	英語検定試験二次試験面接委員	1995 年 8 月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
観光文化学科長　2014 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９（2017））

氏名　　神崎　明坤	職名　教授	学位　修士　教育学　九州大学 1995 年

研　究　分　野	研究内容のキーワード
国際比較教育・国際比較社会文化	比較社会文化教育、異文化コミュニケーション

研　究　課　題
①　中国の明清時代における中国文人の道徳修養に関する研究 ②　日中異文化コミュニケーションに関する基礎的な研究 ③ 中国における大学カリキュラムの改革に関する研究

担　当　授　業　科　目

科　目　名	単位数		授業評価ポイント
	必　修	選　択	※授業終了時（学期末等）に実施する学生による授業評価を記載
入門中国語会話（前期）		○	
中級中国語（前期）		○	
中国の社会と文化（前期）		○	
基礎演習Ａ（前期）	○		
専門演習Ⅱ（通年）	○		
卒業研究（通年）	○		
初級中国語会話　（後期）		○	
上級中国語（後期）		○	

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）

授業科目名【　入門中国語会話　】

１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。

２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。

３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。

５、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　初級中国語会話　】

１、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぐために、中国の最新情報を紹介し、積極的な授業参加を促す工夫を行った。

２、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。

３、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。

４、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を

行った。
5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　中級中国語　】
1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　上級中国語　】
1、テレビ等の補助教材の活用、質問技法、グループ会話等の授業法を組合せることにより、学生の集中力の低下を防ぎ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2、学習進度に応じた個別の課題設定・評価、準備学習・復習の要点等学生の能力や適応性の多様化に対応した個別学習指導を積極的に取入れ、一人一人の学習効果を高める工夫を行った。
3、講義の内容が学生の将来の仕事に関連することを強調し、中国語検定試験への対策に様々な練習と工夫を加え、大勢の学生が資格試験に参加し、積極的な受講態度を引出す工夫を行った。
4、講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度にまとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
5、学生に毎日中国語で日記と作文を書かせ、提出してもらい、直して返し、授業と学習の効果を上げる工夫を行った。

授業科目名【　中国の社会と文化　】
グローバリゼーションの時代に異なる文化を持つ諸社会がお互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものである。このような認識に国際的視野に立って、隣国―中国のことを幅広く学び、考えながら異なる社会文化に触れて行く。お互いを豊かにし合うような関係を模索し、育てて行くことがこの授業の旨である。
1・講義ならびにテレビ、DVD などの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を高め、伝統の中国と最新情報を対照的に紹介しながら、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2・学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点など学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
3・講義の最後に当日の講義のポイントや重要事項をある程度まとめて再表示し、印象付けるように工夫を行った。
4・中国文化を理解するために、中国のことばかりでなく、中華料理をも実際調理して、その文化の深みを理解する工夫を行った。

授業科目名　【基礎演習Ａ】
本授業は大学生として必要な基礎学力を養成する授業をする。大学時代にしか学べない基礎教養を学び一生の知的財産とする、論理的な思考と明快な文章表現や発表ができる、受講マナーが身についている、新聞や本を読む習慣が身についている、規則正しい生活習慣が身についていることがこの授業の旨である。
1、　講義並びにテレビ、ＤＶＤなどの補助教材の活用、質問技法などにより、学生の学習能力、研究興味を向上させ、積極的な授業参加を促す工夫を行った。
2、　学習内容に応じた個別な課題設定・評価、学習・復習の要点等学生の能力に対応した個別した学習指導を積極的に取り入れ、学習者全員の学習効果を高める工夫を行った。
学生に安心、安定に勉強できる環境をいつも心がけている。

授業科目名【　専門演習Ⅱ　】

グローバル化が進行し、国境の垣根が低くなる一方、文化の独自性、多様性への視点の重要性も高まって
る。日本文化の中には中国や朝鮮半島からの伝来文化を受容して形成したものが沢山ある。米やお茶等の食文
や儒教、年間行事、物の考え方等の思想などの伝来文化によって形成された文化や習慣、行事を考え、現代の
化の特徴を探りながら、異文化を理解していくことがこの授業の旨である。

１・この授業は異文化を深く学ぶことにある。まず、分かりやすい日本と中国文化に関する論文を多数読んでも
その相違点の比較研究等を通じて、日本文化の特徴を理解する工夫を行った。

２・日本と中国文化の調査や研究を通じて、学問の面白さを味わって、各自が関心を持ったテーマについての
画の立案方法を学び、先行文献を参考しながら各自のオリジナルのものを作らせる工夫を行った。

３・実際に各自の選んだテーマに関する情報を収集し、分析方法を学び、学生自身の考えをまとめ、口頭発表
作成の方法に必要能力を身に付けさせる工夫を行った。

授業科目名　【　卒業研究　】

卒業研究はこれまでに学んで得た知識とアプローチの仕方を生かしながら、学生各自がそれぞれの専門領
ける学習の中で最大の関心事として選んだテーマを明らかにし、その問題への考察を深め、見通しを持っ
の仮説を立ててみる方法に習熟するのはこの授業の狙いである。

１・上記の狙いに従って、まず、先行する研究の成果を収集する力を養い、国立国会図書館や大学の研究機関
館の使い方、調べ方という文献入手の方法を指導する。

２・それらを批判的に理解する力、仮説を立てる構想力を養うためにゼミ同士や教員とのコミュニケーションを
繰り返し各自の論理を問い直させる工夫を行った。

３・仮説を論文として展開する力等を養い、学生自分らしい論文をかくことを心がけてもらい、最終的に論文
完成させる工夫を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本中国学会	会員	１９９８年４月～現在に至る
九州中国学会	会員	１９９８年５月～現在に至る
九州教育学会	会員	１９９４年　　～現在に至る
日本比較文化学会	会員	２０１１年　　～現在に至る
日本比較文学学会	会員	２０１２年５月～現在に至る
日本比較教育学会	会員	２０１１年１１月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表 中国の大学のカリキュラ に関する考察 ―教養教育を中心として―	単著	2017 年 2 月 24 日	西南女学院紀要Ｖｏ１．21．2017　No. 181	1990年代以降、中国の高等教育カリキュラム改革が幅広く抜本的に進められている。その趣旨は大学生の総合的な能力の育成と素質（資質）教育の重視を理念として掲げ、従来の狭い専門教育偏重から深い教養教育と高い資質教育及び広い専門教育とのバランスを図るカリキュラム、教育内容への方向転換してきたことである。本研究の目的は7校大学のカリキュラム調査の内、大学の教育の質的変化をカリキュラム問題に焦点を当てて、教養教育の実態を明らかにしたものである。
中国の大学における日本語専攻教育の改革に関す 研究	単著	2017 年 5 月	比較文化学会発表 静岡県立大学	1990年代以降、日本語教育の発展は目覚ましく、すでに英語に次ぐ二番目に大きな外国語となった。学生数は105万人（世界第一位）に急増してきた。従来のエリート教育から大衆教育に転じた中国の高等教育は「教育の質低下」の問題が顕在化しつつあり、教育の在り方が問われている。「資質向上」の教育への改革が行政主導で進められておる。大学の従来の外国語教育は一貫して実用の学として位置づけられてきたものをいかに改革してきたかを明らかにしてきたものである。
現在における中国の高等 リキュラムの改革に関す 的研究	単著	2017 年 6 月	日本比較教育学会発表 東京大学	本研究では、2000年以降中国の高等教育カリキュラムの編成において、「通識教育」を中心とする教養教育の変容とその成果に関する研究に着手したものである。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
中国の高等教育カリキュラム改革に関する研究 ～教養教育を中心として～	西南女学院大学	○神崎明坤 古川敬康 （林楽常、呉雲珠、張暁鵬）	1,229,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
○ 宗教主事補

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　劉　明	職名　准教授	学位　博士（経営学）〔立命館大学 2011 年〕 修士（観光学）〔桜美林大学 1996 年〕

研　究　分　野	研究内容のキーワード
観光学、経営学、ホスピタリティ学	アジア観光、日中観光交流、九州ディスティネーションにおける観光マーケティング、日中ホスピタリティの相違

研　究　課　題
1. アジア観光・特に日中両国の観光交流について 2. 日中観光交流・特に日本におけるインバウンド観光について 3. 九州ディスティネーションにおけるマーケティング戦略の策定と実施について 4. 東洋ホスピタリティ・特に日中ホスピタリティの相違について

担　当　授　業　科　目	
観光学入門	（前期）×２
ツーリズム中国語	（前期）×２
アジア観光文化交流論	（前期）
基礎演習Ａ	（前期）
アジアの歴史と文化	（後期）×２
アジア観光文化地理	（後期）
中国語通訳ガイド演習	（後期）×２
専門演習Ⅱ	（通年）
卒業研究	（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【観光学入門】 「観光学入門」の授業では学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。 また、プリント・ＰＣ・ビデオなどの活用により、「観光学入門」を楽しく観光学の勉強ができるというような授業にした。 さらに、学生の皆さんの多くは、将来、観光関係の仕事に従事することを希望していることを配慮し、観光産業（旅行業、宿泊産業、交通運輸業など）の求人情報などを学生達に伝えたり、積極的に授業に参加していただけるように、工夫を行った。

授業科目名【ツーリズム中国語】
　日本を旅する外国人が大幅に増加されている。特に隣の中国からの観光客が多い。訪日中国人観光客のニーズに応えるため、この授業では、中国人観光客が日本人に案内され、九州をはじめ東京、京都及び日本全国の観光地を旅する場面を設定し、ツーリズム中国語会話を習得する。また、映像を通して中国的ホスピタリティを理解し、中国人観光客のおもてなしに必須の知識を勉強することができるように工夫した。

授業科目名【アジア観光文化交流論】
　日本における観光立国、ビジット・ジャパン・キャンペーン等ついて論じ、インバウンド観光産業の中核である旅行業、宿泊業、交通業をはじめ、土産品業、テーマパーク及びアジア諸国・地域の観光客との文化交流についても具体的な事例をおりこみ、観光産業への就職を希望する学生に参考になる内容に心掛ける。

授業科目名【基礎演習Ａ】
「基礎演習Ａ」では、学科共通テキスト「知へのステップ」を使って、「読む」「書く」「聞く」「話す」の４技能を大学の学習で必要とされるレベルまで高める授業を行い、大学生として必要な基礎力を養成することができる工夫を行った。

授業科目名【アジアの歴史と文化】
　「アジアの歴史と文化」の授業では、アジア特に東アジアの地理・歴史・政治・経済・文化を踏まえた上で、日中韓の関係や観光交流の現状及び文化の中心である食文化の相違について考察を行う。また、東アジア特に日中韓に流れる歴史や文化の共有に対する理解を深めると同時に、異文化交流のあり方を認め、相互に尊重しあえる考え方を育むことができるように工夫した。

授業科目名【アジア観光文化地理】
　「アジア観光文化地理」の授業では、学生のニーズを把握し、講義内容と学生達の希望を結びつけて、授業を行った。
　また、映像を通して日本、東アジアをはじめ、アジア各国の観光文化地理を勉強し、グループディスカッションを行い、学生の感想を発表してもらう。このようなグループディスカッションにより、学生の勉強の意欲を高めることやアジア観光文化地理に関心を持たせることがプラスになるように工夫した。

授業科目名【中国語通訳ガイド演習】
「中国語通訳ガイド演習」では、中国語通訳ガイドの力の養成に重点を置く。具体的には、中国語ガイド通訳案内業試験年度別問題集、解答例を分析し、中国語の単語・文法・諺や中国語⇔日本語の翻訳のノーハウを学ぶ。また、日本の地理・歴史・一般常識などを勉強する。さらに学生たちに関心のある日中両国の観光文化の相違を学んでいただけるように尽力した。

授業科目名【専門演習Ⅱ】、【卒業研究】
「専門演習Ⅱ」と「卒業研究」では、完成度の高い論文が出来るため、文献を読み解く訓練をしたり、文献講読の成果発表や研究経過報告をしてもらったりすることにより、学生が自分で調査研究し、それを論理的にまとめて発表する才能を引き出す工夫を行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
上海旅遊（観光）学会入会		2004年05月－現在に至る
中国通訳者協会入会		1988年10月－現在に至る
日本観光学会入会		1990年04月－現在に至る
日本ホスピタリティ・マネジメント学会入会		1994年09月－現在に至る
京都観光アカデミー入会		1996年03月－現在に至る
中国留日同学会入会		2000年08月－現在に至る
日本観光研究学会入会		2001年01月－現在に至る
京都国際観光活性化協議会入会		2001年07月－現在に至る
京のアジェンダ 21 フォーラムワーキンググループ入会		2001年08月－現在に至る
ツーリズム学会（現在の余暇ツーリズム学会）入会		2007年12月－現在に至る
観光学術学会		2012年02月－現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 地域観光マーケティング戦略構築のあり方 －九州のインバウンド観光を事例として	単	2017年 9月25日	くんぷる（有）	本書では、中国人を対象とした受入側の九州と送出し側の中国・上海におけるマーケティング戦略の策定・実施とその両者間のミスマッチ（課題）及びそのズレをどうやって埋めていくのか（課題の解決策）に焦点を当てる。
（学術論文） 福岡におけるクルーズ観光の活性化について	単	2018年 3月1日	余暇ツーリズム学会誌 第5号	本研究では、日本特に福岡におけるクルーズ観光の現状を踏まえ、クルーズ市場の成長可能性と福岡市の受入環境を分析し、寄港地観光の課題とその解決策を明らかにする。また、福岡におけるクルーズ観光の活性化を論じてみる。
（翻訳）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 福岡市における クルーズ観光の 活性化について （審査有）	単	2017年7月	2017年度 余暇ツーリズム学会 九州支部会にて	外航クルーズの寄港回数は３年連続日本一と観光客の不満足、市民生活への影響等の背景を踏まえて、福岡市におけるクルーズ観光の活性化及び課題と解決策を明らかにした。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
国家試験通訳案内士試験委員	中国語面接官 （口頭試問試験委員）	（2010 年 12 月－現在に至る）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
１．学生募集委員 ２．国際交流委員 ３．懇親会委員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　高橋幸夫	職名　　准教授	学位　経済学修士（京都大学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
マーケティング（広告・ブランド） デザインマネジメント	マーケティング・コミュニケーション デザイン・インスパイアド・マネジメント

研　究　課　題
・　IMC(integrated marketing communication)の今日的課題研究 ・　石炭流通における小倉商人（中原嘉左右）の研究 ・　デザイン重視の経営研究（デザインマネジメント研究） ・　大学における地域活性化活動

担　当　授　業　科　目
基礎演習Ａ（前期） 基礎演習Ｂ（後期） 専門演習Ⅱ（前期・後期） 卒業研究（前期・後期） マーケティング入門（前期） 消費者行動論（前期） イベント・テーマパーク論（後期） インターンシップ（前期） キャリア・デザイン論（前期） 広告宣伝論（前期） ブランド戦略論（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【基礎演習Ａ（前期）】 ・　大学生活の始まりにあたり、大学生としての心構えから授業の受け方、ノートテイキングなど基本的プレゼンテーションなど基礎事項を学科統一の教科書を用い、理解度向上に努めた。
授業科目名【基礎演習Ｂ(後期)】 ・　基礎演習Ｂでは、学生生活で必須とされるレポートの必要性と書き方を修得させるために「レポートとは何か」、「レポートの構成とルール」などを最前半回で解説し、それ以降の授業では毎回テーマを与え、書くことに対する「慣れ」と「論理的思考の重要性」を促した。また、レポートに対する学生相互の講評などを取り入れ、モチベーションの向上につなげた。 ・　基礎演習Ａのステップアップ科目の認識のもと「情報検索力」・「発表力」の向上を目指し、毎回ワークシートを取り入れ、修得度の向上を目指した。 ・　さらに、新聞記事に親しむ事を目的に「まわし読み新聞」を導入し、社会の仕組み、動きに興味関心を喚起させる内容とした。

授業科目名【専門演習Ⅱ（前期・後期）】 ・ マーケティング論及びブランド論の基本的文献を輪読、毎回 PPT による発表形式の演習とし、学生の論理的思考とプレゼンテーション能力の向上に努めた。 ・ さらには、就活を控える学生に対して、「自己分析」「適職診断」「面接」などの指導を行なった。 ・ 西日本工業大学デザイン学部建築学科との課外活動「京築ヒノキと暮らすプロジェクト」、北九州市「カナル・ヴィオラ」プロジェクトなどマーケティング関連の課外活動を行った。
授業科目名【　卒業研究（前期・後期）　】 ・ 卒論作成にあたり、論理的構成の重要性のほか、特に論理性を裏付ける「データの収集と取り扱い」の重要性について指導した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
商品開発・管理学会 日本商業学会 産業学会		2005 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在 2006 年 4 月から現在

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
平成29年度大学間連携等による共同研究 京築のヒノキと暮らすプロジェクト （産官学及び地域連携による森林資源の有効活用の研究）	文部科学省	○高橋幸夫 （石垣充）	2,000,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
平成29年度「にぎわいづくり認定事業」 カナル・ヴィオラ活性化事業	北九州市にぎわいづくり懇話会	150,000	

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
We Love 小倉協議会	幹事	2017年4月～2018年3月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
入試委員会 情報システム管理委員会 2017年度学科ハラスメント相談員 2017年度地域、企業との協働事業（課外活動）における学生指導 「学び場」プロジェクト学科担当

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　友原　嘉彦	職名　　准教授	学位　　博士（学術）（広島大学　2011 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
観光地理学、観光社会学、ドイツ語圏観光研究	女性と観光、観光と文化資本、鉱工業都市と観光

研　　究　　課　　題
2017 年度も女性と観光について研究してきた。特に社会のリーダー的存在となる高学歴女性が観光に何を求めているのか、観光がこうした女性達にどのような役割を果たすことができるのかについて海外渡航のケースを中心に研究した。この成果を共著として上梓することができた。

担　　当　　授　　業　　科　　目
・前期：「アジア文化交流研修Ｂ」、「専門演習ＩＡ」、「欧米観光文化地理Ｉ」、「基礎演習Ａ」、「観光社会学」、「比較文化論」、「日本語Ａ」 ・後期：「基礎演習Ｂ」、「欧米観光文化地理Ⅱ」、「観光フィールドワーク」、「観光社会学」、「日本語Ｂ」 ・通年：「専門演習Ⅱ」

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　専門演習Ⅱ　】 ４年次の「卒業研究」にスムーズに進めるよう、文献の探し方、構成、読み方などについて時間をかけて指導し、興味を持った文献について発表もしてもらった。また、京都市における「タナトス・ツーリズム研究のフィールドワークの引率とその成果を第３回全国観光学専攻学生発表会（於：長崎ウエスレヤン大学）で発表することの引率を行なった。発表会の様子は長崎新聞にも掲載された。
授業科目名【　専門演習ＩＡ　】 本科目は１クラス 30 人規模の二年次の演習で、２クラス共通で質的研究がテーマであり、教科書も共通のものを用いた。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。
授業科目名【　欧米観光文化地理Ｉ　】 西欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　基礎演習Ａ　】 本科目は１クラス 7~8 人規模の一年次の演習で、８クラス共通でレポートの書き方などをテーマとしており、教科書も共通のものを用いた。教科書の輪読も行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。
授業科目名【　観光社会学　】 教科書を用いて講義を行なったが、加えて、関連する新聞・雑誌記事も用いて、理解の定着に努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　比較文化論　】 ドイツの文化に触れるべく、その内容の教科書を用いて講義を行なったが、加えて、簡単なドイツ語が理解できるよう、文法についても指導した。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。

授業科目名【　基礎演習Ｂ　】 本科目は１クラス 30 人規模の一年次の演習で、2 クラス共通でキャリアの考察をテーマとしていた。担当したクラスでは教科書ではなく、レジュメや新聞記事などを用いた。当初は主に論理的な思考のトレーニングを行なっていたが、中盤からキャリアそのもの、特に女性のキャリアについて全員で考察した。
授業科目名【　欧米観光文化地理Ⅱ　】 東欧の観光地域、観光都市を取り上げ、それらの観光地としてのあり方・魅力・誘因力について講義を行なった。地図や画像、グラフもふんだんに用いて、理解の定着努めた。定期試験だけでなく、月１回のペースでレポートも執筆してもらい、日頃からの勉学の習慣付けに努力した。
授業科目名【　観光フィールドワーク　】 北九州市、および、その周辺地域を対象地として観光フィールドワークを行なった。定期試験は行なわず、フィールドワークの前後にそれぞれ 2~3 人のグループで口頭発表をしてもらった。また、フィールドワークを通して各人が興味を持った観光のテーマについて文献を紹介してもらった。
授業科目名【　日本語Ａ　】 留学生対象科目である。カントの『永遠平和のために』の日本語訳を輪読した。これにより、日本語力の向上はもちろん、ドイツ近世の考え方に触れ、国際的な平和への努力を考えることができ、また、議論も活発であった。毎回、漢字の読みや外来語の意味に関する小テストも行なった。小レポートも２度課した。
授業科目名【　日本語Ｂ　】 留学生対象科目である。友原嘉彦編著(2017)『女性とツーリズム　観光を通して考える女性の人生』を輪読した。これにより、日本語力のさらなる向上はもちろん、観光文化学科ならではの観光学についても考えることができ、議論も活発であった。毎回、漢字の読みや外来語の意味に関する小テストも行なった。小レポートも２度課した。
授業科目名【　アジア文化交流研修Ｂ　】 学内でタイについての知識を深めた上で、実際にタイで観光者の動向についてのフィールドワークや土地建物利用調査を行なった。訪問都市はバンコク、カンチャナブリー、アユタヤで、調査以外にもたとえばカンチャナブリーでは「戦場にかける橋」や関連施設の訪問で平和について考えるなどさまざまな点から包括的にタイを理解することができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本国際観光学会 日本観光研究学会 観光学術学会		2008 年４月～現在に至る。 2008 年７月～現在に至る。 2012 年７月～現在に至る。

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 『女性とツーリズム　観光を通して考える女性の人生』	共著	2017 年９月	古今書院	編著者として上梓。女性と観光に関する多分野からの研究の成果であり、友原は第２章「現代『女子』観光事情」を担当。主に昨今の若年女性の観光について年齢層と文化資本（両者を統合して「キャリア」とも）を軸に傾向を明らかにし、構造的に捉えた。
（学術論文）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） 「研究分科会『女性と観光に関する研究会』報告」	共同	2018年1月	日本観光研究学会第56回研究懇話会	4者で行なった共同研究を発表（友原が代表を務める）。「観光する女性」と「観光地を担う女性」に分けて女性と観光について事例を基に3年間の分科会での研究を報告。
				教育研究業績総数 （2018年3月7日現在） 著書　1　（内訳：単0、共1） 学術論文12（内訳：単12、共0） 翻訳　0　（内訳：単0、共0） 学会発表 9　（内訳：単8、共1）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
「女性と観光に関する総合的研究」	日本学術振興会	○友原嘉彦 （庄子真岐） （鈴木洋子） （高田晴美） （新名阿津子） （丸山奈穂）	800,000
「女性と観光に関する研究会」（分科会）	日本観光研究学会	○友原嘉彦 （遠藤英樹） （加藤佳奈） （中子富貴子）	100,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
公開講座委員会　副委員長 図書委員会　副委員長

助　産　別　科

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　古賀　玉緒	職名　　講師	学位　修士（医科学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
母性看護学・助産学	思春期・更年期・教育

研　究　課　題
若者の性意識を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 更年期の女性の健康問題を明らかにし、効果的な教育介入方法を考察する。 助産学生の教育向上にむけた教授方法を考察する。

担　当　授　業　科　目
助産別科） 女性の健康支援論、助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）、助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期） 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）、助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習） 助産学基礎実習、助産学実習Ⅰ、助産学実習Ⅱ、助産管理実習 看護学科） 母性看護方法論、母性看護学演習、ウイメンズヘルス看護論、母性看護学実習

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅱ・Ⅲ　】 助産別科の学生を対象に助産学講義・演習の準備、演習の計画・実践を行った。模型やＤＶＤ教材を使用し立体的に理解しその生理を理解することや体感して身につけられることを意識して演習を組み立てた。 さらに、実践に活用できるために演習では模擬患者を用いたロールプレイの時間を増やした。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ・Ⅶ　】 指導案・企画書の作成から健康教育実施までの方法を段階的および系統的に理解し実践に活用できることを目標に、指導案の作成、教材の作成、実施、評価の作業を段階的に行った。助産過程や健康教育演習では少人数を受け持ち、個別的な対応をおこなった。
授業科目名【助産学実習（基礎・Ⅰ・Ⅱ・管理）　】 実習ごとに施設の指導者と効果的な実習にむけた調整を行ったうえで実習に臨んだ。 実習中も記録の確認や各個人の実習の進捗状況を把握したうえで臨床指導者と適宜意見交換を行い指導方法の共通理解に務めた。
授業科目名【　母性看護方法論・母性看護学演習】 看護学科２年生、３年生を担当し、周産期における女性（胎児・新生児を含む）の生理的変化の理解およびウエルネス看護診断・看護過程の理解を目的に映像やポイントを押さえた講義、教材の工夫、実習を意識した看護過程の演習や母性看護技術の理解に努めた。

授業科目名【母性看護学実習】 適宜、指導者と相談し、教員間では定期的に情報交換を行い指導内容を評価しながら効果的な実習指導を心がけた。また、グループダイナミクスや学生の学習進捗状況を確認し、適宜指導体制を変更するなどの工夫を行った。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本母性衛生学会 日本看護研究学会 日本あかちゃん学会 日本助産学会		2007 年 4 月～現在に至る 2008 年 4 月～現在に至る 2011 年 4 月～現在に至る 2011 年 5 月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） 無				
（学術論文） 無				
（翻訳） 無				
（学会発表） 無				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
無			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
無			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
全国助産師教育協議会 九州・沖縄地区協議会・研修会　担当 2017/07/29		

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
周望学舎シニアカレッジにおいて、企画・運営。 助産別科ホームページの運営 入試委員会、学生募集委員会、研究所運営委員会

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　穴田　和子	職名　　講師	学位　修士（学術）（奈良女子大学　2003 年）

研　　究　　分　　野	研究内容のキーワード
助産学　母性看護学　ジェンダー	助産教育　実習指導　ジェンダー

研　　究　　課　　題
・助産学生の分娩介助技術向上に関する研究

担　　当　　授　　業　　科　　目
〔助産別科〕 総合看護学（前期） 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）（前期） 助産診断・ケア学Ⅱ（新生児・乳幼児）（前期） 助案診断・ケア学Ⅴ（周産期のハイリスク）（前期　２コマ） 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年） 助産学基礎実習　（前期） 助産管理実習（前期） 助産学実習Ⅰ　（後期） 助産学実習Ⅱ　（後期） 〔看護学科〕 母性看護方法論　（後期） 母性看護学演習　（前期） ウイメンズヘルス看護論（前期） 母性看護学実習　（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）　助産診断・ケア学Ⅱ（新生児・乳幼児）　】 ・実習を視野に入れ、知識と技術ができるだけ統合するよう演習前の課題の提示や資料配布を行い、準備した。妊娠期については、まず対象者把握のため、妊婦ジャケットを装着し模擬妊婦体験を行い、日常生活や妊婦体験して感じたことなど各自でまとめ、発表することで共有の時間を設け学習効果を図った。 また、模擬助産師外来では、教員が妊婦役、学生が助産師役となり、ロールプレイを取り入れた妊婦健康診査の演習を行った。演習終了後は、自己評価や教員評価だけでなく、第３者の評価として参加した学生にも気づいた点を述べてもらい、学びが深められるよう心掛けた。 ・新生児期では、正常新生児につて講義・演習を担当した。演習では、特に演習においてデモストレーションを行う際、１つ１つの動作については根拠を示しながら説明するように努めた。また、計測やバイタルサイン測定は模型等で演習を行ったが、原始反射等は実際の新生児ではないため、ＤＶＤ視聴を取り入れるなど工夫した。

授業科目名【　助産診断・ケア学（周産期のハイリスク）　】
ハイリスク妊産褥婦のケアについて担当した。
実習を想定して症例を選択し、助産計画が立案できるように努めた。さらに、今後は演習の時間を確保し、事例について考える時間を確保することや実際に使用する物品などを説明し、より実践的な工夫が必要と考える。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】
健康教育、企画書・指導案作成について解説し、実習で行う妊婦や褥婦への保健指導につなげられるよう心掛けた。演習では、担当学生の企画書や指導案や媒体の工夫について適宜助言した。実施・評価においても、実習で受け持つ対象者を想定して助言した。

授業科目名【　助産学基礎実習　助産管理実習　助産学実習Ⅰ　助産学実習Ⅱ　】
大学での学習・演習で得た技術・知識を臨地実習で実践できるよう支援することを心がけた。施設によって環境（使用する物品・設備など）が異なっても基本は同じであり、根拠を踏まえてケアすることを助言した。また、学生の実習が効果的に行えるように実習指導者と相談しながら連携を取った。
学生が注意されたことや疑問点はその都度解決するように努めた。実習前に事前学習を取り入れたが、対象者を受け持って改めて学習することもあった。実習で指導された学習の不足に関して知識を補うよう学生に助言したが、限られた実習期間の中で目標達成させるため、学生の指導方法や実習時間を効果的に学習できるよう今後も工夫が必要である。

授業科目名【　母性看護方法論　】
産褥期・新生児期について解説した。
ただ単に知識を習得するのではなく、看護につなげられるよう事例も用い説明した。DVD 視聴やパワーポイントに写真や図を多用し、重要な個所は文字の色を変えるなど工夫した。
また、3 年次の実習を想定し、実際の実習場面を提示しながら説明した。得られた知識が実習でどのように活かされるのか関連付けられるよう努めた。

授業科目名【　ウイメンズヘルス看護論　】
授業の最終目標は、女性の健康に関して、学生の興味・関心のあるテーマについてレポート（単なる報告ではなく、自身の考察も加える）することであり、さらに発表することで学生間の知識の共有ができるよう授業計画した。担当学生と相談できる環境を整え、学生の学習が円滑に進むよう努めた。

授業科目名【　母性看護学演習　母性看護学実習　】
・看護学科 3 年生の技術演習を担当した。
産褥の診察、育児技術、授乳について演習を担当し、基本的な母性看護技術が習得できるように模型を使用し説明・実施した。演習する際には産褥の退行性変化・進行性変化を理解した上で、正しい方法で診察した情報からアセスメントすること、新生児の身体的特徴を考慮し実施することなどを助言した。
実習で行うことがある沐浴の技術習得については、演習で実施した上で、各自時間を確保し練習をしてから技術チェックに臨むよう努めた。その間、わからない点は必ず教員に質問し、技術習得できるよう配慮した。
また、ウェルネス看護診断について、事例の情報から関連図作成し、診断・看護計画立案するまでの過程で、不足していることや不明な点について助言した。
・母性実習では母体の生理的変化だけではなく心理的側面・社会的側面もアセスメントしていくこと、母・児一体でアセスメント・ケアする視点を持つことなど学生に助言した。
また、ウェルネスの視点でアセスメントできているか否か学生と共にフィードバックし、看護計画に反映できるよう助言した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本看護協会会員 母性衛生学会会員 日本助産学会会員		２００８年12月～現在に至る ２００８年４月～現在に至る ２００９年３月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） １．教育理念と三つの方針に基づく教育課程改正の検討過程と課題 －地域包括ケアを見据えたカリキュラム－	共	2017．12 月	西南女学院大学紀要 Vol.22	①本学看護学科で行った 2018 年度改正カリキュラムの検討過程をまとめた。その結果より①科目を連動させるための教員間の連携、②習熟度を上げるための教育方法の検討、③学生の主体的学修を促進する環境の整備、が課題として挙げられた。 ②共著者名　石井美紀代、梶原江美、岩本テルヨ、目野郁子、大嶋満須美、布花原明子、穴田和子、前田由紀子 ③（Ｐ23～32）
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・教務委員会　委員（2016 年 4 月～2018 年 3 月） ・看護学科　カリキュラム検討委員会　委員（2016 年 6 月～2017 年 9 月） 2017 年 7 月 15 日　助産別科オープンキャンパスを担当 ・シニアサマーカレッジ（助産別科） 2017 年 9 月 1 日　担当教員の一員として参加

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　山田　恵	職名　　助教	学位　学士（教養）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産ケア 女性の健康支援 思春期教育	寄り添うケア、五感、主体性、助産学生 予防行動　　セルフチェック　母親 思春期　母子関係

研　究　課　題
子育て中の女性の、自己の健康に関する意識や予防行動の実際を調査し、健康増進のために必要な支援を行う。またその効果を考察していく。

担　当　授　業　科　目
<助産別科> 総合看護学（前期） キリスト教と生命倫理(通年) 助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）、助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）、助産診断・ケア学Ⅲ（産褥期）((前期) 助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）（通年）、産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）（前期） 助産学基礎実習(前期)、助産学実習Ⅰ（正常）、助産学実習Ⅱ（正常逸脱）、助産管理実習(後期) <看護学科> 母性看護学演習(前期)、母性看護学実習(後期)、ウイメンズヘルス看護論(前期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　総合看護学　】 五感を刺激する体験型の演習を取り入れ、個々の気づきを全員で共有することにより、感覚のとらえ方の違いを理解させた。傾聴法演習なども取り入れた。
授業科目名【　キリスト教と生命倫理　】 個々の倫理観をみつめる機会となるよう、進行の中で討論を２回行った。助産師として今後命に向き合うことを職業とするため、「誕生=喜び」以外にある関わりについて考えることで、助産師としての責務を考える機会とした。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）Ⅱ（分娩期）Ⅲ（産褥期）　】 演習にシュミレーション教育を取り入れ、思考しながら実践力を身につけられるよう工夫した。アウトプットする機会を多く設けた。
授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅵ（健康教育演習）　】 健康教育技術の統合する機会となるよう、中高で思春期健康教育が開催できるよう依頼した。短期間で企画立案から運営まで学生が主体的に行えるよう、事前の調整（高校との打ち合わせや対象の把握）は教員が行い、学生の企画に活かせるようにした。アンケート結果などから、学生の達成感を高めることができた。

授業科目名【　助産診断・ケア学Ⅶ（助産過程演習）　】 教科書等から根拠を正しく導けるよう、意識して学生と共に確認作業を行った。
授業科目名【　助産学実習（基礎）（正常Ⅰ）（正常逸脱Ⅱ）（管理）　】 実習施設の状況から指導内容に偏りがでないよう、遠方実習中の学生に対しては常に連絡相談態勢をとり、実習の支援を行った。記録指導はメール上（パスワードかけ）で提出したものを早期に返却し、効果的に実習が進めていけるよう配慮した。 指導者との関係から、精神的ストレスにより体調不良となった学生に対し実習調整を行い、継続できるよう支援した。
授業科目名【　母性看護学演習　】 看護過程演習では20名の学生を担当した。学生個々の進捗状況に合わせ、個別指導を行った。2年次に学習した他領域での看護過程の展開からつなげて理解できるよう、既習の学習内容を事前に把握して指導の際に活かした。実技演習では模型で練習するという技術習得のみでなく、対象の状態に配慮して技術を提供するという視点で、言葉かけや表情なども同時に意識して練習できるよう随時指導した。
授業科目名【　母性看護学実習　】 配慮が必要な学生の臨地実習指導を担当し、学生の支援が必要な部分と自立して実践できる部分を見極めながら、目標達成できるよう支援した。短期間の実習期間で対象の状況変化が急速であるため、対象把握の仕方について、学内での演習成果物を活用しながら説明し、理解を深めるよう支援した。
授業科目名【　ウイメンズヘルス看護論　】 学生が提案した抽象的なテーマが、具体的テーマになるよう文献検索を促し、教員とのやり取りの中で学生が自主的に学習を進めていけるよう対応した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本助産学会	会員	1991年4月～現在
日本母性衛生学会	会員	1991年4月～現在
日本不妊カウンセリング学会	会員	2002年11月～現在
日本思春期学会	会員	2005年1月～現在
全国助産師教育協議会	会員	2014年4月～現在

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
１．看護学科や他学科学生、職員の健康相談を、当事者、看護学科教員や保健室職員を通じて受け入れ、関連する病院の紹介や連絡調整を行った。 ２．全国助産師教育協議会（九州ブロック）の企画・運営を担当した。 ３．しおん祭では助産別科教員主催の「助産師のひろば」を出展し、来訪者に子宮がん・乳がん予防の啓蒙活動、健康相談（育児相談）等を行った。別科学生の協力のもと、アロママッサージを提供した。地域住民と交流し、助産別科の存在、助産師の役割を地域に広める活動とした。 ４．受胎調節実地指導員講習会の企画運営担当 ５．乳がん検診・自己検診法の啓発活動実施（シオン山幼稚園）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　前田幸	職名　助教	学位　助産修士（天使大学大学院 2006 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
助産学、母性看護学	助産ケア、助産師外来、バースレビュー、子育て支援、保健指導、助産師学生、分娩介助

研　究　課　題
・分娩体験におけるバーレビューの意義や役割に関して考察する ・妊娠期からの胎児へのコミュニケーションが愛着形成に与える影響について考察する ・助産師学生の分娩介助の習得過程に関して考察する

担　当　授　業　科　目
母性看護学演習 母性看護学実習 ウィメンズヘルス看護論 助産診断・ケア学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅵ・Ⅶ(演習) 助産学基礎実習 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理 助産学研究演習 キリスト教と生命倫理（一部） 助産管理学（一部）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【母性看護学演習・実習】 演習では、実習を念頭において看護技術習得が行えるように関わっていった。実習に関しては、看護過程の展開を通し、学生個々に合わせたフィードバックを行うことで実習目標の到達できるように関わっていった。またケアの実施の際には、根拠を考えていくことの必要性を伝えていった。実習を通して周産期におけるケアや学生が自身の女性観・母性観について考えることができるような支援を行った。
授業科目名【助産診断・ケア学】 助産診断・ケア学では、各領域の基礎的知識及び助産技術習得ができるように関わるとともに、より実習をイメージした演習ができるように各ガイドラインなどを意識しながら、工夫して関わっていった。 特に助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）では、状況を設定した演習を多く取り入れ、学生自身に自ら考え行動できるような工夫をし、支援を行っていった。
授業科目名【助産学基礎実習】 実習目標の到達に沿って、基本的な助産技術の習得および助産過程の展開ができるように学生の支援を行っていった。特に基礎実習では、対象者を捉えることからはじめ、科学的根拠に基づいたケアを提供できるように関わった。学生個々の価値観やバックグラウンドを考えながら、臨床指導者や他の教員と意見交換し、フィールドバックを行っていった。
授業科目名【助産学実習Ⅰ・Ⅱ・管理】 実習目標の到達に沿って、助産技術の習得および助産過程の展開ができるように、学生の支援を行っていった。特に助産学実習Ⅰ・Ⅱでは学生が対象者を多角的に捉え、気付き、対象者に寄り添ったケアを提供できるように支援を行っていった。また倫理的視点を常に持ち、考えて関わっていけるように関わった。臨床指導者や他の教員と密に連携をとるとともに意見交換し、フィールドバックを行っていった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護協会 日本助産学会		2003年4月～現在に至る 2017年3月～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
周望学舎　シニアサマーカレッジ　2017 年　　担当教員の一員として参加

大学短期大学部

生活創造学科

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名中島　俊介	職名　教授	学位　博士（学術）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
心理学	メンタルヘルス　心理教育　地域精神保健

研　究　課　題
平和・文化的活動における学生のメンタルヘルス向上効果の心理教育モデルの構築

担　当　授　業　科　目
心理学Ⅰ・Ⅱ（保育）　心理学　教育心理学　行動科学　コミュニケーション展開

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【心理学　Ⅰ・Ⅱ（保育）　心理学（４大）　】 学生への講義内容に対する興味と集中力をいかに高めて持続させるかについて努力したが毎年苦慮する。今年度は「質疑を活発にする」に取り組んだが、なかなか困難であった。映像を使った講義は成果があった。できるだけ行為中に発問をして意欲を喚起した。
授業科目名【教育心理学　】 教員採用試験合格を意識して、必ず「試験問題風の課題」をテーマにするように心がけた。期末の定期試験の内容も採用試験を意識した内容とした。
授業科目名【　行動科学　】 毎年の課題であるが人数が多く。いかに講義中の学生の集中力が途切れないようにするかに留意した。大教室のために後方の学生に注意を喚起するために課題を与えて机間巡視を時々試みた。次年度この点にさらに工夫を加えたい。
授業科目名【　コミュニケーション展開　】 短大生活創造学科が最後の卒業生を送り出す年度となった。そのために「聞き書き集」の完成に学生の成果の努力を終結した。学生の書いたもの、あるいは旧家政科卒業生に依頼した原稿をパソコンに入力し、プリントアウトして原稿を作成し出版した。冊子は図書館に資料として寄贈できた。これら一連の作業はかなりの負担となったが成果は大きかった、学生の「聞く力・書く力・話す力」が向上したと自負している。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本教育心理学会 日本人間性心理学会		1982年4月加入 1998年4月加入

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） こころと人生	編著	2017年4月	ナカニシヤ出版	① 生涯発達心理学・臨床心理学の視点から自我発達を胎児から死の床までを追求した。 ② 編者名　中島俊介 ③ 担当部分　第５章「青年期」(p45～p58)第６章「若い成人期」(p59～p70)第７章「成人期」（p71～p98）第８章「老年期」（p99～p114）総頁数 p 124
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） . 平和・文化的活動による学生のメンタルヘルス向上効果の研究４	共著	2017年9月	日本人間性心理学会 第36回大会	①平和活動の継続的実践による心理・社会的変容を質的研究により明らかにした。 ②共著者名　福井完児 ④ 36回　日本人間性心理学会大会論文集所収

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市人権施策審議会委員	委員長	任期：2年 期間；2017～2018

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　谷崎　太	職名　　准教授	学位　経営学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
会計学 管理会計論	統合的企業会計、財務報告の変革、 管理会計情報の公開可能性

研　究　課　題
企業会計統合論 ～管理会計情報の公開可能性～

担　当　授　業　科　目
ビジネスレポーティング基礎（2年前期） ビジネスレポーティング展開（2年後期） キャリアデザインⅡ（1年後期・再履修者用）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【キャリアデザインⅡ】 • トピックにマッチした外部講師を依頼し、学生の関心を喚起して学修の刺激とした。 • 自己分析等にかかる各種資料を作成することを促し、学修のアウトプットに務めた。
授業科目名【ビジネスレポーティング基礎／展開】 • 経済主体としての企業の位置付けと役割について概観し、企業の事業報告、財務報告を読み解く視点について解説した。企業の事業報告、財務報告等の様式を参照する場面が多いため、紙媒体の教材のみならずwebベースの資料を提示したうえで、段階を踏んで学生のペースに合わせながら進めた。 • 計算する項目が多い場合は適宜、表計算ソフトを用いて集計表を作成させ、計算項目相互間の関係を理解しやすいよう説明した。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本簿記学会		1994年4月
日本会計史学会		1996年11月
国際会計研究学会		1996年11月
日本企業経営学会	監事（2000年～現在に至る）	1997年3月
日本会計研究学会		1997年9月
日本生産管理学会	中四国支部幹事（2001年～2003年）	1998年4月
広島大学マネジメント学会		2000年12月

経営行動研究学会		2008年8月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
職業能力開発協会 CS 検定	主任試験官	（2018 年 4 月～2020 年 3 月）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 就職委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 大学ｷｬﾝﾊﾟｽ･ﾊﾗｽﾒﾝﾄ防止・対策委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 入学試験委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 学生募集委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 教育経費予算配分委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 情報システム管理運用委員（2017 年 4 月～2018 年 3 月） 大学短期大学部一般教育課程委員（2017 年 4 月～2019 年 3 月）

保　育　科

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　戸田由美	職名　　教授	学位　文学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
日本近代文学	夏目漱石、文芸額的諸相、見立て、東洋、西洋

研　究　課　題
夏目漱石文芸における不思議さの究極にある本質的概念を究明する。 その上で、日本文学の諸相と、それに及ぶ文化を『見立て』の世界観を用いて意義を解明する。 西洋的世界観、東洋的世界観が解明し、言語の本質と人の心の関係性を明らかにし、漱石の課題であった『文芸を科学する』という意味をわかりやすく説くことを研究の第一義としている。この思想は現代社会に対するテーゼであるので、立証できれば「日本語教育」界に貢献できるものである。

担　当　授　業　科　目
文学1 文学Ⅱ 日本語表現法（保育科・生活創造学科） 日本語表現法（英語科） こども学基礎演習 こども学特別演習 こどもの文学と物語

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【文学Ⅰ・Ⅱ　】 学生の文字離れに関して、なんとか対処するため、上質な文学作品、文学的表現に触れさせると共に、その感性を習得するために、多くの作品紹介を現代社会に置き換えて、面白く、わかりやすく事例を挙げて説明しセンス豊かな発想ができるよう、また文学に関心を抱きやすくするよう工夫し講義した。Q and　A が特に好評であった。
授業科目名【日本語表現法】 卒業して社会に出ても立派に通用するよう、さまざまな表現法の習得に力を入れた。小テスト、添削、および学生一人ひとりの実力を考慮に入れてのマンツーマン指導をした。ただし、学生が自身の考えを自らの言葉で表現できる能力を生み出すための、能力開発に力を注いだ。まじめな学生は帰着実に成長したと思う。
授業科目名【子どもの文学と物語　】 保育科における児童文学で大切なことは、「子どもの五感の発達と生活体験の拡大」が、どのように文学作品の中に活かされているかを見出せるか、である。そのため、イメージの拡大、たいせつなものを感じ取る力、空想する力、その時期にかなった絵本の紹介等々に力点を集中させ、わかりやすい講義を心がけた。さらに講義中にQandA コーナーを設け、学生の理解が深まるよう工夫した。
授業科目名【こども学特別演習(ゼミ)】 ファンタジー文学ゼミである。人間の生きてゆくなかで、もっともたいせつなこころの部分、そこに宿るファンタジーの世界を究明する。イタリアの絵本学者の研究をもとに、ファンタジーと子どもの関わり方を学ぶ。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本文芸学会 日本キリスト教文学会 日本近代文学会 文芸形象会 日本語教育学会		1983年 1991年 1985年 1984年

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
子ども・子育て会議専門委員	専門委員	平成29年まで

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
短期大学部　学部長 短期大学部　保育科　学科長 西南女学院大学、短期大学、人事委員 西南女学院　理事

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　末嵜　雅美	職名　　教授	学位　修士（教育学）（九州大学大学院 1998 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
保育者養成教育	実習指導、環境遊び、体験学習など

研　究　課　題
保育者養成における体験的な学びを通した保育観・子ども観の育成ー遊びを中心として

担　当　授　業　科　目
教育実習指導（通年） こども学基礎演習（通年） 教育原理(前期) 保育・教育実践演習（後期） 保育メディア演習（後期） 保育原理（後期） 保育内容「環境」（後期） （学外非常勤） 教育学（前期）保健医療経営大学 教育方法論（後期）九州大谷短期大学 生涯学習概論（後期）九州大谷短期大学

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育内容「環境」】 授業に屋外での体験学習を取り入れ、アクティブ・ラーニングになるよう工夫した。 また、地域環境と保育活動について、ゲストティーチャー（到津の森公園、獣医師）を招き、園外保育の引率を想定した話をして頂き、振り返りとしてグループワークを行った。
授業科目名【保育メディア演習】 メディア環境について、学生の関心を高めるためにディベート形式での授業を行い、自身のメディア接触を元に、保育や子育て環境におけるメディアとの付き合い方について実体験から振り返る機会とした。より学生の理解が深まった。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期

日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本社会教育学会 日本生活体験学習学会 九州教育学会	 理事（2004-2010 年） 事務局幹事（1996-1998 年）	2013 年 5 月～　現在に至る 2017 年 3 月～　現在に至る 1996 年 4 月～　現在に至る 1998 年 10 月～　現在に至る 1996 年 4 月～　現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） 「保育実習Ⅰ（施設）」及び実習事前事後指導を通した学生の学びに関する一考察－子ども・利用者理解及び保育士の職業理解の視点から－」	共著	2018 年 3 月	筑紫女学園大学研究紀要第 13 号、筑紫女学園大学	①　執筆者 2 名が所属していた短期大学の保育実習事前事後指導を通し、学生の子ども・利用者に対する理解、保育士の職業理解という視点から実習での経験を振り返りながら学生同士の学び合いの中でどのように学びを深めていったかという過程について述べ、対人援助職として求められる専門性について考察を行ったものである。 ②　共同執筆者名　上原真幸（筑紫女学園大学）　末嵜雅美（西南女学院大学短期大学部）
（翻訳）				
（学会発表） 子ども理解を深める実習指導の実践－諸年次教育における段階的な実習を通して	共著	2017 年 5 月	日本保育学会、第 70 回大会（川崎医療福祉大学）、口頭発表	①　発表者2名が所属していた短期大学の保育者養成課程の初年次において行った実習指導についてまとめた。子ども理解を深めるという視点で、特色ある実習及び実習指導を行っており、段階的に理解・実践できるように工夫したことで主体的に学ぶ保育者となることを明らかにした。 ②　共同発表者名　上原真幸（筑紫女学園大学） ③　日本保育学会第70回大会要旨集録（P. 527）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
八女市子ども子育て会議	委員、会長	2016 年 9 月～現在に至る（2018 年 9 月迄）
柳川市保育協会保育士会研修部会	助言講師	2006 年 4 月～現在に至る
八女市子育て支援員講座	講師	2015 年～現在に至る
大川市子育て支援員講座	講師	2016 年～現在に至る
佐賀県保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2017 年 11 月、12 月
熊本県宇城保育連盟保育士等キャリアアップ研修	幼児教育担当講師	2018 年 2 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
・研究紀要委員会　2017 年 4 月～2018 年 3 月 ・2017 年度公開講座周望学舎シニアサマーカレッジ「ココロとカラダに活力を！～出会いと学び」第 3 回「遊びをせんとや生まれけむ」講師、2017 年 8 月 4 日 ・進学ガイダンス下松高校１、2 年生対象「保育・幼児教育の仕事」講師、2018 年 3 月 19 日

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　岩田　美穂子	職名 特別契約教員Ⅲ種教授	学位　教育学修士

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児教育 環境教育 保育者養成	キリスト教保育 幼児期からの環境教育 体験的教育

研　究　課　題
幼児期からの環境教育の目的と方法 保育者養成におけるキリスト教保育の教授方法

担　当　授　業　科　目
教育実習指導（保育科1年生、2年生） 教育実習Ⅰ（保育科1年生） 教育実習Ⅱ（保育科2年生） 教育実習Ⅲ（保育科2年生） 保育・教育実践演習（幼稚園）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【 教育実習指導 】 1 年生については、観察の方法と記録の書き方をまず指導し、添削を行う中で適切な観察と記録の書き方がき に着くように指導を行った。さらに、保育指導案の立案についても繰り返し添削を行い、指導案作成の基本的 方法を個別に指導した。2 年生ではその中で、子どもの見方及び保育活動に関する考え方を理解できるように 指導を行った。
授業科目名【　教育実習Ⅰ（1 年生）、教育実習Ⅱ（2 年生）教育実習Ⅲ（2 年生）　】 1 年生後期の教育実習Ⅰでは、初めての学外実習のためキリスト教保育の幼稚園を選んで配属している。その中で本学が大切に考えているキリスト教保育の理念と方法を体験的に経験し身に着けられるよう、園の先生方との話し合いを持ち、指導をお願いしている。巡回指導で学生の様子を把握し、適切なアドバイスを行う。2 年生の教育実習Ⅱ及びⅢでは、同じ園に行くため、より深い実習体験が持てるように巡回指導で園側と話合いを持つようにした。
授業科目名【保育・教育実践演習（幼稚園）】 科目の中の内、模擬保育を中心とした演習の部分を担当した。最初に指導案の作成を学生が行い、その指導案を添削して学生が修正を行う中で、より望ましい保育活動の在り方に気付くようにした。その後、学生二人一組で新たに指導案を作成し、保育者とタイムキーパーとして模擬保育を行っていく。他の学生は子ども役として保育に参加する者と、一方観察者として客観的に記録をとる者に分かれ、それぞれの視点から模擬保育を通した学びができるようにした。授業の進行も学生の司会者が行い、学生が主体的に授業を進めていけるようにした。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会 日本乳幼児保育学会		1984年4月（現在に至る） 1994年4月（現在に至る）

２０１６年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考
なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
学校法人小野田めぐみ学園 小野田めぐみ幼稚園理事	理事	2007 年 4 月（現在に至る）

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
西南女学院同窓会常任幹事 保育科同窓会 要の会顧問

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　末成　妙子	職名　　教授	学位　教育学修士（音楽教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
・音楽教育学 ・特別支援教育学 ・幼児教育学	・聴覚障害教育（聴覚障がい児の器楽合奏教育） ・こども音楽療育 ・表現（身体・音楽、言葉、）

研　究　課　題
聴覚障がい児の実態を深く理解し、障がいによりそった音楽教育を展開できる保育者を養成するための研究を深める。同時に「こども音楽療育」に関して、音楽の多様な力を日常の保育の中で生かし、子どもの発達を支援する保育者を育てるために、保育の領域を広く見据え、考察し音楽面の実践力をつける方法を研究する。こどもの演奏を存分に引き立たせるが、しかしピアノ技法的には決して高度ではない、保育者にとって演奏しやすい効果的な楽曲を作曲し、実際の保育の場面で生かし検証する。障がいのある子も、そうでない子も共に活動ができ、発達を促すための配慮を尽くした「音あそび」「表現あそび」について研究する。

担　当　授　業　科　目
音楽の基礎（前期） こどものうたあそび（後期） 保育内容「表現（身体・音楽表現）」 保育総合表現（後期） こども音楽療育概論（前期） こども音楽療育概論（後期） こども音楽療育実習（後期）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　保育内容の研究　表現　】 後期の総合表現につなげるために音楽を用いた身体表現、劇あそびと音楽を関連づけた表現あそび、絵本と音楽表現など幼児の表現遊びをより豊かにするには音楽をどのように用いていくかを実体験するように構成した。繰り返しを楽しむ絵本　こぐれけいすけ作「れんけつがっちゃん」「とんねるくん」など実際の本を使って音楽と言葉のかかわりの深い表現を楽しむこと、リズム身体表現を通して、ピアノ以外の楽器の効果を知り、幼稚園・保育園で使われる身近な楽器の効果的な扱いを学ばせるなど、学生が常に実際の活動を体験しながら表現の楽しさを実感できるように授業を構成した。音楽表現を使った劇遊びでは、グループによる協働作業をとおして、職場への意識付けをした。末成自作の多くの合奏曲を用いて、不協和音を生まない、西洋音楽とは異なる「旋法」を用いたオリエンタルな響きも十分に体感させた。
授業科目名【　音楽の基礎　】 保育科の音楽の基礎となる重要な科目である。園生活に即した行事、季節、あそびなどの様々な場面で歌われるこどものうたを選び、楽譜を見てその音楽を再現し、練習し、こどもに正しく伝えることができるために身につけておきたい楽典的なことを教授した。音楽的経験の極端に少ない学生とそうでない学生の開きが大きく、苦手意識を持つ学生が授業についていけないと感じないで意欲を持って楽譜の読み取りの重要性を学び、保育における音楽を楽しめるようになるために、きめ細かい添削をして、授業の進度について工夫した。毎回の授業のねらいを周知させ、考える時間を十分に設けて、復習課題を充実させ、教科書を再検討するように指導した。模擬演奏がなくても楽譜さえあればその音楽が正しく再現できるように、また、こどもの歌の一節を用いての上下２度以内への移調、ハーモニーの基音を探し出しての簡易伴奏の方法など、保育の場面で必ず役立つ実技を踏まえた講義を行った。ピアノに苦手意識を持つために余裕を持った保育ができないことは大変残念な

ので、歌う力も並行して身に着けてもらうために毎回コールユーブンゲンと 3～4 曲のこどもの歌を課題として出し、正しい音程で明るい歌声を目指すように指導した。

授業科目名【　こども音楽療育概論　】

末成の行ってきた実践を多く取り入れて講義を進めた。障がいのあるこどもたちが音楽を楽しんで学び、コミュニケーションの手段を少しずつ手に入れ、ゆっくりだが着実に周りとの関係性を深めていく姿を、実際の映像など見せながら、音楽の力と障がいを持つこどもへの理解を深めさせた。今年 2 年目の新しい科目なので、学生も緊張感を持って臨んでいた。32 名の受講生は大変まじめで向学心を持ち、緊張感を持っていたが、地域の障がい者施設、音楽の多様な力を持ってする療育的保育ということになじみが薄いので、発達障がいを含めた多様な障がいの実態を知って多様化、重複化するこどもの障がいついて理解を深めるように、できるだけ実際の音や効果、方法、音楽の力を示しながら講義を進めた。

授業科目名【　保育総合表現　】

後期の授業でありながら、保育科全体のまとめと位置づけられている科目である。2017 年 1 月 28 日には北九州芸術劇場にて、地域の方々への来場を含め 300 人以上のお客様を迎え、学生の脚本、演出による「こどものためのミュージカル」を開催した。多くの親子でにぎわう当日までの準備はとても時間のかかるものであったが、職場へ出てからの舞台づくりの手順を学んだり、協力して行うことの大切さ、そして表現する充実感を存分に味わうことができた。舞台に立った演技者はもちろん、大道具、小道具、衣装、音響とそれぞれの力を結集し、北九州芸術劇場の舞台を作る裏方のプロの方々とも通算 4 時間に及ぶ打ち合わせを 2 日間にわたり行い大きな舞台を作る体験することができた。本年度で 3 回目ということもあり教員間の共通認識も高まり、また宣伝用のチラシの発行、当日の集客、会の流れ、すべてにおいて学生各々が自覚を持って取り組むということが、実に順調に行われた。商業施設での開催ということで受け付けの方法など、学部の先生方のお力を借りる場面も多かったが、大道具の運搬などの力仕事にも積極的に取り組む学生の心意気が頼もしかった。

授業科目名【　こども音楽療育演習　】

音楽療育の実際の場面で用いられる曲を「静かな森の大きな木」という曲集から選び、学生一人ひとりがその曲を用いたセッションを考え、実演しながらお互いを評価し合うという、極めて中身の濃い授業を行った。スマートフォンの普及で、ややもすると、こどもの「手遊びうた」「うたあそび」は、どこの誰とも知れない個人のアップした映像をまねるという短絡的な物真似で発表をしてしまう傾向がある中で、この授業では障がいのある幼児さんがいる保育場面で、実際の曲はどのように自分でアレンジしたらよいかということを末成と個別に検討し、楽譜に書き表し、それを含めたセッションの全体の流れを構築するというきわめて密度の濃い成果を目指した。ピアノにとらわれず様々な楽器を使うことや、言葉かけの方法、曲の提示の仕方を末成の助言を受けながら、緻密に構築して後期の実習につなげることを重要視した。発表が複数回できた学生とそうでない学生とのばらつきが出てしまったことは講義 10 回目を超えたあたりからの時間配分を考慮することが大切だった。

授業科目名【　こどものうたあそび　】

「うたあそび」つまり、歌いながら手や指先、からだを動かしてあそぶこと、リズムにのってあそぶことが人間関係を深めていくことを学生に十分に理解させた。園生活において保育者は「うたあそび」を積極的に取り入れ、こどもたちに歌いかけ、スキンシップをし、ふれあいながら遊ぶことが集団遊びにつながること、そして保育者や友達と一緒にリズムに乗って軽快に動く遊びの中からこどもの「協調性」や「感性」が育つことを毎回多くの課題曲として練習した「こどものうた」の中で学ばせた。歴史的なわらべ歌から最近のこどもの歌まで、莫大な数のこどものうたから、わずか 15 回の講義にどの曲を学ばせるかを、末成が 20 年余り研究してきたこどものうたから選ぶことが授業開始前の多くの時間を費やした部分である。童謡コンクールに携わった経験から、こどもの歌の重要性を様々な場面で実演して講義を進めた。最初はためらいの多かった学生も、回を重ねるごとに各自が持ち前の個性を発揮して、明るくはっきりした歌声で実に楽しく歌い合い、見せ合い、動き、あそび、たくさんの歌を自分のものにしていった。「はじまりとおわりのうたあそび」「指や手の動きを楽しむうたあそび」「体の動きを楽しむうたあそび」「行事や生活のうたあそび」「集団で楽しむうたあそび」などテーマを絞って提示することと、単独の身体表現を含めてのうたあそび・輪唱あそびなど、末成考案のたくさんのこどものうたにふれることを並行して行い、積極的に「うたあそび」を楽しむ姿勢が身についた。

授業科目名【　こども音楽療育実習　】
「こども音楽療育概論」「こども音楽療育演習」を踏まえて実習を行った。実際に学外の障がい児施設において障がい児たちとの療育的音楽活動を展開し、その活動を通して、今までの机上の学び、学内での演習をより実践的な知識や技能を深めることにつなげることができた。それは実習の記録を１冊の冊子にまとめたことで沢見あやめの森保育所での見学の後の２回の実践（1回目の反省を踏まえて２回目により良い実践を目指す）と小倉北特別支援学校での見学実習、クリスマス会参加実践の準備・指導案の立案・教員からの指導など２か所の実習を常に意識し、関係付けながら行うことができたためだと考えられる。実習報告会もそれぞれの学びの足跡が明確で、他のグループとの比較検討も容易になり、学びを深めることができた。

学　会　に　お　け　る　活　動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本音楽教育学会	正会員 2017 論文査読委員	2011 年～現在に至る

２０１７年度　研　究　業　績　等　に　関　す　る　事　項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概　　要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
なし			

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　　考

なし			

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　　容）	役　職　名　等	任　　期 期　間　等
混声合唱団「コーロチェレステ」指導者として下関合唱団連絡会結成 10 周年を記念した組曲「佐波川」の演奏を連絡会所属団体合同演奏として指導、本番演奏指揮・ピアノ演奏。	混声合唱団「コーロチェレステ」指導者。	合同練習は 2017 年 5/21　6/4　7/16　9/3　9/24 の 5 回行い、生涯学習プラザ「海のホール」にて 10/8 本番。山口県の中央を流れる佐波川をテーマにした合唱組曲をこの曲の作曲者である高橋正剛氏との綿密な打ち合わせのもとで行った。

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
9 月　オープンキャンパス　模擬授業担当「みんなで楽しく音遊び」 ～歌と小さな楽器を使った導入の工夫～ 9 月　シニアサマーカレッジ担当　「歌の力・音楽の力～懐かしい歌をうたいながら」というタイトルで地域の高齢者を対象に参加者が親しんできた歌を取り上げ歌唱やリズムダンスなどの取り組みを行った。

以上

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　阿南 寿美子	職名　　准教授	学位　修士（教育学）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
幼児心理　幼児教育　保育者養成	社会的能力の発達　規範意識　いざこざ　保育観 異年齢保育

研　究　課　題
幼児期の対人交渉場面において、年齢別保育または異年齢保育の幼児が規範意識や対人関係構築などの社会的能力をどのように獲得していくのかについて考察する。 保育者養成校の学生が、2 年間の学生生活を通してどのように保育者として保育観や援助観が育まれて行くのかを考察する。

担　当　授　業　科　目
学校法人西南女学院　西南女学院大学短期大学部　保育科 ・保育の心理学Ⅰ（前期）（1 年生） ・保育の心理学Ⅱ（後期）（1 年生） ・乳幼児の発達理解と遊び（複数担当教員）（前期）（2 年生） ・教育実習指導（複数担当教員）（2 年間通年）（1，2 年生） ・教育実習Ⅰ（複数担当教員）（通年・学外）（1 年生） ・教育実習Ⅱ（複数担当教員）（前期・学外）（2 年生） ・教育実習Ⅲ（複数担当教員）（後期・学外）（2 年生） ・保育・教職実践演習（幼稚園）（複数担当教員）（後期）（2 年生） ・こども学基礎演習（通年）（1 年生） ・こども学特別演習（通年）（2 年生） 学校法人西南女学院 西南女学院大学 看護学科 ・発達心理学（前期）（2 年生） 学校法人弘徳学園 姫路大学教育学部こども未来学科通信教育課程 ・発達心理学（後期）（2 年生） ・教育心理学（後期）（2 年生）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【保育の心理学Ⅰ】 「保育の心理学Ⅰ」では子どもの発達の理解を目的として講義を中心に授業を展開した。その際、スライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるように配慮するとともに、学生のこれまでの保育体験や自身を振り返ることによって、具体的に場面を想起することができるように配慮した。
授業科目名【保育の心理学Ⅱ】 「保育の心理学Ⅱ」では、より実践的な子ども理解と保育者の配慮について講義及び、学生同士のグループワークを中心に授業を展開した。講義の際はスライド等を使用し視覚的に講座内容を理解できるようにした。また、実習日誌を活用しながら事例を取り上げ、各々や保育者の働きかけを学生同士のディスカッションを通して検討することにより、個々の子ども達の思いや多様な援助方法があることを理解できるように配慮した。

授業科目名【こどもの発達理解とあそび】 共同担当教員の演習で乳幼児の「遊び」を実際に体験し、感じたことを講座ごとに記録・振り返りを行った上で、指導案の作成指導を行った。「遊び」に参加する際、保育者としての視点を持ちながら取組み、子どもの思いへの理解を深めた計画を立てることができるように配慮した。また、他者の指導案を添削することで、自身への気付きが持てるように授業を展開した。
授業科目名【こども学特別演習】 毎年行っているボランティアを中心とした活動を学生の自主性を重視しながら展開できるよう指導した。2017 年度の主な活動は、高校生が来学した際の保育・本学紹介、だいすきにっぽん（万華鏡づくり）、学校見学会（模擬授業）、光沢寺まつり（保育ブースでの実技及び全体会での人形劇）などである。その他レクリエーションの企画も行った。行事の提供は教員が行ったが、内容決めから台本作成にいたるまで、ゼミ長、副ゼミ長、各行事担当を中心に準備を進め、実践を行っている。
授業科目名【教育実習指導】 事後の指導において個人指導として個別面談、全体指導として報告会を行った。それにより他者の学びを自己と比較することによって個人の学びをより深め、課題を見出し次回につなげることができるようにした。また、事前指導においては教材発表の時間を設け、子どもたちへの提示の仕方等も含めての指導を行った。実習前の設定保育に関する指導講座を増やし、実習時に保育者の援助への捉え方が主体的になるように配慮した。 報告会は 1、2 年生合同で行い、2 年生よるポスター発表を中心に学生同士の学び合いがなされるよう取り組みを行った。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本保育学会	会員	2012 年～

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) なし				
(学術論文) なし				
(翻訳) なし				
(学会発表) 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 （1）入学後半年間の保育観・援助観の変容	共著	2017 年 5 月	日本保育学会第 70 回大会（ポスター発表）（於 川崎医療福祉大学)	入学後、実習を経験する前と夏期自主実習の体験後において、保育者としての資質のうち、保育観及び援助観の変容について質問紙による調査を行った。両尺度とも今回有意な相関は認められなかったが、保育観においては先行研究と同様「協調的保育観」が最も高く、「協調的保育観」と「管理的保育観」の間に有意な負の相関が認められた。

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（2）多次元共感性尺度の検討	共著	2017年5月	日本保育学会第70回大会（ポスター発表）（於 川崎医療福祉大学）	共感性尺度において、原版と短縮版の尺度についての検討を行った。その結果、短縮版の信頼性は先行研究とほぼ同等であったが、グループ間の差や時間による変化を測定する尺度としては不十分であることが示唆された。よって、本研究でテストバッテリー全体の項目数の軽減を図るには24項目版の他者指向性関連項目（他者指向的反応・視点取得）を用いることが妥当であると考えられる。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 （2018年度より交付予定）	西南女学院	○阿南寿美子 ・末嵜雅美 ・命婦恭子 ・篠木賢一 ・笠修彰 ・上村眞生 （上原真幸）	38,6000円

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考
なし			

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州保育団体合同研究集会	北九州部会副委員長 分科会運営委員	2012年4月～現在に至る 2016年～現在に至る
光沢寺保育園地域支援事業「光沢寺まつり」ボランティア		2017年10月21日
北九州市児童福祉事業第三者評価事業	専門委員	2016年4月～現在に至る
	フォローアップ研修 講師	2018年1月22日
NPO法人あゆみの森共同保育園	第三者委員	2018年1月

学 内 に お け る 活 動 等 （役職、委員、学生支援など）
教職課程委員会 副委員長（2013 年 4 月～現在に至る） 学生募集委員会 副委員長（2014 年 4 月～2018 年 3 月） （2017 年度ガイダンス等 8 回 他） 入学試験会議委員（2014 年 4 月～現在に至る） 大学点検評価改善会議 FD 部門委員（2016 年 4 月～現在に至る） 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園運営委員（2016 年 4 月～現在に至る） 西南女学院評議員（2016 年 4 月～2018 年 3 月） 教員免許状更新講習コーディネーター（2014 年 4 月～現在に至る）・講座担当（2017 年 8 月 22 日） だいすきにっぽん あそび講座担当（2017 年 6 月 24 日） 平成 28 年度第三者評価 ALO（2016 年-9 月 14 日～15 日） キリスト教保育連盟九州部会北九州地区代表（2014 年 4 月～2018 年 3 月）

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　命婦　恭子	職名　　准教授	学位

研　究　分　野	研究内容のキーワード
臨床心理学	学校臨床　子育て支援　ストレス　メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研　究　課　題
研究課題は大きく二つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、中学生の学校ストレスの現状とその支援策につて、数量的データを用いて検討することである。さらに、昨年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担　当　授　業　科　目	
障がい児保育Ⅰ（後期） 障害児保育Ⅱ（前期） 保育相談支援（後期） 臨床心理学(カウンセリングを含む)（後期） 保育・教職実践演習（後期） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年）	保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅱ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） 保育所実習Ⅰ（学外実習） 保育所実習Ⅱ（学外実習）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　障がい児保育Ⅰ　】 小グループをつくり、それぞれにトピックスを割り当て、学生が調べた内容をプレゼンテーションしたものに が解説を加える方法で授業を行った。担当した学生がそのトピックスに興味を持ち、理解を深めることができ を目指した。
授業科目名【　臨床心理学（カウンセリングを含む）　】 心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取り入れて授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を目指す学生にとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。
授業科目名【　保育・教職実践演習　】 保護者支援をテーマに、オリジナルの事例を用いて保育者として保護者の相談にのるロールプレイを実施した。ロールプレイ後、イメージできる母親像について複数の側面からの解説を行い、具体的なイメージができるよう支援し、実践的学びができるように工夫した。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本健康心理学会 日本心理臨床学会 日本心理学会 日本行動医学会 日本ストレスマネジメント学会 日本こども健康科学会 日本健康支援学会 日本保育学会		1997年4月～現在 1998年4月～現在 2000年4月～現在 2001年4月～現在 2002年4月～現在 2009年4月～現在 2010年4月～現在 2014年4月～現在

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文） ソーシャルスキル・トレーニングの新しいストラテジーの提案	共	2018年3月	西南女学院大学紀要, 22, pp137-147	ソーシャルスキル習得のための技法について、医療分野と教育分野を中心に先行研究を俯瞰する。それらのプログラムと、状況的学習を用いたプログラムを比較し、それぞれの特徴を分析する。
（翻訳）				
（学会発表） 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（2）多次元共感性尺度の検討	共	2017年5月	日本保育学会第70回大会	保育者に必要とされる資質について3年間にわたる縦断研究の一部である。短期大学の在籍期間において、保育者に必要とされる複数の資質を同時に調査し分析する。ここでは、そのうち共感性に注目し、その測定尺度についての分析結果を報告する。
状況的学習を用いたソーシャルスキルトレーニングの実践報告	共	2017年9月	日本心理学会第81回大会	ソーシャルスキルの実践の場として、「市場」と呼ばれる商業空間を活用し、幼児とその保護者を対象に状況的学習を用いたトレーニングを実践した。その概要を報告し、従来のトレーニングとの相違について考察する。

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
状況的学習をもちいたソーシャルスキル向上プログラムの提案と効果検証	平成 28 年度科学研究費助成事業 （学術研究助成基金助成金） （基盤研究(C)）	○　命婦　恭子 （竹川　大介）	1,430,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
日本臨床心理士会会員	会員	2002 年 4 月～現在
福岡県臨床心理士会会員	会員	2002 年～2007 年、2014 年 4 月～現在
北方シネマ運営委員会	会員	2017 年 2 月～現在

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
教務委員 図書委員 地域連携室室員 教育の質保証プロジェクト 外部資金導入促進プロジェクト 創立 100 周年事業準備会 キャンパスハラスメント相談員

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　藤田　稔子	職名　准教授	学位　修士（看護学）（神戸市看護大学 2005 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
小児看護	感染症（感染症対策、予防接種） 小児ぜんそく

研　究　課　題
【現在取り組んでいる研究課題】 ・子ども達が身体や健康に関心を持つきっかけとなる「絵本」に着目し、発達段階にみた「内容」「(身体や症状を表す）ことば」について調査する。 →現在の国内で入手可能な「むし歯」に関する絵本の内容を調査しまとめた。2018 年 7 月開催の「日本小児看護学会」において発表する予定である。 【継続していきたい研究課題】 ・感染症対策に関して、乳幼児の身近なものへの一般細菌の付着状況を実験的に調査し、その結果、安全かつ簡易的に実施可能な消毒方法を考察する。 ・慢性疾患、特に気管支喘息を持った幼児が、どのように疾患と向き合い、自己管理をしていくのか、また、スムーズな子ども自身が可能な自己管理方法について考察する。

担　当　授　業　科　目
こども学基礎演習（保育科１年　前期・後期） こども学特別演習（保育科２年　前期・後期） 保育内容「健康」（保育科１年　前期） こどもの保健演習（保育科２年　前期） こどもの保健Ⅰ（保育科１年　後期） こどもの保健Ⅱ（保育科２年　後期） こども音楽療育実習（保育科２年　後期） 在宅保育（保育科２年　後期） 看護臨床実習（福祉学科４年　前期）←実習後の事後面談および口頭試問のみ 看護臨床実習（福祉学科３年　後期）←臨床実習の実地指導のみ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【こども学特別演習】 昨年度に引き続き、井堀市民センターで月１回、0・1・2 歳児対象の子育て支援を開催しました。今年度は、地域連携室に申請をして正式に地域貢献活動としての位置づけで実施をしました。センター職員のご協力の元、学生達が主体的に運営できるようにしました。実施の中身はもちろんのこと、経費のやりくり、地域連携室の報告会の発表準備等、役割分担をして学生がおこなうようにしました。実際に現場に出た時に、行事は内容そのものだけでなく、諸々の調整、限られた予算額ですること、細かい準備や配慮、それらをスケジュール管理しながら進める、等の企画運営力を実際に経験することで養ってもらえれば、と思っています。実際に、前期前半は、サポートすることが多かったのですが、後半は、自分達で運営できるように育ちました。それに至る影のサポートは、常にセンター職員と密に連携を図りながらおこないました。
授業科目名【在宅保育】 本科目は、認定ベビーシッター資格取得のための初めて開講された科目です。居宅訪問型保育をイメージできるように、具体例を入れながら授業を進めていきました。特に、演習を重点において授業をすすめました。そのために、クラスを 2 つに分け、少人数で技術指導が受けられるように体制を整えました。2 名の教員で担当しましたので、各々の得意とする内容で演習できるように授業計画を立てました。私の担当は、特に産後ケ

アで、新生児、乳児、障害児への養護技術、そしてお母さんへの支援を受け持ちました。特に、授乳のサポートとして、母乳を与えるときの様々な体位や家事サポート、等、普段の保育科の授業では行わない内容を実際にすることで重点的に学べるように工夫しました。この内容は、ベビーシッターとして勤務することがなくても、母親になった時に生かせれるのではないかと思っています。

授業科目名【こども音楽療育実習】

この科目も、こども音楽療育士取得の為、今年度初めて開講される科目です。実習にあたっては、普段からミュージックケアを取り入れている北九州市福祉事業団にご協力をいただき、事業団の保育所で実習を行いました。また、療育という特性から障がい児に対しての内容も組み込みたかったので、特別支援学校初等部での実習をおこないました。特別支援学校初等部での実習は、学生達の学びに大きな成果をもたらし、授業後の感想文でも、特別支援学校に実習に行けてよかった、という内容がたくさん書かれていました。保育所や幼稚園を卒園した後、障がい児達がどのような教育を受け、社会にでる準備をしていくのかを知ることは、大切なことです。それを知って保育所や幼稚園で関わるのと、知らずに関わるのとでは大きな違いがあることを学生達は気づいてくれました。実習にあたっては、事前の打ち合わせ等頻回に行い、学生達が充分に学びを得られるように環境を整えました。

授業科目名【看護臨床実習】

本科目は、福祉学科養護教諭コースの科目で、今年度は外部講師として実習指導にあたりました。事前の実習指導には関われなかったため、臨地でその日に見聞きした疾患に関連する知識を解剖生理学の基本から解説しました。そのために図書館から学生達でも理解し易い参考図書を選び、実習場に持ち込みました。看護技術については、最初から全て１人でするのではなく、例えばマンシェットは私が巻く、等段階的にできるように配慮しました。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本小児救急医学会		2000年4月～現在に至る
日本小児保健学会		2000年4月～現在に至る
日本小児看護学会		2005年4月～現在に至る
日本保育所保健協会		2009年4月～現在に至る
日本学校保健学会		2009年4月～現在に至る
日本医療保育学会		2010年4月～現在に至る
日本環境感染学会		2010年4月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） なし				
（学術論文） なし				
（翻訳） なし				
（学会発表） なし				
				教育研究業績　総数 (2018.3.6現在) 著書　3（単0　共3） 学術論文　3（単1　共2） 学会発表　11（単1　共10） その他　8（単0　共8）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共　同　研　究			
研　究　題　目	交付団体	研　究　者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
児童及び保護者を対象とした日本伝統文化の啓発活動（だいすきにっぽん）の展開と検証	西南女学院大学共同研究費	○青木るみ子、藤田稔子、稲木光晴、上村眞生、谷川弘治	712,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
北九州市開発審査会 一般財団法人短期大学基準協会	委員 評価委員	2013 年 11 月～現在に至る 2017 年 4 月～2018 年 3 月

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）

・委員会
　倫理委員会　副委員長　2010 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
　就職委員会　副委員長　2016 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
　教育経費予算配分委員会　委員長　2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
・S.D.C 顧問
・アドバイザー関連
　保育科 1 年ゼミ　アドバイザー
　保育科 2 年ゼミ　アドバイザー
・学生募集関連
　八幡中高高等学校　公開授業　　2017 年 5 月 16 日
　併設校、高大連携講座　　2017 年 6 月 5 日
　ひびき高等学校　模擬授業　　2017 年 6 月 23 日
・附属シオン山幼稚園
　運動会救護担当　　2017 年 10 月 14 日
・地域貢献
　井堀市民センター「いきいきチャレンジキッズ」の開催　　2018 年 11 月 2 日
　　「音楽会」の開催　　2017 年 10 月 28 日
　「だいすき　にっぽん」　　2017 年 6 月 24 日
　　8 月 23 日
　　11 月 25 日
　　12 月 16 日
　　2018 年 1 月 20 日
・卒業生支援
　医療保育専門士取得のための最終論文指導者　　2017 年 9 月～現在に至る

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　篠木　賢一	職名　　講師	学位　修士（体育学　鹿屋体育大学 2001 年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
体育方法学	幼児の運動能力 バレーボールの戦術

研　究　課　題
子どもの喫食上の問題行動に関わる要因を、咀嚼能力・運動能力・食生活習慣との関連について考察する。

担　当　授　業　科　目
ｽﾎﾟｰﾂ科学実技、ｽﾎﾟｰﾂ・健康科学概論、こどもの運動あそび、こども学基礎演習、こども学特別演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　こどもの運動あそび　】 子どもたちのあそびを実際に行うことによって、体験的に運動発達の理解を促している。また、運動あそびの果たしている役割を理解し、「あそぶ力」と「あそびを発展していく力」を身につけるために、指導・補助のポイントや安全管理について解説し、グループワークを通して実践力の向上を図っている。
授業科目名【　こども学特別演習　】 子どもの運動あそびや健康を中心としたテーマを学生の興味・関心に沿って決定し、実践に生かせる研究活動を行っている。まとめた研究結果はオープンキャンパスで展示し、公表する機会を設けている。
授業科目名【　スポーツ・健康科学概論　】 運動・スポーツが体に及ぼす効果や、運動によって健康・体力の維持、増進させる方法について学生の理解を深めるために、さまざまな事例を用いて解説している。
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
九州・体育スポーツ学会 日本保育学会 日本バレーボール学会		1997年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2013年12月～現在に至る

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表） ・保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（1）入学後半年間の保育観・援助観の変容	共	2017年5月	日本保育学会	①保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究である。 保育者の資質に関連する複数の要素のうち保育観と援助観に注目し、入学時から半年間に行われる実習前後における意識の変容について分析を行った。 ②共同発表者名　阿南寿美子、命婦恭子、篠木賢一、笠修彰 ③日本保育学会第70回大会　ポスター発表
・保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（2）多次元共感性尺度の検討	共	2017年5月	日本保育学会	①保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究である。 入学時から半年間に行われる実習前後における意識の変容に

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
				ついて分析を行った結果、テストバッテリー全体の項目数軽減を図るには、短縮版ではなく24項目の他者指向性関連項目を用いることが妥当であるという結論が得られた。 ②共同発表者名　命婦恭子、阿南寿美子、篠木賢一、笠修彰 ③日本保育学会第70回大会　ポスター発表

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等
九州大学バレーボール連盟	女子強化委員	2006年4月～現在に至る
附属シオン山幼稚園「運動あそび」	講師	2013年6月～毎月1回程度
九州大学バレーボール連盟	競技委員副委員長	2013年4月～現在に至る
第12回北九州市精神障害者バレーボール大会	審判委員長	2017年9月
第18回西日本大学バレーボール5学連女子選抜対抗戦	コーチ	2017年12月

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）

学生委員　2012 年度～現在に至る
幼稚園運営委員　2012 年度～現在に至る
排球部　監督　2014 年度～現在に至る

２０１７ 年 度 教 育 研 究 活 動 報 告 用 紙（様式９(2017)）

氏名　　東　彩子	職名　　講師	学位　修士（宣教学）(Fuller Theological seminary)

研　究　分　野	研究内容のキーワード
①キリスト教と演劇（中世から現代） ②キリスト教音楽と身体表現 ③キリスト教音楽とエクササイズ	キリスト教女子教育、宣教、礼拝、芸術 ワーシップダンス ゴスペル・ピラティス

研　究　課　題
１：中世の神秘劇をはじめとし、現代も礼拝として行われているキリスト生誕劇やキリスト教に関する演劇について、古典と現代の比較や演劇のキリスト教教育における意義について研究している。 ２：礼拝におけるワーシップダンスの振り付けや実践と共に、聖書におけるダンスについて研究している。 ３：キリスト教音楽に合わせて行うピラティスのクラスを、シオン山幼稚園保護者サークルに招かれ実践した。子育て中の保護者にとって心身ともにリラックス効果があるとの声があり、2018 年度からは月１回、「ゴスペル・ピラティス」という名で、子育て支援の一環として継続し研究につなげる予定である。 詩篇の朗読、ゴスペルに合わせて行うピラティス、メディテーション、祈り、の流れで行っている。

担　当　授　業　科　目
＜保育科＞ キリスト教学Ⅰ（１年前期)、キリスト教学Ⅱ（２年後期)、キリスト教保育（１年後期) 保育総合表現（２年後期)、こども学基礎演習（１年通年)、こども学特別演習（２年通年) ＜生活創造学科＞ キリスト教学Ⅰ（１年前期)、キリスト教学Ⅱ（２年後期)

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【　キリスト教学Ⅰ・Ⅱ　】 アクティブラーニング型の授業を目指し、学生は聖書の輪読、賛美、祈り、ディスカッションや紙芝居・絵本読みなどに参加した。また、視聴覚教材を取り入れて解説し、興味を呼び起こすための工夫をした。今年初めての試みとしては、チャペルポートフォリオを導入し、通年でチャペルの振り返りが行えるようにしたことである。
授業科目名【　キリスト教保育　】 キリスト教保育の本質と目的の理解を深めるため、体験的・実践的な授業をおこなった。 「世界の子ども」の発表では、世界１２カ国のこどもたちの現状について調べ、グループ発表を行い、世界のこどもたちの現状の理解を深め、自分たちに何ができるのかを探る機会を作った。 聖書に基づいたキリスト教の劇の創作の回では、キリスト教への理解を深めると同時に、こどもたちにわかりやすく聖話を伝えるための実践により、自らのチームワークやリーダーシップなどについて洞察を深める機会を作った。
授業科目名【　保育総合表現　】 北九州芸術劇場中ホールにてミュージカルの発表をすることを目標とし、テーマ決めからシナリオ作成、上演までの全てを学生自らが企画し実施した。学年をランダムに２つのグループにわけ、各グループに監督をおき、リーダーシップが発揮できるようサポートした。普段交流のない学生の間に関係性が構築できたことも今年の成果といえよう。今年もチームワークに細心の注意を払い、学年皆で監督を支えて行けるシステムを構築した。

授業科目名【　こども学特別演習　】
キリスト教保育の学びを生かしたいとの学生の声を踏まえ、「世界のこどもたち」をテーマに活動した。学生の主体性を尊重しつつ、世界のこどもたちのために活動することからずれないように軌道修正をしながらゼミ活動を行なった。具体的には、映像鑑賞、フェアトレード店訪問、北九州国際交流協会にて多国籍親子支援のボランティア、大学祭にてコーヒーや雑貨のフェアトレード出店を行なった。大学祭後は、新聞を作るグループとクリスマス礼拝への協力をするグループに分かれ活動した。

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本基督教学会	会員	2010年９月～現在に至る
日本キリスト教教育学会	会員	2010年９月～現在に至る
日本宣教学会	会員	2014年９月～現在に至る
日本キリスト教史学会	会員	2017年４月～
全国チャプレン会	会員	2017年４月～

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）				
（学術論文）				
（翻訳）				
（学会発表）				
（その他）		2017.9.15	時事通信社 「内外教育」P12	私学最前線「わが校の取り組み」 「Wonderの心をはぐくむ」

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個人研究			
研究題目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備考

社会における活動等		
団体・委員会等の名称 （内容）	役職名等	任期 期間等

福岡女学院幼稚園教職員夏期修養会	講師	2017年8月23日
キリスト教保育連盟九州部会	代表者	2016年4月1日～ 2018年3月31日
日本バプテスト小倉キリスト教会	教会学校青少年担当教師	2017年4月1日～ 現在
日本バプテスト小倉キリスト教会	聖歌隊指揮者	2017年4月1日～ 現在
日本バプテスト小倉キリスト教会	奨励	2017年7月30日
	奨励	2018年2月11日
ワールド・ビジョン・ジャパン	会員・チャイルドスポンサー	2010年7月～現在
東京YWCA	会員	2010年7月～2018年3月31日

学内における活動等　（役職、委員、学生支援など）	
西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園園長	２０１６年４月１日～２０１８年３月３１日
大学短期大学部宗教主事補	２０１４年４月１日～現在（2013年度を除く）
キリスト教センター運営委員	２０１０年４月１日～現在（2013年度を除く）
キリスト教教育研究会委員	２０１０年４月１日～現在（2013年度を除く）
大学宗教委員会副委員長	２０１０年４月１日～現在（2013年度を除く）
クリスマス礼拝総監督	２０１０年４月１日～現在（2013年度を除く）
新任オリエンテーション聖書学課講師	２０１７年４月３日
保育科同窓会「要の会」礼拝司式	２０１７年７月１７日
西南女学院大学・大学短期大学部 ハンドベルクワイヤー副顧問	２０１６年４月～２０１８年３月３１日
大学・大学短期大学部チャペル奨励	２０１７年４月２６日 ２０１７年４月２７日 ２０１７年１１月２２日
西南女学院中学高等学校　礼拝奨励	２０１７年９月１４日
地域貢献懇談会礼拝司式	２０１７年３月１６日
地域連携室女性活躍ワーキンググループ員	２０１７年４月１日～現在
シオン山幼稚園教職員キリスト教研修講師	２０１７年９月１日
シオン山幼稚園保護者クリスマス講演会講師	２０１７年１２月１日
シオン山幼稚園保護者サークル、ピラティス講師	２０１７年４月１日～現在
シオン山幼稚園始園式「聖話」	２０１７年４月７日
シオン山幼稚園入園式「聖話」	２０１７年４月１３日
シオン山幼稚園終園式「聖話」	２０１７年７月２０日
シオン山幼稚園始園式「聖話」	２０１７年９月１日
シオン山幼稚園終園式「聖話」	２０１７年１２月２２日
シオン山幼稚園始園式「聖話」	２０１７年１月９日
シオン山幼稚園卒園式「聖話」、祝祷	２０１８年３月１０日
シオン山幼稚園終園式「聖話」	２０１８年３月２３日
西南女学院広報執筆	第92号（2017年6月30日）P7「豊かな自然とともに」 第93号（2017年10月）P3「シオン山幼稚園の秋の収穫」
西南女学院月報巻頭言執筆	第639号（2017年7月号） 第642号（2017年10月号） 第646号（2018年2月号）
キリスト教センターだより執筆	第100号(2017年度送別号)P6
しおんのそののあゆみ巻頭言執筆	２０１８年３月号執筆

２０１７年度教育研究活動報告用紙（様式９(2017)）

氏名　　笠　修彰	職名　　講師	学位　修士（健康福祉学）（西九州大学　2007年）

研　究　分　野	研究内容のキーワード
社会福祉学	障害者福祉　地域福祉　ソーシャルワーク

研　究　課　題
・精神障害者の地域移行や地域定着支援に関する研究 ・子育て不安等を抱える保護者のメンタルヘルスに関する研究 ・保育者養成校、保育所・児童福祉施設、地域が連携する研修プログラムの構築に関する研究

担　当　授　業　科　目
児童家庭福祉（前期） 社会的養護（前期） 相談援助（前期） 社会福祉（後期） 社会的養護内容（後期） 保育実習指導Ⅰ（通年） 保育実習指導Ⅲ（通年） こども学基礎演習（通年） こども学特別演習（通年）

授業を行う上で工夫した事項（※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項）
授業科目名【　児童家庭福祉　社会福祉　社会的養護　】 専門的知識・技術をより具体的に理解できるよう、クイズ形式の質問などを活用し、不特定多数の学生に発言の場を提供した。また、適宜補助プリントを作成し、配布。プリントは、授業内容の理解を補助するもの、授業内容の理解度が確認できるテスト形式のもの、要点をまとめたものなどを作成し、理解度の把握及び意欲の向上を目指した。
授業科目名【　相談援助　社会的養護内容　】 具体的な事例を用いた個人ワークやグループディスカッションを多く取り入れ、授業での学びをできるだけ実践と関連付けて考えることができるよう工夫した。また、授業内容を補助するプリントを作成し、学生が主体的に学習できるよう支援した。
授業科目名【　　】
授業科目名【　　】

学会における活動		
所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
一般社団法人日本社会福祉学会 日本看護福祉学会 日本保育学会	会員 会員 会員	2008年7月 2013年4月 2016年9月

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1.社会福祉士国家試験模擬問題集2018	共著	2017.7	中央法規出版	①社会福祉士国家試験受験者向けの模擬問題集。 ②一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟 ③模擬問題共通科目「現代社会と福祉」 （P75～P77） 解答編（別冊）「現代社会と福祉」 （P89～P93） 総頁数　P206（別冊）P229
2.精神障害者の人権救済精神保健当番弁護士ハンドブック　新版	共著	2018.2	福岡県弁護士協同組合	①精神保健当番弁護士の活動を充実したものにするために作成されたハンドブックであり、内容は、精神保健医療福祉関連の法制度や国際動向、精神科医療と福祉に関するＱ＆Ａ等で構成されている。 ②福岡県弁護士会　精神保健委員会 ③第4章　精神科医療と福祉に関するＱ＆Ａ　Q.12 障害者総合支援法の福祉サービス （P60～P62） 総頁数　P184
（学術論文） 1.精神障害者社会適応訓練事業からみる就労支援の現状と展望	共著	2018.1	一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会平成28年度　年報 Brand new day	①精神障害者が長期的かつ安定的に就労を継続するにあたって求められる施策や支援について考察した。 ②今村浩司，笠修彰，西島秀幸 ③共同研究につき,本人担当部分抽出不可能 （P97～P108）

２０１７年度　研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（翻訳）				
（学会発表） 1.保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（1）入学後半年間の保育観・援助観の変容	共同	2017.5	第70回日本保育学会（於　川崎医療福祉大学）	①保育者として必要とされる資質に関連する要素が短期大学在学の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的に、複数の尺度を用いて質問紙調査を行った。本発表では、そのうち保育観と援助観に着目し、入学時から半年間の意識の変容についての分析結果を報告した。 ②阿南寿美子, 命婦恭子, 篠木賢一, 笠　修彰
2. 保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究（2）多次元共感性尺度の検討	共同	2017.5	第70回日本保育学会（於　川崎医療福祉大学）	①保育者として必要とされる資質に関連する要素が短期大学在学の2年間でどのように変容しているのかを明らかにすることを目的に、複数の尺度を用いて質問紙調査を行った。本発表では、そのうち共感性に着目し、その測定尺度についての分析結果を報告した。 ②命婦恭子, 阿南寿美子, 篠木賢一, 笠　修彰

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（1）　共同研究			
研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 （単位：円）
保育者養成における保育者としての資質の変容に関する縦断的研究 （2018年度より交付予定）	西南女学院大学共同研究費	○阿南寿美子 命婦恭子 篠木賢一 笠修彰 末嵜雅美 上村眞生 （上原真幸）	386,000

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）			
（2）　個　人　研　究			
研　究　題　目	交付団体	交付決定額 （単位：円）	備　考

社　会　に　お　け　る　活　動　等		
団体・委員会等の名称 （内　容）	役　職　名　等	任　期 期　間　等
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	会員	2008年4月～現在に至る
一般社団法人福岡県精神保健福祉士協会	理事	2009年6月～現在に至る
北九州地区精神保健福祉士協会	会員	2015年4月～現在に至る
公益社団法人日本精神保健福祉士協会	代議員	2016年4月～2018年3月
『保育福祉小六法』（株）みらい	編集委員	2016年4月～現在に至る

学　内　に　お　け　る　活　動　等　（役職、委員、学生支援など）
国際交流委員会　副委員長　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 学生募集委員会　委員（進学ガイダンス4回）　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 情報システム管理運用委員会　委員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日 教員免許状更新講習　講師　２０１７年8月２２日 キャンパス・ハラスメント相談員　２０１７年4月１日～２０１８年3月３１日